

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 大学生活と心理学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 勝見吉彰  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 三原キャンパス 4530  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 特に定めない。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。講義形式で実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 大学生活, 心理学, 心の問題   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 大学生活を始めるにあたって, 個々の学生が直面する可能性のある心理学的な問題についての理解を深めることを目標とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生が直面する発達課題や心の問題についての基本的な知識を平易に解説していく。具体的には, 発達障害やトラウマなどの心の問題や親や友人などの他者との関係, そして心理的援助の利用などについて取り上げる。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験90%, 講義への参加状況10%の割合で評価する。期末試験は持ち込み不可で実施する。授業進行の妨げになる行為(私語等)に対しては, 当該学生の評価に反映させるなど厳しく対応する。         |                  |    |
| テキスト                        | テキストは使用しない。資料を配布する。参考文献は講義中に示す。   |                  |    |
| 参考文献                        | なし  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 試験においては, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。                                    |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 生活と心理学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 勝見吉彰  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 三原キャンパス 4530  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 特に定めない  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。講義形式で実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 大学生活, 心理学, 心の問題   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 大学生活を始めるにあたって, 個々の学生が直面する可能性のある心理学的な問題についての理解を深めることを目標とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生が直面する発達課題や心の問題についての基本的な知識を平易に解説していく。具体的には, 発達障害やトラウマなどの心の問題や親や友人などの他者との関係, そして心理的援助の利用などについて取り上げる。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験90%, 講義への参加状況10%の割合で評価する。期末試験は持ち込み不可で実施する。授業進行の妨げになる行為(私語等)に対しては, 当該学生の評価に反映させるなど厳しく対応する。         |                  |    |
| テキスト                        | テキストは使用しない。資料を配布する。参考文献は講義中に示す。   |                  |    |
| 参考文献                        | なし  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 試験においては, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。                                    |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 検定英語 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 住田 光子 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | TOEICの実践力を養うことを目指し、TOEICの総合問題を解いてゆく。なお、自宅課題としてはリスニング用副教材を指定し、聴くことに重点を置く。① 各自で取り組む自宅課題と ② 授業で扱う総合問題集の二つを通して、英語の総合的な力を養い、TOEICのスコアアップにつなげてゆく。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | TOEIC 500点、TOEICテスト実践問題、演習と解説、さまざまなイギリス英語音声  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得するため、聴解・読解の能力を発展させる。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習をTOEIC形式での演習を含めて行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行う。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態度、等で評価する。TOEIC受験を求める。   |                  |    |
| テキスト                        | <テキスト>石井隆之他著, Overall Skills for the TOEIC(R) Test. 成美堂, 2014. (ISBN: 978-4-7919-1018-2) 2,200円 (税別)         <副教材>『究極のイギリス英語リスニング Deluxe—6000語レベルでUK英語探究』アルク, 2009. (ISBN-13: 978-4-7574-1805-9) 1,800円 (税別) |                  |    |
| 参考文献                        | 国際ビジネスコミュニケーション協会『TOEICテスト新公式問題集<vol.6>』2014.<br>*良書です。TOEIC受験に際して、授業のテキストとは別に、<公式問題集シリーズ>を解いてゆくのをおすすめします。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 三分の二以上の出席が必須。①自宅課題 <副教材> と ②テキスト課題: 2種類の課題に取り組みます。各受講者は、期日までに、課題を積極的にこなすことが求められます。授業のなかで、スコアや達成度を確認してゆきます。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 検定英語 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岩井 千秋 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      | —   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業では必ず予習として課題を出し、それを出席クイズとして出題します。さらに、TOEICなどの英語検定の出題形式に慣れてもらうために、書き取り(ディクテーション)や音読(シャドーイング)などを繰り返し行うほか、学習者どうして解答結果を評価し合うようなピア学習を取り入れた形式で授業を進めます。             |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | TOEIC、英語検定試験、運用能力   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | TOEIC(国際コミュニケーション英語能力テスト)においてスコアを取得するため、聴解・読解の能力を発展させます。語彙や英語の慣用的な表現の知識を増やすことが重要であるため、かなりの量の単語や英語独特の言い回しを覚えることを目標とします。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習をTOEIC形式での演習を含めて行う。速読速解, 速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行います。また英語の本当の力を身につけるには TOEIC 対策の学習では十分とは言えないため、日常的に英語の学習に取り組むためのノウハウを知り、それを実践してもらいます。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態、等で評価します。TOEIC受験を求めます。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。  |                  |    |
| テキスト                        | 『TOEIC テストー公式問題で学ぶボキャブラリー』 国際ビジネスコミュニケーション協会 (IIBC)   |                  |    |
| 参考文献                        | 各種の教材やサイトを授業で紹介します。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、与えられる課題や学習方法を実践する覚悟で受講してください。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 検定英語Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 波多野 五三 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義及び演習を中心とした対面形式の授業。英語文献の読解並びに聴解を行う際に、ペアまたはグループに分かれてディスカッションを行うことがある。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | TOEIC, 英語能力試験、英語のスキル   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得し, 英語運用能力を総合的に高めるため, 聴解・読解の能力を発展させる。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習を行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行い, TOEICに対応できる力を養う。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的態度、等で評価する。TOEIC受験を求める。   |                  |    |
| テキスト                        | 『文法・読解で高得点をねらう新TOEIC Test (Develop Your Grammar and Reading Power of the TOEIC Test)』 (安藤祐介・他. 2007. 東京: 松柏社.)   |                  |    |
| 参考文献                        | 『新TOEIC TEST 英単語・熟語高速マスター』 Linkage Club. 2012. ISBN: 978-4-947747-22-8   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 予習の際に、センテンスやパラグラフの要点を把握するとともに全文を和訳し練習問題を解いておくこと。さらに、内容理解ののちに本文を3回以上朗読しておくこと。特に、無生物主語、関係代名詞/関係副詞、分詞構文、倒置、強調、省略などに注意する。未知語は、Longman Dictionary of Contemporary EnglishやOxford Advanced Learner's Dictionaryなどで語義を調べたのちに英和辞典で日本語訳を確認すること。 |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 検定英語Ⅱ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 川尻 武信 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 語彙, 文法, 直読直解, 聴解力   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | TOEIC (国際コミュニケーション英語能力テスト) においてスコアを取得し, 英語運用能力を総合的に高めるため, 聴解・読解の能力を発展させる。     |                  |    |
| 授業の内容                       | 聴解, 読解, 英語構文理解, 語彙力養成などの演習を行う。速読速解。速聴速解できるスピード対応のトレーニングを行い, TOEICに対応できる力を養う。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | TOEICに対応できる力の習得、英語コミュニケーションへの積極的 attitude、等で評価する。TOEIC受験を求める。                 |                  |    |
| テキスト                        | 安浪誠祐, Richard S Lavin 著 "Next Step to the TOEIC Test" 「TOEICテスト:」さらなる一歩」朝日出版社 |                  |    |
| 参考文献                        | 「TOEICテスト新公式問題集」国際ビジネスコミュニケーション協会   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 英和・和英辞書を持参してください(電子辞書可)。テキストの予習と復習が必要です。                                      |                  |    |

|                              |  |                  |  |
|------------------------------|--|------------------|--|
| 授業科目名                        | 資格英語 I   |                  |  |
| 担当教員氏名(助手氏名)                 | 高橋 渡   |                  |  |
| 研究室の場所                       | 1822   |                  |  |
| オフィスアワー                      | 研究室のドアに表示                                      |                  |  |
| 授業の形式・方式                     | 単位認定科目   |                  |  |
| 単位数(時間数)                     | 1単位 (0時間)                                      | 学科または専攻毎の必修・選択の別 |  |
| 履修要件                         |  |                  |  |
| 免許等指定科目                      |  |                  |  |
| キーワード                        |  |                  |  |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け       | 実用的なコミュニケーション能力を習得し、TOEIC または TOEFL のスコアを取得する。 |                  |  |
| 授業の内容                        |  |                  |  |
| 成績評価の方法                      | TOEIC、550点以上、TOEFLiBT、57点以上で単位を認定する。           |                  |  |
| テキスト                         |  |                  |  |
| 参考文献                         |  |                  |  |
| 備 考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |  |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 日本語 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中石ゆうこ  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1132   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週火曜日10時から12時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学科 1年次  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 語彙 文法 聞く 話す  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②文法力を高めること、③日常生活で良く見られる対話場面での表現力を高めることである。                                      |                  |    |
| 授業の内容                       | 生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要となる抽象的な語彙や表現を学ぶ。日本語の文法に関する知識を確認し、それを運用に結び付ける。他の人の意見や感想を理解する練習を行う。<br>※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 小テスト (20%)<br>課題(宿題) (20%)<br>期末テスト (50%)<br>出席 (10%)  |                  |    |
| テキスト                        | 『聞いて覚える話し方日本語生中継初中級編1』(くろしお出版)を予定。<br>※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 日本語レベルによって内容を変更する。   |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 日本語Ⅱ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中石ゆうこ  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1132   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週火曜日10時から12時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学科 1年次  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 語彙 聞く 話す 書く 発表   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②日常生活で良く見られる対話場面での表現力を高めること、③大学生活で必要とされる日本語力のうち主に話しの活動(課題について情報を集める、自分の考えを効果的に発表するなど)の日本語力を高めることである。この「日本語Ⅱ」では、「日本語Ⅰ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要となる抽象的な語彙や表現を学ぶ。<br>作文では、教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。プレゼンテーションでは、自己の考えを聞き手に分かりやすく表明する練習をする。<br><br>※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。                 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 小テスト (20%)<br>発表、宿題 (30%)<br>期末テスト (40%)<br>出席 (10%)   |                  |    |
| テキスト                        | 『聞いて覚える話し方日本語生中継初中級編1』(くろしお出版)、<br>『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(凡人社)を予定。<br>※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 日本語レベルによって内容を変更する。日本語Ⅰから継続で受講することが望ましい。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 日本語Ⅲ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中石ゆうこ  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1132   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 火曜日10時から12時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学科 1年次  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 語彙 読む 書く   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動(専門書を読む、レポートや論文を書くなど)のための日本語力を高めることである。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要な抽象的な語彙や表現を学ぶ。教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。<br>※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 小テスト (20%)<br>課題(宿題) (20%)<br>期末テスト(またはレポート) (50%)<br>出席 (10%)   |                  |    |
| テキスト                        | 『日本語プロフィシエンシーライティング』(凡人社)<br>『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。<br>※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 日本語レベルによって内容を変更する。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 日本語Ⅲ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中石ゆうこ  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1132   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 火曜日10時から12時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学科 1年次  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 語彙 読む 書く   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動(専門書を読む、レポートや論文を書くなど)のための日本語力を高めることである。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 生活に必要な語彙、表現に加えて、大学の学習活動に必要な抽象的な語彙や表現を学ぶ。教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。<br>※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 小テスト (20%)<br>課題(宿題) (20%)<br>期末テスト(またはレポート) (50%)<br>出席 (10%)   |                  |    |
| テキスト                        | 『日本語プロフィシエンシーライティング』(凡人社)<br>『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。<br>※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 日本語レベルによって内容を変更する。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 日本語Ⅳ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中石ゆうこ   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1132  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 火曜日10時から12時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。毎週小テスト、宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学科 1年次   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 語彙 漢字 読む 書く プロジェクト課題  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動(専門書を読む、課題について情報を集める、レポートや論文を書くなど)のための日本語力を高めること、③他者と自分との意見を調整し、問題解決をすることである。この「日本語Ⅳ」では、「日本語Ⅲ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。                         |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学の学習活動に必要な抽象的で専門性の高い語彙や表現を学ぶ。レポート作成ができる作文力を身に付けることを目標にして、教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。他者と自分との意見を調整し、問題解決をする活動として、プロジェクト学習を行う。<br><br>※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 小テスト (20%)<br>課題(宿題) (30%)<br>期末テスト(またはレポート) (40%)<br>出席 (10%)  |                  |    |
| テキスト                        | 『日本語プロフィシエンシーライティング』(凡人社)<br>『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。<br>※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 日本語レベルによって内容を変更する。日本語Ⅲから継続で受講することが望ましい。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 日本語Ⅳ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中石ゆうこ   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1132  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 火曜日10時から12時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。毎週宿題を課す。学生は、授業に出席し積極的に活動に参加すること。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学科 1年次   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 語彙 漢字 読む 書く プロジェクト課題  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業は、日本語を母語としない者を対象とする。本科目の目標は、①語彙力を高めること、②大学生生活で必要とされる日本語力のうち主に読み、書きの活動(専門書を読む、課題について情報を集める、レポートや論文を書くなど)のための日本語力を高めること、③他者と自分との意見を調整し、問題解決をすることである。この「日本語Ⅳ」では、「日本語Ⅲ」の日本語力より、上のレベルに対応した活動を行う。                         |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学の学習活動に必要な抽象的で専門性の高い語彙や表現を学ぶ。レポート作成ができる作文力を身に付けることを目標にして、教科書に書かれた文章の問題点を指摘する活動とそれに続く作文練習を通じて、書く力を高める。様々な文章を読むことで、正確に、かつ効果的に、必要な情報を見つける演習を行う。他者と自分との意見を調整し、問題解決をする活動として、プロジェクト学習を行う。<br><br>※ただし、受講生の日本語レベルによって内容を変更する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 小テスト (20%)<br>課題(宿題) (30%)<br>期末テスト(またはレポート) (40%)<br>出席 (10%)  |                  |    |
| テキスト                        | 『日本語プロフィシエンシーライティング』(凡人社)<br>『中・上級のための速読の日本語』(The Japan Times)の2冊を予定。<br>※学生の能力によって決定する。(第3回の授業で指示)   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 日本語レベルによって内容を変更する。<br>日本語Ⅲから継続して受講することが望ましい。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | ITパスポート検定  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小川 仁士  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1548研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って『ITパスポート試験』の学習カリキュラムに準拠したテキストを用いて講義を実施する。<br>また、自習についてはeラーニング教材を使用する。<br>学生は、授業への出席、期末試験の受験が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (0時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 【27年度以降入学生】人間文化学部，経営情報学部 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 国家試験，ITパスポート試験，ストラテジ系基礎知識，マネジメント系基礎知識，テクノロジー系基礎知識  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。ITに関する知識にとどまらず、企業活動、経営戦略、会計や法務など、ITを活用する上で前提となる幅広い知識をバランス良く習得することを目的として、国家試験である『ITパスポート試験』の学習内容を身に付ける。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義では、『ITパスポート試験』の合格に必要なストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系基礎知識について学習する。これらの学習を通して、以下にあげることが身に付く。<br>・企業活動と法務の基本について理解し、経営科学の各手法についての基礎知識を備え、企業や組織の経営に資する情報システムの戦略立案に活かすことができる。<br>・情報システムの開発技術およびソフトウェア開発管理手法の基礎について理解し、プロジェクトマネジメントおよびサービスマネジメントの基礎知識を備え、情報システムの開発および運用に活かすことができる。<br>・情報科学を支える基礎理論について理解し、コンピュータシステムの構成要素の仕組みについての基礎知識を備えている。さらに、データベース、ネットワーク、セキュリティに活用されている技術の要諦を踏まえ、適切なコンピュータシステムの運用ができる。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 集中講義を受講し、期末試験に合格した者については、得点に応じ、評定値C以上A未満の評定値を与える。履修期間中、LMS上のeラーニング教材で学習し、集中講義が始まる前までに『ITパスポート試験』に合格した者については、その得点に応じ、評定値を上方修正する。また、LMS上のeラーニング教材への取組状況が良好な者に対しても評定値を上方修正する。   |                  |    |
| テキスト                        | FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成28-29年度版」富士通エフ・オー・エム(株)   |                  |    |
| 参考文献                        | LMS上のeラーニング教材については、講義の際に指示する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | LMS上のeラーニング教材を用いて予習と復習をしっかりと行うこと。<br>ITパスポート試験の受験案内も行うので、積極的に受験し取得して欲しい。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | ITパスポート検定  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小川 仁士  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1548研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って『ITパスポート試験』の学習カリキュラムに準拠したテキストを用いて講義を実施する。<br>また、自習についてはeラーニング教材を使用する。<br>学生は、授業への出席、期末試験の受験が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (0時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 【27年度以降入学生】人間文化学部，経営情報学部 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 国家試験，ITパスポート試験，ストラテジ系基礎知識，マネジメント系基礎知識，テクノロジー系基礎知識  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。ITに関する知識にとどまらず、企業活動、経営戦略、会計や法務など、ITを活用する上で前提となる幅広い知識をバランス良く習得することを目的として、国家試験である『ITパスポート試験』の学習内容を身に付ける。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義では、『ITパスポート試験』の合格に必要なストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系基礎知識について学習する。これらの学習を通して、以下にあげることが身に付く。<br>・企業活動と法務の基本について理解し、経営科学の各手法についての基礎知識を備え、企業や組織の経営に資する情報システムの戦略立案に活かすことができる。<br>・情報システムの開発技術およびソフトウェア開発管理手法の基礎について理解し、プロジェクトマネジメントおよびサービスマネジメントの基礎知識を備え、情報システムの開発および運用に活かすことができる。<br>・情報科学を支える基礎理論について理解し、コンピュータシステムの構成要素の仕組みについての基礎知識を備えている。さらに、データベース、ネットワーク、セキュリティに活用されている技術の要諦を踏まえ、適切なコンピュータシステムの運用ができる。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 集中講義を受講し、期末試験に合格した者については、得点に応じ、評定値C以上A未満の評定値を与える。履修期間中、LMS上のeラーニング教材で学習し、集中講義が始まる前までに『ITパスポート試験』に合格した者については、その得点に応じ、評定値を上方修正する。また、LMS上のeラーニング教材への取組状況が良好な者に対しても評定値を上方修正する。   |                  |    |
| テキスト                        | FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成28-29年度版」富士通エフ・オー・エム(株)   |                  |    |
| 参考文献                        | LMS上のeラーニング教材については、講義の際に指示する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | LMS上のeラーニング教材を用いて予習と復習をしっかりと行うこと。<br>ITパスポート試験の受験案内も行うので、積極的に受験し取得して欲しい。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報科学入門  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小川 仁士   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1548研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。<br>学生は、授業への出席、課題の提出、期末試験の受験が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 【26年度以前入学生】国際文化学科，経営情報学部 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 情報化社会と文化，社会生活におけるコンピュータ利用，情報倫理，<br>情報セキュリティ，コンピュータアーキテクチャ，表計算，データベース  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目は、全学共通教育科目中の情報科目に区分され、「情報リテラシーの向上」を目標としている。<br>具体的には、情報化社会におけるコンピュータシステム利用の実際に関する基礎的な知識および情報倫理と情報セキュリティに関する基礎的な知識を習得するとともに、コンピュータアーキテクチャに関する基礎的事項を理解する。さらに、社会生活におけるコンピュータ活用を目指し、表計算およびデータベース利用のための実践的なスキルを身に付ける。本科目の目指す到達レベルは、各項目の理解、表計算ソフトウェア利用、データベースソフトウェア利用において何れも中級者レベルにおく。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 情報や情報技術が社会生活で果たす役割や、社会生活に及ぼす影響を理解するため、まず、社会の情報化と情報に関連する法律、コンピュータと仕事の関わり、情報と基幹業務システムの関わり、エンドユーザコンピューティングの概要について講義する。次に、情報倫理と情報セキュリティの構築、コンピュータシステム導入と運用管理について講義・実習により学ぶ。また、コンピュータのハードウェアと周辺機器の理解、表計算とデータベースについて実習を多用して教授する。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 5回以上の欠席は評価の対象外とする。<br>出席状況および期末試験70%、課題レポート(宿題)30%の割合で評価する。<br>期末試験は、指定された試験の日時に、指定された教室(試験室)内で、ノート・教科書類持ち込み不可で実施する。主に練習問題の中から問題を作成し試問する。<br>レポート(宿題)の課題は学習単元毎の授業の最後に提示する。<br>各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。<br>課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。  |                  |    |
| テキスト                        | FOM出版「よくわかるマスター ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集 平成28-29年度版」富士通エフ・オー・エム(株)<br>noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー   |                  |    |
| 参考文献                        | 講義の際に紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。<br>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。<br><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a><br>”アルゴリズム”，”ハードウェアとソフトウェア”，”データベース”，”情報機器の発達の歴史”を中心に視聴しておくことと良い。   |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 体育実技Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 楠堀誠司(庄原)、塩川満久(三原)、辻文(広島)   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1541室(辻)   |                  |    |
| オフィスアワー                     | ※随時対応 要連絡  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 集中授業   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 【27年度以降入学生】全学部 2~4年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | しまなみウォーク、山寺、学生交流   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを実践できる。</p> <p>②ウォーキングの特性や技術を説明できるとともに、生涯スポーツとして実践できる技能が身につく。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技Ⅱは、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>1)しまなみウォーク(主担当:楠堀)もしくは2)山寺での農業体験(主担当:塩川)のいずれかを選択する。しまなみウォークは、しまなみ海道(85キロ)を3泊4日かけてウォーキングする。山寺農業体験は、県内の山寺にて2泊3日の農業体験を行う。</p> <p>この体育実技Ⅱは3キャンパス(広島、三原、庄原)合同の授業であり、運動を通じたキャンパス間の学生交流も重要なテーマとしている。</p>                   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業態度およびレポート等によって総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        |  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>交通費および宿泊にかかる費用は自己負担となる。</p> <p>授業内容等についての説明会を行いますので、履修希望者は説明会に参加してください。</p>   |                  |    |

|                             |   |                  |                                 |
|-----------------------------|---|------------------|---------------------------------|
| 授業科目名                       | 保健体育理論  |                  |                                 |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 辻 文   |                  |                                 |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1541研究室   |                  |                                 |
| オフィスアワー                     | ※随時対応 要連絡   |                  |                                 |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。本授業科目では、一方的な講義形式ではなく、グループにわかれて学生同士の議論や意見発表、全体で教員も含めた質疑などを行い、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。  |                  |                                 |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 平成26年度以前入学生：必修<br>／平成28年度入学生：選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科、健康科学科、経営学科、経営情報学科1年次対象   |                  |                                 |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修   |                  |                                 |
| キーワード                       | 健康づくり、生涯スポーツ、運動、トレーニング、生活習慣病  |                  |                                 |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【授業の到達目標】①現代の日本人の健康状態や運動・スポーツと健康のかかわりを理解する。②生涯に渡って運動・スポーツを継続するために必要となる環境や取り組みを説明できる。③運動・トレーニングを行った場合に身体の中でどのような変化(生理的変化)が起こるのか、さらに、それらが健康の保持・増進とどのように関係するのか説明できる。④運動を実施する上で必要となる基本的な技能を身につける。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】保健体育理論は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p>   |                  |                                 |
| 授業の内容                       | <p>本授業は、3部構成になっています。第1章(第1～5回)では、健康と運動について考えていきます。日本人の健康状態を理解し、運動・スポーツが病気(生活習慣病)やこころの健康とどのように関わるのか、さらに運動・スポーツを生業に渡って継続していくにはどういった環境や取り組みが必要になるのか理解を深めます。第2章(第6～10回)では、運動時の身体のしくみについて学びます。運動やトレーニングを行うと身体の中でどのような変化や適応が起こるのか、さらにそれらの身体的変化が健康とどのように関わるのか理解を深めます。第3章(第11～15回)では、運動・トレーニングの方法について学びます。実際に運動を実施・継続していく上で、どのようなトレーニングの種類があり、それぞれどのような効果が得られるのか等について、実習を交えながら理解を深めていきます。これら15回の授業を通して、生涯スポーツを実践していく上での基本的知識、態度および技能を身につけていきます。</p> |                  |                                 |
| 成績評価の方法                     | <p>授業態度20%、講義中のレポート30%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。</p> <p>「期末試験」：期末試験(90分)を行う。試験は自身が作成したA3サイズのメモのみ持ち込み可(メモ用紙は、事前に配布した指定の用紙のみ認め、試験後に回収する)。出題は第15回までの講義内容及び小テストの中から行う。</p>   |                  |                                 |
| テキスト                        | 教科書なし。毎回、資料プリントを配布する。   |                  |                                 |
| 参考文献                        | 健康づくりのための運動の科学(鶴木秀夫 編、化学同人)、スポーツ生理学(富樫健二 編、化学同人)、トレーニングの科学的基礎(宮下充正、ブックハウス・エイチデイ)  |                  |                                 |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>授業態度は、積極的な授業参加だけでなく、私語の抑止、携帯電話の禁止、教室内での飲食禁止等の授業のマナーを守ることを含む。無断の途中退室は認めない。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>  |                  |                                 |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | キャリアデベロップメント  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 原田 淳  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス キャリアセンター  |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業. 講義形式による解説を行い, 必要に応じて適宜, 演習を実施する.  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学科1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | キャリア開発, 能力開発, 目標設定, 情報収集, コミュニケーションスキル, 対人関係スキル, 課題発見力, 問題解決力, 感情コントロール, ストレスコントロール   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本科目は、全学共通教育科目の「キャリア科目」の中で、最初に学ぶ科目として位置づけられている。大学生生活を充実させ、社会で活躍するためには、自立的・主体的に考え行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。それには、目標設定、情報収集、効果的なコミュニケーション、対人関係スキル、課題発見力、問題解決力、感情のコントロール、ストレスへの対処、意思決定などの能力が含まれる。これらの能力は、在学中だけでなく、社会に出てからも継続的に高めていくことが重要である。本講義の目的は、受講者がこれらの能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解し、能力を高める方法を知ることである。受講者が理解を深めるための演習を適宜実施し、その過程で受講者自身が自己についての理解を深めることが可能である。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>1) 社会で活躍するために必要な能力, 2) セルファイメージと目標設定, 3) 情報収集と要約のスキル, 4) コミュニケーションと対人関係のスキル, 5) 論理的に説明するスキル, 6) 問題解決・発想法, 7) 感情とストレスのコントロール</p>  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する  |                  |    |
| テキスト                        | 講義資料は毎回配布する.  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | キャリアビジョン  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 原田 淳  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス キャリアセンター (原田)   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学科2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 特になし  |                  |    |
| キーワード                       | キャリア開発、基礎的・汎用的能力、論理的思考、プレゼンテーション  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 前半は、社会で必要とされる能力や資質を理解するための講義を行い、後半は、「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 講義中の演習50%、レポート課題20%、期末レポート30%で評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 参考文献は適宜紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ、ヨーロッパ、中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | インターンシップ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 栗原武士, 山縣誉志江, 富田哲治, 式部信  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1823 (栗原)   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時 (アポを取ってください)   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (60時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学科2・3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見詰めようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目の複合科目の一つとして位置づけられている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。   |                  |    |
| テキスト                        | a. 教科書 なし   |                  |    |
| 参考文献                        | b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。したがって、2年次での履修も可能であるが、上記の意味で3年次の履修が望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 哲学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小川 吉昭   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1825研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次, 経営学科・経営情報学科1・2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中一種免(社会)選択必修, 高一種免(公民)選択必修  |                  |    |
| キーワード                       | 原因、根拠、神、科学、帰納、演繹、循環   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 全学共通教育科目の人文系科目。哲学を初めて学ぶ学生を対象に、哲学とはどのようなものかを紹介する。併せて、論文を読み、論理的展開を正確に把握できるようになることを目指す。  |                  |    |
| 授業の内容                       | Stephen Law “THE PHILOSOPHY GYM”の中から、Chapter 1、Chapter 16、Chapter 18、Chapter 19、を、それぞれ三回で取り上げ、そこで何が問題となっているのか、どのような解決策がありうるのか、それぞれの解決策にどのような問題が潜んでいるのか、等々を考えながら、全体の構成(アウトライン)を読み取る。取り上げる各章は、ステイブン・ロー著『北極の北には何がある? 「考える脳」をつくる哲学トレーニング19』中山元訳、ランダムハウス講談社、に収録されているが、現在絶版。すべてのChapterについて翻訳を準備する。<br>時間に余裕があれば、Chapter 7、Chapter 9、Chapter 4 のいずれかを取り上げる。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験の成績による。   |                  |    |
| テキスト                        | Stephen Law “THE PHILOSOPHY GYM” (翻訳を準備する)  |                  |    |
| 参考文献                        | 岩崎武雄『西洋哲学史』(再訂版)有斐閣、門脇俊介『現代哲学』産業図書、熊野純彦『西洋哲学史』上・下 岩波新書  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 添付ファイルから、PhG_01.pdf, PhG_16.pdf PhG_18.pdf, PhG_19.pdfを各自でプリントする。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 倫理学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小川 吉昭   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1825研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中一種免(社会)選択必修、高一種免(公民)選択必修   |                  |    |
| キーワード                       | 善悪、人格、自由、決定論  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 全学共通教育科目の人文系科目。倫理学を初めて学ぶ学生を対象に、哲学の一部門としての倫理学とはどのようなものかを紹介する。併せて、論文を読み、論理的展開を正確に把握できるようになることを目指す。  |                  |    |
| 授業の内容                       | Stephen Law, "THE PHILOSOPHY GYM" (スティーブン・ロー著『北極の北には何がある? 「考える脳」をつくる哲学トレーニング19』中山元訳、ランダムハウス講談社)の中から、Chapter 20、Chapter 5、Chapter 12、Chapter 17を取り上げる。全体の構成(アウトライン)を読み取る努力をしよう。<br>テキストは翻訳を準備する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験の成績による。   |                  |    |
| テキスト                        | Stephen Law, "THE PHILOSOPHY GYM"   |                  |    |
| 参考文献                        | 大庭健 『善と悪 - 倫理学への招待 -』 岩波新書<br>中島義道 『悪について』 岩波新書   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 各自でテキストをプリントする。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 心理学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 向居 暁  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1814研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 第1回の授業において提示する。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、教科書の主要な章に関する講義形式で実施する。1～2回の講義につき、1章の講義を想定した授業を行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科・健康科学科 1年次対象、経営学科・経営情報学科 1・2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択必修   |                  |    |
| キーワード                       | 知覚、記憶、思考、社会的認知、パーソナリティ、発達   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 私たちは自分の心の働きについて、ある程度までは自分で知ることが可能である。このような経験に基づいた心理学的知識を「素朴心理学」の知識という。問題なのは、この「素朴心理学」の知識と「学問としての心理学」の知識にしばしば大きな隔たりがあることである。本科目では、「学問としての心理学」の全般的な内容について講義を行う。そして、心理学に対してこれまで抱いていた誤解を解き、学問としての心理学を生活の中で役に立つような知識として身につけることを目標とする。この科目は、心理学についてこれまで学習していない学生を対象にしている。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 授業では、人間の基本的な心の働きや行動を扱う。授業内容は、心理学の歴史に始まり、感覚・知覚、認知、社会、発達、教育、パーソナリティ、臨床など多岐にわたる心理学分野を少しずつ紹介するものとなっている。毎回の授業において、学生からも日常生活で体験する「心についての素朴な疑問」を受け付ける。そして、それら疑問は「学問としての心理学」ではどのように考えられているかを講義内容に沿って紹介する。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 試験90%、当日レポート10%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、90分間、論述式、教科書・ノート・資料持ち込み不可、座席指定、学生証呈示、途中退室不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。  |                  |    |
| テキスト                        | 北尾倫彦・中島実・井上毅・石王敦子 共著 「グラフィック心理学」 サイエンス社 1997  |                  |    |
| 参考文献                        | 第1回の授業において提示する。また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。   |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 歴史学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小平 直行   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1826研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業（講義）  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位（30時間）   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科1・2年次，健康科学科2年次，経営学科，経営情報学科 1・2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 資本主義、フォーディズム、グローバリゼーション   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 受講生が、現代の世界資本主義に内在する重要な諸問題について、基礎的理解ができるようになることを目標とする。   |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>コンドラチェフの長期波動によれば、現在われわれは、単なる世界恐慌的局面に直面しているのではなく、長期の1周期（1990～2020年）の下降局面にある。これまで、こうした時期には、基礎的エネルギーの転換、資本主義経済（基軸的資本・産業、世界商品）の根本的变化、国家と国家間システムの変容などが生じており、したがって、われわれは歴史の転換期に際会している。本講では、歴史の現局面を理解するために、「1960～1990年の上昇局面」（＝「20世紀型資本主義」の盛期）と「1990年～の下降局面」（＝「21世紀型資本主義」の開始期）——における世界資本主義と諸国家の形態と構造について論じる。すなわち、過去（「20世紀型資本主義」）との〈対話〉を通して、現在（「21世紀型資本主義」）の理解をめざす。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験による。  |                  |    |
| テキスト                        | テキストは使用しない。   |                  |    |
| 参考文献                        | 参考文献は適宜紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 文学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 遠藤 伸治  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 研究室番号 2406 (庄原キャンパス)   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週金曜日14時から16時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。原則として隔週レポート課題を課し、提出させる。学生は、授業に出席し、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 学生便覧参照   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 作者、読者、生き方、リアリティ、社会性、時代性、グローバル化   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目では、文学と人の生き方との関わり、日本文学と外国文学との関係、文学と他のさまざまな文化現象との影響関係などについて基本的内容を講義する。本科目の目標は、まず、履修学生が文学作品を鑑賞することを楽しむこと、そして、文学に関する基本的な概念、基礎的内容を理解することである。これによって文化研究の専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 現代日本の社会状況に深く根ざし、時代の推移と社会の変貌につれ、その時々々の課題に取り組んできた、時代を捉える指標になると思われる作品をテキストとし、現在の我々を考える上で必須の、家族、性、グローバル化などの問題がどのように表わされているかを読み取っていく。そして、それらの表象がその時々々の読者にどのように理解されてきたのかを考察する。それを通じて自らがどのような時代的变化を内包した現在の状況の中で生きていくのかを理解し、その中で生き方を確立していくための問題提起と手がかりとする。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験60%、課題レポート40%の割合で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポートの課題は授業中に提示する。課題レポートの用紙(A4・罫線有り)は授業時に配布する。   |                  |    |
| テキスト                        | プリントを使用する。参考文献については授業時に指定する。   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教育学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 木本 尚美  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス (2217)   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義形式で行うが、一部演習形式を当てる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科1年次, 健康科学科1・3年次, 経営学科, 経営情報学科1・3・4年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 教育, 学習, 発達, 社会, 家庭, 学校, 子ども  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>全学共通教育科目の教養/人文系科目。<br/> 知識・理解: 「教育学とは何か」という問いを考えるヒントとなる基礎的な知識が獲得できる。<br/> 思考・判断: 現代の教育問題に関して教育学的観点に基づき, 検証することができる。<br/> 関心・意欲: 教育や子どもの成長に興味関心を持ち, 考える態度を養うことができる。<br/> 技能・表現: レポート課題に積極的に取り組むことにより, 学習のデザインとマネジメントを修得することができる。<br/> 総合的には, 広い視野に立つものの見方と, 自ら考える力(クリティカルシンキング)を身につけることができる。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>人間は, さまざまな教育の営みを通して発達し続けるが, 教育活動全般は社会環境と密接な関わりを持っている。本授業は, 受講生の皆さんがこれまで経験してきた家庭教育や学校教育, 現段階の大学教育, 生涯学習を視野に入れ, 教育の基礎をどう捉えるか, 子どもと家庭, 学校, 社会等をめぐる諸問題をどのように解決するかについて, 多角的に考察する。</p>  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート課題1～4・・・15点×4回</li> <li>・現代の教育課題について議論・・・10点×4回</li> <li>・コメントシート・・・(+α)</li> </ul>  |                  |    |
| テキスト                        | 必要に応じて資料を配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>教育という社会的な活動が社会でどのような意味を持っているのか, 課題は何かを考えていきたいと思います。受講生一人ひとりの意見や考え方は, クラス全員の貴重な教育資源となります。単に授業に出席するだけでなく, 授業時間内の学習活動に積極的に参加されることを望みます。</p>  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 日本語表現  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 下岡 友加  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1915 研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 授業がある日の在室時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。ほぼ毎時間、俳句の創作を行い、学生全員による句会を中心とした活動を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中一種免(国語)必修, 高一種免(国語)必修   |                  |    |
| キーワード                       | 日本語表現、俳句、文語・口語体、日本語コミュニケーション   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 俳句の実作、句会、鑑賞文作成等の活動を通じて、日本語による伝統的・革新的な表現方法と多様な価値観を学び、他者と豊かなコミュニケーションを行い得る言語能力と想像／創造力を身につける。全学共通教育科目。                            |                  |    |
| 授業の内容                       | ほぼ毎時間、学生は俳句の創作を行い、自らの言語表現能力を高めていく。また、句会や鑑賞文作成活動を通じて相互批評を行い、さまざまな価値観、表現方法を学び合う。意見交換のなかで、より豊かな想像／創造力、読解力、思考力、表現力、コミュニケーション能力を養う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 毎時の取り組み(80%)、最終レポート(20%)により、総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 『今は始める人のための俳句歳時記(新版)』(角川ソフィア文庫)  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業のなかで適宜紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 俳句の創作初心者を対象として授業を進める。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 日本語表現   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 五條 小枝子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 2218研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って講義形式と実際の作業とで実施する。学生は、授業に出席し、ほぼ毎時間、課題に取り組み、その結果を提出することが義務づけられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 日本語表現の意識化 多様性 体系的 論理的思考 説得力   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本科目は、レポート・論文の執筆に必要な論理的で説得力のある文章を作成する能力の向上を目標とする。平素無意識に使っている日本語による文章表現、文章理解を意識化、対象化するために、表現選択の可能性・事実と意見の書き分け・読者への配慮等の多様な観点の課題について、作業と分析とを行う。このトレーニングに主体的に取り組むことにより、まずは、自らの文章表現の特徴や弱点を認識する。ついで、多彩な表現法について学び、応用力を身につける。</p>   |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>文章の説得力を高めるための表現効果について考える。ことばで認識し思考した結果として得られた事柄を、他者に伝える時に重要な要素は、誰が(筆者)／誰に(読者)／何のために(目的)／何を選んで(素材)／どう書くか(方法)である。これらを意識しながら、様々な形で提示された課題に取り組む。提出された作業結果の分析を通じて、自らとは異なる他者の発想を知る。多様な表現技術の実態に触れ、ことばをめぐる新たな発見をすることができれば、自らの表現力を向上させることができるはずである。さらに、講義内容に関連する事柄を自らの表現でまとめ直すことを試みる。</p> <p>本科目で扱えるものは文章表現の一部でしかないが、大学という“場”で必要であろうと想定される項目を選び、段階をおって、説得力をもつ文章表現を修得するための訓練を行う。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 講義内容に関わるレポートおよび実作(5回)50%、ほぼ毎時間の課題30%、授業への参加度20%の割合で評価する。授業への参加度は、どれだけ主体的・積極的に作業に取り組んでいるか、分析結果やそれに係る解説について、どれだけ意欲的に向き合ったかという観点で評定する。   |                  |    |
| テキスト                        | 毎時間プリント資料を配付する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 参考文献は、適宜紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 文章表現には、ただひとつの正解というものはないが、読み手に自分の考えを伝えるためには何が必要なのか、自分自身で作業し、考え、つかみ取ってほしい。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 芸術   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 佐々木 悠  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書と映像資料などを用いた講義形式で実施する。1回の講義につき、1章の講義を想定し、授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位（30時間）  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科1年次  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 音楽、芸術、美学、音楽学、音楽社会学、音楽文化学   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本授業科目では、音楽（ポップスを含む）についてこれまで専門的にほとんど学習していない学生を対象にして、音楽を聴く際に必要な基礎知識（歴史など）の内容を講義する。本科目の目標は、履修学生に音楽史の基礎知識を理解させ、音楽への興味関心を抱かせることにある。さらに、単に歴史を知るだけでなく、音楽社会学の観点から様々な作品を考察することによって、「音楽はなぜ必要なのか」「音楽は時代の何を映し出しているのか」という問題の一端を考えさせたい。そして、現代社会が抱える文化の貧困という課題に対して、能動的に考える力を付けさせたい。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 現代の私たちが普段耳にしている様々なジャンルの音楽（クラシックやポップスなど）は、2000年以上前にまでその起源を遡ることができる。本科目では、その長い歴史を社会的観点から考察し、音楽の必然性、音楽の社会性について講義する。具体的には、クラシックとポップスの作品 — 交響曲、歌曲、オペラ、ピアノ曲、ジャズ、ゴスペル、洋楽、J-Pop、ミュージカル — を時代ごとに「聴き・観る」ことを通して、各々の歴史的背景を考察する。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験レポート(授業最終日の日に提出、課題は第1回目授業時に提示する。パソコン入力によるものとし、印刷したものも提出。1800字以上2000字以上) 50%、毎回の予習課題 40%、授業への参加度 10%  |                  |    |
| テキスト                        | なし   |                  |    |
| 参考文献                        | 岡田暁生 2005 『西洋音楽史』中公新書<br>岡田暁生 2009 『音楽の聴き方』中公新書<br>川井學監修 2012 『音楽の謎』小学館（名探偵コナン推理ファイル）  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修予定者は、シラバスを精読し、1回目の授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験などにおいて、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 法学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岡田 高嘉   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 2223研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業は、教科書・レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中一種免(社会)選択必修, 高一種免(公民)選択必修  |                  |    |
| キーワード                       | 法と裁判、民法(財産法, 家族法)、刑法  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【目標】</p> <p>知識・理解の観点 法とは何か、市民生活にかかわる法の概要について説明できる。<br/>         思考・判断の観点 現代の社会問題を法と関連づけて考察することができる。<br/>         関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。<br/>         技能・表現の観点 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。<br/>         態度の観点 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>法律系科目の基礎科目</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>まず、法とは何か、法の役割や用い方を明らかにする。これらは法を学ぶ上での基本的な知識である。次いで民法や刑法など、市民生活と密接に結びついた法の概要について解説する。具体的には、①契約や財産に関するルール、②家族制度、③犯罪と刑罰に関するルールなどを取り上げる。</p> <p>これらを通じて、市民生活と法の密接な結びつきを理解し、社会生活に付随する現代的問題を法的な思考に基づいて解決しうる能力を養うことを目指す。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>成績評価は定期試験の結果を第一次的な評価対象とし、それに授業態度、小テスト等の成果を考慮して総合的に判断する。<br/>         大まかな内訳は以下のとおり。<br/>         (1) 定期試験 (60%)<br/>         (2) 授業態度 (10%)<br/>         (3) 小テスト (30%)<br/>         定期試験は論述形式であり、おおむね法学の基本的な知識を確認する問題と、それを基礎とした論理的な法的思考力を評価するための問題で構成される。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | 法学六法'17 (信山社、2016)  |                  |    |
| 参考文献                        | 中山竜一『法学』(岩波書店 2009)<br>齊藤信宰『現代社会における法学入門』(成文堂、2010)   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。<br/>         本科目の履修にあたり、「日本国憲法」を履修済みであることが望ましい。</p>  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 日本国憲法  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岡田 高嘉  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 2223研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業は、教科書・レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科1・2年次, 健康科学科2年次, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修  |                  |    |
| キーワード                       | 立憲主義、基本的人権、三権分立、国民主権、精神的自由、経済的自由、法の下での平等   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p><b>【目標】</b><br/> 知識・理解の観点 憲法の存在意義、憲法が保障する基本的人権の内容について説明できる。<br/> 思考・判断の観点 現代の社会問題を憲法と関連づけて考察することができる。<br/> 関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする社会問題に関心を持つことができる。<br/> 技能・表現の観点 直観に頼らず、法的な思考を用いて説得力ある論述ができる。<br/> 態度の観点 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p><b>【カリキュラム上の位置づけ】</b><br/> 法律系科目の基礎科目</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>ニュースや新聞等では、しばしば憲法にかかわる社会問題が取り上げられる。この授業では、憲法の核である人権保障の概要を習得し、現代社会が直面している憲法問題を考察する法的思考能力の一端を養うことを目指す。</p> <p>授業のおおまかな内容は、憲法を支える立憲主義の思想の歴史的展開を概観し、次いで日本国憲法が規定する基本的人権の具体的内容について解説する。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>成績評価は、定期試験の結果を第一次的な評価対象とし、それに授業態度、小テスト、レポート等の成果を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <p>(1) 定期試験 (60%)<br/> (2) 授業態度 (10%)<br/> (3) 小テスト、レポート等 (30%)</p> <p>定期試験は論述形式であり、おおむね日本国憲法の基本的な知識を確認する問題と、それを基礎とした論理的な法的思考力を評価するための問題で構成される。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | テキストは使用しない。プリントを配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | (1) 水島朝徳『18歳からはじめる憲法』(法律文化社、2010年)<br>(2) 長谷部恭男『憲法と平和を問いなおす』(筑摩書房、2004年)   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。  |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経済学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 式部 信  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1722研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 木・2   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業・講義形式   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次対象, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中一種免(社会)選択必修, 高一種免(公民)選択必修  |                  |    |
| キーワード                       | 社会科学・実在性・経済構造・資本主義  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は経済や社会の仕組みに関する基本的な知識を学ぶための科目である。  |                  |    |
| 授業の内容                       | この科目では現代の経済がどのような仕組みで動いているかを知るために必要な基礎的知識を学ぶ。最初に, 経済全体の仕組みをつかまえるための基本的な概念を理解する。その上で, 経済の動きを把握するためにつくられた簡単な理論やモデルを用いて現代経済の基本的な特徴と構造を理解する。それとともに, 経済や社会を学問として学ぶためにどのような点に注意しなければならないかを考え, 経済や社会について高校時代よりも一段深い知識をめざす。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期間中に課す宿題と期末の試験期間中に実施する最終試験の得点結果に基づいて評価する。最終試験では論述形式の問題を出題する。  |                  |    |
| テキスト                        | バスター『自然主義の可能性』晃洋書房(「経済の学び方」のテキスト)。  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 受講者には各回の授業内容を要約したレジュメを用意するので, 授業に持参すること。宿題には上記の文献(これは必読の文献である)を読んで5000~6000字程度の論文を書く課題が含まれるので, 留意すること。論文のテーマと提出期限は授業の際に伝える。   |                  |    |

|                         |  |                  |    |
|-------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                   | 政治学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 原 理  |                  |    |
| 研究室の場所                  | 広島キャンパス  |                  |    |
| オフィスアワー                 |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 遠隔授業：広島C発信   |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                    | 【平成26年度以前入学生】健康科学科，経営学科，経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                 |  |                  |    |
| キーワード                   | 政治，民主主義，発表，批評，安全保障，経済，英語，インターネット   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | 政治学の基礎を学ぶとともに，シンクタンクのホームページから情報を収集し，論文を執筆し，発表を行う。  |                  |    |
| 授業の内容                   | 現在の政治哲学において，民主主義は人類普遍の価値観（自由・人権・平等）を基にした政治体制であり，一般的にこれ以上の政治体制はないとされている。そこで，このクラスでは民主主義とは何であるのかを学び，世界の国々の政治体制がどの程度民主的であり，国民が政治的経済的にどの程度の自由を享受しているのかを調査する方法を学ぶ。具体的には，政治・経済・人権・軍事等に関する主要なHPの使い方を学び，それをクラスで発表してもらおう。またはある国に関する論文を書き発表する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                 | 授業への貢献度と論文と出席で評価する。授業への貢献度とは，授業での発表や議論や他の学生の発表への批評・評価のことであるが，これらの活動に意味のある参加をしたかどうかで評価する。   |                  |    |
| テキスト                    | 未定   |                  |    |
| 参考文献                    | 以下のシンクタンクのホームページ<br>Heritage Foundation, Freedom House, Transparency International, Amnesty International, Reporters without borders, Nationmaster.com等  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 社会学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中島 満大   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1727研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義ではレジュメを配布する。教科書は指定しないが、講義で示した参考文献を読んでおくこと。また毎回コメントカードを配布し、それに基づき、学生に意見を求めることがあるので、積極的に講義に参加すること。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科1・2年次，健康科学科1年次，経営学科，経営情報学科1・2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中一種免（社会）選択必修，高一種免（公民）選択必修   |                  |    |
| キーワード                       | 自分らしさ，近代家族，晩婚化・未婚化，会社，地方都市  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本講義は，社会学の入門に該当する。私たちの身のまわりの現象を，社会学ではどのように考えているのかを紹介していく。社会学のおもしろさを少しでも講義から感じ取ってほしい。そして社会的な考え方を身につけることが本講義の目標である。経営学や経済学などの考え方と，社会学との違いを，他の科目を履修しながら考えていってほしい。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 講義は，日常の風景や「私」という存在，人間関係，家族，働くということ，（地方）都市などについての研究をもとにして進めていく。多様なテーマを扱っているが，共通しているのは，私たちにとって身近な問題を考えていくということである。最終的には個々のトピックから「現代社会」がいかにして成立しているのかを論じていく。     |                  |    |
| 成績評価の方法                     | コメントカードと講義への参加度に基づく平常点（30%），試験（70%）によって成績評価を行う。   |                  |    |
| テキスト                        | 指定しない。  |                  |    |
| 参考文献                        | 浅野智彦ほか『考える力が身につく社会学入門』KADOKAWA/中経出版（2010年），井上俊・船津衛『自己と他者の社会学』有斐閣（2005年），落合恵美子『21世紀家族へ』有斐閣（2004年）など  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 社会学やシラバスのトピックに少しでも興味のある者はぜひ受講してほしい。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 人権論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岡田 高嘉   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 2223研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業は、レジュメ・資料を用いて、講義形式で実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科1・2年次, 健康科学科1年次, 経営学科, 経営情報学科1・2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)選択   |                  |    |
| キーワード                       | 基本的人権、自己決定権、人種差別、死刑制度、社会的弱者   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p><b>【目標】</b><br/> 知識・理解の観点 人権とは何か、多様な人権問題の概要、発生原因について説明できる。<br/> 思考・判断の観点 現代の人権問題を多角的に考察することができる。<br/> 関心・意欲の観点 テレビや新聞等で見聞きする人権問題に関心を持つことができる。<br/> 技能・表現の観点 直観に頼らず、論理的な思考を用いて説得力ある論述ができる。<br/> 態度の観点 専門分野にとらわれず、幅広い知識と柔軟な思考の大切さを自覚できる。</p> <p><b>【カリキュラム上の位置づけ】</b><br/> 法律系科目の基礎科目</p>  |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>人権思想の歴史、その発展過程を踏まえ、今日、我々に保障される自由・人権の内容を概観する。その上で、日本の社会における人権問題を考察する。また、人権の尊重は、全人類にとって最重要課題の1つであるから、外国で起こっている人権問題にも目を向ける必要がある。したがって、外国の人権問題についても、日本との関係を意識しつつ、適宜取り扱っていく予定である。また、人権問題に関わる映画を教材とする場合もある。</p> <p>主要な個別論点としては、①人権思想の展開、②自己決定権、③差別問題、④社会的弱者の人権、⑤死刑制度などである。授業においては、裁判例その他の参考資料を利用しつつ、グループワークを取り入れながら、具体的な問題に即して深く考えることができるよう心がける。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>成績評価は、定期試験の結果を第一次的な評価対象とし、それにレポートの成果等を考慮して総合的に判断する。大まかな内訳は以下のとおり。</p> <p>(1) 定期試験 (50%)<br/> (2) レポート (50%)</p> <p>定期試験は論述形式であり、おおむね人権に関する基本的な知識を確認する問題と、それを基礎とした論理的な思考力を評価するための問題で構成される。</p>  |                  |    |
| テキスト                        | テキストは使用しない。プリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 上田正昭『国際化のなかの人権問題』（明石書店、2004年）<br>横藤田誠『人権入門』（法律文化社、2011年）  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 新聞やニュース・報道番組を意欲的に見聞きし、国内外で何が話題になっているのかを把握しておくことが望ましい。<br>本科目の履修にあたり、「日本国憲法」を履修済みであることが望ましい。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 文化人類学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 上水流 久彦   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 庄原キャンパス 3305地域連携センター   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時 事前に連絡がある方が好ましい。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義形式   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 学生便覧参照   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | フィールドワーク, 文化相対主義   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 私たちの身近な事柄について、人類学の方法論と人類学的思考を提示します。世界各地の多様な文化との出会いを通じて、私たちが「当たり前」と思っている考えや習慣の特殊性を理解するとともに、結婚や宗教などの意義への理解を深めます。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 「日本に生まれてよかった」と感じる時、そこに文化の優劣はないでしょうか。文化人類学では、文化に優劣はないという考えを基本としていますが、それは理想として語る「あるべき姿」なのでしょうか。それとも裏付けがあつてのことでしょうか。どうして文化に優劣はないと言えるのか、この問いを考えるために、第三の性の存在、一妻多夫等の多様な婚姻方法、迷信と思われがちな呪術などを事例として、文化を論じます。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 原則、期末試験で評価します。出席回数は加点の対象とします。  |                  |    |
| テキスト                        | 指定しません。参考図書は適宜授業で紹介します。  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業で紹介します。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 私語には厳しく対処します。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 基礎数学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 富田 哲治   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1680号室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 研究室に在室時は随時可，事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面，講義形式   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科，経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 行列，ベクトル   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 線形代数学の基本であるベクトル・行列の定義および演算を，普通の数の演算のように自由にできるようになることを目標とする。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 基礎数学では，統計学など他の専門分野を学ぶにあたって必要な線形代数を学ぶ。主な内容は，ベクトル・行列の定義とその演算，行列の階数，行列の基本変形，連立1次方程式の解法，行列式等を紹介する。随時，演習や小テストを行い，理解を深めていきます。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間試験またはレポート（30%），期末試験（60%），および授業中の課題演習（10%）で評価します。  |                  |    |
| テキスト                        | やさしく学べる線形代数（石村園子著，共立出版）   |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定なし。必要に応じて参考資料を配布する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 1回，1回の授業内容は難しくないが，各回の内容は密接に結びついています。前回までの内容を土台として新しい話題が紹介されるので，理解を深めるための復習が大切です。テキストは演習問題が豊富にあるので，各自の復習に活用してください。       |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 統計学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 富田 哲治  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1680号室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 研究室に在室時は随時可，事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面，講義形式+情報処理演習室での演習形式  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 人間文化学部 1年次対象，経営情報学部 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | データとは？，データの要約，母集団と標本，推定と検定，回帰分析，統計ソフト  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | データから意味のある情報を抽出する道具として，統計学はとても有効な道具になります。本講義では，統計学の基礎とそれにもとづくデータ解析の初歩を，Rと呼ばれる無料の統計ソフトを用いて身につけることを目標とします。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 統計学の考え方や手法に関する知識は多くの分野において必要とされています。本講義では，データをどのように整理し，その特性をどのように捉えていくかを，具体的なデータを利用しながら理解していきます。無料の統計ソフト「R」を用いた演習を中心に授業を進めていきます。ただし，履修者数によって内容を変更する場合があります（履修者数>PC端末数の場合など）。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間レポート（30%），期末レポート（50%），および授業中の課題演習（20%）で評価します。  |                  |    |
| テキスト                        | 特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定なし。必要に応じて参考資料を配布する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 統計ソフトの力を借りることで統計学をデータ解析の道具として使えるようになることを目指した授業です。  |                  |    |

|                     |  |                  |    |
|---------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名               | 物質科学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)        | 藤田 健一  |                  |    |
| 研究室の場所              | 広島キャンパス 1542研究室  |                  |    |
| オフィスアワー             | 随時(原則として、メールなどで予約)   |                  |    |
| 授業の形式・方式            | 対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。1回の講義につき授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。授業はプリントを配布して、その内容について講義する。なお、授業内容は物理学、化学の両方の学問分野に亘る。また、授業内容の理解を深めるために、適宜、練習問題を配布する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)            | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                | 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1・2年次対象(平成28年度入学生)   |                  |    |
| 免許等指定科目             |  |                  |    |
| キーワード               | 基礎粒子, マクロ構造, 物性, 金属, 無機, 有機, 結晶, アモルファス, 物理事象  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け  | この科目では、物質を構成する要素と物質のマクロな物性との関係について講述する。<br>本科目の目標は、履修学生が、物質のミクロ構造が日常生活にどのように反映されているのかを理解できるようになることである。これによって、物理的・化学的教養を身に付け、更に、物理的・化学的専門科目の内容を理解するための素地を身に付けることができる。   |                  |    |
| 授業の内容               | 物質を構成する基礎粒子の階層的構造とそれぞれの性質について論じ、次に物質のマクロな構造の発現および複雑化の仕組みについて解説し、それらの構造的知識を基礎として、物質の構成要素である基礎粒子の物性とその物質のマクロな物性にどのように反映するかを、物質の構造との関連で論じる。また、生活の中で使用されている具体的な物質(金属・無機・有機, 導体・不導体, 結晶・アモルファス)について、その機能性と構造との関係およびその物質にまつわる物理的事象を講述する。 |                  |    |
| 成績評価の方法             | 期末試験で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。  |                  |    |
| テキスト                | 適宜、プリント配布。   |                  |    |
| 参考文献                | 参考書: 杉森 彰 著 『化学と物質の機能性』丸善株式会社<br>参考書: 渡邊正義・米屋勝利 著 『物質科学入門』化学同人   |                  |    |
| 備考(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。   |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 生活化学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 藤田 健一   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1542研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時(原則として、メールなどで予約)  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に講義形式で実施する。1回の講義につき授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。授業は教科書の内容に沿って行うので、スクリーンの内容と教科書を比較しながらノートを取ることを勧める。なお、教科書に記載のない内容はプリントを配布する。また、授業内容の理解を深めるための練習問題を、適宜、配布する。                                     |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1・2年次対象(平成28年度入学生)  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 化学, 衣生活・食生活・住生活, 健康, 薬品, 産業, エネルギー, 環境, 反応, 化学的事象   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では、生活における化学との関わりについて講述する。本科目の目標は、履修学生が、生活の様々な分野において化学の原理が、より良い生活を実現するためにどのように反映されているのかを理解することである。これによって、化学的教養を身に付け、更に、化学的専門科目の内容を理解するための素地を身に付けることができる。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 我々の生活は我々の関知せぬまま、多数の化学的事象および反応によって成り立っている。そのような生活の中において発現している生活と化学との関わりについて理解するために化学の基礎的原理を分かりやすく解説する。それらの知識を応用して、生体、食品、薬品、農業・工業、エネルギー、環境などの分野において具体的な生活と化学との関わりについて化学的に講述し、より良い生活の実現のために必要な化学的な視点を身に付けられるようにする。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験で評価する。期末試験は指定された教室(試験室)内で、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。   |                  |    |
| テキスト                        | 教科書: 井上祥平 著 『はじめての化学 生活を支える基礎知識』化学同人  |                  |    |
| 参考文献                        | 参考書: 齋藤勝裕 著 『楽しくわかる化学』東京化学同人  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 生命科学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 増山 悦子 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業を基本とするが、対話形式の授業も取り入れる。視聴覚教材を使用。授業時間 2 時間 (1 回) と学生の自習 4 時間を想定した授業を行う。学生は、レポート作成・提出、小テストと期末試験を受けることが義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 1 年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | ヒトの起源と進化, 細胞, 生命の設計図, 遺伝と環境, 遺伝子診断, 幹細胞技術, 発生と老化, がん, 食と健康, 脳のはたらき, 感染と免疫  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 近年, 生命科学の最先端に関わる諸問題が日常的な話題として取り上げられ, 避けては通れないほど身近に迫っている。本講義では, 生命科学の基礎固めをしながら, 関心の高いテーマ (がん, 生活習慣病, 老化, 感染など) を随時取り上げて概説する。この講義では, 生命現象の基本について理解し, 誰もが必要となる一般教養レベルの知識を習得することを目標としている。これにより, 生命科学の知識や技術, 情報があふれている現代において, 偏見を排した正しい知識を共有し, 客観的に評価できる態度や正しい生活習慣を身につけることができる。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 人間を中心において, 第 I 部「現代の生命科学がどのようにして出来上がったのか」を遺伝子のはたらきばかりでなく細胞レベルで説明し, 驚くべき生体の厳密な機能を講述する。生物が多様に進化し, ヒトが多細胞生物であるがゆえに, がんを発症することなどを理解する。第 II 部「生命科学で明らかになった生命のしくみ」では, 体が形成されるしくみや老化, 脳のはたらき, 免疫と感染について最新の知識を基に概説する。また, 食と健康問題を, 個体と細胞レベルから理解することにより, 自らの生活習慣の再考を喚起する。第 III 部「生命科学技術の進歩と社会との関係」では, 遺伝子治療, 幹細胞技術, 遺伝子ゲノム編集など急速に進んでいくバイオ技術について学び, 社会的影響や, リスクとベネフィットのバランスについて考える。神秘的なマイクロの世界が, より身近に捉えられるように, 視聴覚教材を活用する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 小テスト (ほぼ毎回) 30%, 期末試験 50%, レポート (2 回) 20% の割合で総合評価する。試験は指定された試験日, 指定された教室において実施する。レポート課題は, 指定用紙を配布し, 2 週間後の授業開始時を提出期限とする。  |                  |    |
| テキスト                        | 東京大学生命科学教科書編集委員会編『現代生命科学』羊土社   |                  |    |
| 参考文献                        | 田口英樹著『学んでみると生命科学はおもしろい』ベレ出版<br>嶋津 孝, 加藤秀夫, 増山悦子著『健康の科学』化学同人  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 受講目標を念頭におき, 準備学習に取り組んで授業に臨むこと。また, 宿題, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則 (学則) に基づいて対応する。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 地球科学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 山崎 博史 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 遠隔授業 (庄原キャンパス発信)<br>授業日程に従って、主に講義形式で実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 学生便覧参照  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 固体地球, 物質循環, 地球と生物の共進化, 長時間スケール, 自然観   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>自然環境を考える時, ローカルからグローバルまで様々な空間スケールがあるように, 時間スケールにおいても通常の時間スケールとは異なる長い時間スケールで捉えることも重要であろう。</p> <p>本授業科目では, 現在の自然環境の成り立ちを地球史という長時間スケールの中に位置づけ, 自然と人間の関係について考えるきっかけを与える授業としたい。</p> <p>なお, 高等学校で地学を履修していない学生にも充分理解が深まるよう配慮する。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>次の項目を取り上げ, 講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎時間</li> <li>◎地球の構造</li> <li>◎地層</li> <li>◎風化・侵食・運搬</li> <li>◎プレートテクトニクスとプルームテクトニクス</li> <li>◎火山と噴火</li> <li>◎地震と断層</li> <li>◎日本列島の成立</li> </ul>                 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>期末試験80%, 小課題20%の割合で評価する。</p> <p>期末試験は指定された試験日の授業時間 (90分) 内で実施する。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | 数研出版編集部編『もういちど読む数研の高校地学』 (数研出版)   |                  |    |
| 参考文献                        | <p>西村祐二郎編著『基礎地球科学第2版』 (朝倉書店)</p> <p>酒井治孝著『地球学入門—惑星地球と大気・海洋のシステム—』 (東海大学出版会) 等</p> <p>なお, これらの購入を義務づけるものではない。</p>  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。課題, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則 (学則) に基づいて対応する。</p>  |                  |    |

|                             |  |                  |       |
|-----------------------------|--|------------------|-------|
| 授業科目名                       | 県大生として学ぶ広島と世界  |                  |       |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 上水流 木本   |                  |       |
| 研究室の場所                      | 上水流 (庄原キャンパス地域連携センター) 木本 (広島キャンパス 2217)  |                  |       |
| オフィスアワー                     | 上水流<br>木本  | 随時<br>随時         |       |
| 授業の形式・方式                    | 講義形式   |                  |       |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | ありません |
| 履修要件                        | ありません  |                  |       |
| 免許等指定科目                     | ありません  |                  |       |
| キーワード                       | 県立広島大学 留学 国外事情   |                  |       |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 県立広島大学の基本理念「地域に根差した、県民から信頼される大学」に基づいて、本学が立脚する広島県という地域、及び本学が協定を結んでいる大学のある国や地域について、基本的な事項を学びながら、自身に関わりを持つ広島と世界の概要を知ることが目標とする。  |                  |       |
| 授業の内容                       | 地域の諸問題への取り組みや国際交流活動において中心的な役割を果たしている教員の講義、及び留学経験者等の話を聴くことを通して、地域に立脚した県立広島大学の歴史と現状、協定校のある中国、韓国、ハワイ、イギリス、インドネシア、タイ、台湾、ドイツ、フィンランドなどの社会や文化について基本的な知識を修得し、地域での活動や、留学への関心を高める。 |                  |       |
| 成績評価の方法                     | 広島県という地域や本学、本学が関わりを持っている世界各地の社会や文化について、どれほど関心と理解度を深めたか、毎回の授業後の提出の簡易な感想・レポートの合計点で行う。  |                  |       |
| テキスト                        | ありません。   |                  |       |
| 参考文献                        | 授業時に必要に応じて提示する。  |                  |       |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 迷惑行為について厳しく対処する。   |                  |       |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 地域の理解   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | オムニバス：五條 小枝子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 学生便覧参照  |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施し、フィールドワーク（1ヶ所）への参加を課す。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位（30時間）   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科，健康科学科，経営学科，経営情報学科1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 広島県，自然環境，歴史，文化，産業，地域の実態，地域の課題   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>まずは，地域の特性や課題について，様々な観点からの知見を得る。ついで，地域の実態を自分の眼で観察し，課題を発見し，その解決策を模索する。最後に，フィールドワークで得られたことをグループワークでまとめ，発表する。これら一連の流れの中で，地域に関する基礎知識を身につけるとともに，物事に主体的に向き合う姿勢を培う。</p> <p>本科目は，全学共通教育の「広島と世界」に位置づけられる。</p>  |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>本科目では，我々が生活する地域（広島県）に注目し，1)「広島」をいろいろな視点から見つめる，2)「広島」の現状を理解し，その実態を肌で感じ取る，3)「広島」の問題や課題を発見し，それについて考察を加える。これらにより，広島県に対する関心や理解を深め，課題を議論できる素養を身につける。プログラムは，講義・フィールドワーク・合同発表会で構成される。広島県の自然環境，地域性，歴史，文化，産業など多岐にわたる情報を得て，地域の特性を基礎知識として身につけるとともに，フィールドワークでは，地域の実態と課題を把握し，その解決策についてグループワークで討論する。その成果を学期末の合同発表会で報告し，相互評価する。</p> <p>具体的なプログラムについては，後期開始時に掲示で通知する。<br/>(注) シラバスは，前年度の実施内容。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | ①授業レポート計3回（50%）②合同発表会における相互評価及び教員評価（40%）<br>③授業・フィールドワークへの取組姿勢（10%）で評価する。   |                  |    |
| テキスト                        |   |                  |    |
| 参考文献                        | 参考文献は，必要に応じて，担当者から紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>単位認定の要件として，上述のとおり，レポート提出の他，フィールドワーク（指定された地域の中から1ヶ所選択）と合同発表会への参加を課す。<br/>フィールドワーク先への交通費・入館料等は自己負担（2,000～7,000円程度、昨年度の平均負担額は、一人2,800円）とする。受身では成果は得られない。自らが進んで地域の実態に触れ，そこにある問題に気づき，解決にはどうしたらよいか考え悩むこと。身近な問題を深く考えることによって自分自身を成長させるという能動的な取組姿勢が求められる。</p>   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 地域情報発信論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 五條 小枝子, 馬本 勉, 塩川 満久 他  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 2218研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。前期集中講義(8月29日～9月2日, 3コマ×5日間)。<br>サテライトキャンパスひろしまで実施。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学科2～4年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。<br>本科目は, 全学共通教育に位置づけられる。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 本科目では, 新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。<br>今年度は, 「サッカースタジアム建設」をメインテーマとし, 候補地をめぐる議論を題材として取り上げる。記事を読み, 現地へ出向いて取材を行った上で, 口頭で意見を述べたり, 記事として文章にまとめるなどの発信方法を学ぶ。さらに, グループで問題解決への提案をまとめ, プレゼンテーションを行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | ①授業レポート(50%)<br>②ディベート, ディスカッション, プレゼンテーションを含む, 授業への参加度(50%)   |                  |    |
| テキスト                        | 事前に配付される新聞を用いる。  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | ボランティア活動   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 手島 洋   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 三原キャンパス4525研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 最初の授業の時に連絡。可能な限り随時対応。場所は担当教員研究室。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 集中講義は講義と演習により実施する。また、これとは別に福祉・介護・地域の分野でのボランティア実習を行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | ボランティア、地域福祉活動、市民福祉活動、NPO   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 社会や人に関心のある社会人としての感性を磨き、将来積極的に社会貢献に参加して行く人材を養成するために、社会福祉分野でボランティア活動を学ぶ。実践的に学べるよう、ボランティア活動の実践者による講義・演習や学生の実習を主な内容とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | (1) 集中講義・演習<br>①ボランティア概論(1)・(2)<br>②ボランティア活動の実際<br>③ボランティア活動を知る(1)・(2)<br>④先輩からの報告・注意事項説明<br>⑤ボランティア活動報告<br>⑥ボランティア活動で得たものとまとめ<br>(2) 実習(6月～8月)<br>⑦ボランティア実習<br>実習条件(予定)：福祉分野でのボランティア活動、実働30時間以上、活動終了後にレポート提出が必須 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業の出席、ボランティア実習、レポートにより評価   |                  |    |
| テキスト                        | 特になし   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 集中講義の日程は、第1～3回の授業が6月4日(土)3～5限、第4～6回の授業が6月18日(土)3～5限、第14～15回が9月10日(土)3～4限なので気をつけること。参加するボランティア実習先は、各自が探す。ただし、探す際の学生からの相談は担当教員が行う。また、実習中は食費、交通費等の負担がある場合もある。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 異文化としての日本  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 柳川順子, 五條小枝子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1713, 2218研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 遠隔授業   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 人間文化学部・経営情報学部2～4年次 (平成27年度入学生)   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 異文化間コミュニケーション, 文化の多様性, 価値観の相対化, 日本観, 共生社会, 母語と外国語  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 全学共通教育科目の「広島と世界」枠に位置づけられる。<br>日本を外側からの視点で捉え直すことを通して, 文化の多様性を知り, 共生社会を実現してゆける柔軟な思考力を身につけることを目標とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 日本人学生と, 実際に異文化を体感している留学生とが, 日本の文化・社会をテーマにディスカッションすることを通して, 日本をひとつの異文化として捉え直す。本学の外国人教員による講話と質疑応答, それを契機とする調査とディスカッションを重ねながら, 多様な文化の共存や, 異文化間の相互理解に対する認識を深めてゆく。終盤には, 授業で学び得たことを母語以外の言語で発表する機会を設ける。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 毎回のミニレポート (50%)、母語以外の言語によるプレゼンテーション (20%)、期末レポート (30%) により評価する。  |                  |    |
| テキスト                        |  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 留学生と学ぶ広島   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 柳川順子, 五條小枝子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1713, 2218研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 遠隔授業・フィールドワーク・対面形式の合同発表会   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 人間文化学部・経営情報学部1・2年次   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 異文化間コミュニケーション, 広島地域の歴史・文化・産業・自然  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 全学共通教育科目の「広島と世界」枠に位置づけられる。<br>文化的背景の異なる留学生と日本人学生とが、広島という地域への理解を深めながら、異文化間コミュニケーションの基礎を体得することを目標とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 留学生と日本人学生が、県立大学の位置する広島の3地域を訪れ、当地の歴史・文化・産業・自然とともに学ぶ。フィールドワークで得た知見を、多様な視点からの調査やディスカッションを通して深め、その成果をレポートやグループ発表によって表現する。ディスカッションは少人数のグループで行い、成果の発表に向けても、グループを単位とした共同作業を行っていく。<br>合同発表会は、広島・庄原・三原の学生が一堂に会して行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | レポート3本(30%)、合同発表会における相互評価及び教員評価(40%)、授業への参加度(30%)により、総合的に評価する。   |                  |    |
| テキスト                        |  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 10月(庄原地域)、11月(三原地域)、12月(広島地域)の土曜日に実施する、3回のフィールドワークには必ず参加すること。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 海外研修 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 平野, 韓   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1646研究室 (平野) , 1636研究室 (韓)  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時 (メールで事前に予約をすること)   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 本科目は, 認定科目であり, 授業は開設しない。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学部全学科 1～4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       |   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 海外での研修を通して, 文化の多様性を知り, 共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。<br>本科目は, 全学共通教育科目に位置付けられる。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し, その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合, この科目名で単位を認定する。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 海外で, 語学研修やその他の活動に自主的に参加した後, 所定の書類と研修や活動に関する報告 (A4用紙1～2枚, 1200字以上) を提出し, 経営情報学部の教授会で, その内容が, 90時間の学修 (2単位分) に相当すると判断されれば, 単位を認定する。 |                  |    |
| テキスト                        |   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については, 各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 海外研修Ⅱ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 平野, 韓   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1646研究室(平野), 1636研究室(韓)   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時 (メールで事前に予約をすること)   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 本科目は, 認定科目であり, 授業は開設しない。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 全学部全学科 1～4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       |   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 海外での研修を通して, 文化の多様性を知り, 共生社会を実現してゆける柔軟な思考力と実践力を身につけることを目標とする。<br>本科目は, 全学共通教育科目に位置付けられる。                                       |                  |    |
| 授業の内容                       | 海外の大学等での語学研修プログラムやその他の活動プログラムに自主的に参加し, その研修内容が本学の教育にふさわしいと判断された場合, この科目名で単位を認定する。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 海外で, 語学研修やその他の活動に自主的に参加した後, 所定の書類と研修や活動に関する報告(A4用紙1～2枚, 1200字以上)を提出し, 経営情報学部の教授会で, その内容が, 90時間の学修(2単位分)に相当すると判断されれば, 単位を認定する。 |                  |    |
| テキスト                        |   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 研修先や研修内容及び海外渡航における危機管理等については, 各種ガイダンスに積極的に参加して情報収集に努めてください。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教職入門   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中村 勝美 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。主に、講義を中心とするが、一部グループワーク(討論や発表)を取り入れる。学生は、講義への出席、小レポート等の課題の提出が求められる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必須, 栄養一種免必須   |                  |    |
| キーワード                       | 教職の意義及び教員の役割<br>教員の職務内容(研修、サービス、身分保障)<br>進路選択  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本授業は、教職課程の導入科目である。<br><br>授業の目標は下記の4点である。<br>1) 現代の教育の問題を理解し、教師の役割について考察する。<br>2) 教師の職務内容について説明できる。<br>3) 自らの教師としての資質能力について省察する。<br>4) 自己の教育観をもとに、教師としての使命感を培う。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 近年、孤立した子育て、育児不安や虐待、いじめや不登校、格差社会への不安など家庭や学校は様々な問題を抱えている。一方、変化の激しい時代の中で、教師に対しては地球や人類のあり方を自ら考え行動する能力、問題解決能力やコミュニケーション能力、実践的指導力などが求められている。本講義では教師という職業を選択することについて、学生自らが熟考する機会を提供すること、および教員養成に対する現代的課題を踏まえ、教育者としての使命感を育むことを目的とし、教師という職業に必要な基本的事項について学習する。また、現代の学校が抱える諸問題を取り上げながら、教師に求められる資質や役割について探求する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験(70%)、課題レポート(30%)の割合で評価する。課題レポートについては、授業の際に詳細を指示する。期末試験は、論述方式、持ち込みなしで行う。   |                  |    |
| テキスト                        | とくに使用しないが、講義でレジュメを配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | ①秋田喜代美他『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ、②山田浩之『漫画が語る教師像』昭和堂、③汐見稔幸編『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書、④内藤朝雄『いじめの構造』講談社現代新書、⑤柿沼昌芳他『教師という<幻想>』批評社、⑥赤田圭亮『不適格教員宣言』日本評論社  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本授業は、教職課程の学生のための授業である。将来、教職をめざしている学生であることを前提とし、授業中の私語、携帯電話およびスマートフォンの使用については厳しく対応する。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教育学概論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 藤井 宣彰   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 庄原キャンパス 2409研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 前期：月曜日3時限、後期：木曜日3時限   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面の講義形式の授業である。授業日程に従って、各回の内容に関連する資料を配付する。授業には配布した資料を読んでくること。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 人間文化学部, 経営情報学部 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修、栄養一種免必修、学芸員資格必修   |                  |    |
| キーワード                       | 教育理念、学校制度の歴史、人間の発達、教育思想、学校組織、生涯学習、教育問題  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目は、教育の初学者を対象として、教育学の概要や教育の基本的な概念について講述する。教育に関する基本的な概念について理解することを目的とする。教育職員免許を取得するための必修科目である。<br>教育の理念について理解すること、主要な人物の教育思想を理解すること、学校教育の成立過程について理解すること、現代の教育の動向に触れることが目標である。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学入学以前に生徒として関わっていた学校教育について、その成立の過程を教育の通史や教育の思想から考える。それらの内容を踏まえ、教育の意義や目的、現代の教育に関する制度、教育実践、教育問題の解説と考察を行う。教育学の入門としての内容で構成する授業である。受講者がいままで当然のように接してきた学校教育がどのように成立してきたのか、その一端に触れるとともに、学びは学校に通う時期のみならず、生涯にわたることを理解することを目的とする。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | ①定期試験90%②提出物等10%を目安として総合的に評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 適宜資料を配布する   |                  |    |
| 参考文献                        | 田代直人・佐々木司編『新しい教育の原理—現代教育学への招待—』ミネルヴァ書房、2010年。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 生徒の立場から教師の立場へ変わることを自覚して学ぶこと。<br>学校ボランティア等に積極的に取り組むこと。<br>近世以降の歴史、特に産業革命や明治維新について復習しておくこと。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教育心理学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 向居 暁   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1814研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 第1回の授業において提示する。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、教科書の主要な章に関する講義形式で実施する。1～3回の講義につき、1章の講義を想定した授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科・健康科学科・経営学科・経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修, 栄養一種免必修   |                  |    |
| キーワード                       | 児童・生徒の知的能力、学習の動機づけ、学習指導法、教育評価、家庭学習、障害の理解   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目では、教員免許取得を希望する学生を対象にして、児童・生徒の学習過程など教育活動に関わる心理学について、基本的な内容を講述する。将来「せんせい」と呼ばれるようになるときに必要となる教育心理学の基礎知識を身につけること、また、そのような知識をどのようにして教育活動に生かすことができるかを常に考える態度を身につけることを目標とする。本科目は、中・高等学校教諭及び栄養教諭の免許に係る教職に関する必修科目で、教育の基礎理論に関する科目の一つとして位置づけられている。生徒・進路指導論、教育相談等の他の教職に関する科目で扱う内容は扱わない。                             |                  |    |
| 授業の内容                       | 授業では、児童・生徒の性格、知的能力(記憶、思考、学習)、やる気、学習指導と評価など教育活動に関わる心理学についての基本的知識の獲得を目指す。また、特別な学習支援が必要な児童・生徒の学習過程についても、その特徴などを学ぶ。この授業の目標は「心理学による教育方法の充実」である。授業内容を理解すれば、みなさんが今まで学校で学んできた授業やテストの方法、また先生のなにげない一言などにいろいろな意味が隠されていたことに気づくであろう。あくまでも基礎的な内容しか触れられないため、この授業をきっかけに教育に関する心理学に興味をもち、さらに発展した内容を勉強したいと感じ、実行する手助けになればと考える。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 試験70%、小テスト20%(小テスト4回、各5%)、当日レポート10%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、90分間、論述式、教科書・ノート・資料持ち込み不可、座席指定、学生証呈示、途中退室不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。小テストの日程と範囲は、第1回の授業において提示する。  |                  |    |
| テキスト                        | 第1回の授業において提示する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 第1回の授業において提示する。また、各回ごとの内容に合わせて紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教育社会学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 藤井 宣彰  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 庄原キャンパス 2409研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 前期：月曜日3時限、後期：木曜日3時限  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面の講義形式で行い、一部でグループワークを取り入れる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 各学科、2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修  |                  |    |
| キーワード                       | 教育制度、教育法規、教育経営組織、教育改革  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>この科目は、教育職員免許法等に基づき開設されている本学教職課程の科目である。特に教育の基礎理論に関する科目として開講されており、とりわけ教育に関する社会的・制度的・経営的事項を中心に学習する。</p> <p>学校制度と改革動向について基本的な知識を身につけること、学校教育の役割について理解すること、教員の職務について理解することを目標とする。</p>  |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>教育は社会とともに在る。今日の複雑な社会において、政治・経済・社会等と学校教育の制度の関係を知ること大切であろう。また高度成長に象徴される経済的動向が、どのように教育を変えていったのかを知ることも無視できない視点である。そして少子高齢化の豊かな社会で、あふれるばかりの情報にさらされた子どもにとって、教育とはいったいどんな意味を持つのだろうか。進学率上昇の一方でおさまる気配の無い教育病理の進行という矛盾した姿を見るにつけ、現代教育の置かれた困難な課題を紐解く分析力が切に求められている。</p> <p>教員として勤務し、生徒を指導する上で必要な教育法規や教育制度、学校経営に関する事項を学修する。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | ①定期試験90%②提出物等10%を目安として総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 適宜資料を配付する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 河野和清編著『現代教育の制度と行政』福村出版、2008年。<br>『教育六法』（出版社は問わない）  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 生徒の立場から教師の立場へ変わることを自覚して学ぶこと。<br>学校ボランティア等に積極的に取り組むこと。<br>中学校及び高等学校公民で学んだこと、特に日本国憲法、民主主義、地方自治について復習しておくこと。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教育課程論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 吉田 成章 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、各回で配付する授業資料をもとに講義形式で実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修, 栄養一種免必修  |                  |    |
| キーワード                       | 教育課程, カリキュラム, 教育方法, 授業構成  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 学校カリキュラムの開発に関する知見を教育課程の歴史・原理と具体的な教育実践から学ぶことによって、教職能力の基盤となる教育課程論を構成する知識と技能を習得する。   |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>教育課程とカリキュラムの概念上の違いを確認した上で、その編成原理と方法について歴史的展開や具体的な教育実践をもとに講述する。また、今日の学力論議や諸外国のカリキュラム改革などにも触れながら、教育課程を編成するための視点と課題を提示する。以下が具体的な内容である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学におけるカリキュラムの位置と役割</li> <li>2. カリキュラムの概念と歴史的展開</li> <li>3. カリキュラムの類型と教育課程の構造</li> <li>4. 戦後学習指導要領の変遷</li> <li>5. 教育課程行政と今時学習指導要領改訂</li> <li>6. 生活中心カリキュラムの理論と実践</li> <li>7. 学問中心カリキュラムの理論と実践</li> <li>8. 教育課程における目標—内容—方法</li> <li>9. 工学的アプローチと羅生門的アプローチ</li> <li>10. 諸外国のカリキュラム改革</li> <li>11. 学力の構造と評価の論理</li> <li>12. 教科書教材の研究とメディアの構成</li> <li>13. 学校づくりとしてのカリキュラム開発</li> <li>14. カリキュラム評価と学校改善</li> <li>15. 学校カリキュラムの編成と評</li> </ol> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席：20%，中間課題：10%，期末試験：70%の割合で評価する。<br>中間課題については、授業の中でテーマを提示する。<br>期末試験については、授業で配付した資料・プリントおよび授業ノートの持ち込みは可とし、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。  |                  |    |
| テキスト                        | 授業プリント・資料を各回毎に配付する。<br>平成20年版中学校学習指導要領あるいは平成21年版高等学校学習指導要領を各自で入手しておくこと。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 特別活動論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 山田 浩之 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 特別活動、およびその前提となる教育問題などに関する講義と、学生による報告、実践によって授業を進める。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修   |                  |    |
| キーワード                       | 特別活動 ホームルーム 生徒会 学校行事  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 特別活動は学校内における生徒の活動を支える重要な役割を持っているが、その理論や位置づけは曖昧である。本講義では、まず、特別活動の理論と歴史ばかりでなく、近年の教育問題や教育改革を背景として、その意義について検討する。それとともに、具体的な特別活動の事例を用いながら、学生自身によってその運営と実施について検討し、報告・実践を行う。これらの学習により、特別活動を学校での教育活動の中に位置づけ、学生自身が実際に特別活動の企画、運営を行う基礎を養うことが本講義の目標である。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 第1回 イントロダクション — 特別活動とは何か<br>第2回 特別活動の歴史<br>第3回 学習指導要領の変遷と教育問題<br>第4回 学校と教員へのまなざしの変化<br>第5回 戦後における特別活動の制度化<br>第6回 現代における特別活動の意義<br>第7回 特別活動を支える理論とその社会的背景<br>第8回 グループワーク1 — 指導計画の作成<br>第9回 特別活動の内容と指導法1 — 学級活動・ホームルーム活動<br>第10回 特別活動の内容と指導法2 — 児童会・生徒会活動<br>第11回 学校行事の内容と指導法1 — 儀式的行事<br>第12回 学校行事の内容と指導法2 — 健康安全・体育的行事<br>第13回 学校行事の内容と指導法3 — 文化的行事<br>第14回 グループワーク2 — 指導計画の再作成<br>第15回 まとめ — これからの特別活動 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業への出席状況、および参加状況、報告の内容、レポートなどをもとに総合的に評価を行う。   |                  |    |
| テキスト                        | 山田浩之編『特別活動論』協同出版 2014年  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教育方法学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 深澤 悦子 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修, 栄養一種免必修  |                  |    |
| キーワード                       | 教育方法 学習指導 授業研究 指導技術 メディアの活用   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 教育方法学に関する学術的動向と歴史をふまえ, 授業方法や指導技術に関する知見を深め, 教師に必要な, 実践的知識や技能を習得する。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 1. 教育方法学とは<br>2. 教育方法の歴史<br>3. 子ども理解と教えること<br>4. 学力問題と指導のあり方<br>5. 確かな学力の形成<br>6. メディアリテラシー<br>7. コンピュータを活用した授業<br>8. 学習指導と学習形態<br>9. 授業のタクト<br>10. 授業構想と指導案<br>11. 教材開発<br>12. 実践的な指導力<br>13. 評価の方法<br>14. 授業研究と教師の専門性<br>15. 全体のまとめ |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席と提出物およびテスト  |                  |    |
| テキスト                        |   |                  |    |
| 参考文献                        | 日本教育方法学会編『確かな学力と指導法の探究』 図書文化<br>吉本 均『教室の人間学』 明治図書   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 生徒・進路指導論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 坪田 雄二   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 2407  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 木曜日 4コマ   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業授業日程に従い、講義形式で実施   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科、健康科学科、経営学科、経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修、栄養免一種必修   |                  |    |
| キーワード                       | 生徒指導、学校における問題行動、生徒理解、学級経営、進路指導  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>教職免許施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」のうち、「生徒指導・進路指導の理論及び方法」に相当する科目である。多くの学生にとって、これまで児童・生徒の立場から見てきた生徒指導と本来の意味での生徒指導には大きなギャップが存在すると思われる。まずはそのギャップを知ること、そして生徒指導が目指しているものを正しく理解できることが目標である。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>学校教育の大きな柱である生徒指導の意味と役割、不登校、いじめ、体罰などの学校における問題行動の実態やその対応時の留意点、教育活動の基礎となる生徒理解の方法とそれに伴う問題点、学級を望ましい教育集団にするための方法、単なる進路先の決定にとどまらない進路指導の理念などを解説する。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>3分の2以上の出席がある学生に対して、期末試験を実施し、その結果をもとに評価をおこなう。なお、公共交通機関の遅れなどの正当の理由のない遅刻は欠席扱いとする。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | 生徒指導・進路指導論 森田(編) 協同出版   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教育相談   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 森田 裕司 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修, 栄養一種免必修   |                  |    |
| キーワード                       | カウンセリング, 相談, 応答訓練, トラウマ, 発達障害  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | ①学校現場の様々な心理的問題に対する正しい理解と適切な対応ができるようになること。<br>②カウンセリングの基本的態度を身につけること。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 不登校, いじめ, 神経症, 精神病, 児童虐待, トラウマ, 発達障害など, 学校現場には様々な問題が山積しており, 教師には正しい理解と適切な対応が求められる。本講義では学校教育相談の課題を明らかにした上で, 相談室活動のしかた, カウンセリング的態度等を学ぶ。さらに児童虐待, トラウマ, 発達障害などについては, 具体的な事例を取り上げ, 対応方法を検討していく。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況, 小レポート, まとめレポート課題をもとに総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 『心理学ナビゲータVer.2』神田義浩ほか, 北大路書房, 2011年  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本講義では体験実習や話し合いを重視するので, 積極的な姿勢で臨んで欲しい。毎回小レポートカードに感想・意見・質問・体験などを記入する。頭で考えるより, 自分の心で実感し, 体験から学ぶことが大切である。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教育実習指導   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 向居 暁   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1814研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 第1回の授業において提示する。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。演習形式で実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (15時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 4年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修  |                  |    |
| キーワード                       | 中学校・高等学校, 教育実習, 事前事後指導   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 教育実習Ⅰ・Ⅱの事前及び事後の指導を行う。事前指導では、教育実習の内容・方法、心構え、事前の準備などについて理解させる。事後指導では、教育実習の内容・体験の反省、総括、評価などを行う。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 事前指導は5回分、事後指導は2回分を行うとともに模擬授業を行う。事前指導では、教育実習に先立ち、教育実習の心得、教育実習の概要、学習指導案の作成、教科指導の方法、教育実習の評価など、教育実習に際しての基本事項についての指導を行う。また、中学校又は高等学校の校長による講話をお願いし、教育実習の受け入れ側からの考えや要望について認識を深めさせる。さらに、模擬授業を一人2回以上行わせるとともに、生徒役として6時限以上参加させ、相互に批評や評価を行わせる。事後指導では、教育実習終了後に、実習体験について学生間で交流を行うとともに、実習の反省、総括、評価を行う。また、今後教師として勤務する場合に周知すべきことなどについての指導も行う。                               |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業参加28%(4×7回)、模擬授業実施・参加32%(4×8コマ)、提出物15%、期末レポート25%の割合で評価する。提出課題等については第1回の授業において提示する。期末レポートを提出すること、授業の欠席が3回未満であること、授業の無断欠席がないこと、教育実習オリエンテーションに出席すること、模擬授業を所定の回数以上実施し、所定の時限数以上参加すること、が単位認定の必要条件である。  |                  |    |
| テキスト                        | 宮崎猛・小泉博明 著 「教育実習完璧ガイド：実習生・受け入れ校必携」 小学館 2015  |                  |    |
| 参考文献                        | 第1回の授業において印刷資料として提示する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、4年次配当の教育実習指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習を除く1年次から3年次配当の科目での必要単位を3年次終了までにすべて修得しておくこと。教育実習Ⅰ・Ⅱと同時に受講すること。履修希望者は4月の第1回の授業に必ず出席すること。また、正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前指導、事後指導での欠席・遅刻・早退は認めない。すべての授業への参加が義務づけられる。授業に関する連絡方法は、正式には数学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教育実習 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 向居 暁  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1814研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 「教育実習指導」の第1回の授業において提示する。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 中学校又は高等学校での観察・参加・実習による実習形式で実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (60時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修   |                  |    |
| キーワード                       | 中学校又は高等学校, 観察・参加・実習   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | すでに教職関連科目で学校教育について理論面を中心に学んできたことを踏まえ、更に実地での経験をもつために、学校での実習を行う。実習校では担当教員の指導のもとに、学習指導、生徒理解、教師と生徒との人間関係など、指導の実際について体験し、教師としての基本的資質を養う。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 中学校または高等学校で2単位相当の実習を行う。実習課程は、実習期間中における観察・参加・実習を主たるものとする。具体的には、次の事項とする。1. 実習校の教育目標、校則、校内組織の理解 2. 授業参観と授業研究 3. 指導計画の作成・学習指導案の作成 4. 教材研究 5. 授業実習 6. 生徒会活動への参加 7. 学級経営への参加 8. クラブ活動への参加 9. 教師の職務の理解 10. 教育実習の自己評価と今後の課題の検討 11. 学校と社会の関係の理解。なお、実習期間は原則として6月または9月とする。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 実習校からの評価、「教育実習の記録」(教育実習ノート)等の教育実習に関わる提出物をもとに総合的に評価する。実習校からの評価が良好であること、教育実習期間中に、急病、忌引などの正当な理由なしに、欠席、遅刻、早退をしないこと、教育実習に関わる提出物を提出すること、が単位認定の必要条件である。  |                  |    |
| テキスト                        | 宮崎猛・小泉博明著 「教育実習完璧ガイド：実習生・受け入れ校必携」 小学館 2015  |                  |    |
| 参考文献                        | 「教育実習指導」の第1回の授業において印刷資料として提示する  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、4年次配当の教育実習指導、教育実習I・II、教職実践演習を除く1年次から3年次配当の科目での必要単位を3年次終了までにすべて修得しておくこと。教育実習指導と同時に受講すること。教育実習I及びIIの履修については学生便覧の関係箇所を参照すること。実習において必要となる費用(食費、交通費等)は、原則として学生の個人負担とする。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | <b>教育実習Ⅱ</b>  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 向居 暁  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1814研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 「教育実習指導」の第1回の授業において提示する。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 中学校又は高等学校での観察・参加・実習による実習形式で実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (60時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中一種免(全教科)必修, 高一種免(全教科)選択  |                  |    |
| キーワード                       | 中学校又は高等学校, 観察・参加・実習   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | すでに教職関連科目で学校教育について理論面を中心に学んできたことを踏まえ、更に実地での経験をもつために、学校での実習を行う。実習校では担当教員の指導のもとに、学習指導、生徒理解、教師と生徒との人間関係など、指導の実際について体験し、教師としての基本的資質を養う。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 中学校または高等学校で2単位相当の実習を行う。実習課程は、実習期間中における観察・参加・実習を主たるものとする。具体的には、次の事項とする。1. 実習校の教育目標、校則、校内組織の理解 2. 授業参観と授業研究 3. 指導計画の作成・学習指導案の作成 4. 教材研究 5. 授業実習 6. 生徒会活動への参加 7. 学級経営への参加 8. クラブ活動への参加 9. 教師の職務の理解 10. 教育実習の自己評価と今後の課題の検討 11. 学校と社会の関係の理解。なお、実習期間は原則として6月または9月とする。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 実習校からの評価、「教育実習の記録」(教育実習ノート)等の教育実習に関わる提出物をもとに総合的に評価する。実習校からの評価が良好であること、教育実習期間中に、急病、忌引などの正当な理由なしに、欠席、遅刻、早退をしないこと、教育実習に関わる提出物を提出すること、が単位認定の必要条件である。  |                  |    |
| テキスト                        | 宮崎猛・小泉博明著 「教育実習完璧ガイド：実習生・受け入れ校必携」 小学館 2015  |                  |    |
| 参考文献                        | 「教育実習指導」の第1回の授業において印刷資料として提示する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、4年次配当の教育実習指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習を除く1年次から3年次配当の科目での必要単位を3年次終了までにすべて修得しておくこと。教育実習指導と同時に受講すること。教育実習Ⅰ及びⅡの履修については学生便覧の関係箇所を参照すること。実習において必要となる費用(食費、交通費等)は、原則として学生の個人負担とする。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 教職実践演習（中・高）  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 向居 暁   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1814研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 第1回の授業において提示する。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。演習形式で実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位（30時間）  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科，経営学科，経営情報学科 4年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免（全教科）必修  |                  |    |
| キーワード                       | 中学校・高等学校，教育実習，教員としての資質能力   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 当演習を履修する者の教科に関する科目および教職に関する科目の履修状況を踏まえ、<br>教員として最小限必要な資質能力を習得させる。具体的には、①使命感や責任感、教育的<br>愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③生徒理解や学級経営等<br>に関する事項、④教科等の指導力に関する事項をテーマとする。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 教職課程の個々の科目の履修により習得した専門的な知識・技能を基に、教員としての<br>使命感や責任感、教育的愛情を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導<br>等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力を習得させる。そのために<br>、役割演技（ロールプレイング）、事例研究、現地調査（フィールドワーク）、模擬<br>授業等を取り入れる。また、現職の教員又は教員勤務経験者を講師とした授業も行う。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業参加30%（2%×15回）、レポート70%（当日レポート45%、期末レポ<br>ート25%）の割合で評価する。実技指導、グループ討論、補完指導、試験の結果等を踏<br>まえ、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかを確認し、評価を行う。   |                  |    |
| テキスト                        | 第1回の授業において提示する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 第1回の授業において印刷資料として提示する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本科目を履修するためには、教育職員免許状取得に必要な履修科目のうち、教職実践演習を除く1年次から4年次前期相当の<br>科目での必要単位を4年次前期終了までにすべて修得しておくこと。教育実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得するのと同じ年度の後期に<br>受講すること。履修希望者は9月の第1回の授業に必ず出席すること。また、正当な理由なく、履修の途中での放棄、欠席・<br>遅刻・早退は認めない。すべての授業への参加が義務づけられる。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に<br>対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学にお<br>いて規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。 |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 介護等体験   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 向居 暁  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1814研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 第1回の授業において提示する。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 事前学習及び事後学習は対面授業で、講義及び演習形式で実施する。実習は原則として、特別支援学校及び社会福祉施設で、実習形式で実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (50時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 国際文化学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中一種免(全教科)必修, 高一種免(全教科)選択  |                  |    |
| キーワード                       | 特別支援教育、障害者・高齢者等、多様な生き方の理解、交流・介護・介助体験  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、介護等体験特例法の規定に基づき、中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる。これらの体験を通して、教職志望学生が自他の価値観の相違を認め、人の心の痛みがわかるようになるなどの目的をもって行われる。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 事前学習及び事後学習は、13回分を、主に講義形式及び演習形式で実施する。事前指導では、介護等体験の意義や各施設での体験に関する知識や心構えなどについて学習させる。事後指導では、体験終了後に、体験について学生間で交流を行うとともに、体験の反省・総括を行わせる。体験は原則として、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間にわたって行う。体験は一定の期間に全員が一斉に行うのではなく、体験期間は体験先等の事情により、体験学生ごとに異なる。体験先は、特別支援学校については広島県教育委員会、社会福祉施設については広島県社会福祉協議会において決定される。                     |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業参加39%(3%×13回)、体験状況・体験先からの評価21%(3%×7日)、提出物15%、期末レポート25%の割合で評価する。課題等については第1回の授業において提示する。事前事後指導のレポート、介護等体験に関わる提出物を提出すること、事前事後指導の授業の欠席が4回以下であること、事前事後指導の授業の無断欠席がないこと、介護等体験先からの評価が良好であること、体験期間中に、急病、忌引などの正当な理由なしに、欠席、遅刻、早退をしないこと、が単位認定の必要条件である。  |                  |    |
| テキスト                        | 現代教師養成研究会 編 「教師をめざす人の介護等体験ハンドブック(四訂版)」<br>大修館書店 2014  |                  |    |
| 参考文献                        | 第1回の授業において印刷資料として提示する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修希望者は4月の第1回の授業に必ず出席すること。正当な理由なく、履修の途中で放棄、事前指導、体験、事後指導での欠席・遅刻・早退は認めない。すべての授業への参加と7日間の体験が義務づけられる。授業に関する連絡は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。体験において必要となる費用(食費、交通費等)は、原則として学生の個人負担とする。教職課程履修者以外の履修には担当教員の許可が必要。 |                  |    |

|                                      |   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
|--------------------------------------|---|------------------|----|-------------|-----------------|--------------|------------|-----------------|--------------|------------------------|--------------|------------|---------|------------------|------------|-----------|--------|--------------------------------------|--|
| 授業科目名                                | 道徳教育論   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 担当教員氏名(助手氏名)                         | 宮里 智恵 (非常勤講師)   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 研究室の場所                               |   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| オフィスアワー                              |   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 授業の形式・方式                             | 主に講義形式で行う。必要に応じてグループ学習や討論、学習指導案の作成、模擬授業を取り入れる。  |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 単位数(時間数)                             | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 履修要件                                 | 国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 免許等指定科目                              | 中一種免(全教科)必須, 高一種免(全教科)選択, 栄養一種免必須   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| キーワード                                | 道徳教育, 道徳授業, 学校教育  |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け               | 学校における道徳教育の目的と内容・方法について理解を深める。特に「道徳の時間」を中心にして実際の道徳授業を検討しながら、発達段階に応じた道徳教育のあり方についての理解を深める。  |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 授業の内容                                | <table border="0"> <tr> <td>1 オリエンテーション</td> <td>9 プログラムタイプの道徳授業</td> </tr> <tr> <td>2 道徳教育と道徳の時間</td> <td>10 板書構成の仕方</td> </tr> <tr> <td>3 子どもの道徳性の発達的特徴</td> <td>11 学習指導案の作成①</td> </tr> <tr> <td>4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業</td> <td>12 学習指導案の作成②</td> </tr> <tr> <td>5 道徳教材の読み方</td> <td>13 模擬授業</td> </tr> <tr> <td>6 心情ジレンマタイプの道徳授業</td> <td>14 道徳授業の評価</td> </tr> <tr> <td>7 発問構成の工夫</td> <td>15 まとめ</td> </tr> <tr> <td>8 道徳授業を支えるもの<br/>(ソーシャル・スキル・トレーニングなど)</td> <td></td> </tr> </table> |                  |    | 1 オリエンテーション | 9 プログラムタイプの道徳授業 | 2 道徳教育と道徳の時間 | 10 板書構成の仕方 | 3 子どもの道徳性の発達的特徴 | 11 学習指導案の作成① | 4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業 | 12 学習指導案の作成② | 5 道徳教材の読み方 | 13 模擬授業 | 6 心情ジレンマタイプの道徳授業 | 14 道徳授業の評価 | 7 発問構成の工夫 | 15 まとめ | 8 道徳授業を支えるもの<br>(ソーシャル・スキル・トレーニングなど) |  |
| 1 オリエンテーション                          | 9 プログラムタイプの道徳授業   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 2 道徳教育と道徳の時間                         | 10 板書構成の仕方  |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 3 子どもの道徳性の発達的特徴                      | 11 学習指導案の作成①  |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 4 道徳授業の3タイプと心情タイプの道徳授業               | 12 学習指導案の作成②  |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 5 道徳教材の読み方                           | 13 模擬授業   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 6 心情ジレンマタイプの道徳授業                     | 14 道徳授業の評価  |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 7 発問構成の工夫                            | 15 まとめ  |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 8 道徳授業を支えるもの<br>(ソーシャル・スキル・トレーニングなど) |   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 成績評価の方法                              | 出席(10%)、レポート(30%)、期末試験(60%)で評価する。   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| テキスト                                 | 心をひらく道徳授業実践講座【1】「やさしい道徳授業のつくり方」鈴木由美子、宮里智恵 溪水社 2012  |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 参考文献                                 | 「子どもが変わる道徳授業—小中学校タイプ別授業事例集—」(鈴木由美子・宮里智恵・森川敦子編著 溪水社)   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等)          |   |                  |    |             |                 |              |            |                 |              |                        |              |            |         |                  |            |           |        |                                      |  |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 大学基礎セミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇・朴 唯新・矢澤 利弘・中島満大  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1642研究室 (和田)  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール連絡により随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程にしたがい、ゼミナール形式でおこなう。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | スタディ・スキル, 情報収集, リーディング, ライティング, プレゼンテーション、  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は全学共通教育科目として必修科目となっている。この授業では、受講生が大学生活を円滑に進めるために求められる基本的知識・技能を習得することを目標としている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、県立広島大学についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、スタディ・スキル、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、少人数クラスで実践的な指導をおこなう。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況および討議や発表に対する積極性などの評価に基づいて行う。  |                  |    |
| テキスト                        | 各担当教員が初回授業で指示する。  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | シラバス(授業内容)は担当教員によって異なる場合がある。<br>また、15回のうち4回行う学科合同授業は、4クラス合同で授業を行う。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | フレッシュマンセミナー   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇・朴 唯新・矢澤 利弘・中島満大  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1642研究室 (和田)  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール連絡により随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程にしたがい、ゼミナール形式でおこなう。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | スタディ・スキル, 情報収集, リーディング, ライティング, プレゼンテーション、  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は全学共通教育科目として必修科目となっている。この授業では、受講生が大学生活を円滑に進めるために求められる基本的知識・技能を習得することを目標としている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、県立広島大学についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、スタディ・スキル、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、少人数クラスで実践的な指導をおこなう。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況および討議や発表に対する積極性などの評価に基づいて行う。  |                  |    |
| テキスト                        | 各担当教員が初回授業で指示する。  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | シラバス(授業内容)は担当教員によって異なる場合がある。<br>また、15回のうち4回行う学科合同授業は、4クラス合同で授業を行う。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 大学基礎セミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 朴 唯新  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1827  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時(電話、Eメールでのアポイントメントも可能)  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程にしたがい、ゼミナール形式でおこなう。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | ノートテイキング, リーディング, ライティング, プレゼンテーション   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目は全学共通教育科目として必修科目となっている。この授業では、受講生が大学生活を円滑に進めるために求められる基本的知識・技能を習得することを目標にしている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、県立広島大学についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、少人数クラスで実践的な指導をおこなう。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業態度、議論や発表に対する積極性やそれらの内容に基づいて評価を行う。   |                  |    |
| テキスト                        | 各担当教員の指示による。  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                              |  |                  |    |
|------------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                        | フレッシュマンセミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                 | 朴 唯新   |                  |    |
| 研究室の場所                       | 1827   |                  |    |
| オフィスアワー                      | 随時(電話、Eメールでのアポイントメントも可能)   |                  |    |
| 授業の形式・方式                     | 対面授業。授業日程にしたがい、ゼミナール形式でおこなう。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                     | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                         | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                      |  |                  |    |
| キーワード                        | ノートテイキング, リーディング, ライティング, プレゼンテーション  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け       | この科目は全学共通教育科目として必修科目となっている。この授業では、受講生が大学生活を円滑に進めるために求められる基本的知識・技能を習得することを目標にしている。  |                  |    |
| 授業の内容                        | 大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、県立広島大学についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、少人数クラスで実践的な指導をおこなう。 |                  |    |
| 成績評価の方法                      | 授業態度、議論や発表に対する積極性やそれらの内容に基づいて評価を行う。  |                  |    |
| テキスト                         | 各担当教員の指示による。   |                  |    |
| 参考文献                         |  |                  |    |
| 備 考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 大学基礎セミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇・朴 唯新・矢澤 利弘・中島満大  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1642研究室 (和田)  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール連絡により随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程にしたがい、ゼミナール形式でおこなう。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | スタディ・スキル, 情報収集, リーディング, ライティング, プレゼンテーション、  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は全学共通教育科目として必修科目となっている。この授業では、受講生が大学生活を円滑に進めるために求められる基本的知識・技能を習得することを目標としている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、県立広島大学についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、スタディ・スキル、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、少人数クラスで実践的な指導をおこなう。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況および討議や発表に対する積極性などの評価に基づいておこなう。  |                  |    |
| テキスト                        | 各担当教員が初回授業で指示します。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | シラバス(授業内容)は担当教員によって異なる場合があります。また、15回のうち5回行う学科合同授業は、4クラス合同で授業を行います。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | フレッシュマンセミナー   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇・朴 唯新・矢澤 利弘・中島満大  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1642研究室 (和田)  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール連絡により随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程にしたがい、ゼミナール形式でおこなう。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | スタディ・スキル, 情報収集, リーディング, ライティング, プレゼンテーション、  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は全学共通教育科目として必修科目となっている。この授業では、受講生が大学生活を円滑に進めるために求められる基本的知識・技能を習得することを目標としている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、県立広島大学についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、スタディ・スキル、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、少人数クラスで実践的な指導をおこなう。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況および討議や発表に対する積極性などの評価に基づいておこなう。  |                  |    |
| テキスト                        | 各担当教員が初回授業で指示します。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | シラバス(授業内容)は担当教員によって異なる場合があります。また、15回のうち5回行う学科合同授業は、4クラス合同で授業を行います。  |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 大学基礎セミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇・朴 唯新・矢澤 利弘・中島満大  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1642研究室 (和田)  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール連絡により随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程にしたがい、ゼミナール形式でおこなう。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | スタディ・スキル, 情報収集, リーディング, ライティング, プレゼンテーション、  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は全学共通教育科目として必修科目となっている。この授業では、受講生が大学生活を円滑に進めるために求められる基本的知識・技能を習得することを目標としている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、県立広島大学についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、スタディ・スキル、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、少人数クラスで実践的な指導をおこなう。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況および討議や発表に対する積極性などの評価に基づいておこなう。  |                  |    |
| テキスト                        | 各担当教員が初回授業で指示します。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | シラバス(授業内容)は担当教員によって異なる場合があります。また、15回のうち5回行う学科合同授業は、4クラス合同で授業を行います。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | フレッシュマンセミナー   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇・朴 唯新・矢澤 利弘・中島満大  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1642研究室 (和田)  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール連絡により随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程にしたがい、ゼミナール形式でおこなう。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | スタディ・スキル, 情報収集, リーディング, ライティング, プレゼンテーション、  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は全学共通教育科目として必修科目となっている。この授業では、受講生が大学生活を円滑に進めるために求められる基本的知識・技能を習得することを目標としている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、県立広島大学についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、スタディ・スキル、リーディング、ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、少人数クラスで実践的な指導をおこなう。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況および討議や発表に対する積極性などの評価に基づいておこなう。  |                  |    |
| テキスト                        | 各担当教員が初回授業で指示します。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | シラバス(授業内容)は担当教員によって異なる場合があります。また、15回のうち5回行う学科合同授業は、4クラス合同で授業を行います。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岩井 千秋 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      | —  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業は教科書をワンレッスンごとに進めて行くようなことはしません。最初の2週で教科書の数課分にまとめて目を通し、速読、音読、シャドーイング、書き取りなどを学期の間、繰り返して行います。また協働学習を中心に、他の受講生とインタラクティブに学習する形式で授業を進めます。                       |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 速読、音読、英語学習方略   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とします。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めることができるようにします。また大学の初年次に当たり、大学4年間を見据えた英語学習にどう取り組めばよいか、目標の設定を行い学習の方法について学びます。    |                  |    |
| 授業の内容                       | さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行います。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行います。授業では特に音読(シャドーイング)を重視します。学期の終わりまでには一定の速さと正確さで、英文を読めるようになることを目指します。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 英語の基本構造に対する理解度、読んだ英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションへの積極的態、等により総合評価します。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。   |                  |    |
| テキスト                        | Lander, J. S. 著 Going Green for the Environment. 朝日出版  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業で適宜紹介します。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、課題や授業で紹介する学習方法を実践する覚悟で受講してください。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Comprehensive Reading I (英文講読 I)   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岩井 千秋 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      | —  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業は教科書をワンレッスンごとに進めて行くようなことはしません。最初の2週で教科書の数課分にまとめて目を通し、速読、音読、シャドーイング、書き取りなどを学期の間、繰り返して行います。また協働学習を中心に、他の受講生とインタラクティブに学習する形式で授業を進めます。                       |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 速読、音読、英語学習方略   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とします。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めることができるようにします。また大学の初年次に当たり、大学4年間を見据えた英語学習にどう取り組めばよいか、目標の設定を行い学習の方法について学びます。    |                  |    |
| 授業の内容                       | さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行います。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行います。授業では特に音読(シャドーイング)を重視します。学期の終わりまでには一定の速さと正確さで、英文を読めるようになることを目指します。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 英語の基本構造に対する理解度、読んだ英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションへの積極的態、等により総合評価します。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。   |                  |    |
| テキスト                        | Lander, J. S. 著 Going Green for the Environment. 朝日出版  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業で適宜紹介します。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、課題や授業で紹介する学習方法を実践する覚悟で受講してください。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 船津 晶代   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1813  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時受け付ける（事前に面談日時の予約をすることが望ましい）。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | テキストを用いて演習形式で行う。<br>適宜、ペアやグループディスカッション、およびeラーニングを取り入れる  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | パラグラフリーディング, リスニング, シャドーイング, eラーニング, プレゼンテーション  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。<br>文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めることができる。<br>本科目は、全学共通教育科目・基盤・外国語に位置付けられている。                        |                  |    |
| 授業の内容                       | さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行う。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行う。学期中に英語によるグループプレゼンテーションを行う。また、課外自主学习として英語eラーニングの課題を課します。      |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 英語の基本構造に対する理解度、読んだ英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションへの積極的態 度、等により総合評価する。<br>学期末試験70%、プレゼンテーション10%、授業外自主学习課題20%で評価する。<br>授業評価は単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが前提である。 |                  |    |
| テキスト                        | 追って指示する。  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 毎時間、必ず英語の辞書を持参してください。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Comprehensive Reading I (英文講読 I)   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 船津 晶代  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1813   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時受け付ける(事前に面談日時の予約をすることが望ましい)。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。テキストを用いて演習形式で行う。<br>適宜、ペアやグループディスカッション、およびeラーニングを取り入れる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | パラグラフリーディング, リスニング, シャドーイング, eラーニング, プレゼンテーション   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 語彙力・文法力を高め、さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。<br>文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り、異なる文化に対する知識を深めることができる。<br>本科目は、全学共通教育科目・基盤・外国語に位置付けられている。                               |                  |    |
| 授業の内容                       | さまざまな分野の英文に触れることにより、語彙および語法や文法などに関する知識の<br>積み上げを行う。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読<br>解演習を行う。学期中に英語によるグループプレゼンテーションを行う。また、課外自<br>主学習として英語eラーニングの課題を課します。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 英語の基本構造に対する理解度、読んだ英文の内容に対する理解度、英語コミュニケー<br>ションへの積極的態、等により総合評価する。学期末試験70%、プレゼンテーショ<br>ン10%、授業外自主学習課題20%で評価する。<br>授業評価は単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが前提である。      |                  |    |
| テキスト                        | 追って指示する。   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 毎時間、必ず英語の辞書を持参してください。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岩井 千秋 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      | —  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業は教科書をワンレッスンごとに進めて行くようなことはしません。最初の2週で教科書の数課分にまとめて目を通し、速読、音読、シャドーイング、書き取りなどを学期の間、繰り返して行い、英語学習の習慣化を図ります。また協働学習を中心に、choral reading などの手法を使って、他の受講生と一緒に読んだ内容を発表することも行います。 |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 速読、音読、英語学習の習慣化   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 語彙力・文法力を駆使し、多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して、文化や社会問題等についての理解を深めます。授業では特に音読(シャドーイング)を重視します。学期の終わりまでには自分自身で学習目標を決め、学習に取り組める自律学習者となることを目指します。                      |                  |    |
| 授業の内容                       | 文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読んで理解し、何度も音読します。こうした学習を通じて、英文理解へのスピード化、自動化を図ると共に、語彙力、表現力を高めます。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 語彙や文法などの英語力、英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態、等により総合評価します。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。   |                  |    |
| テキスト                        | Shimaoka, T. & Berman, J. 著<br>Life Topics: Acritical Thinking Approach to English Proficiency. 南雲堂  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業で適宜紹介します。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、課題や授業で紹介する学習方法を実践する覚悟で受講してください。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Comprehensive Reading II (英文講読II)  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岩井 千秋 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      | —  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業は教科書をワンレッスンごとに進めて行くようなことはしません。最初の2週で教科書の数課分にまとめて目を通し、速読、音読、シャドーイング、書き取りなどを学期の間、繰り返して行い、英語学習の習慣化を図ります。また協働学習を中心に、choral reading などの手法を使って、他の受講生と一緒に読んだ内容を発表することも行います。 |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 速読、音読、英語学習の習慣化   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 語彙力・文法力を駆使し、多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して、文化や社会問題等についての理解を深めます。授業では特に音読(シャドーイング)を重視します。学期の終わりまでには自分自身で学習目標を決め、学習に取り組める自律学習者となることを目指します。                      |                  |    |
| 授業の内容                       | 文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読んで理解し、何度も音読します。こうした学習を通じて、英文理解へのスピード化、自動化を図ると共に、語彙力、表現力を高めます。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 語彙や文法などの英語力、英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態、等により総合評価します。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。   |                  |    |
| テキスト                        | Shimaoka, T. & Berman, J. 著<br>Life Topics: Acritical Thinking Approach to English Proficiency. 南雲堂  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業で適宜紹介します。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、課題や授業で紹介する学習方法を実践する覚悟で受講してください。  |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語Ⅲ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 田淵桂子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 地域連携センター (1147)   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。1回の講義につき1章を完結します。テキストの各章立てに従い講義および言語演習を行います。適宜、宿題を課しますので、その翌週に必ず提出してください。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | リーディング  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目は、「Comprehensive Reading I」「Comprehensive Reading II」で獲得した技能の発展を目標とする。英文を読んで、重要な情報を正確に把握することができる。本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要なリーディング能力を養う科目として位置づけられる。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 英文法を活用しながら英文の文章構造を正確に把握し、パラグラフの構成や展開に注意して要点をつかむなど、リーディングに必要なスキルに触れながら演習を行う。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%、毎回の小テストおよび授業に対する取り組み状況30%で総合的に評価する。期末試験受験には単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが前提である。   |                  |    |
| テキスト                        | Realise Britain (イギリスふしぎ再発見) , 金星堂  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 毎週の授業のためのテキスト予習は必ず行ってください。また、小テストのための復習を欠かさないようにしてください。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | Extensive Reading (上級英文読解)  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 田淵桂子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 地域連携センター (1147)   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。1回の講義につき1章を完結します。テキストの各章立てに従い講義および言語演習を行います。適宜、宿題を課しますので、その翌週に必ず提出してください。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | リーディング  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目は、「Comprehensive Reading I」「Comprehensive Reading II」で獲得した技能の発展を目標とする。英文を読んで、重要な情報を正確に把握することができる。本科目は、全学共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要なリーディング能力を養う科目として位置づけられる。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 英文法を活用しながら英文の文章構造を正確に把握し、パラグラフの構成や展開に注意して要点をつかむなど、リーディングに必要なスキルに触れながら演習を行う。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%、毎回の小テストおよび授業に対する取り組み状況30%で総合的に評価する。期末試験受験には単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが前提である。   |                  |    |
| テキスト                        | Realise Britain (イギリスふしぎ再発見) , 金星堂  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 毎週の授業のためのテキスト予習は必ず行ってください。また、小テストのための復習を欠かさないようにしてください。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語Ⅲ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 福元 広二 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | テキストを用いて毎回1つのUnitを演習形式で進める。またグループ活動を行うこともある。                           |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | リーディング、リスニング、時事英語  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 英文を正確に読み取ることができ、さらにcritical readingやpresentationなどの応用的な読みへとつなげることができる。 |                  |    |
| 授業の内容                       | リーディングに必要なスキルを習得し、速読や多読を行う。読解によって得た情報を発信へとつなげる技能を養う。                   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 読んだ英文の内容に対する理解度、文章の内容に対する発信力、英語コミュニケーションへの積極的態、等により総合評価する。             |                  |    |
| テキスト                        | 『Meet the World: English through Newspapers 2016』. 成美堂                 |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Extensive Reading (上級英文読解)   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 福元 広二 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | テキストを用いて毎回1つのUnitを演習形式で進める。またグループ活動を行うこともある。                           |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | リーディング、リスニング、時事英語  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 英文を正確に読み取ることができ、さらにcritical readingやpresentationなどの応用的な読みへとつなげることができる。 |                  |    |
| 授業の内容                       | リーディングに必要なスキルを習得し、速読や多読を行う。読解によって得た情報を発信へとつなげる技能を養う。                   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 読んだ英文の内容に対する理解度、文章の内容に対する発信力、英語コミュニケーションへの積極的態、等により総合評価する。             |                  |    |
| テキスト                        | 『Meet the World: English through Newspapers 2016』. 成美堂                 |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語Ⅳ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 吉本和弘   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1824   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 月曜日 2限   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 毎回一定量の時事的な内容の英文を読み、理解するための訓練を行う。現在世界で何が起きているのか、情報収集する活動をグループで行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 新聞英語、メディアの英語、世界の諸問題  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | メディアの英語から情報を得て理解し、分析する能力を養うことを目的とする。大学生として必要なアカデミックリーディングを中心とした言語能力を養うことができる。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 主に新聞の英語を読み解くための訓練を行う。最近のニュースを論じた新聞記事を主に扱い、メディアから情報を集めるための訓練を行う。世界情勢を的確に把握し、自己の進むべき道を考える。英文を、英文の語順で理解するための訓練を行うが、それは逐次通訳者の訓練と似ている。この訓練法を通じて、日英、英日の翻訳を瞬時にできるように訓練する。時事的な語彙の習得に努め、高度な内容の英文を早く読む練習を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 毎回の授業への参加、小テスト、筆記試験の総合評価による。   |                  |    |
| テキスト                        | 『The Japan Times 社説集』 (号数等の詳細は授業前に指示する)  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Specific Reading (専門英語講読)  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 吉本和弘   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1824   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 月曜日 2限   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 毎回一定量の時事的な内容の英文を読み、理解するための訓練を行う。現在世界で何が起きているのか、情報収集する活動をグループで行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | リーディング、リスニング、時事英語  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | メディアの英語から情報を得て理解し、分析する能力を養うことを目的とする。大学生として必要なアカデミックリーディングを中心とした言語能力を養うことができる。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 主に新聞の英語を読み解くための訓練を行う。最近のニュースを論じた新聞記事を主に扱い、メディアから情報を集めるための訓練を行う。世界情勢を的確に把握し、自己の進むべき道を考える。英文を、英文の語順で理解するための訓練を行うが、それは逐次通訳者の訓練と似ている。この訓練法を通じて、日英、英日の翻訳を瞬時にできるように訓練する。時事的な語彙の習得に努め、高度な内容の英文を早く読む練習を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業への参加度、小テスト、期末テストの総合評価  |                  |    |
| テキスト                        | 『The Japan Times 社説集』 (号数等の詳細は授業前に指示する)  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語表現 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | デイビッド・リー (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. |                  |    |
| 授業の内容                       | The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn active strategies for developing their communication skills.   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability.   |                  |    |
| テキスト                        | Interchange, 4th edition by Jack C. Richards. Published by Cambridge University Press.   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語表現 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | デイビッド・リー (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. |                  |    |
| 授業の内容                       | The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn active strategies for developing their communication skills.   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability.   |                  |    |
| テキスト                        | Interchange, 4th edition by Jack C. Richards. Published by Cambridge University Press.   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語表現 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | デイビッド・リー (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. |                  |    |
| 授業の内容                       | The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn active strategies for developing their communication skills.   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability.   |                  |    |
| テキスト                        | Interchange, 4th edition by Jack C. Richards. Published by Cambridge University Press.   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Introductory Conversation (初級英会話)  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | デイビッド・リー (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | The lessons will be based on a student centered approach that will include; whole class activities, group activities, pair activities and individual activities.   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. |                  |    |
| 授業の内容                       | The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn active strategies for developing their communication skills.   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability.   |                  |    |
| テキスト                        | Interchange, 4th edition by Jack C. Richards. Published by Cambridge University Press.   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語表現Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ケイヴォーン・デイビッド・カゼミ (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects. |                  |    |
| 授業の内容                       | Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.         |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics.   |                  |    |
| テキスト                        | Topic Talk Issues (Second edition, EFL Press) by Kirsty McLean.  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Intermediate Conversation (中級英会話)  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ケイヴォーン・デイビッド・カゼミ (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects. |                  |    |
| 授業の内容                       | Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.         |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics.   |                  |    |
| テキスト                        | Topic Talk Issues (Second edition, EFL Press) by Kirsty McLean.  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語表現Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ケイヴォーン・デイビッド・カゼミ (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects. |                  |    |
| 授業の内容                       | Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.         |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics.   |                  |    |
| テキスト                        | Topic Talk Issues (Second edition, EFL Press) by Kirsty McLean.  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Intermediate Conversation (中級英会話)  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ケイヴォーン・デイビッド・カゼミ (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects. |                  |    |
| 授業の内容                       | Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.         |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics.   |                  |    |
| テキスト                        | Topic Talk Issues (Second edition, EFL Press) by Kirsty McLean.  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |   |                  |       |
|-----------------------------|---|------------------|-------|
| 授業科目名                       | 英語表現Ⅲ   |                  |       |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ウルシュラ・ステイチェック (非常勤講師)   |                  |       |
| 研究室の場所                      |   |                  |       |
| オフィスアワー                     |   |                  |       |
| 授業の形式・方式                    | Writing sentences and paragraphs: editing partners' writings, taking notes and writing from notes, organizing different forms of writings, writing descriptions and stories, writing opinions on various issues.  |                  |       |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営：必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象  |                  |       |
| 免許等指定科目                     |   |                  |       |
| キーワード                       | Courage in writing and expressing your own opinions.  |                  |       |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.   |                  |       |
| 授業の内容                       | Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.   |                  |       |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' active participation during each class, and the ability of writing English sentences. Regular attendance; short word tests; reports writing projects; ;the final test in a form of a free composition on a given topic. |                  |       |
| テキスト                        | "Reason To Write. Strategies for Success in Academic Writing" (Low Intermediate). Judy Miller, Robert Cohen. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-436771-4  |                  |       |
| 参考文献                        | English-English Dictionary (Oxford or Longman)  |                  |       |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |       |

|                             |  |                  |        |
|-----------------------------|--|------------------|--------|
| 授業科目名                       | Communicative Writing I (実用英作文 I)  |                  |        |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ウルシュラ・ステイチェック (非常勤講師)  |                  |        |
| 研究室の場所                      |  |                  |        |
| オフィスアワー                     |  |                  |        |
| 授業の形式・方式                    | Writing sentences and paragraphs: editing partners' writings, taking notes and writing from notes, organizing different forms of writings, writing descriptions and stories, writing opinions on various issues.   |                  |        |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営: 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象   |                  |        |
| 免許等指定科目                     |  |                  |        |
| キーワード                       | Courage in writing and expressing your own opinions.   |                  |        |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.  |                  |        |
| 授業の内容                       | Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.  |                  |        |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' active participation during each class, and the ability of writing English sentences. Regular attendance; short word tests; reports writing projects; the final test in a form of a free composition on a given topic. |                  |        |
| テキスト                        | "Reason To Write. Strategies for Success in Academic Writing" (Low Intermediate). Judy Miller, Robert Cohen. Oxford University Press. ISBN 978-0-19-436771-4   |                  |        |
| 参考文献                        | English-English Dictionary (Oxford or Longman)   |                  |        |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |        |



|                             |  |                  |       |
|-----------------------------|--|------------------|-------|
| 授業科目名                       | 英語表現Ⅲ  |                  |       |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ジェフリー・ノーリン (非常勤講師)   |                  |       |
| 研究室の場所                      |  |                  |       |
| オフィスアワー                     |  |                  |       |
| 授業の形式・方式                    | This is a student active classroom where the student is required to an active speaker, listener and writing participant. The class is taught in English and uses an English-only textbook. An important goal is to develop the ability to understand, participate and contribute in an English language environment. |                  |       |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営：必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象   |                  |       |
| 免許等指定科目                     |  |                  |       |
| キーワード                       |  |                  |       |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.  |                  |       |
| 授業の内容                       | Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.  |                  |       |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their ability to write basic English sentences.   |                  |       |
| テキスト                        | Writers at Work: From Sentence to Paragraph; Laurie Blass/Deborah Gordon; Cambridge University Press; ISBN 978-0-521-12030-2   |                  |       |
| 参考文献                        |  |                  |       |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Regular attendance, homework preparation and active participation are important for your contribution to the class.  |                  |       |

|                             |  |                  |       |
|-----------------------------|--|------------------|-------|
| 授業科目名                       | Communicative Writing I (実用英作文 I)  |                  |       |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ジェフリー・ノーリン (非常勤講師)   |                  |       |
| 研究室の場所                      |  |                  |       |
| オフィスアワー                     |  |                  |       |
| 授業の形式・方式                    | This is a student active classroom where the student is required to an active speaker, listener and writing participant. The class is taught in English and uses an English-only textbook. An important goal is to develop the ability to understand, participate and contribute in an English language environment. |                  |       |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営：必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象   |                  |       |
| 免許等指定科目                     |  |                  |       |
| キーワード                       |  |                  |       |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.  |                  |       |
| 授業の内容                       | Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.  |                  |       |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their ability to write basic English sentences.   |                  |       |
| テキスト                        | Writers at Work: From Sentence to Paragraph; Laurie Blass/Deborah Gordon; Cambridge University Press; ISBN 978-0-521-12030-2   |                  |       |
| 参考文献                        |  |                  |       |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Regular attendance, homework preparation and active participation are important for your contribution to the class.  |                  |       |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語表現IV  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | マシュー・マーティン・レーガン (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     | Students can contact me after class or by email.  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others. |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | English Expression - writing and speaking   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.  |                  |    |
| 授業の内容                       | Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.   |                  |    |
| テキスト                        | No textbook. Materials provided by the instructor.  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Come to class prepared to be ACTIVELY involved.   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | Communicative Writing II (実用英作文 II)   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | マシュー・マーティン・レーガン (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     | Students can contact me after class or by email.  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others. |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | English Expression - writing and speaking   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.  |                  |    |
| 授業の内容                       | Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.   |                  |    |
| テキスト                        | No textbook. Materials provided by the instructor.  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Come to class prepared to be ACTIVELY involved.   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語表現IV  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | マシュー・マーティン・レーガン (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     | Students can contact me after class or by email.  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others. |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | English Expression - writing and speaking   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.  |                  |    |
| 授業の内容                       | Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.   |                  |    |
| テキスト                        | No textbook. Materials provided by the instructor.  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Come to class prepared to be ACTIVELY involved.   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | Communicative Writing II (実用英作文 II)   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | マシュー・マーティン・レーガン (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     | Students can contact me after class or by email.  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others. |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | English Expression - writing and speaking   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.  |                  |    |
| 授業の内容                       | Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.   |                  |    |
| テキスト                        | No textbook. Materials provided by the instructor.  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Come to class prepared to be ACTIVELY involved.   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 中国語 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 袁 葉 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、下記のテキストを用いながら、演習形式で実施する。テキストの各課を単語・本文・文法文型・練習の順に2回の授業時間で理解定着させる。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や発表が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 中国語の基礎, 会話, オリジナル作文の発表  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目は、経営情報学部共通教育科目の外国語科目に位置し、10単位必修のうちの選択必修2単位の言語の一つ「中国語」の1単位分である。これまでほとんど中国語を学習していない学生を対象として、言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置く。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 中国語の基礎を身につける。言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置いて、発音の習得から始める。続いて、発音表記や漢字表記の特徴を踏まえながら、単語の音(読み)と意味と漢字表記とがそれぞれ結びつくように練習する。さらに簡単な会話文を用いて、基本的な語彙・語法の習得を目指す。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく融合して習得できるよう、練習を繰り返す、あいさつや自己紹介程度の会話ができるようにする。<br>授業の合間には、中国の社会事情や、日中文化の違いなどについても紹介する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験, 小テスト, 作文の提出及び出席状況を総合的に判断し評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 『400語で学ぶ楽しい中国語入門』 (郭春貴・郭久美子著 白帝社)   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                              |   |                  |    |
|------------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                        | 中国語Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                 | 袁 葉 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                       |   |                  |    |
| オフィスアワー                      |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                     | 対面授業。授業日程に従って、下記のテキストを用いながら、演習形式で実施する。テキストの各課を単語・本文・文法文型・練習の順に2回の授業時間で理解定着させる。学生は授業に出席し、小テストを含む試験や発表が義務付けられる。                         |                  |    |
| 単位数(時間数)                     | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                         | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                      |   |                  |    |
| キーワード                        | 中国語の基礎, 簡単な日常会話, オリジナル作文の発表   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け       | この科目は、経営情報学部共通教育科目の外国語科目に位置し、10単位必修のうち<br>の選択必修2単位の言語の一つ「中国語」の1単位分である。「中国語Ⅰ」を履修単位<br>修得した学生を対象として、簡単な日常会話ができるよう、実用に堪える言語習得を目<br>標とする。 |                  |    |
| 授業の内容                        | 中国語の基礎的な語彙・語法の習得を目指す。簡単な会話文を用いて練習を繰り返<br>し、中国語の特徴を踏まえた初歩的な日常会話ができるよう鍛錬する。<br>授業の合間には中国の社会事情や、日中文化の違いについても紹介する。                        |                  |    |
| 成績評価の方法                      | 期末試験, 小テスト, 作文の提出, 及び出席状況を総合的に判断して評価する。   |                  |    |
| テキスト                         | 『400語で学ぶ楽しい中国語入門』 (郭春貴・郭久美子著 白帝社)   |                  |    |
| 参考文献                         |   |                  |    |
| 備 考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 「中国語Ⅰ」が単位未修得の場合は履修できない。   |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | ドイツ語 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小田 智敏 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    |   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       |   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 「ドイツ語」を選択する場合, もっとも基礎となる授業である。ドイツ語の基本的な表現様式の修得に重点を置く。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 日常的なあいさつ表現や基本的文法の修得を通じてドイツ語の全体像に触れ, 教養とすることを旨とします。動詞の人称変化と名詞の格変化を中心に, 最も基本的な表現様式を反復練習しますので, 受講者の皆さんは実技課目のつもりで参加してください。言葉は, それを話す人々の基本的な世界了解の仕方でもありますから, ヨーロッパの言語の特徴を英語よりも濃厚に維持しているドイツ語を学ぶことによって, ヨーロッパ文化をより広い視野から理解することも, この授業の目標の一つです。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験の成績(9割)に, 普段の授業への参加度を加味して(1割)評価します。   |                  |    |
| テキスト                        | 『ベルリンに夢中』(同学社)  |                  |    |
| 参考文献                        | 同学社『新アポロン独和辞典』  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | ドイツ語Ⅱ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小田 智敏 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。発音練習・文法問題練習への積極的な参加を期待します。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       |   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      |   |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>「ドイツ語Ⅰ」に続いて、動詞の3基本形、完了などの時制、再帰動詞、分離動詞、関係代名詞、受動態、接続法などを、練習を通じて理解し修得します。英文法との共通点、英語とドイツ語に共通ないし類似する語彙を発見することで、言語の系統を意識するとともに、ドイツ語の特徴を通して、ドイツ語圏の人々のものものとりえ方・表現様式を理解し、広くヨーロッパ文化の理解を目指します。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験の成績(9割)に、普段の授業への参加度を加味して(1割)評価します。  |                  |    |
| テキスト                        | 『ベルリンに夢中』(同学社)  |                  |    |
| 参考文献                        | 同学社『新アポロン独和辞典』  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報リテラシー   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 肖 業貴  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1563研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。<br>学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 【28年度入学生】経営学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修   |                  |    |
| キーワード                       | 情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。</p> <p>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力</li> <li>情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力</li> <li>分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力</li> </ul> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。</p> <p>インターネット等を使った情報検索について学習する。</p> <p>情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。</p> <p>文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。</p> <p>プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>3回以上の欠席は評価の対象外とする。</p> <p>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー   |                  |    |
| 参考文献                        | 講義の中で紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。</p> <p>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習しておくこと。</p> <p><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a></p>   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報処理入門  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 肖 業貴  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1563研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。<br>学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 【27年度入学生】経営学科a班 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修   |                  |    |
| キーワード                       | 情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。</p> <p>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力</li> <li>情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力</li> <li>分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力</li> </ul> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。</p> <p>インターネット等を使った情報検索について学習する。</p> <p>情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。</p> <p>文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。</p> <p>プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>3回以上の欠席は評価の対象外とする。</p> <p>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー   |                  |    |
| 参考文献                        | 講義の中で紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。</p> <p>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習しておくこと。</p> <p><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a></p>   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報リテラシー   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 重安 哲也   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1638研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。<br>学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 【27年度以降の入学生】経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修   |                  |    |
| キーワード                       | 情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。</p> <p>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力</li> <li>情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力</li> <li>分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力</li> </ul> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。</p> <p>インターネット等を使った情報検索について学習する。</p> <p>情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。</p> <p>文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。</p> <p>プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>3回以上の欠席は評価の対象外とする。</p> <p>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー   |                  |    |
| 参考文献                        | 講義の中で紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。</p> <p>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習しておくこと。</p> <p><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a></p>   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報処理入門   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 重安 哲也  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1638研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。<br>学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 【26年度以前入学生】経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修  |                  |    |
| キーワード                       | 情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。</p> <p>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力</li> <li>・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力</li> <li>・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力</li> </ul> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。</p> <p>インターネット等を使った情報検索について学習する。</p> <p>情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。</p> <p>文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。</p> <p>プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。</p>  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>3回以上の欠席は評価の対象外とする。</p> <p>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。</p>  |                  |    |
| テキスト                        | noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー  |                  |    |
| 参考文献                        | 講義の中で紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。</p> <p>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習しておくこと。</p> <p><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a></p>  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報リテラシー演習   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岡部 正幸   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1638研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。<br>学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 【27年度以降の入学生】経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。<br>情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。<br>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。<br>・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力<br>・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力                   |                  |    |
| 授業の内容                       | 情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。<br>コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。<br>データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。<br>インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 3回以上の欠席は評価の対象外とする。<br>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。                    |                  |    |
| テキスト                        | noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー   |                  |    |
| 参考文献                        | 講義の中で紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。<br>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。<br><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a> |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報リテラシー演習   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 重安 哲也   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1638研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。<br>学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 【27年度以降の入学生】経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。<br>情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。<br>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。<br>・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力<br>・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力                   |                  |    |
| 授業の内容                       | 情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。<br>コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。<br>データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。<br>インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 3回以上の欠席は評価の対象外とする。<br>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。                    |                  |    |
| テキスト                        | noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー   |                  |    |
| 参考文献                        | 講義の中で紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。<br>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。<br><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a> |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 体育実技 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 辻 文   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1541研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | ※随時対応 要連絡   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。体育館にて行う。<br>初回の授業は、着替えずに体育館（大競技室）に集合（土足厳禁）。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 生涯スポーツ、チームワーク、トレーニング、フットサル、バレーボール、  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを实践できる。<br/>②バレーボールおよびフットサルの特性や技術・戦術を説明できる。<br/>③運動中の身体的負荷（きつさ）や身体状態を自身で把握することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>この授業では、バレーボールおよびフットサルを取り扱います。これらの球技スポーツを通して、健全な精神と体力を育むために必要な知識や技能を実践的に学んでいきます。授業は、6～7名のグループに分け、そのグループ内で、技能習得の目標と練習メニューの考案⇒実践⇒評価を行うなど、学生間で協同しながら進めていきます。それにより、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。</p>                                    |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度40%、グループ毎の報告レポート30%、個別レポート30%にて総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書なし。適宜、資料プリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>運動の出来る服装および室内シューズを持参すること。体育館の使用規則を順守すること。</p> <p>授業の初回にこれまでの運動経験に関するアンケートを行い、これを参考にグループ分けを行う。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 体育実技  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 辻 文   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1541研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | ※随時対応 要連絡   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。体育館にて行う。<br>初回の授業は、着替えずに体育館（大競技室）に集合（土足厳禁）。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 生涯スポーツ、チームワーク、トレーニング、フットサル、バレーボール、  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを実践できる。<br/>②バレーボールおよびフットサルの特性や技術・戦術を説明できる。<br/>③運動中の身体的負荷（きつさ）や身体状態を自身で把握することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>この授業では、バレーボールおよびフットサルを取り扱います。これらの球技スポーツを通して、健全な精神と体力を育むために必要な知識や技能を実践的に学んでいきます。授業は、6～7名のグループに分け、そのグループ内で、技能習得の目標と練習メニューの考案⇒実践⇒評価を行うなど、学生間で協同しながら進めていきます。それにより、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。</p>                                    |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度40%、グループ毎の報告レポート30%、個別レポート30%にて総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書なし。適宜、資料プリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>運動の出来る服装および室内シューズを持参すること。体育館の使用規則を順守すること。</p> <p>授業の初回にこれまでの運動経験に関するアンケートを行い、これを参考にグループ分けを行う。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 体育実技 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 辻 文   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1541研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | ※随時対応 要連絡   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。体育館にて行う。<br>初回の授業は、着替えずに体育館（大競技室）に集合（土足厳禁）。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 生涯スポーツ、チームワーク、トレーニング、フットサル、バレーボール、  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを実践できる。<br/>②バレーボールおよびフットサルの特性や技術・戦術を説明できる。<br/>③運動中の身体的負荷（きつさ）や身体状態を自身で把握することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>この授業では、バレーボールおよびフットサルを取り扱います。これらの球技スポーツを通して、健全な精神と体力を育むために必要な知識や技能を実践的に学んでいきます。授業は、6～7名のグループに分け、そのグループ内で、技能習得の目標と練習メニューの考案⇒実践⇒評価を行うなど、学生間で協同しながら進めていきます。それにより、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。</p>                                    |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度40%、グループ毎の報告レポート30%、個別レポート30%にて総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書なし。適宜、資料プリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>運動の出来る服装および室内シューズを持参すること。体育館の使用規則を順守すること。</p> <p>授業の初回にこれまでの運動経験に関するアンケートを行い、これを参考にグループ分けを行う。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 体育実技  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 辻 文   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1541研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | ※随時対応 要連絡   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。体育館にて行う。<br>初回の授業は、着替えずに体育館（大競技室）に集合（土足厳禁）。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位（30時間）   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 生涯スポーツ、チームワーク、トレーニング、フットサル、バレーボール、  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを実践できる。<br/>②バレーボールおよびフットサルの特性や技術・戦術を説明できる。<br/>③運動中の身体的負荷（きつさ）や身体状態を自身で把握することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>この授業では、バレーボールおよびフットサルを取り扱います。これらの球技スポーツを通して、健全な精神と体力を育むために必要な知識や技能を実践的に学んでいきます。授業は、6～7名のグループに分け、そのグループ内で、技能習得の目標と練習メニューの考案⇒実践⇒評価を行うなど、学生間で協同しながら進めていきます。それにより、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。</p>                                    |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度40%、グループ毎の報告レポート30%、個別レポート30%にて総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書なし。適宜、資料プリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>運動の出来る服装および室内シューズを持参すること。体育館の使用規則を順守すること。</p> <p>授業の初回にこれまでの運動経験に関するアンケートを行い、これを参考にグループ分けを行う。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>  |                  |    |

|                             |  |                  |  |
|-----------------------------|--|------------------|--|
| 授業科目名                       | 経営学概論  |                  |  |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小原 久美子   |                  |  |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1721研究室  |                  |  |
| オフィスアワー                     | メールおよびTELで予約してもらって、その上で実施する。   |                  |  |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書各章に関する内容を講義形式で実施する。1回の講義につき1章の講義を想定し、授業時間1時間30分を想定した授業を行う。また、教科書以外にプリント資料も活用し授業内容の補足および復習を行い必要によって質問・回答の時間も設ける。  |                  |  |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営学科：選択、経営情報学科：選択<br>(平成24年度入学生)、必修(平成23年度以前入学生) |
| 履修要件                        | 経営学科、経営情報学科 1年次対象  |                  |  |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)必修 (平成21年度以前入学生対象)   |                  |  |
| キーワード                       | 現代経営学の体系 経営学研究方法 現代株式会社 所有と経営の分離 コーポレート・ガバナンス 企業の社会的責任と倫理 専門経営者の役割 経営のグローバル化 経営組織 経営管理(マネジメント) 経営戦略 組織構造と組織文化 組織イノベーション  |                  |  |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 経営学概論は、経営情報学部共通専門科目であり、1年次の学生を中心として、これから初めて経営学を学ぼうとする学生の基礎・専門科目として位置づけられる。本授業の目標は以下の通りである。1. 企業経営とは何か。経営学全般の基礎的な専門知識を身につける。2. 現代組織におけるビジネスパーソンとして必要な基礎的・実践的スキルやマナーを身につける。3. 現実の経営者の生き方を学ぶことを通じて、学生個々人が自らの人生の経営を考えることができるように幅の広い視野と器量を養う。   |                  |  |
| 授業の内容                       | 経営学の対象領域は、今日ますます拡大傾向にあるが、その基盤を形成するものは、現代社会の中での企業の経営活動である。企業の活動は、どのように決められ、どのように実行されるのか。その活動はどのようなプロセスをへて社会に影響を及ぼすのか。また、企業の仕組みはどうなっており、その構成部分はどうな動きをなし相互作用するものであるのか。このような問題に直接的に取り組む学問が経営学である。本授業では、今日的でしかも広範な経営諸問題を理解し、経営学としての基礎を修得しうることを主たる目的とする。現代経営学の目的、経営学の対象とアプローチ方法、経営学の体系の理解を進めた後、企業論(現代企業の本質と活動)、経営組織論および経営管理論、経営戦略論、意思決定論、マーケティング、日本的経営、非営利組織の経営、グローバル経営などの今日の課題を明らかにし、個別の専門科目へ進めるための基礎を修得していく。 |                  |  |
| 成績評価の方法                     | 授業参画度(平常点)小テスト50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。試験は指定された教室内で、持ち込み可で実施する。期末試験は、指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。問題形式は、多肢選択問題および論述形式を採用する。   |                  |  |
| テキスト                        | 佐久間信夫・坪井順一編著、小原久美子他著『リーディングスリニューアル経営学—第三版 現代の経営管理論』学文社、2016年4月出版予定。適宜、プリント教材も配布する。   |                  |  |
| 参考文献                        | 参考文献：小原久美子『経営学における組織文化論の位置づけとその理論的展開』白桃書房、2014年1月発行。」辞典：佐久間信夫編『経営用語の基礎知識』学文社、2010年   |                  |  |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | ①現実の企業経営の動向に関心をもち、自分なりの問題意識をもって参加してほしい。②本授業は平常点・小テストも含めて総合的に評価する。③経営学概論は、大学で初めて学ぶ学問であるため、質問等がある場合には質問票の配布やメールおよび対面により積極的に応じていく。  |                  |  |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | マーケティング論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 栗島浩二   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1648研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | メールでのアポイントにより適時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面講義形式です。ただし、講義は、コメントカードの意見や質問等を参考にしながら機動的に行います。「講義はみんなで作るもの」が第一の講義コンセプトです。また事例研究として、ビデオなどを使いながらメーカーを中心としたマーケティングの理論と実際の企業活動を関連付けて解説いたします。この「理論と実践」が、第二の講義コンセプトです。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択 (平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 環境分析, マーケティング・マネジメント, 消費者心理, STP, ブランド戦略, サービス・マネジメント  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | マーケティングは、今日の企業の重要な活動として認知されています。しかし、一方でマーケティングが「リサーチ」や「広告・宣伝」に関する企業活動のことであるという誤解も散見されます。本講義では統合的マーケティングの本質を理論体系から理解するとともに、実際の企業活動としてのマーケティングが我々の生活と密接に関連していることを認識し、理解を深めてもらいたいと思います。経営学科では、経営戦略マーケティング系分野の初級編という位置づけです。        |                  |    |
| 授業の内容                       | モダン・マーケティング論の基礎を理解した上で、より実践的なマーケティング戦略の立案について事例をつかって解説します。基本的概念として、マーケティング・コンセプト, 顧客価値と顧客満足, 戦略計画, 環境分析, 消費者・購買者分析, 競合分析, マーケティングのSTPとブランド戦略, コミュニケーション戦略, サービスなどを取り上げます。授業はテキストで整理してある理論の解説と身近な企業や商品によるケーススタディを組み合わせて理解を深めます。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間レポート30点、最終試験40点、毎時限「コメントカード」を提出し、日常点30点とします。(合計100点満点) 試験は持ち込み不可で、実施します。出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行ないますので、聞き逃さないようにしてください。特に最終講義では、総括とともに定期試験の出題に関する十分な解説を行いますので必ず出席してください。尚、評価の基準については講義の開始時に詳細を説明いたします。                            |                  |    |
| テキスト                        | ・石井淳蔵、廣田章光[2009]『1からのマーケティング(第3版)』硯学舎。   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 受講する学生とは、社会の一員あるいは成人として接するつもりです。したがって、社会通念上のマナーやルールを示した上で、それを守ることを履修の最低条件とします。講義中の飲食、携帯電話・スマートフォン等の使用、私語雑談は厳禁です。指示に従わない者は学生証を提示の上、直ちに退室してもらいますので履修登録前に予め承知しておいてください。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営戦略論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 朴 唯新  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1827  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時（電話、Eメールでのアポイントメントが必要）  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位（30時間）   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科，経営情報学科 2年・3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）   |                  |    |
| キーワード                       | 持続的な競争優位、ポジションニング戦略、資源に基づく優位性   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本授業の目的は2つある。第一に、受講者が代表的な経営戦略論でポジションニング戦略と資源ベース論について理解できることである。第二に、受講者がこれらの概念および枠組みを活用し、多様な企業の経営戦略について論理的に考える能力・スキルを修得することである。本授業は経営情報学部共通専門科目として、経営戦略論として位置づけられる。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 本授業ではGarth Salonerらの『戦略経営論』を参考文献として使う。経営戦略論分野ではM. E. Porterのポジションニング戦略とJ. B. Barneyの資源ベース論が有名であるが、両理論の共通点と相違点を理解することで、現実において企業の経営戦略を理解するのに役に立つ。                   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 評価方法および配分は、①中間、期末試験（80%）、②自学自習によるレポート（20%）とする。  |                  |    |
| テキスト                        |   |                  |    |
| 参考文献                        | Garth Saloner et al. 『戦略経営論』東洋経済新報社   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 簿記入門  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 五百竹 宏明  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1726研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時（メールで事前予約を取ること）   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。講義形式で行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位（30時間）   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科・経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 複式簿記、貸借対照表（資産・負債・純資産）、損益計算書（収益・費用）、取引、勘定、仕訳   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 複式簿記の基本原理と背景にある会計の基礎的理論を理解する。その結果として、日本商工会議所主催簿記検定試験3級（商業簿記）の合格に必要な複式簿記の知識とスキルを身につけることができる。<br>簿記入門は、会計学、経営学、経済学など経営情報学部で開講されている科目を学ぶうえで最も基礎となる科目のひとつである。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 以下の項目について、テキストを参照しながら解説する。また、ワークブックへの記入を通じて、受講生に簿記のスキルを身につけてもらう。<br>「簿記の意味・目的・種類」「簿記の基礎概念」「取引」「勘定と仕訳」「帳簿の記入」「決算と財務諸表」「現金預金取引」「商品売買」「売掛金と買掛金」「その他の債券と債務」   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末テストで評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 『新検定簿記講義／3級商業簿記』中央経済社<br>『新検定簿記ワークブック／3級商業簿記』中央経済社  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 後期開講の「初級簿記」もあわせて受講することが望ましい。  |                  |    |



|                     |  |                  |    |
|---------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名               | ファイナンス概論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)        | 村上 恵子  |                  |    |
| 研究室の場所              | 広島キャンパス 1647研究室  |                  |    |
| オフィスアワー             | 毎週火～木曜日12:10～13:00。場所は担当教員研究室。これ以外の面談はメールにて要予約。  |                  |    |
| 授業の形式・方式            | 対面授業。授業は、毎回配布するレジュメを用いた講義形式と学生による課題考察やグループディスカッション等の演習形式を併用して実施する。学生には、試験と小テストの受験、グループディスカッションへの参加、課題の提出が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)            | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                | 経営学科, 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目             |  |                  |    |
| キーワード               | パーソナルファイナンス, コーポレートファイナンス, 将来価値, 現在価値, 機会費用, NPV法, リスクとリターン, 行動ファイナンス, 資本コスト, 資産管理, 負債管理, リスク管理, 債券価値, 株式価値, ポートフォリオ理論, CAPM, MM理論, ペイアウト, M&A   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け  | 本授業は、これまでファイナンスについて学習したことのない学生が、ファイナンスに関する基礎的な専門知識を、家計管理と企業経営の両観点から学ぶことを目標としている。この科目は経営情報学部の学部共通専門科目に区分され、経営学科の会計ファイナンス系科目ファイナンス分野の基礎科目であり、高学年次配当のパーソナルファイナンス論、コーポレートファイナンス論、証券システム論などの基礎となる知識を学ぶ。   |                  |    |
| 授業の内容               | 現代社会において貨幣や金融の果たす役割は極めて大きく、現実の経済や経営の諸問題を理解する上で金融やファイナンスに関する知識は不可欠となっている。本授業では、ファイナンスを企業のファイナンス(コーポレートファイナンス)と家計のファイナンス(パーソナルファイナンス)に分けて、その基礎的な知識と考え方を講義する。具体的には、はじめにファイナンスの基本的概念である「貨幣の時間価値」の考え方について講義した後、家計の資産・負債管理、企業の資本・負債管理と投資管理、ペイアウト政策について説明する。また、ファイナンス理論のコアである資産価値の評価(債券価値の評価、株式価値の評価、ポートフォリオ理論とCAPM)についても解説する。そのほか、ファイナンスの新しい研究領域である「行動ファイナンス」についても簡単に触れる予定である。 |                  |    |
| 成績評価の方法             | 試験30%、授業参画度(小テストの結果とグループディスカッションでの積極性)40%、課題(3回程度を予定)60%の割合で評価する。  |                  |    |
| テキスト                | 使用しない。随時レジュメを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                | 榊原茂樹・岡田克彦編著(2012)「1からのファイナンス」中央経済社<+9784502697104+><br>その他、必要に応じて授業中に紹介する。   |                  |    |
| 備考(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 金融に関するニュースに関心を持ち、この授業で学んだ内容との関わりについて考える習慣をつけましょう。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 公共社会論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス   |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール予約にて随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義形式。ただし、各回の授業後半に学生からの質問に教員が回答する時間を設ける。また、回によっては、受講者どうしが意見を交換しあうワークショップを行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | 公共財, インターネット, 地域  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本授業では、公共財としての「情報」に着目し、よりよい社会を形成していくための情報の提供・共有・活用のあり方について理解を深めていく。なお本授業は、経営情報学部の共通専門科目に位置づけられるもので、本授業を通じて「市民」としての基礎的教養を身につけ、その上で各分野（特に公共経営系科目）の専門的な学びを深めてほしい。</p> <p>【知識・理解】 公共社会（公共財）の概念を説明できる。<br/> 【思考・判断】 公共財としてのインターネットの意義・課題等を指摘できる。<br/> 【関心・意欲】 インターネット整備・活用のあり方を討議できる。<br/> 【技能・表現】 上記内容を取りまとめた文章を作成できる。<br/> 【態度】 ワークショップに参加できる。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>教科書『インターネットと地域』（ナカニシヤ出版）に基づく講義を行う。<br/> 主な内容は以下のとおり（詳細はシラバス参照のこと）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共財としての「情報」</li> <li>・地域情報化政策の今日的課題</li> <li>・地理的デジタルデバイド</li> <li>・地方自治体の情報発信</li> <li>・地場産業振興とインターネット</li> </ul>  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業態度（30点）とレポート（70点（中間1回（2000字、35点）・期末1回（2000字、35点））、計2回）により評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 荒井良雄・箸本健二・和田崇（2015）：『インターネットと地域』ナカニシヤ出版、2,700円＋税  |                  |    |
| 参考文献                        | 齋藤純一（2000）：『公共性』岩波書店、1,400円＋税<br>植村邦彦（2010）：『市民社会とは何か』平凡社、940円＋税  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 毎回、自分なりの問題意識をもって受講することを望みます。<br>また、受講上のルールについては、第1回授業にて詳細に指示します。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 理論経済学入門  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 片桐 昭司  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1728研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メールで予約してください   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面形式の授業です。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学部 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 需要、供給、消費者、効用最大化、企業、利潤最大化   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本講義は経済・経営の基礎となる消費者と企業の行動を理論的に明らかにすることを目的にしています。したがって、本講義で修得した内容は経済・経営の様々な分野で応用できる内容となります。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 経済学・経営学の領域に関連するミクロ経済学を中心に講義を行います。ミクロ経済学は各経済主体(消費者・企業・政府)の経済行為を理論的に分析するもので、経済変数を集計的に扱うマクロ経済学と対をなす理論です。最初に、市場機構の概念を理解したうえで、消費者の行動を分析し、効用最大化問題とそれに付随する需要関数について講義を行います。ついで、企業家行動である利潤最大化問題とそれに付随する完全競争、独占、寡占について講義します。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験で成績を評価します。   |                  |    |
| テキスト                        | 西村和夫『ミクロ経済学』岩波書店   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 地方公務員および国家公務員試験(中級・上級)を希望する学生は必修の授業です。   |                  |    |

|                             |   |                  |                     |
|-----------------------------|---|------------------|---------------------|
| 授業科目名                       | ビジネス数理入門  |                  |                     |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 富田 哲治   |                  |                     |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1680号室   |                  |                     |
| オフィスアワー                     | 研究室に在室時は随時可，事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい。  |                  |                     |
| 授業の形式・方式                    | 対面，講義形式   |                  |                     |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択(経営学科)・必修(経営情報学科) |
| 履修要件                        | 経営情報学部 1年次対象  |                  |                     |
| 免許等指定科目                     |   |                  |                     |
| キーワード                       | 代表的な関数の性質，導関数，不定積分，定積分，図形の面積  |                  |                     |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 他の専門科目の基礎として微分，積分の計算がある程度できるようになってもらうことと，数理的な考え方，理論の展開を理解してもらうことを目標とします。  |                  |                     |
| 授業の内容                       | 多くの専門分野で必要とされる数理的な考え方の基礎として，微分積分学を学びます。主な内容は，三角関数，指定関数，対数関数など高等学校で学んだ関数の復習から始まり，まず微分を定義し，基本的な関数の導関数が計算方法できるようにします。その後不定積分および定積分を定義し，基本的な関数の積分方法を学習します。随時，演習や小テストを行い，理解を深めていきます。 |                  |                     |
| 成績評価の方法                     | 中間試験またはレポート(30%)，期末試験(60%)，および授業中の課題演習(10%)で評価します。  |                  |                     |
| テキスト                        | やさしく学べる微分積分(石村園子 著，共立出版，)   |                  |                     |
| 参考文献                        | 特に指定なし。必要に応じて参考資料を配布する。   |                  |                     |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 1回，1回の授業内容は難しくないが，各回の内容は密接に結びついています。前回までの内容を土台として新しい話題が紹介されるので，理解を深めるための復習が大切です。テキストは演習問題が豊富にあるので，各自の復習に活用してください。   |                  |                     |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営数学入門   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 富田 哲治  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1680号室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 研究室に在室時は随時可, 事前に事前にメール等で連絡をすることが望ましい.  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面, 講義形式   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学部 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択 (平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | 代表的な関数の性質, 導関数, 不定積分, 定積分, 図形の面積.  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 他の専門科目の基礎として微分, 積分の計算がある程度できるようになってもらうことと, 数理的な考え方, 理論の展開を理解してもらうことを目標とします.  |                  |    |
| 授業の内容                       | 多くの専門分野で必要とされる数理的な考え方の基礎として, 微分積分学を学びます. 主な内容は, 三角関数, 指定関数, 対数関数など高等学校で学んだ関数の復習から始まり, まず微分を定義し, 基本的な関数の導関数が計算方法できるようにします. その後に不定積分および定積分を定義し, 基本的な関数の積分方法を学習します. 随時, 演習や小テストを行い, 理解を深めていきます. |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間試験またはレポート(30%), 期末試験(60%), および授業中の課題演習(10%)で評価します.   |                  |    |
| テキスト                        | やさしく学べる微分積分(石村園子 著, 共立出版, )  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定なし. 必要に応じて参考資料を配布する.   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 1回, 1回の授業内容は難しくないが, 各回の内容は密接に結びついています. 前回までの内容を土台として新しい話題が紹介されるので, 理解を深めるための復習が大切です. テキストは演習問題が豊富にあるので, 各自の復習に活用してください.  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報科学論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 重丸伸二  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1640研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業ならびにパソコン実習。基本的に教室における1回の講義と情報処理演習室における1回の実習を交互に実施する。実習は用意したプリント資料に基づいて行い、各テーマごとに e-mail の添付ファイルの形でレポートを提出させる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 経営科学, 統計学, シミュレーション, 表計算ソフト, データ処理, 数値データの可視化   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 社会科学および自然科学のどの分野でもそうであるが、経営学においても数学は強力なツールであり、欠かせない実力のひとつである。ただ、経営学を学ぶ学生にとって、それは単なる机上の空論ではなく、実際に身についた、現場で使いこなせるスキルになっていなければならない。この科目では、経営科学における数学的手法の中からごく初歩的な事項を選び、その理論的な部分を講義で学んだあと、実際の数値例についてパソコンを用いた実習で確かめてみる。また、計算結果はできるだけ表やグラフの形で表現することにより、自分の身についたものにしようとする。したがって、ここではパソコンをある程度自由に使いこなせることが必要であり、その意味で、同時に開講されている「情報処理基礎」の授業とあわせ履修することが望ましい。 |                  |    |
| 授業の内容                       | この授業で取り上げるトピックスは、すべてこれからの専門課程で扱う分野から入門的な部分を選んだものである。「統計学」はアンケートや実態調査によって得られた大量のデータの中から、客観的な裏づけのもとに有用な結論を引き出そうとする学問である。ここでは、特に記述統計に重点を置き、データの整理や可視化の方法について学ぶ。「オペレーションズリサーチ, OR」は経営数学の中でも最も重要なツールのひとつである。ここでは、その中から代表的な手法をいくつか取り上げてみる。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 成績は期末試験とレポートおよび授業への参加度により総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 詳細なプリントを配布する予定である。  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報処理基礎  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 重丸伸二  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1640研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 主としてパソコン実習である。授業日程に従って、各回に出される課題に取り組み、その結果をE-Mailで提出させる。学生は授業に出席し、演習を行い、課題に対するレポートを提出すること。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 表計算, 文書作成, データ処理と可視化, プログラミング   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>現代社会において、パソコンは文房具の一種とみなされるほどに普及し、その活用と使いこなしがあらゆる分野で要求されている。</p> <p>この科目ではパソコンを利用して行う基本的な情報処理について、いくつかの代表的ソフトウェアを用いて、その基本から簡単な応用までを系統的に学ぶことに目標を置く。</p> <p>今後、年次進行に伴い、レポートの提出や授業での発表にパソコンの使用を要求される機会が増えるだろう。専門課程の授業が本格化する前のこの段階で確実に身につけておいてほしい能力である。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>パソコンを用いた情報処理のためのアプリケーションソフトの中で最も基本的なものに、①ワードプロセッサ(ワープロ)、②表計算、③プレゼンテーションソフトがある。これらのうちワープロと表計算の活用方法について、経営学科の学生向けの課題を実習することを通して学んでいくことにする。また、これらのソフトウェアの成り立ちや仕組みについての理解を深めるため、オブジェクト指向プログラミングの実習も行う。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 成績は演習の取り組み状況と課題レポートで評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 適宜プリントを配布する予定である。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報リテラシー   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 重丸伸二  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1640研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 主としてパソコン実習である。授業日程に従って、各回に出される課題に取り組み、その結果をE-Mailで提出させる。学生は授業に出席し、演習を行い、課題に対するレポートを提出すること。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 表計算, 文書作成, データ処理と可視化, プログラミング   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>現代社会において、パソコンは文房具の一種とみなされるほどに普及し、その活用と使いこなしがあらゆる分野で要求されている。</p> <p>この科目ではパソコンを利用して行う基本的な情報処理について、いくつかの代表的ソフトウェアを用いて、その基本から簡単な応用までを系統的に学ぶことに目標を置く。</p> <p>今後、年次進行に伴い、レポートの提出や授業での発表にパソコンの使用を要求される機会が増えるだろう。専門課程の授業が本格化する前のこの段階で確実に身につけておいてほしい能力である。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>パソコンを用いた情報処理のためのアプリケーションソフトの中で最も基本的なものに、①ワードプロセッサ(ワープロ)、②表計算、③プレゼンテーションソフトがある。これらのうちワープロと表計算の活用方法について、経営学科の学生向けの課題を実習することを通して学んでいくことにする。また、これらのソフトウェアの成り立ちや仕組みについての理解を深めるため、オブジェクト指向プログラミングの実習も行う。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 成績は演習の取り組み状況と課題レポートで評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 適宜プリントを配布する予定である。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |



|                             |  |                  |                                  |
|-----------------------------|--|------------------|----------------------------------|
| 授業科目名                       | 情報学入門  |                  |                                  |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岡部 正幸  |                  |                                  |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1567研究室  |                  |                                  |
| オフィスアワー                     |  |                  |                                  |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、課題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。  |                  |                                  |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択。ただし、平成26年度以前に入学した経営情報学科の学生は必修 |
| 履修要件                        | 経営学科，経営情報学科 1年次対象  |                  |                                  |
| 免許等指定科目                     | 高一種免（商業）選択 （平成21年度以前入学生対象）   |                  |                                  |
| キーワード                       | 2進数，情報量，CPU，メモリ，オペレーティングシステム，アルゴリズム，ネットワーク   |                  |                                  |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では、情報学を学ぶ上で必要なコンピュータ・ネットワークに関する構成要素および動作原理について講義する。コンピュータ上での計算原理やネットワークによる情報伝達の仕組みに関する基礎知識の習得を目標とする。                       |                  |                                  |
| 授業の内容                       | 情報の概念と表現方法，論理演算などの理論的背景について説明した後，CPU，メモリ，OS，ユーザインタフェースなどのコンピュータを構成する要素と機能，また，データベースなどの応用プログラム，インターネットをはじめとするネットワークの基礎について講義する。 |                  |                                  |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%，課題レポート30%の割合で評価する。   |                  |                                  |
| テキスト                        | 井内善臣ほか 著 『情報科学の基礎 改訂版』実教出版，2010  |                  |                                  |
| 参考文献                        | 必要に応じて，授業中に紹介する。   |                  |                                  |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | レポート，試験等において，本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は，大学の規則（学則）に基づいて対応する。  |                  |                                  |

|                             |  |                  |                                  |
|-----------------------------|--|------------------|----------------------------------|
| 授業科目名                       | 経営情報概論   |                  |                                  |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岡部 正幸  |                  |                                  |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1567研究室  |                  |                                  |
| オフィスアワー                     |  |                  |                                  |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、課題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。  |                  |                                  |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択。ただし、平成26年度以前に入学した経営情報学科の学生は必修 |
| 履修要件                        | 経営学科，経営情報学科 1年次対象  |                  |                                  |
| 免許等指定科目                     | 高一種免（商業）選択 （平成21年度以前入学生対象）   |                  |                                  |
| キーワード                       | 2進数，情報量，CPU，メモリ，オペレーティングシステム，アルゴリズム，ネットワーク   |                  |                                  |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では、情報学を学ぶ上で必要なコンピュータ・ネットワークに関する構成要素および動作原理について講義する。コンピュータ上での計算原理やネットワークによる情報伝達の仕組みに関する基礎知識の習得を目標とする。                       |                  |                                  |
| 授業の内容                       | 情報の概念と表現方法，論理演算などの理論的背景について説明した後，CPU，メモリ，OS，ユーザインタフェースなどのコンピュータを構成する要素と機能，また，データベースなどの応用プログラム，インターネットをはじめとするネットワークの基礎について講義する。 |                  |                                  |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%，課題レポート30%の割合で評価する。   |                  |                                  |
| テキスト                        | 井内善臣ほか 著 『情報科学の基礎 改訂版』実教出版，2010  |                  |                                  |
| 参考文献                        | 必要に応じて，授業中に紹介する。   |                  |                                  |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | レポート，試験等において，本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は，大学の規則（学則）に基づいて対応する。  |                  |                                  |

|                         |  |                  |                   |
|-------------------------|--|------------------|-------------------|
| 授業科目名                   | 経営統計学入門  |                  |                   |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 韓 虎剛   |                  |                   |
| 研究室の場所                  | 広島キャンパス 1636研究室  |                  |                   |
| オフィスアワー                 | 火曜日 13時から14時30分、場所は研究室   |                  |                   |
| 授業の形式・方式                | 主に対面授業方式で授業を進める。基本的に毎回レポート課題を課し、次回の授業開始時に提出させる。時には、授業の後半に課題を課し、その場で一人ずつ課題の解答をチェックし、それを出席の確認とする。学生は、授業に出席すること、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。  |                  |                   |
| 単位数(時間数)                | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営情報学科は必修、経営学科は選択 |
| 履修要件                    | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |                   |
| 免許等指定科目                 | 高一種免(商業)選択 (平成21年度以前入学生対象)   |                  |                   |
| キーワード                   | 代表値、分散、確率、確率分布、離散確率変数とその分布、連続確率変数とその分布   |                  |                   |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | この科目は、経営情報学における最も基本的な学部共通専門科目の一つである。目標として、①経営統計学の基本概念、例えば、平均、分散、分布、とりわけ確率分布の理解と計算；②Excelを駆使して、基本計算が出来ること。  |                  |                   |
| 授業の内容                   | 情報化社会において、統計学の知識は以前にも増して重要である。本講義ではまず統計学の基礎的な概念、例えば、平均、分散、分布、とりわけ確率分布とその性質を説明した上、具体的な課題を通して統計理論における基本的な考え方の理解を徹底させてから、経営統計資料の整備、応用事例について平易に論じる。また、統計処理にはパソコンが不可欠であるので、レポートとしてMicrosoft Excelを用いた統計処理を課す。 |                  |                   |
| 成績評価の方法                 | 課題レポート、小テストなど20%、期末テスト80%で総合評価する。  |                  |                   |
| テキスト                    | テキスト：大屋 幸輔「コア・テキスト 統計学」(第2版)新世社 (2011)   |                  |                   |
| 参考文献                    |  |                  |                   |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 「経営統計学入門」を合格しないと、「経営統計学」を履修することを認めない。  |                  |                   |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営史   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 山内 昌斗 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、授業中に配布するレジュメ・資料などのプリントの内容を中心に、講義形式で授業を実施する。1回の講義につき1つのテーマに関する講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。宿題(レポート課題)を課し、指定した期日に提出させる。学生は授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択(平成21年度以前の入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | 経営学概論、経営戦略論、経営管理論、人的資源管理論、ビジネスモデル論、組織文化論、グローバル経営論、イノベーション論、組織行動論  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では、経営史の初学者を対象にして、企業の生成・発展、衰退あるいは再生の歴史を当時の各国の政治、経済、社会などと関連づけて説明する。本科目の目標は、企業経営に関する歴史と分析概念、基礎的内容を理解させることである。これによって、経営学の専門歴内容を理解するための素地を身につけることができる。本科目は、経営学科の専門科目・経営戦略マーケティング分野に区分されている。一方、経営情報学科カリキュラムには、自由選択科目に区分されている。                                 |                  |    |
| 授業の内容                       | イギリス、アメリカ、日本を中心に、企業経営の生成・発展、衰退、再生の歴史を、事例研究の成果を活用しながら説明していく。具体的には、産業革命期における近代企業の成立にはじまり、大衆消費社会の出現と大量生産体制の確立、ビッグビジネスの発展、事業部制の確立と分権的体制への移行といった一連の経営的事象を概観する。さらには、個々の企業の事例のなかから、経営者が何を考えどのように行動したのかという、意思決定の領域に関する説明を加えていく。歴史的な視点から、企業経営の内容と主要な論点についての理解を深めさせる。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験80%、課題レポート(宿題)20%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題は授業のなかで提示する。各レポートの提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。宿題用のレポートはA4用紙とする。記載分量は2000字程度とする。期末試験では、主に授業内容の中から問題を作成し試問する。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書は使用しない。毎回の授業でレジュメ・資料などのプリントを授業開始時に無料で配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | F・アマトリー, A・コリー(2014)『ビジネス・ヒストリー:グローバル企業誕生への道程』ミネルヴァ書房   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修予定者は、授業後に配布する次回講義予定のレジュメ・資料などのプリントを精読し、次回の授業までに予習すること。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | ビジネスプラン作成  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 矢澤 利弘  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1641研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書をベースに講義を行う。また、この授業では、講義だけではなく、受講生同士によるグループワークあるいは個人ベースによるビジネスプランの作成演習とプレゼンテーションを実施する。受講生は、授業時間内でプレゼンテーションを行うとともに、期末には各学生が個別に作成する事業計画書を提出することが求められる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択 (平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | アントレプレナーシップ, 事業計画書, 事業構想, イノベーション, ベンチャー企業, ビジネスモデル, 市場調査  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本講義の目的は各自が作成したビジネスアイデアをブラッシュアップし、実際に市場競争に耐えるような事業として成立する事業計画に練り上げることである。具体的には、①各学生が持っているビジネスアイデアについて、その事業化が可能かを調査し、事業立案から会社設立、成長軌道に乗るまでの5年間の事業計画を策定することによって、各自の夢をカタチにするための道すじを描くことが本講義の目的となる。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義は講義のみならず、グループワークを中心とする演習を重視する。本講義の中心はアイデアを実現させるためのビジネスプランの策定であり、ワークショップ形式を中心に授業を進める。具体的には、ビジネスアイデアをどのように事業化するのかについて、受講生各自(あるいはグループ)が実現可能な収益モデルを策定し、発表、評価を受けるといった実践的な内容となる。受講生はそれぞれ自分が起業すると仮定したうえで、段階を踏んで自らの①事業コンセプトの決定、②ビジネスモデルの策定、③5年間の成長計画の作成を行う。受講生は講義時間内にそれをプレゼンテーションし、講評を受ける。最終的には受講生各々が自分のアイデアを実現させるために必要な事業計画書を完成させることになる。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | ビジネスプランレポート: 40%<br>プレゼンテーション: 40%<br>授業への取り組み状況: 20%<br>この科目で単位を取得するためには、提出するレポートと授業時間内でのプレゼンテーションの両方で合格することが必要です。どちらかが欠けた場合は単位を付与しません。   |                  |    |
| テキスト                        | グロービス経営大学院『新版グロービスMBAビジネスプラン』ダイヤモンド社   |                  |    |
| 参考文献                        | 日本公認会計士協会東京会編『起業家・ベンチャー企業支援の実務』ぎょうせい、2011年   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本講義はグループワークを多用するため、授業は欠席をしないこと。欠席すると、他のメンバーに迷惑がかかることを念頭において受講する。<br>日頃から新聞記事やビジネス雑誌、インターネット上のビジネス情報などに触れることによって、ビジネスの最新動向に関する情報収集を行うように心がけること。ビジネスプランの作成やプレゼンテーションの準備は各自、授業時間外に行う必要があるため、相応の自習時間を要する。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | ベンチャービジネス論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 朴 唯新  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1827  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時(電話、Eメールでのアポイントメントが必要)  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学部 2年・3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択 (平成21年度以前入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | 企業家精神、ベンチャービジネス、イノベーション   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本授業の目的は2つある。第一に、受講者が企業家精神とベンチャービジネスについて理解できることである。第二に、受講者がこれらの概念および枠組みを活用し、多様なベンチャービジネスの現象について論理的に考える能力・スキルを修得することである。本授業は経営学科におけるマネジメント系の講義として、経営戦略論に続く講義として位置づけられる。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 本授業では金井一頼先生の『ベンチャー企業経営論』を参考文献として使う。ベンチャービジネス論において企業家精神とベンチャービジネスの仕組みを理解することで、現実においてベンチャービジネスの経営を理解するのに役に立つ。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 評価方法および配分は、①中間(40%)、期末試験・発表(40%)、②自学自習によるレポート(20%)とする。  |                  |    |
| テキスト                        |   |                  |    |
| 参考文献                        | 金井一頼『ベンチャー企業経営論』有斐閣   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | リスクマネジメント論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 朴 唯新  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1827  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時(電話、Eメールでのアポイントメントが必要)  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年・3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | リスクマネジメント、企業の社会的責任 (Corporate Social Responsibility)、企業統治、企業の不祥事  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本授業の目的は2つある。第一に、受講者がリスクマネジメントの本質と企業の社会的責任について理解できることである。第二に、受講者がこれらの概念および枠組みを活用し、多様な経営上のリスクマネジメントについて論理的に考える能力・スキルを修得することである。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 本授業では上田和勇の『事例で学ぶリスクマネジメント入門』を参考文献として使う。リスクマネジメントと企業倫理においてリスクの根本的な性質と企業の社会的責任を理解することで、現実においてリスクマネジメントと企業倫理の問題を理解するのに役に立つ。      |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 評価方法および配分は、①中間 (40%)、②期末試験・発表 (40%)、③自学自習によるレポート(20%)とする  |                  |    |
| テキスト                        |   |                  |    |
| 参考文献                        | 上田和勇『事例で学ぶリスクマネジメント入門 - 復元力を生み出すリスクマネジメント』<br>Richard H. Girgenti et al.. 『不正・不祥事のリスクマネジメント』日本経済新聞<br>谷本寛治『CSR企業と社会を考える』NTT出版 |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |  |                  |  |
|-----------------------------|--|------------------|--|
| 授業科目名                       | イノベーション論   |                  |  |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 朴 唯新   |                  |  |
| 研究室の場所                      | 1827   |                  |  |
| オフィスアワー                     | 随時(電話、Eメールでのアポイントメントが必要)   |                  |  |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業を行う。   |                  |  |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 |  |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象   |                  |  |
| 免許等指定科目                     |  |                  |  |
| キーワード                       | イノベーション、MOT(Management of Technology)、技術経営   |                  |  |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本授業の目的は2つある。第一に、受講者がイノベーションとMOT(Management of Technology)について理解できることである。第二に、受講者がこれらの概念および枠組みを活用し、多様なイノベーションの現象について論理的に考える能力・スキルを修得することである。 |                  |  |
| 授業の内容                       | 本授業では一橋大学イノベーション研究センターの『イノベーション・マネジメント入門』を参考文献として使う。イノベーションと経済発展との関係を理解することで、現実において企業のイノベーション活動を理解するのに役に立つ。                                |                  |  |
| 成績評価の方法                     | 評価方法および配分は、①中間、期末試験(80%)、②自学自習によるレポート(20%)とする。   |                  |  |
| テキスト                        |  |                  |  |
| 参考文献                        | 一橋大学イノベーション研究センター 『イノベーション・マネジメント入門』 日本経済新聞社   |                  |  |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |  |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 技術マネジメント論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 長内 厚 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 座学とケースディスカッション   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 製品開発, 経営戦略, 技術経営, 製造業  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | このクラスは, 一般的に技術経営と呼ばれている「製造業のための経営戦略論」を, 家電製品や食品などの身の回りの製品開発事例を紹介しながら解説し, 技術経営の基礎的な理論を理解することを目標とします。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 製造業にとって技術や製品を開発して, 付加価値創造を実現するためには, どのような戦略とマネジメントが必要なのかについて, 事例を交えながら解説します。企業がなにかの製品開発事業で失敗をするということはよくあることですが, その原因は, 企業の技術力が低かったから, あるいは単に怠けていたからという単純な原因であることは希です。企業は, 事業の成功のために相当な努力と開発投資を行っています。それでもなお, 失敗に直面する原因はどこにあるのか, 技術がビジネスの成果に結びつくにはどのような条件が必要なのかを考えます。(現在未定ですが, 最終日は工場見学を予定しています。) |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席確認と理解度の評価のため, 各受講日の最後にレポートを出してもらいます。(最終日除く)<br>集中講義で連日となりますのでレポート課題の負荷はそれほどかからないようにし, レポートのみで評価をします。最終試験は行いません。(就活等欠席時にも後日レポート提出すれば成績加点に考慮します)   |                  |    |
| テキスト                        | なし   |                  |    |
| 参考文献                        | 長内厚・榊原清則(2012)『アフターマーケット戦略』白桃書房。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | シラバスの各回授業計画は変更する場合があります。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | ビジネスモデル論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 矢澤 利弘   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1641研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。講義日程に従って、主に下記の教科書に従って講義形式で実施する。1回の講義に付き、20ページから30ページ程度のスピードで講義を進める。主として講義形式で進めていくが、後半期からは講義形式に加えて、学生による課題の発表形式を併用する。受講生は、予習をしたうえで授業に出席し、集中して講義を聴講し、課題に取り組む必要がある。また、授業時間内での課題発表と学期末試験を受けることが義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | ビジネスモデル, イノベーション, オープン・イノベーション, プラットフォーム, 新規事業, ロングテール, フリーミアム, ソーシャルネットワーク   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 知的経済が進行するなかで、社会は常に新しく優れたビジネスモデルを求めている。また、革新的なビジネスモデルを創出した起業家は、いつの時代でも変革を社会にもたらしてきた。本講義の目的は、受講生がビジネスモデルに対する知見を深め、新しいビジネスモデルを創出するための力を修得することである。具体的には、1) 基本的なビジネスモデルの類型について、自分の言葉で説明することができるようになること、2) ビジネス社会において、新しいビジネスモデルを生み出していくことができるようになること、3) 実際の具体的な企業のビジネスモデルを的確に分析できるようになること、が本講義の最終的な目標となる。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義は、1) ビジネスモデルの理論と分析方法を知る、2) ビジネスモデルの個別事例を知る、3) ビジネスモデルを創出するための基礎力を付ける、の3段階で成り立っている。具体的には、第1回、第2回では、ビジネスモデルの定義から始まり、ビジネスモデルの構成要素について解説する。いかにして実際の企業のビジネスモデルを把握し、分析していくかという視点と方法論を講義する。第3回から第5回までは、ビジネスモデルの類型について見ていく。ビジネスモデルの代表的なパターンを理解してもらうことになる。第6回から第9回までは実際の企業を例に取り上げながら、ビジネスモデルの実際を詳細に検討していく。第10回以降は受講生が実際に新しいビジネスモデルを創出するためにはどうすればよいのかについて講義する。最終段階として、受講生自らが起業家として、新しいビジネスモデルを創出するための視点を提供する。第13回以降は本講義の総仕上げである。受講生はそれぞれ指定された課題に基づいてプレゼンテーション資料を作成し、授業時間内に発表を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業内でのプレゼンテーション40%、期末試験60%の割合で評価する。期末試験は指定された試験日の授業時間内ですべての資料持ち込み可で実施する。試験は、主に授業内でのプレゼンテーション課題と関連する内容で出題する。プレゼンテーションと学期末試験受験のどちらか一方でも欠けた場合は単位は付与されないので注意すること。  |                  |    |
| テキスト                        | 池本正純監修・カデナクリエイト著『図解&事例で学ぶビジネスモデルの教科書』マイナビ, 2014   |                  |    |
| 参考文献                        | エイドリアン・スライウォッキー『ザ・プロフィット』ダイヤモンド社, 2002。寺本義也・近藤正浩・岩崎尚人『ビジネスモデル革命 第3版』生産性出版, 2011。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本講義は、極めて実践的な内容であるため、積極的に授業の準備を行い、プレゼンテーションなどに対する取り組みが必要となる。日頃から新聞やビジネスニュース番組などによって、世界の企業の最新動向について情報を得ることが望まれる。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 知識経営論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 矢澤 利弘  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1641研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、講義&グループワークと受講生によるプレゼンテーション実習を実施する。2週間ごとにレポートとグループ発表が課される。レポートの提出は課題発表日の授業開始時である。受講生は授業に出席し、グループワークに取り組み、レポートを作成したうえで、課題発表を行わなければならない。また、期末試験を受験する必要がある。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | アントレプレナーシップ, ベンチャー企業, 起業家, 動的経営モデル, バリューチェーン, 先行投資, 営業活動, 財務活動, 政策提言, 財務分析, ビジネスモデル  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 自分の夢を実現させるための起業は楽しいものであると同時に、会社を急成長させるためには相応の苦しみを伴う。本講義は、ベンチャー企業の創業と急成長を疑似体験することによって、起業家精神の醸成を図ることを目標としている。本講義の受講生には、起業家が創出したベンチャー企業が、どのように成長し、高収益企業として勝ち残ることができるのかについて、あらゆる情報を用いて、事業戦略を立案できるようになるための能力を身に付けることが期待される。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義は、科目名が示すとおり、極めて実践的な授業である。広島県内の実際のベンチャー企業を題材として取り上げ、それらの企業の現状と課題を把握し、自分が当該企業の経営者だったとすれば、どのような意思決定をすべきなのだろうかという訓練を行っていく。グループワークによる戦略立案を通じて、自ら考え行動するというアントレプレナーシップを醸成する。第1回と第2回はベンチャー企業の特徴と企業行動の分析方法を解説する。第3回以降はグループワークを行い、翌週に検討内容を発表するという組み合わせで授業が構成されている。第3回と第4回はケースとして選択したベンチャー企業の起業動機を明らかにし、現在のビジネスモデルに対する検討と改善提案を行う。第5回と第6回は経營業績指標、第7回と第8回は創業者の理念とリーダーシップの特徴、第9回と第10回は先行投資活動、第11回と第12回は営業活動、第13回と第14回は財務活動を取り上げる。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークによるプレゼンテーション：グループ発表について評価する。発表日にプレゼンテーション資料（パワーポイントで作成）のプリントアウトを提出する(25%)</li> <li>・個人提出レポート：A4用紙3枚以内のレポートを個人ベースで作成し、発表日に提出する。(50%)</li> <li>・学期末試験(25%)</li> <li>・授業時間内の有意義な発言などの授業貢献は上記の枠外で加点評価する。</li> </ul>   |                  |    |
| テキスト                        | 松田修一『会社の読み方』日本経済新聞社、2006   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本講義はグループワークによる演習と発表が中心となるため、授業は欠席しないこと。欠席した場合、グループ全体に迷惑がかかることになる。また、本講義は、グループによるプレゼンテーションとそれに伴うレポート提出が複数回予定されている。したがって、相応の授業時間外学習のほか、他のグループ内メンバーとの共同作業及び情報共有が必要である。宿題、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（学則）に基づいて対応する。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営組織論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小原 久美子   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1721 研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | メールにより予約してもらって、その上で実施する。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書各章に関する内容を講義形式で実施する。1回の講義につき1章の講義を想定し、授業時間1時間30分を想定した授業を行う。また、教科書以外にプリント資料も活用し授業内容の補足および復習を行い、必要によって質問・回答の時間も設ける。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 経営学関連の各種資格取得内容を含む  |                  |    |
| キーワード                       | 組織とは何か, 組織における合理性と人間性, 経営戦略と組織, 組織の基本形態と展開, 組織構造とプロセス, 組織能力, 組織文化のマネジメント, 組織変革, グローバル企業組織, M&A, ネットワーク組織, ポスト・モダンの組織論, 組織倫理  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | <p>実際の企業経営は「組織」を通じて遂行されることから、経営組織論は、現代経営学において必要不可欠な専門科目として確固たる位置を占めている。組織なくして、その管理はありえないのであり、経営組織の理解は経営学を学ぶ学生にとって必須である。</p> <p>1. 経営組織論の本質を究明し、現代組織における人間の生き方について考える。2. 本格的に現代の経営組織理論の専門的知識を身につける。3. 組織変革技術や組織人としてのスキルとマナーを身につける。</p>  |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>現実の企業の経営活動は、生身の生きた(有機的)人間による組織体を通じてその活動がなされている。そのため、経営組織論の中心的テーマは、組織における人間の問題であり、必然的に企業組織の合理性と人間性の尊重という2つの中心問題をかかえ、これをどう調和させていくかという経営管理課題と密接に関わりながら展開されている。また今日では、経営組織の社会性や革新性も極めて重要課題となってきた。本授業では、経営管理の母体である経営組織の本質を究明するとともに、組織形態と組織構造、組織文化、組織の権限・責任、組織リーダーシップ、組織における人間の動機づけなどの問題を考察し、組織を管理する現代経営者の機能に意味のある示唆を与えようとするものである。また今日の経営組織論は新たな理論が続出しているため、今日の経営環境の変化に対応した、新しい経営組織理論についても考察する。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業参画度(平常点)20%、宿題および小テスト30%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。試験は、指定された教室内で持込可で実施する。問題形式は、多肢選択および論述形式を採用する。   |                  |    |
| テキスト                        | A.教科書:佐久間信夫・小原久美子編『現代経営組織要論』創成社、2016年4月出版予定。また、適宜、プリント教材も配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 参考書:小原久美子『経営学における組織文化論の位置づけとその理論的展開』白桃書房、2014年1月。佐久間信夫・坪井順一編『リーディングスリニユーアル経営学—現代の経営組織論』学文社、2005年。その他、授業中に紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | ①現実の企業組織に関心を持ち、自分なりの問題意識をもって参加してほしい。②本授業は、平常点も含めて総合的に評価するので出席等も評価点となる。③経営組織論は、大学で初めて学ぶ学問であるため、質問等がある場合には積極的に応じていく。質問表の配布や質問の回答の時間を設ける。また、メールや対面による質問にも応じていく。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 組織文化論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小原 久美子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1721研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | メールにて予約をしてもらい、その上で実施する。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の研究書各章に関する内容を講義形式で実施する。1回の授業につき、1章の講義を想定し、授業時間1時間30分を想定した授業を行う。また、研究書以外にプリント資料も活用し授業内容の補足および復習を行い、必要によって質問・回答の時間も設ける。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 経営学関連の各種資格取得内容を含む   |                  |    |
| キーワード                       | 経営理念, 組織規範, 企業文化・経営文化・組織文化, 組織文化のマネジメント, 解釈主義, 機能主義, 環境対応と組織文化, 経営戦略と経営資源, 組織構造と組織文化, 経営成果と組織文化, リーダーシップ, 組織行動プロセスと組織文化, サブカルチャー, 創発  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 2年次で講義した「経営組織論」の新たな展開方向として位置づけられるのが「組織文化論」である。本授業の目標は、以下の通り。1. これまでの組織文化の理論を体系的に理解する。2. 各々の組織独自の価値観である組織文化を築き上げ、組織および組織における個人がより主体的に環境に挑戦することの意義を理解し、これからの新しい経営を考える。3. 組織における合理性と人間性の調和を図るマネジメント思考とその実践的スキルを身につける。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 企業における組織文化研究は、1980年代以降に盛んに論じられるようになったが、企業・経営組織を文化の視点から論ずる研究はそれ以前に遡ることができる。本講義では、組織文化論の経営学史的意義や経営組織論の中での位置づけをなした上で、現代組織文化論を、アメリカにおける主要な組織文化論研究者の論理を取り上げ体系立てて検討し展開する。また、組織文化と組織および組織構造、経営戦略、組織文化のマネジメントとの相互関係を明らかにし、現代組織文化論の経営学的考察を試み、さらなる今後の研究課題と方向性を探究する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業参画度(平常点)20%, 宿題および小テスト30%, 期末試験50%の割合で総合的に評価する。試験は、指定された教室内でテキスト持ち込み可で実施する。問題形式は、多肢選択および論述形式を採用する。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書: 小原久美子『経営学における組織文化論の位置づけとその理論的展開』白桃書房、2014年1月。その他、適宜、プリント教材を配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 参考文献は、授業中に随時、多数紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | ①現実の企業組織の経営理念や組織文化に関心を持ち、自分なりの問題意識をもって参加してほしい。また、事前にテキストを読み予習をして授業に望んでもらいたい。②組織文化論も大学で初めて学ぶ学問であるので、メールや対面による質問等に積極的に応じていく。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | グローバル経営論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小原 久美子   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1721研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メールにて予約をしてもらい、その上で実施する。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書各章に関する内容から課題を設定し、各自がレポート形式でまとめた上で、ケース研究によるグループ・ディスカッションを実施する。1回の授業につき約1章の講義を想定し、授業時間1時間30分を想定した授業を行う。また、教科書以外にプリント資料も活用し、授業内容の補足および復習を行い質問・回答の時間も設ける。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択 (平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | グローバル経営, グローバル・マネジメント, グローバル組織の進化論, グローバルな組織文化と変革, グローバル・マインドセット, グローバル・マネジャーの能力開発, 複雑性のマネジメント, 組織能力(コア・コンピタンス), 競争優位性   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本授業では、グローバル企業の経営戦略および経営組織と管理に着目し、グローバル経営論として展開する。国際経営やグローバル経営に関する理論のみならず、グローバル企業の経営ケース研究により、マネジメントの実践的スキルを身につける。1. グローバル企業の経営諸理論を理解する。2. グローバル経営者の役割と使命について考える。3. グローバル化とローカル化を同時に達成するためのマネジメント技法を経営ケースを通じて習得する。                               |                  |    |
| 授業の内容                       | 企業の多国籍化過程においては、グローバル化と同時にローカル化を達成していかなければならない課題を負っている。この課題に取り組もうとするのが、今日のグローバル経営であると捉えることができる。この課題の解決のためには、グローバル企業における戦略や組織構造に合わせて、文化的な価値観による調整と統合を行っていきけるメカニズムの確立やプロセスの解明が重要であると考えられる。本講義ではこのような視点から、グローバル企業の組織と経営管理の探究を通じて、グローバル経営論へと展開していく。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業参画度(平常点)20%, 宿題および小テスト30%, 期末試験50%の割合で総合的に評価する。試験は、指定された教室内でテキスト持ち込み可で実施する。問題形式は、多肢選択および論述形式を採用する。   |                  |    |
| テキスト                        | A. 教科書: 吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・他著『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣ブックス、2013年。   |                  |    |
| 参考文献                        | ①岩谷昌樹『ケースで学ぶ国際経営—進化する企業の戦略と組織—』中央経済社、2005年。②根本孝編著『グローバル経営—国際経営の進化と深化』同文館出版、2004年。③吉原英樹編『国際経営論への招待』有斐閣ブックス、2006年。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | ①本授業「グローバル経営論」を受講する前に、「組織文化論」を受講することが望ましい。多様な文化を備えた組織間関係のマネジメントの問題は、グローバル経営を考える上で重要である。<br>②テキストは読み易いものとなっているので予習をしておくこと。<br>③メールや対面による質問等にも積極的に応じていく。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営管理論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 平野 実  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1646 研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時 (メールで事前に予約をすること)   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業では、教科書を中心に、経営管理論の主要な概念および枠組みを解説する。受講者の積極的な発言および授業への参加を期待する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免 (商業) 選択 (平成21年度以前入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | 経営管理, 科学的管理, 人間関係論, 知識経営論, グローバル化   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本講義の目的は2つある。第1に、受講者が、経営管理論の基礎的な概念と枠組みを理解することである。第2に、受講者が、これらの概念および枠組みを活用し、多様な経営現象に関して論理的に考える能力・スキルを修得することである。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 経営管理論の歴史的な系譜を、科学的管理法, 人間関係論, 近代管理論, 知識経営論などの概要を順に学習し、その現代的な意義を考察する。今日の企業環境の変化に注意しながら、授業を通して次の問題意識を深めてほしい。(1) 生産性の概念の発達と変化 (2) 創業者や専門経営者の登場, および、起業家の社会的役割 (3) 生活の質的变化やグローバル化がもたらす外部環境の変化 (4) 組織の競争優位構築における知識創造の役割 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席, 授業態度, 授業への参加度および課題発表60%, 期末試験40%の割合で総合的に評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | a. 教科書 平野実『国際合弁企業と知識創造』晃洋書房, 2007<br>b. 参考書 塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏男『経営管理』有斐閣, 1999。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 日本経済新聞を精読し講義に臨むことを受講の条件とする。また、講義中の飲食, 携帯電話の使用, 私語雑談, 居眠り, 途中退室は厳禁する。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 人的資源管理論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 平野 実   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1646 研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時 (メールで事前に予約をすること)  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業では、教科書を中心に、人的資源管理論の主要な概念および枠組みを事例を取り上げながら解説する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免 (商業) 選択 (平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | キャリア形成, 雇用管理, 目標管理制度, 専門職制度  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本講義の主要な目標は、受講者が企業で展開されている多様な人事制度を学習することによって、人的資源管理論に関する理解を深めることである。  |                  |    |
| 授業の内容                       | サービスの経済化・高齢化が進行するわが国の企業経営において、終身雇用制が大きく変貌するとともに、さまざまな雇用形態が登場し多様化している。講義では、このような経営組織の環境変化の中で、社員のキャリア形成と、経営組織の求める人材の確保のあり方について考察する。特に、社員のキャリア形成を達成すると同時に、新製品や新サービスの開発に必要な戦略的な人材を確保する、という視点から、社内公募制、目標管理制度、専門職制度、教育研修制度、および、給与・賞与などの報酬制度を中心とする総合的な人事制度について、日本企業や外国企業の優れた事例を取り上げながら学習する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席, 授業態度, 授業への参加度および課題発表60%, 期末試験40%の割合で総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | a. 教科書 奥林康司編著『入門 人的資源管理』中央経済社, 2003。   |                  |    |
| 参考文献                        | b. 参考書 平野実『国際合併企業と知識創造』晃洋書房, 2007。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 日本経済新聞を精読し講義に臨むことを受講の条件とする。また、講義中の飲食、携帯電話の使用、私語雑談、居眠り、途中退室は厳禁する。   |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 組織行動論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 平野 実   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1646 研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時 (メールで事前に予約をすること)  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業では、教科書を中心に、組織行動論の主要な概念および枠組みを事例を取り上げながら解説する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | リーダーシップ, モティベーション, グローバル化  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本講義の主要な目標は、組織内で示される人々の多様な行動や態度について学習することによって、組織行動論に関する理解を深めることである。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 組織は、計画された連絡調整のための公式の構造であり、二人以上の人間が関わって共通の目標を達成する目的を持つ。このような組織の特徴は、権威と分業である。組織行動論は、このような組織の中で起こる人の行動と態度についての体系的な学問である。講義では、従業員のリーダーシップ能力の向上や職務満足感を高める「人のマネジメント」を考察する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席, 授業態度, 授業への参加度および課題発表60%, 期末試験40%の割合で総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書 奥林康司編著『入門 人的資源管理』中央経済社, 2003。  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 日本経済新聞を精読し講義に臨むことを受講の条件とする。また、講義中の飲食, 携帯電話の使用, 私語雑談, 居眠り, 途中退室は厳禁する。   |                  |    |

|                     |  |                  |    |
|---------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名               | 流通システム論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)        | 栗島 浩二  |                  |    |
| 研究室の場所              | 広島キャンパス 1648研究室  |                  |    |
| オフィスアワー             | メールでのアポイントにより適時  |                  |    |
| 授業の形式・方式            | 対面講義形式です。ただし、講義は、マーケティング論と同様、出席カードのコメントや質問等を参考にしながら機動的に行います。「講義はみんなで作るもの」が第一の講義コンセプトです。また事例研究として、ビデオなどを使いながら流通の現場に迫りたいと思います。この「理論と実践」が、第二の講義コンセプトです。   |                  |    |
| 単位数(時間数)            | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目             | 高一種免(商業) 選択(平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード               | 経済の暗黒大陸「流通」、卸売業の存立根拠、総合商社、小売業態、百貨店、スーパー、チェーンストア理論、マーチャンダイジング、コンビニエンス・ストア、専門量販店、流通革命  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け  | 「流通」と聞くと、「製造メーカーと消費者の間に挟まった無駄なもの」と思う人が多いかもしれません。「できれば無いほうが、価格が下がっていい」と思う人もいますでしょう。しかし、本講義では、流通が果たしている役割の本質を理論的体系から理解し、事例を取り上げながら実際の流通企業が顧客に提供している価値に迫ります。カリキュラム上では、1年次開講のマーケティング論の下位理論(細分)となります。   |                  |    |
| 授業の内容               | 「流通革命論」や「問屋無用論」を踏まえて、まず流通が果たしている役割、機能を中心に基礎理論を学びます。次に現代の流通業の概要について触れ、イノベーションとバリュー・チェーンをキーワードに、小売業と卸売業の諸形態を具体的に挙げて理解を深めていきます。事例としては百貨店、スーパー、コンビニエンス・ストア、専門店、総合商社などを挙げます。また経営環境の変化、特にIT革命やグローバル化によって流通システムがどのように変化しつつあるのかを製造業・卸売業・小売業の相互関連から考察していきます。後半小売業に関する講義では、マーチャンダイジングと呼ばれる「小売の科学」を、日常私達が目にしているお店などを事例に解説いたします。 |                  |    |
| 成績評価の方法             | 中間レポート30点(3回)、最終試験40点、毎時限「コメントカード」の提出を求め、日常点30点とします。(合計100点満点) 試験は持ち込み不可で実施します。出題の傾向や対策は講義中に適時指示を行ないますので、聞き逃さないようにしてください。特に最終講義では、総括とともに出題に関する十分な解説を行いますので必ず出席してください。尚、評価の基準については講義の開始時に詳細を説明いたします。  |                  |    |
| テキスト                | 石原 武政, 竹村 正明 [2008] 『1からの流通』 碩学舎。  |                  |    |
| 参考文献                | ・伊藤元重[2003] 『流通戦略の新発想』 PHP新書。・田島義博[2004] 『歴史に学ぶ 流通の進化』 日経事業出版センター。   |                  |    |
| 備考(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 学部共通専門科目の「マーケティング論」を履修済みであることが望ましい。販売士検定2級、3級の出題内容を含んでいるので、資格取得のアドバイスも適時行う予定である。   |                  |    |

|                     |   |                  |    |
|---------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名               | 営業マーケティング論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)        | 栗島 浩二   |                  |    |
| 研究室の場所              | 広島キャンパス1648研究室  |                  |    |
| オフィスアワー             | メールでのアポイントにより適時   |                  |    |
| 授業の形式・方式            | 対面講義形式です。ただし、部分的にグループワークショップやプレゼンテーションを行ってまいります。「講義はみんなで作るもの」が第一の講義コンセプトです。また事例研究として、ビデオなどを見ると同時に、営業活動に関するグループ討議を行う予定です。また、ゲストスピーカーにも来ていただく予定です。この「理論と実践」が、第二の講義コンセプトです。  |                  |    |
| 単位数(時間数)            | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目             | 高一種免(商業) 選択(平成21年度以前入学生対象)  |                  |    |
| キーワード               | 顧客創造, 営業改革, プロセス管理, アウトプット管理, 環境分析, 販売管理論, 組織営業, 顧客心理, 営業戦略, 予算, 営業の倫理, 営業管理様式, 提案営業, データベース営業, IT  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け  | <p>「営業はキツイ」「会社に入っても営業職だけはやりたくない」そんなことを思っている学生諸君は少なくないと思います。それは、日本企業の営業と呼ばれる部門がどのような仕組みになっているのかについて正しい知識が不足していたからです。</p> <p>この講義では、近年やっと進んできた営業研究の理論的枠組みとそれに関する事例を紹介しながら、「営業の本質」を理解してもらいたいと考えています。カリキュラム上は、1年次開講のマーケティング論、2年次開講の流通システム論の下位理論(細分)となります。</p>   |                  |    |
| 授業の内容               | <p>主な内容は以下の通りです。1, 人的販売論, 販売管理論から営業研究までの理論的展開 2, マーケティングと営業の関係 3, 日本企業の営業部門が抱えている課題 4, 顧客関係マネジメント(顧客管理とは) 5, 顧客の心理 6, 営業改革とはなにか 7, 組織間関係と営業革新 8, 競争と環境分析 9, 多様な営業プロセス 10, 営業の業績評価 11, 営業の倫理と社会的責任 このほかに、イントロダクション(1回目)とグループ・ワークショップ, プレゼンが入り合計15回となります。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法             | <p>最終レポート60点、日常点40点(合計100点満点) 試験期間の筆記試験はありません。尚、評価の基準については講義の開始時に説明いたします。グループでの討議や発表に積極的に参加したと評価される方には、日常点の加算があります。積極的な参加を望みます。</p>   |                  |    |
| テキスト                | 石井淳蔵[2012]『営業をマネジメントする』岩波書店。<+4006032498>   |                  |    |
| 参考文献                | <p>・高嶋克義[2002]『営業プロセス・イノベーション』有斐閣。・石井, 嶋口編[1995]『営業の本質』有斐閣。・小林, 南編[2004]『流通・営業戦略』有斐閣アルマ。</p>  |                  |    |
| 備考(履修上のアドバイス・禁止行為等) | <p>「マーケティング論」「流通システム論」を履修済みであることが望ましい。また、指定のテキストは適時使用しますが、授業で配布されるレジюмеやノートの整理が重要となります。</p>   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | マーケティングリサーチ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 川原 直毅 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。シラバスに沿ってレクチャーを行う。授業は一方通行の授業にならないように、学生と対話をしながら、理解度を深めていく。また、必要に応じて、プリント資料の配布をし、解説を行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業) 選択(平成21年度以前の入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | マーケティング, マーケティング・リサーチ, ニーズ・ウォンツ, 4P, ブランド, 定性調査, 定量調査, STP, 消費者購買行動, AIDMA, 消費者調査, 需要調査, 商圈調査  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | わが国経済はバブル崩壊後、景気の長期低迷、完全失業率の上昇など、先行き不透明な厳しい状況下にある。このような環境変化のなか、企業のマーケティング活動は、より多様化、個性化する消費者ニーズに対応するため、とりわけCSを重視し、顧客との関係性を構築しようとしている。講義では、まず企業活動としてのマーケティング活動、及びマーケティング・リサーチの基礎を学び、マーケティング・リサーチが果たす様々な役割について身近な事例から、特に消費者購買行動、ライフスタイルの変化について理解を深める。特に、データ分析では、質疑応答しながら授業を進めていく。  |                  |    |
| 授業の内容                       | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業活動としてのマーケティング</li> <li>2. マーケティングの諸見解</li> <li>3. マーケティング・リサーチとは何か</li> <li>4. マーケティング・リサーチの諸類型</li> <li>5. マーケティング・リサーチの機能</li> <li>6. マーケティング・リサーチの進め方</li> <li>7. 消費者の捉え方</li> <li>8. 消費者分類と価値観</li> <li>9. 消費者とブランドの関連</li> <li>10. データ解析</li> <li>11. 事例研究</li> </ol> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 平常点と学期末試験の合計点によって評価する。1/3以上の欠席は評価の対象としない。  |                  |    |
| テキスト                        | プリント、資料を適宜配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 田代義範編著『現代日本企業の経営学』ミネルヴァ書房 2004<br>広島修道大学商学部起業家精神研究チーム編『起業家精神教育の試論的アプローチ』フタバ図書 2007   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 毎回出席をとります。授業中の携帯電話、メール交換は他の学生の迷惑になりますので電源を切ってください。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 初級簿記   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 五百竹 宏明   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1726研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時（メールで事前予約を取ること）  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。講義形式で行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位（30時間）  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科、経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 手形、減価償却、税金、決算、試算表、精算表、財務諸表   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 簿記入門で習得した知識をもとに、各種取引の会計処理方法とその背景にある会計の基礎的理論を理解する。<br>簿記入門と合わせて履修することにより、日商簿記検定3級に対応した知識を習得できる。<br>会計学、経営学、経済学など経営情報学部で開講されている科目を学ぶうえで基礎となる科目である。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 以下の項目について、テキストを参照しながら解説する。また、ワークブックへの記入を通じて、受講生に簿記のスキルを身につけてもらう。<br>「手形」「有価証券」「固定資産」「資本金と引出金」「収益と費用」「税金」「帳簿と伝票」「決算と財務諸表」                         |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 定期試験で評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 『新検定簿記講義／3級商業簿記』中央経済社<br>『新検定簿記ワークブック／3級商業簿記』中央経済社   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 前期開講の「簿記入門」とあわせて受講することが望ましい。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 応用簿記   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 五百竹 宏明   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1726研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時（メールで事前予約を取ること）  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。講義形式で行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位（30時間）  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科、経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 手形、減価償却、税金、決算、試算表、精算表、財務諸表   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 簿記入門で習得した知識をもとに、各種取引の会計処理方法とその背景にある会計の基礎的理論を理解する。<br>簿記入門と合わせて履修することにより、日商簿記検定3級に対応した知識を習得できる。<br>会計学、経営学、経済学など経営情報学部で開講されている科目を学ぶうえで基礎となる科目である。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 以下の項目について、テキストを参照しながら解説する。また、ワークブックへの記入を通じて、受講生に簿記のスキルを身につけてもらう。<br>「手形」「有価証券」「固定資産」「資本金と引出金」「収益と費用」「税金」「帳簿と伝票」「決算と財務諸表」                         |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末テストで評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 『新検定簿記講義／3級商業簿記』中央経済社<br>『新検定簿記ワークブック／3級商業簿記』中央経済社   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 前期開講の「簿記入門」とあわせて受講することが望ましい。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 工業簿記   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 足立 洋   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。後述のテキストに沿った内容を、レジュメを配布して解説します。そのうえで、理解の深化のため、適宜テキストの例題を用いた演習も行います。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業) 選択(平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | 材料費、労務費、経費、製造直接費、製造間接費、仕掛品、製品、売上原価、原価計算  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【目標】<br/>日商簿記2級程度の工業簿記の知識を身につけ、財務諸表作成や原価管理への工業簿記の役立ちを理解すること。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】<br/>1年次科目「簿記入門」「初級簿記」の発展編として、製造業の製造活動に特化した工業簿記の手続きを学びます。</p>   |                  |    |
| 授業の内容                       | この講義では、製造業を念頭に置きながら、財務諸表の作成や原価の管理を目的とした、ものづくりの活動を記録するための基本的な手法を学びます。具体的には、1年次科目の「簿記入門」「初級簿記」で学習した内容を振り返りながら、日商簿記2級レベルの工業簿記を学びます。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期末試験：50%</li> <li>・ 小試験：各15%×2回=30%</li> <li>・ 平常点(宿題提出・受講態度等)：20%</li> </ul>   |                  |    |
| テキスト                        | TAC株式会社(簿記検定講座)編著『合格テキスト 日商簿記2級工業簿記 Ver.8.0』TAC出版、2015年。   |                  |    |
| 参考文献                        | 必要に応じて適宜指示します。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算問題を扱いますので、必ず電卓を持参してください。</li> <li>・ 講義は日商簿記検定2級の受験を視野に入れながら進めます。ただし、授業時間数の関係で、テキストの内容のうち一部については取り扱いません。したがって、検定の受験を希望する学生については、必要に応じて個別に相談に応じます。</li> </ul> |                  |    |

|                     |   |                  |    |
|---------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名               | <b>中級簿記</b>   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)        | 橋上 徹  |                  |    |
| 研究室の場所              | 1724号研究室 (広島キャンパス)  |                  |    |
| オフィスアワー             | メールでのアポイントにより随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式            | 対面授業ですが、参加学生の方々の理解度を確認するために、発表をしていただくことも想定しています。  |                  |    |
| 単位数(時間数)            | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                | 経営学科 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目             |   |                  |    |
| キーワード               | <small>〔「中級簿記」において、初級簿記に新しく追加される主要キーワードです。〕銀行勘定簿類表、売買目的有価証券(債権目録)、債権の譲渡利息の処理、クレジット売掛金、営業外支払(受取)、手形の買戻(書換)、手形の支払、電子記録簿類、貸付引当金(貸倒引当金)、一括評価、営業債権および営業外債権に対する貸倒引当金繰入額の繰上計算(繰上区分)、商品(製品)保証引当金、売上割戻引当金、退職引当金、その他の引当金(賞与引当金、役員退職引当金など)、債務の保証、引当(期)法による実質取引の処理、販売のつぎと一致原則に基き得る当該取引の実質(仕入)と形式(仕入)の相違、相対論議、貸倒引当金の繰上、有価証券の評価(譲渡引当金の繰上)、有価証券の譲渡・帰属、譲渡の取扱い(定率法、全額返上取引)、等有価証券(のれん)、目利利用のソフトウェア、その他の無形固定資産)、投資その他の資産(譲渡目的の債券(譲渡引当金)、定額法)、子会社株式、関係会社株式、長期前払費用、収益・費用の認識基準(引渡基準、出稼基準など)、役員収益・役員費用、研究開発費、創立費・開業費など、法人税・住民税・事業税、本業費、設備減価、借入金(借入金)処理、取引先(債権・債務)の整理、実質目的の有価証券(引渡基準による場合など)、譲渡引当金の繰上、貸倒引当金の繰上、各関係者の区分表示、株主資本等変動計算書、資本金(設け、増資)、資本剰余金(資本準備金、その他の資本剰余金)、剰余金の配当(剰余金の処分、剰余金の処分、株主資本の計数の変動)、会社の合併、未支払引当金の意義・目的、本文関係取引の処理、本文関係取引における決算手続(財務諸表の合併など)</small> |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け  | <p>日商簿記検定2級(商業簿記)に合格できるレベルの知識を身に着けることを目標とします。日商簿記検定2級は、高校程度の商業簿記および工業簿記(初歩的な原価計算を含む)を修得し、財務諸表を読む力をつけ、企業の経営状況を把握することによって、取引先等の経営状況も分かるようになり、株式会社の経営管理に役立つ知識を修得することが目標です。日商簿記検定2級レベルの知識は、大学の学生の方々にとって、将来、経営関係業務に従事するかどうかにかかわらず、ビジネスパーソンとして、最低限身に着けておきたい知識です。</p>  |                  |    |
| 授業の内容               | <p>「簿記入門」「初級簿記」で学んだ、簿記の基礎知識を踏まえ、日商簿記検定2級レベルの簿記スキルが身に付くような講義内容とします。「出席カード」などで、参加学生の方々の理解度を見ながら、進行の内容を検討することも想定しています。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法             | <p>概ね、期末試験70%、受講態度30%で評価する予定です。なお、試験は、自筆のノート、電卓、筆記用具のみ持ち込み可とします。</p>  |                  |    |
| テキスト                | <p>『検定簿記講義(商業簿記)2級(平成28年版)』(中央経済社) 『検定簿記ワークブック(商業簿記)2級』(中央経済社)</p>  |                  |    |
| 参考文献                | <p>上野清貴著『企業簿記の基礎(第2版)』(中央経済社)</p>   |                  |    |
| 備考(履修上のアドバイス・禁止行為等) | <p>MUSTではありませんが、「簿記入門」「初級簿記」を履修済み、又は並行して履修すると、理解が楽になると思われます。簿記は、知識の積み上げにより、次のステップに行けるという特徴があり、予習・復習を、毎回必ずするように習慣付けをお願いします。</p>  |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 会計学概論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 橋上 徹   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1724号研究室 (広島キャンパス)   |                  |    |
| オフィスアワー                     | メールでのアポイントにより随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 基本的には、対面授業ですが、可能な限り、受講学生の方々の意見を求め、授業への学生の皆さんの参加を促し、それにより理解が深まるような、形式にしていきたいと考えています(授業の進め方は、受講学生の皆さんのご意見を聞きながら、考えていければと思います。)。平成26年度は、「黒字倒産」や「(損失の)飛ばし」といった、具体的な問題会計処理事例(ケーススタディ)に興味のある学生の方々のご意見を踏まえて進行しました。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科・経営情報学科 2年次対象(なお、「開放科目」につき、経営情報学部以外の学生の方々も受講可能)  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 利益計算構造、企業会計原則、実現主義、発生主義、費用配分の原則、認識、測定、キャッシュフロー、原価計算基準、棚卸資産の評価、金融商品会計、引当金   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 会計の知識は、公的機関を含むあらゆるビジネスシーンにおける対応を図る際に避けて通れない知識です。「会計学概論」の目標は、「財務会計論」「原価計算論」等の会計学の基本根幹科目の理解をスムーズにできるための基礎を培い、①会計学の基本的な意義を理解し、②基本的な財務諸表の作成、③基本的な財務諸表の分析等が行えるようになることを目標として授業を進めます。なお、「会計学概論」は、会計研究者、実務において経理や会計税務専門家を目指す学生のみならず、実務において経営管理・営業・購買・人事・総務・財務(資金運用・資金調達)・広報・SE(システムエンジニア)・プログラミング職等を目指す方々、金融機関勤務を目指す方々、公的機関勤務を目指す方々等にとっても、身に着けていただきたい基本科目の1つと考えています。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 最初に、利益計算の仕組みを学修します。次に、重要な基本的財務諸表である「損益計算書」「貸借対照表」に計上される諸項目やその諸要素を構成する具体的な諸項目の定義及び認識・測定の基準や方法を学修します。さらに、黒字倒産の原因分析等のために注目をされている重要な基本的財務諸表である「キャッシュ・フロー計算書」を学び、利益とキャッシュの関連性について理解をしていただきます。また、在庫(商品・製品等)のコスト計算の仕組み(原価会計)に関しても、基本的な理解ができることを目標にします。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 概ね、期末試験70%、受講態度30%で、総合的に評価する予定です。なお、試験は、自筆のノート、電卓、筆記用具のみ持ち込み可とします。   |                  |    |
| テキスト                        | 加藤盛弘他著『会計学の基本 基礎から現代の会計―(第2版)』(森山書店)、高橋賢著『テキスト原価会計(第2版)』(中央経済社)、中央経済社編『新版 会計法規集<第8版>』(中央経済社)   |                  |    |
| 参考文献                        | 桜井久勝著『財務会計講義(第17版)』(中央経済社)、日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編『平成28年版 会計監査六法』(日本公認会計士協会出版局)  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 会計系科目は、知識の積み上げにより、次のステップに行けるという特徴があり、特に、復習を、毎回必ずするように習慣付けをお願いします。  |                  |    |

|                         |   |                  |    |
|-------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                   | 財務会計論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 橋上 徹  |                  |    |
| 研究室の場所                  | 1724号研究室 (広島キャンパス)  |                  |    |
| オフィスアワー                 | メールでのアポイントにより随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 基本的には、対面授業ですが、可能な限り、受講学生の方々の意見を求め、授業への学生の皆さんの参加を促し、それにより理解が深まるような、形式にしていきたいと考えています(授業の進め方は、受講学生の皆さんのご意見を聞きながら、考えていければと思います。)  |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                    | 経営学科・経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                 |   |                  |    |
| キーワード                   | 金融商品取引法会計、会社法会計、税務会計、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準、有価証券報告書、国際財務報告基準、コンバージェンス・アドプション、連結財務諸表、企業結合会計、税効果会計、リース会計、研究開発費・ソフトウェア会計、減損会計、ヘッジ会計、退職給付会計、純資産の部の会計、IR(Investor Relations)、財務諸表分析、企業価値分析   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | 財務会計の主要な目的は、投資家(株主、潜在的株主)への情報開示による資金調達、債権者と株主の利害関係の調整、法人課税のベースとなる所得の基礎となる利益算定等が挙げられます。まず、財務会計の目的を、法令にそって理解をすることを目標にします。近年の投資家(株主、潜在的株主)への情報開示による資金調達のための財務諸表は、財務情報開示を行う企業単体の財務情報ではなく、その企業が形成する企業集団の財務情報である「連結財務諸表」です。そのため、連結財務諸表の理解を目標にします。また、近時、企業の買収や、事業部門の分離などが頻繁に行われるようになり、いわゆるM&A(Merger & Acquisition: 企業合併および買収)会計や事業分離会計を身に着けることが望まれます。その他、「会計学概論」で、説明を予定していない、税効果会計、外貨換算会計、企業価値分析、財務諸表分析、国際財務報告基準(IFRS: International Financial Reporting Standards)、IR(Investor Relations)の開示・分析 等に関し、理解をすることを目標にします。 |                  |    |
| 授業の内容                   | 受講学生の方々の状況を見ながら検討しますが、概ね次のような内容を予定しています。<br>①財務報告制度、②連結会計、③企業結合会計、④税効果会計、⑤外貨換算会計、⑥ヘッジ会計、⑦リース会計、⑧研究開発費・ソフトウェア会計、⑧減損会計、⑨退職給付会計、⑩財務諸表分析、⑪企業価値分析、等。   |                  |    |
| 成績評価の方法                 | 概ね、受講態度30%、期末レポート70%で、総合的に勘案し、評価する予定です。   |                  |    |
| テキスト                    | 田中健二著『財務会計入門(第4版)』(中央経済社)、内藤文雄著『会計学エッセンス』(中央経済社)、中央経済社編『新版 会計法規集<第7版>』(中央経済社)   |                  |    |
| 参考文献                    | 桜井久勝著『財務会計講義(第16版)』(中央経済社)、八田進二=橋本尚『財務会計の基本を学ぶ(第10版)』(同文館出版)、日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編『平成27年版 会計監査六法』(日本公認会計士協会出版局)   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 「会計学概論」の履修はMUSTではありませんが、履修をしておくこと、理解が楽になると考えます(「会計学概論」を受講されていない学生の方々に関しても、財務会計が確実に理解できるようフォローさせていただく予定です。)。会計系科目は、知識の積み上げにより、次のステップに行けるという特徴があり、特に、復習を、毎回必ずするように習慣付けをお願いします。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 原価計算論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 足立 洋  |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。後述のテキストに沿った内容を、レジュメを配布して解説します。そのうえで、理解の深化のため、適宜テキストの例題を用いた演習も行います。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択(平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | 工業簿記, 個別原価計算, 総合原価計算, 標準原価計算, 直接原価計算  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【目標】<br/>財務諸表作成や原価管理への原価計算の役立ちを理解したうえで、日商簿記2級「工業簿記」における原価計算の基礎を理解すること。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】<br/>1年次科目「簿記入門」「初級簿記」の発展編として、製造業を中心とした原価計算の手続きを学びます。</p>  |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>この講義では、製造業を念頭に置きながら、そうした企業で生産・販売されるモノの原価を計算するための基本的な技法を学び、その役割について考えます。</p> <p>私たちは日常生活の中で様々なモノやサービスを購入して利用しています。これを企業側から見てみましょう。その販売価格の中で必要な利益を得るには、その商品を作るのにいくらかかっているのか、あといくらか下げればよいのかを何らかの形で把握しておかなければなりません。原価は、そのための情報源の一つでもあります。</p> <p>本講義では、こうした原価計算の技法を学んだうえで、原価計算が果たしている役割について学習する予定です。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期末試験：50%</li> <li>・ 小試験：各15%×2回=30%</li> <li>・ 平常点(宿題提出状況, 受講態度等)：20%</li> </ul>   |                  |    |
| テキスト                        | 高橋賢『テキスト原価会計 第2版』中央経済社, 2015年。  |                  |    |
| 参考文献                        | 必要に応じて適宜指示します。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 計算問題を扱いますので、必ず電卓を持参してください。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 管理会計論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 足立 洋  |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。後述のテキストの内容を配布レジュメを用いながら解説します。理解の深化のため、必要に応じて適宜DVD教材やケーススタディ、グループ発表なども行います。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択(平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | 企業目標, 戦略, 経営計画, 利益計画, 予算, 原価計算, 計画と統制   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【目標】<br/>会計情報が経営管理にどのように役立てられるのかについて、基本的な項目の理解をはかること。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】<br/>経営学科の1・2年次学部・学科専門科目の内容、中でも会計科目の内容を土台として、会計を経営管理の視点から考察する内容になります。</p>   |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>多くの皆さんは、1年次の簿記の授業で財務諸表の作成方法を学んだと思います。これに対してこの授業では、財務諸表をはじめとした会計情報を経営サイドから見てみます。すなわち、企業の経営において財務諸表をはじめとした会計情報がどのように役立てられるかという点について、事例なども交えながら解説します。</p>                                       |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験：50%</li> <li>・グループワーク：20%</li> <li>・その他平常点(宿題・小レポートの提出状況, 受講態度など)：30%</li> </ul>   |                  |    |
| テキスト                        | 上総康行『ケースブック 管理会計』新世社, 2014年。  |                  |    |
| 参考文献                        | 必要に応じて適宜指示します。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業科目名には「会計」の語が付されていますが、経営管理の視点から会計を学びますので、経営学やマーケティングで扱う内容にも触れることがあります。そちらの分野にも興味を持って授業に臨むことをお勧めします。</li> <li>・計算問題を扱う場合がありますので、電卓を持参してください。</li> </ul> |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 戦略会計論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 足立 洋   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。後述のテキストに沿って、配布レジюмеを用いて解説します。理解の深化のため、実際の企業のケース・スタディを通じた経営分析や、グループ発表等を実施します。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科・経営情報学科3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択(平成21年度以前入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | 戦略, ビジネスモデル, 安定性, 収益性, キャッシュ・フロー, 企業価値   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【目標】<br/>財務諸表から企業のビジネスモデルや経営状態を読み解く基本的な手法を習得すること。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】<br/>経営学科の1・2年次学部・学科専門科目の内容、中でも会計科目の内容を土台として、会計情報とビジネスモデルの統合的な理解を目指す内容になります。</p>   |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>皆さんが1・2年次の会計科目で学んだように、商品の仕入れ・販売から家賃の支払いに至るまで、企業の様々な活動は、勘定科目と数字によって財務諸表という形にまとめられます。</p> <p>戦略会計論では、逆にこの財務諸表からその企業の活動の核となる戦略やビジネスモデルを読み解き、あるいはその企業の経営状態を分析する方法について、現実に存在する企業の財務諸表などを用いながら解説します。</p>  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験：50%</li> <li>・小試験：15% (1回)</li> <li>・平常点(宿題提出状況, グループ発表, 受講態度等)：35%</li> </ul>  |                  |    |
| テキスト                        | 松村勝弘・松本敏史・篠田朝也・西山俊一『新訂版 財務諸表分析入門—Excelでわかる企業力—』株式会社ビーケイシー, 2015年。  |                  |    |
| 参考文献                        | 必要に応じて適宜指示します。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表を用いて企業活動の状況を分析するには、財務諸表から分析指標の計算を行うことと、その企業の事業のあり方を知っていることの両方が必要となります。財務諸表を使った分析指標の計算とあわせて、ニュース・新聞・雑誌などで見られる企業の事業活動に関する情報にも関心を持って学んでもらうと理解が深まると思います。</li> <li>・計算問題を扱いますので、必ず電卓を持参してください。</li> </ul> |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営分析論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 足立 洋   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。後述のテキストに沿って、配布レジュメを用いて解説します。理解の深化のため、実際の企業のケース・スタディを通じた経営分析や、グループ発表等を実施します。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科・経営情報学科3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択(平成21年度以前入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | 戦略、ビジネスモデル、安定性、収益性、キャッシュ・フロー、企業価値  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【目標】<br/>財務諸表から企業のビジネスモデルや経営状態を読み解く基本的な手法を習得すること。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】<br/>経営学科の1・2年次学部・学科専門科目の内容、中でも会計科目の内容を土台として、会計情報とビジネスモデルの統合的な理解を目指す内容になります。</p>   |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>皆さんが1・2年次の会計科目で学んだように、商品の仕入れ・販売から家賃の支払いに至るまで、企業の様々な活動は、勘定科目と数字によって財務諸表という形にまとめられます。</p> <p>戦略会計論では、逆にこの財務諸表からその企業の活動の核となる戦略やビジネスモデルを読み解き、あるいはその企業の経営状態を分析する方法について、現実に存在する企業の財務諸表などを用いながら解説します。</p>  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験：50%</li> <li>・小試験：15% (1回)</li> <li>・平常点(宿題提出状況、グループ発表、受講態度等)：35%</li> </ul>  |                  |    |
| テキスト                        | 松村勝弘・松本敏史・篠田朝也・西山俊一『新訂版 財務諸表分析入門—Excelでわかる企業力—』株式会社ビーケイシー、2015年。   |                  |    |
| 参考文献                        | 必要に応じて適宜指示します。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・財務諸表を用いて企業活動の状況を分析するには、財務諸表から分析指標の計算を行うことと、その企業の事業のあり方を知っていることの両方が必要となります。財務諸表を使った分析指標の計算とあわせて、ニュース・新聞・雑誌などで見られる企業の事業活動に関する情報にも関心を持って学んでもらうと理解が深まると思います。</li> <li>・計算問題を扱いますので、必ず電卓を持参してください。</li> </ul> |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 会計実務   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 橋上 徹   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1724号研究室 (広島キャンパス)   |                  |    |
| オフィスアワー                     | メールでのアポイントにより随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 基本的には、対面授業ですが、可能な限り、参加学生の方々の意見を求め、授業への学生の皆さんの参加を促し、それにより理解が深まるような、形式にしていきたいと考えています(授業の進め方は、参加学生の皆さんのご意見を聞きながら、考えていければと思います。)   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科・経営情報学科 3年・4年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 経理・決算実務、金融規制と会計実務、金融商品取引法会計実務、会社法会計実務、税務会計実務、国際税務実務、国際財務報告基準(IFRS:International Financial Standards)対応実務、銀行業会計実務、証券業会計実務、保険業会計実務、投資信託会計実務、デリバティブ関連会計実務、コーポレート・ガバナンスと内部統制報告書、会計監査、統合報告書、中小企業金融と中小企業会計・監査  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この授業の1つ目の目的は、学生の方々が、実際に組織に入って直面する会計の課題を実務的に把握し、その解答を把握・理解することにあります。2つ目は、会計が資金融通(金融)の基本にある点を理解し、資金調達においてどのように会計を活用するのか、また、資金拠出者である金融機関は、どのように会計を見ているのかという点を実務的に把握し、その解答を把握・理解することにあります。3つ目は、会計学の応用分野であるコーポレート・ガバナンス、内部統制報告書制度、統合報告の潮流、会計監査等の内容を実務的に把握し、その解答を把握・理解することにあります。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 概ね、次のような順序で講義をする予定ですが、受講学生の方々の意見も取り入れて進行を検討したいと思います。①金融規制における会計実務の位置づけ、②経理・決算実務の基礎、③法人課税税務実務、④国際税務の理論と実務、⑤国際財務報告基準(IFRS)対応実務、⑥中小企業金融と中小企業会計・監査、⑦銀行業会計実務、⑧証券業会計実務、⑨保険業会計実務、⑩投資信託会計実務、⑪会計監査、⑫コーポレート・ガバナンス及び内部統制報告書制度と会計、⑬統合報告制度という新潮流  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 概ね、受講態度30%、期末レポート70%で、総合的に勘案し、評価する予定です。  |                  |    |
| テキスト                        | 薄井彰編著『MBAアカウンティング - 金融サービスと会計 - 』(中央経済社)<br>清水孝=川村義則『MBAアカウンティング-アカウンティングの基礎』(中央経済社)   |                  |    |
| 参考文献                        | 日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編『平成28年版 会計監査六法』(日本公認会計士協会出版局)   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 会計実務は、経理担当希望者のみならず、経営管理・企画・財務・営業・広報・購買等の組織部署においても関連性のある重要な実務の知識です。また、金融機関においては、実務上、会計実務の位置づけは非常に重要なため、金融機関のことを理解したいという学生の方々も受講を奨励します。  |                  |    |

|                         |   |                  |    |
|-------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                   | NPO会計論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 五百竹 宏明  |                  |    |
| 研究室の場所                  | 1726研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                 | 随時（メールでアポイントメントを取ること）   |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 対面授業。講義形式で行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 2単位（30時間）   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                    | 経営学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                 |   |                  |    |
| キーワード                   | NPOセクター、or 市民セクター or サードセクター、ソーシャルアカウンティング、ソーシャルビジネス、ソーシャルキャピタル、ファンドレイジング、寄付、非営利組織  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | <p>○特定非営利活動法人（NPO法人）、一般社団・財団法人、公益社団・財団法人、社会福祉法人、医療法人など、わが国の非営利法人制度について理解できるようになる。</p> <p>○NPO法人会計基準、公益法人会計基準、社会福祉法人会計基準など主要な会計基準の特徴を理解できるようになる。</p>                                   |                  |    |
| 授業の内容                   | <p>従来の企業と行政を中心とする二元的社会（20世紀型社会）では解決できない社会的課題が山積している。そのような状況のなか、NPOセクター（市民セクター）の役割が社会的にも経済的にも重要になってきている。</p> <p>授業では、まずNPOセクターについてさまざまな視点から考察する。そして、NPOセクターの主要な非営利法人の会計制度について概観する。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                 | 期末試験で評価する。  |                  |    |
| テキスト                    | 開講時に指示する。   |                  |    |
| 参考文献                    | 授業の進行に応じて適宜紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) |   |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 税務会計論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中田 清 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。下記テキストを用いて講述する。また、毎時間、プリントを配布する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択(平成21年度以前の入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | 法人税法, 財務会計, 会社法会計, 金融商品取引法合計, 企業会計, 益金, 損金, 確定決算主義, 申告調整, 所得金額, 法人税額, 確定申告。  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>株式会社は利益(所得)を計上すると、その約40%を税金として税務署などに支払っている。法人税, 住民税および事業税がそれである。この授業では、これらのうち法人税を取り上げ、その所得金額の計算方法やその考え方, および税額の計算方法を学ぶ。</p> <p>株式会社は会社法により、帳簿を備えて取引に関する事項をすべて記帳(会計処理)し、期末に損益計算書および貸借対照表を作成しなければならない。こういった企業会計に基づいて、法人税の所得金額は計算される。したがって、取引の会計処理=仕訳の方法, 財務諸表の作成方法やその内容を理解していることが前提となる。簿記入門, 応用簿記, 会計学概論, 財務会計論を履修していることが望ましい。</p> <p>なお、この授業を通じて税務会計能力検定試験(法人税法)3級程度の実力が養成される。</p>             |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>法人税額は、所得金額に法人税率を乗じることによって算出される。その所得金額は、益金から損金を差し引いて求められる。他方、企業会計上の当期利益は、収益から費用を控除して計算される。益金と収益、損金と費用がそれぞれ等しいのであれば問題ないのであるが、実際には法人税法の論理や経済・社会政策的な点から、それらの間には違いが見られる。どういった点が違うのか、なぜ違うのか、そのようなことを学ぶのがこの授業の中心テーマである。</p> <p>講義計画は次の通りである。①税務会計の概念、②法人税の納税主体と課税所得、③所得金額の計算(益金と損金)、④販売収益、⑤棚卸資産と売上原価、⑥有価証券の譲渡原価・評価損益、⑦固定資産と減価償却費、⑧繰延資産の償却、⑨営業費用(給与、寄附金、交際費、租税公課)、⑩受取配当金、⑪引当金と準備金、⑫特別償却、⑬法人税額の計算。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 課題(50%)と期末試験(50%)により評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 中田信正著 『税務会計要論』同文館。   |                  |    |
| 参考文献                        | 全国経理教育協会編『演習法人税法』清文社。(これは、法人税法能力検定試験(3級, 2級)のためのテキストです)  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 毎時間、電卓を持参すること。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 金融論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 塚原 一郎  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1723   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面、講義形式ですが、演習も随時取り入れます   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | マネーストック、電子マネー、利子率の決定要因、債券価格、景気、マクロ金融政策、日本銀行、公開市場操作、インフレ・ターゲット、ゼロ金利政策、量的緩和、リーマンショック   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この授業の目標は、金融の基礎概念やマクロ金融政策の考え方と実際の動きについて理解をして、自分で説明できるようになることです。さらに、国内外の金融政策に関連するニュースを理解できるようになることです。この科目は経営学科のファイナンス分野の専門科目で、理解を深めるには、この分野の他の科目も履修することが望まれます。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 金融(お金のやりとり)は日常生活を送る上では欠かせない現象です。さらに、金融政策は景気、日々の暮らしに影響を及ぼします。この授業では、貨幣とは何か、金利はどのように決定するのかを学習します。次に、日本銀行のマクロ金融政策はどのような時に実施されるか、どのような手段で実施し、どのような経路で現実経済に影響を与えるかを考えます。最後に、実際の日本の金融政策の中でも特にゼロ金利政策と量的緩和政策を学習します。国内外の経済・金融に関する最新の話題も適宜紹介します。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験50%、レポート50%  |                  |    |
| テキスト                        | 家森信善(2016)『ベーシックプラス金融論』中央経済社   |                  |    |
| 参考文献                        | 授業の中で紹介します   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しくは初回の授業で説明します。</li> <li>・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。</li> </ul>   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | マクロファイナンス論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 塚原 一郎   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1723  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面、講義形式ですが、演習も随時取り入れます  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | マネーストック、電子マネー、利子率の決定要因、債券価格、景気、マクロ金融政策、日本銀行、公開市場操作、インフレ・ターゲット、ゼロ金利政策、量的緩和、リーマンショック  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業の目標は、金融の基礎概念やマクロ金融政策の考え方と実際の動きについて理解をして、自分で説明できるようになることです。さらに、国内外の金融政策に関連するニュースを理解できるようになることです。この科目は経営学科のファイナンス分野の専門科目で、理解を深めるには、この分野の他の科目も履修することが望まれます。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 金融(お金のやりとり)は日常生活を送る上では欠かせない現象です。さらに、金融政策は景気、日々の暮らしに影響を及ぼします。この授業では、貨幣とは何か、金利はどのように決定するのかを学習します。次に、日本銀行のマクロ金融政策はどのような時に実施されるか、どのような手段で実施し、どのような経路で現実経済に影響を与えるかを考えます。最後に、実際の日本の金融政策の中でも特にゼロ金利政策と量的緩和政策を学習します。国内外の経済・金融に関する最新の話も適宜紹介します。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験50%、レポート50%   |                  |    |
| テキスト                        | 家森信善(2016)『ベーシックプラス金融論』中央経済社  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業の中で紹介します  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しくは初回の授業で説明します。</li> <li>・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。</li> </ul>  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 地域金融論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 塚原 一郎   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1723  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面、講義形式ですが、演習も随時取り入れます  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 地域経済、中小企業金融、地方銀行、信用金庫、協同組織金融機関、リレーションシップ・バンキング、金融庁、公的金融、地域通貨  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業の目標は、地域経済の状況の見方とそれに対する金融の果たす役割、政府の地域経済活性化政策を理解したうえで、説明できるようになることです。さらに、地域金融に関連するニュースを理解できるようになることです。この科目は経営学科のファイナンス分野の専門科目で、理解を深めるには、この分野の他の科目も履修することが望まれます。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 政府が地方創生を重要政策にあげるなど、地域経済についての関心は高まっています。この授業では、地域経済の現状をどのように把握するのかを学んだうえで、地域経済に対する地方銀行、協同組織金融機関、公的機関の役割と政府の政策について詳しく学習します。国内外の経済・金融に関係する最新の話題も適宜紹介します。             |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験50%、レポート50%   |                  |    |
| テキスト                        | 特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料配布をします   |                  |    |
| 参考文献                        | 家森信善(2016)『ベーシックプラス金融論』中央経済社、<br>その他は、授業の中で紹介します  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しくは初回の授業で説明します。</li> <li>・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。</li> </ul>  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | マイクロファイナンス論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 塚原 一郎   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1723  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面、講義形式ですが、演習も随時取り入れます  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 地域経済、中小企業金融、地方銀行、信用金庫、協同組織金融機関、リレーションシップ・バンキング、金融庁、公的金融、地域通貨  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業の目標は、地域経済の状況の見方とそれに対する金融の果たす役割、政府の地域経済活性化政策を理解したうえで、説明できるようになることです。さらに、地域金融に関連するニュースを理解できるようになることです。この科目は経営学科のファイナンス分野の専門科目で、理解を深めるには、この分野の他の科目も履修することが望まれます。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 政府が地方創生を重要政策にあげるなど、地域経済についての関心は高まっています。この授業では、地域経済の現状をどのように把握するのかを学んだうえで、地域経済に対する地方銀行、協同組織金融機関、公的機関の役割と政府の政策について詳しく学習します。国内外の経済・金融に係る最新の話も適宜紹介します。                |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験50%、レポート50%   |                  |    |
| テキスト                        | 特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料配布をします   |                  |    |
| 参考文献                        | 家森信善(2016)『ベーシックプラス金融論』中央経済社、<br>その他は、授業の中で紹介します  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しくは初回の授業で説明します。</li> <li>・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。</li> </ul>  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 金融システム論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 塚原 一郎  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1723   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面、講義形式ですが、演習も随時取り入れます   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 金融システム、資金循環、間接金融、直接金融、市場型間接金融、公的金融機関、財政投融資、ブルーデンス政策、自己資本比率規制、預金保険制度、公的資金注入、貸金業法改正、金融庁、NISA、株式、国債、為替  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業の目標は、日本の金融システムの特徴、政府の金融システム安定化政策や金融行政の現状、金融商品や金融市場の特徴を理解し、説明できるようになることです。さらに、関連するニュースを理解できるようになることです。この科目は経営学科のファイナンス分野の専門科目で、理解を深めるには、この分野の他の科目も履修することが望まれます。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 金融システムは、経済活動の中で大きな役割を果たし、不安定になると、多方面に影響を及ぼします。この授業は、日本の金融システムの特徴及び金融システム安定化政策について取り上げます。さらに、様々な金融商品及びそれが取引されている市場の特徴を学習します。国内外の経済・金融に関する最新の話も適宜紹介します。              |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験50%、レポート50%  |                  |    |
| テキスト                        | 家森信善(2016)『ベーシックプラス金融論』中央経済社、家森信善(2013か2011)『はじめて学ぶ金融のしくみ(第4版か第3版)』中央経済社、のうちの1冊は必要です   |                  |    |
| 参考文献                        | 授業の中で紹介します   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しくは初回の授業で説明します。</li> <li>・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。</li> </ul>   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 金融機関論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 塚原 一郎  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1723   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面、講義形式ですが、演習も随時取り入れます   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択(平成21年度以前入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | 資金循環、保険、環境、国際業務、先物、オプション、スワップ、不動産の証券化、グローバル金融危機  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業の目標は、銀行、証券会社、保険会社などの各金融機関の役割と業務、特に、デリバティブや証券化など複雑化した業務内容を理解するとともに、説明できるようになることです。さらに、関連するニュースを理解できるようになることです。この科目は経営学科のファイナンス分野の専門科目で、理解を深めるには、この分野の他の科目も履修することが望まれます。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 将来、金融機関での就職を考えている人に関係するのはもちろん、実際に金融機関で働かなくても、家計も一般企業も金融機関との関わりは非常に大きく、金融機関は経済活動の中心的存在にあるともいえます。金融機関は、金融技術の高度化に伴い、扱う業務も日々変化しています。この授業では、銀行、証券会社、保険会社などの金融機関の役割と業務内容を学びます。特に、デリバティブや証券化など、近年急速に発達した分野も注目します。国内外の経済・金融に関する最新の話も適宜紹介します。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験50%、レポート50%  |                  |    |
| テキスト                        | 特定のテキストは使用せず、必要に応じて資料配布をします  |                  |    |
| 参考文献                        | 家森信善(2016)『ベーシックプラス金融論』中央経済社、<br>その他は、授業の中で紹介します   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・詳しくは初回の授業で説明します。</li> <li>・日頃から、国内外の経済・金融に関するニュースに興味を持つようにしてください。</li> </ul>   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | パーソナルファイナンス論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 村上 恵子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1647研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週火～木曜日12:10～13:00。場所は担当教員研究室。これ以外の面談はメールにて要予約。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業は、日本の金融を代表する各業態の専門家によるオムニバス形式で行う。具体的には、金融庁、日本FP協会、金融広報中央委員会、全国銀行協会、日本証券業協会、投資信託協会、生命保険文化センター、日本損害保険協会から講師をお招きする。学生には、小テストの受験、レポート提出、演習への参加（ライフプランの策定、グループワークへの参加等）が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科，経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）  |                  |    |
| キーワード                       | 金融リテラシー，機会費用，年金，お金の機能と役割，ライフプラン，収支管理，安全性，収益性，流動性，リスクとリターン，分散投資，長期投資，景気，金利，インフレーション，為替相場，自己破産，保証・連帯保証，保険，消費者トラブル  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | <p>本授業は、これまで金融や経済をほとんど学習したことがない学生が、金融リテラシー（金融に関する知識と判断力）の向上を目的に金融の実態と基礎知識を学ぶとともに、在学中そして卒業後に自立的で安心かつ豊かな生活を実現するための実践的スキルを身に付けることを目指す。</p> <p>本科目は経営学科の学科専門科目・会計ファイナンス系科目および経営情報学科の自由選択科目に区分されている。</p>  |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>金融の自由化とグローバル化が進み、お金にかかわる様々な意思決定において自己責任が求められる現在、金融の基礎知識を習得する必要性・重要性はますます高まっている。このような中、金融庁は有識者、関係省庁、関係団体をメンバーとする「金融経済教育研究会」を設置し、2013年に「生活スキルとして最低限身に付けるべき金融リテラシー」を発表した。本授業では、この「生活スキルとして最低限身に付けるべき金融リテラシー」の中で挙げられている4分野（家計管理、生活設計、金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択、外部の知見の適切な活用）について、(1)お金を稼ぐ、(2)お金を管理する、(3)お金を借りる、(4)お金をふやす、(5)リスクに備える、(6)トラブルに強くなる、という6つの観点から講義する。また、受講生には、専門家のアドバイスを受けながら実際に自らのライフプランを描くなど、学んだ知識を活用する機会も与えられる。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | レポート60%，小テスト30%，演習への参加（ライフプランの策定やグループワーク等）10%の割合で評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 使用しない。授業の都度レジュメを配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 必要に応じて授業中に紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>(1)各回の授業を受ける前までに、事前に指示した資料に目を通しておくこと。</p> <p>(2)授業を欠席した時は、各自の責任でフォローすること。</p> <p>(3)日々報道される経済・金融に関するニュースに関心を持ち、講義内容や自分自身の生活とのかかわりについて考える習慣をつけること。</p>   |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 生活ファイナンス論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 村上 恵子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1647研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週火～木曜日12:10～13:00。場所は担当教員研究室。これ以外の面談はメールにて要予約。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業は、日本の金融を代表する各業態の専門家によるオムニバス形式で行う。具体的には、金融庁、日本FP協会、金融広報中央委員会、全国銀行協会、日本証券業協会、投資信託協会、生命保険文化センター、日本損害保険協会から講師をお招きする。学生には、小テストの受験、レポート提出、演習への参加（ライフプランの策定、グループワークへの参加等）が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科，経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免（商業）選択（平成21年度以前入学生対象）  |                  |    |
| キーワード                       | 金融リテラシー，機会費用，年金，お金の機能と役割，ライフプラン，収支管理，安全性，収益性，流動性，リスクとリターン，分散投資，長期投資，景気，金利，インフレーション，為替相場，自己破産，保証・連帯保証，保険，消費者トラブル  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | <p>本授業は、これまで金融や経済をほとんど学習したことのない学生が、金融リテラシー（金融に関する知識と判断力）の向上を目的に金融の実態と基礎知識を学ぶとともに、在学中そして卒業後に自立的で安心かつ豊かな生活を実現するための実践的スキルを身に付けることを目指す。</p> <p>本科目は経営学科の学科専門科目・会計ファイナンス系科目および経営情報学科の自由選択科目に区分されている。</p>  |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>金融の自由化とグローバル化が進み、お金にかかわる様々な意思決定において自己責任が求められる現在、金融の基礎知識を習得する必要性・重要性はますます高まっている。このような中、金融庁は有識者、関係省庁、関係団体をメンバーとする「金融経済教育研究会」を設置し、2013年に「生活スキルとして最低限身に付けるべき金融リテラシー」を発表した。本授業では、この「生活スキルとして最低限身に付けるべき金融リテラシー」の中で挙げられている4分野（家計管理、生活設計、金融知識及び金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択、外部の知見の適切な活用）について、(1)お金を稼ぐ、(2)お金を管理する、(3)お金を借りる、(4)お金をふやす、(5)リスクに備える、(6)トラブルに強くなる、という6つの観点から講義する。また、受講生には、専門家のアドバイスを受けながら実際に自らのライフプランを描くなど、学んだ知識を活用する機会も与えられる。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | レポート60%，小テスト30%，演習への参加（ライフプランの策定やグループワーク等）10%の割合で評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 使用しない。授業の都度レジュメを配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 必要に応じて授業中に紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>(1)各回の授業を受ける前までに、事前に指示した資料に目を通しておくこと。</p> <p>(2)授業を欠席した時は、各自の責任でフォローすること。</p> <p>(3)日々報道される経済・金融に関するニュースに関心を持ち、講義内容や自分自身の生活とのかかわりについて考える習慣をつけること。</p>   |                  |    |

|                     |  |                  |    |
|---------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名               | コーポレートファイナンス論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)        | 村上 恵子  |                  |    |
| 研究室の場所              | 広島キャンパス 1647研究室  |                  |    |
| オフィスアワー             | 毎週火～木曜日12:10～13:00。場所は担当教員研究室。これ以外の面談はメールにて要予約。  |                  |    |
| 授業の形式・方式            | 対面授業。授業は、必要に応じて配布するレジュメを用いた講義形式と学生による課題考察やグループディスカッション等の演習形式を併用して実施する。学生には、試験、小テストの受験、課題の提出、グループディスカッションへの参加が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)            | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                | 経営学科, 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目             | 高一種免(商業)選択 (平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード               | 資本コスト, リスクとリターン, CAPM, 現在価値, キャッシュフロー, NPV, IRR, リアル・オプション, MMの無関連命題, デフォルト・コスト, 配当政策, 自社株買い   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け  | <p>本授業は、ファイナンスの基礎概念を修得済みの学生が、企業活動における資金の流れについて、より専門的に理解することを目指す。ここで、企業活動における資金の流れとは、(1)資金調達、(2)企業価値を高めるための実物投資行動、(3)企業活動の成果のペイアウト(株主への利益還元)というサイクルを指し、本授業はこのコーポレートファイナンスの三大テーマの理解を目標とする。</p> <p>本科目は経営学科の学科専門科目・会計ファイナンス系科目および経営情報学科の自由選択科目に区分されている。</p>   |                  |    |
| 授業の内容               | <p>コーポレートファイナンス論の学問分野では、数値分析を通じて、企業の経営戦略を客観的に評価し、企業が企業価値の持続的な向上という目的に合致した戦略的な意思決定を行えるようになることを目指す。従来より欧米企業はこのコーポレートファイナンスの理論を実務に活用していたが、近年、日本企業も、資本コストを意識した経営指標を取り入れたり、資本コストを基準にした実物投資決定を行ったりするなど、コーポレートファイナンスの理論を実務に活かすようになってきている。また、資本構成や配当のあり方などの財務戦略を議論する際も、コーポレートファイナンスの理論が活用されている。</p> <p>本授業では、はじめに、資本コスト、企業価値評価、投資決定理論など、コーポレートファイナンスの基礎概念について講義する。その後、資本構成やペイアウト政策など、実際の企業の財務戦略を紹介し、各種事例について分析、考察する。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法             | 試験30%、授業参画度(小テストとグループディスカッションでの積極性)25%、課題45%の割合で評価する。  |                  |    |
| テキスト                | 使用しない。随時レジュメを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                | 砂川伸幸他(2008)『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社<+9784532133450+> その他、必要に応じて授業中に紹介する。   |                  |    |
| 備考(履修上のアドバイス・禁止行為等) | <p>(1)金融に関するニュースに関心を持ち、この授業で学んだ内容との関わりについて考える習慣をつけましょう。</p> <p>(2)ファイナンス概論と簿記入門を履修済みであることが望ましい。</p>  |                  |    |

|                     |  |                  |    |
|---------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名               | 経営財務論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)        | 村上 恵子  |                  |    |
| 研究室の場所              | 広島キャンパス 1647研究室  |                  |    |
| オフィスアワー             | 毎週火～木曜日12:10～13:00。場所は担当教員研究室。これ以外の面談はメールにて要予約。  |                  |    |
| 授業の形式・方式            | 対面授業。授業は、必要に応じて配布するレジュメを用いた講義形式と学生による課題考察やグループディスカッション等の演習形式を併用して実施する。学生には、試験、小テストの受験、課題の提出、グループディスカッションへの参加が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)            | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                | 経営学科, 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目             | 高一種免(商業)選択 (平成21年度以前入学生対象)   |                  |    |
| キーワード               | 資本コスト, リスクとリターン, CAPM, 現在価値, キャッシュフロー, NPV, IRR, リアル・オプション, MMの無関連命題, デフォルト・コスト, 配当政策, 自社株買い   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け  | <p>本授業は、ファイナンスの基礎概念を修得済みの学生が、企業活動における資金の流れについて、より専門的に理解することを目指す。ここで、企業活動における資金の流れとは、(1)資金調達、(2)企業価値を高めるための実物投資行動、(3)企業活動の成果のペイアウト(株主への利益還元)というサイクルを指し、本授業はこのコーポレートファイナンスの三大テーマの理解を目標とする。</p> <p>本科目は経営学科の学科専門科目・会計ファイナンス系科目および経営情報学科の自由選択科目に区分されている。</p>   |                  |    |
| 授業の内容               | <p>コーポレートファイナンス論の学問分野では、数値分析を通じて、企業の経営戦略を客観的に評価し、企業が企業価値の持続的な向上という目的に合致した戦略的な意思決定を行えるようになることを目指す。従来より欧米企業はこのコーポレートファイナンスの理論を実務に活用していたが、近年、日本企業も、資本コストを意識した経営指標を取り入れたり、資本コストを基準にした実物投資決定を行ったりするなど、コーポレートファイナンスの理論を実務に活かすようになってきている。また、資本構成や配当のあり方などの財務戦略を議論する際も、コーポレートファイナンスの理論が活用されている。</p> <p>本授業では、はじめに、資本コスト、企業価値評価、投資決定理論など、コーポレートファイナンスの基礎概念について講義する。その後、資本構成やペイアウト政策など、実際の企業の財務戦略を紹介し、各種事例について分析、考察する。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法             | 試験30%、授業参画度(小テストとグループディスカッションでの積極性)25%、課題45%の割合で評価する。  |                  |    |
| テキスト                | 使用しない。随時レジュメを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                | 砂川伸幸他(2008)『日本企業のコーポレートファイナンス』日本経済新聞出版社<+9784532133450+> その他、必要に応じて授業中に紹介する。   |                  |    |
| 備考(履修上のアドバイス・禁止行為等) | (1)金融に関するニュースに関心を持ち、この授業で学んだ内容との関わりについて考える習慣をつけましょう。<br>(2)ファイナンス概論と簿記入門を履修済みであることが望ましい。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 証券システム論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 鈴木 喜久 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主として下記の教科書に基づいて講義形式で実施する。必要に応じて配付する講義ノート・補助資料を用いた講義を行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象。「マイクロファイナンス論」, 「マクロファイナンス論」を履修していることが望ましい。   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択(平成21年度以前の入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | 株式市場, 証券取引所, 店頭市場, 金融の証券化, 信用取引, コーポレート・ガバナンス, 債券市場, 先物市場, オプション, リスクヘッジ, スワップ, デリバティブ, 投資戦略  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この授業の目的は, ①企業などの経済主体にとって主要な資金調達の間である証券市場・資本市場の仕組みと機能を学習することにより, 経済社会で起こっている様々な事象に対する理解を深めること, ②証券市場を通じてあるいは先物やオプションなどのデリバティブを活用して企業が行うリスク管理手法を学習することにより, 経営の立場に立った時に必要となる考え方を理解することである。<br>「金融システム論」, 「金融市場論」などと併せて, 企業が行う短期の運転資金調達, 長期の設備投資資金調達, 投資家が行う資産運用などについての基本的な知識の習得を目指す。<br>また, 「投資分析論」の履修に必要な前提知識となる。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義では, 日本の証券市場および証券システムについて理論と実際の両面から講義する。証券市場については, まず日本の証券市場について具体的に説明し, 証券市場の基礎的知識を学び, その上で証券市場の機能を理論的に説明していく。また証券取引システムについては, 証券業務の内容, 証券会社の機能・役割からはじめ, 証券取引所の諸制度・ルールを説明し, さらに最近の証券市場の動向や証券システム改革の現状について取り上げる。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 数回の宿題 20%, 中間レポート 20%, 期末試験 60%の合計。   |                  |    |
| テキスト                        | 特に指定しない。<br>講義ノートを配付する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 釜江・北岡・大塚・鈴木 著 『証券論』 有斐閣ブックス 2004年<br>その他, 必要に応じて授業中に紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | ①日々報道される経済・金融・企業行動に関するニュースを表面的に聞き流さずに, その背景や周辺に及ぼす影響などを自分で考える習慣を身に付けましょう。<br>②万が一欠席した場合には必ず翌週までに各自の責任でフォローすること。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 投資分析論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 鈴木 喜久 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主として下記の教科書に基づいて講義形式で実施する。必要に応じて配布する講義ノート・補助資料を用いた講義を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象。「マイクロファイナンス論」, 「証券システム論」を履修していることが望ましい。   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択(平成21年度以前の入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | DCF分析, 投資理論, 分散化原理, マーコビッツモデル, CAPM, APT, アセット・アロケーション, パッシブ運用, アクティブ運用, ファンドのパフォーマンス評価, 投資戦略  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | <p>本講義の目的は、基礎的な証券投資理論や資産価格モデルを用いて金融資産の価値に対する基本的理解を図り、実践的な証券投資分析の考え方と手法を理解することである。</p> <p>証券アナリストの資格試験科目にある「証券分析とポートフォリオ・マネジメント」と本講義の内容はかなりの部分が重複するが、資格試験に必要なすべての範囲をカバーすることは意図していない。</p> <p>「マイクロファイナンス論」, 「証券システム論」などと併せて、投資家が行う資産運用, ファンドによる投資戦略, 企業が行う長期の設備投資計画, およびそれらの評価方法などについての記事やレポートを理解するのに必要な知識の習得を目標とする。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>本講義では、基礎的な証券投資理論や投資モデルを使って証券投資分析について講義する。講義の内容としては、まずリスクやリターンなどの投資理論の基礎概念を説明し、続いて分散投資によるリスク削減効果をもたらすポートフォリオ理論, CAPM, APTモデルなどによる証券価格の決定および債券投資分析, 割引配当モデルなどによる株価の決定および株式投資分析について易しく説明し、さらに企業のファンダメンタル分析などの実践的方法を取り上げて解説する。</p>  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席30%, 数回の宿題 20%, 期末試験 50%の合計。   |                  |    |
| テキスト                        | 特に指定しない。<br>講義ノートを配付する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 釜江・北岡・大塚・鈴木 著 『証券論』 有斐閣ブックス 2004年<br>その他, 必要に応じて授業中に紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>①日々報道される経済・金融・企業行動に関するニュースを表面的に聞き流さずに、その背景や周辺に及ぼす影響などを自分で考える習慣を身に付けましょう。</p> <p>②万が一欠席した場合には必ず翌週までに各自の責任でフォローすること。</p>  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 地域政策論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス   |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール予約にて随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義形式。ただし、各回の授業後半に学生からの質問に教員が回答する時間を設ける。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象 (平成25年度入学生対象)  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | 自治体, 地方分権, 政策形成, 市民参加, 首長, 公務員, 議会, 投票  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本講座では、自治とは何か?という問いから出発し、自治体の歴史や政策、経営、主体、課題等を概観する。なお本科目は、経営学科公共経営系科目に位置づけられるものであり、「地域マネジメント論」「地域コミュニティ論」も併せて履修することが望ましい。</p> <p>【知識・技能】 地方自治の本旨、歴史、制度等について説明できる。<br/> 【思考・判断】 地方自治の現状を理解し、問題点を指摘できる。<br/> 【関心・意欲】 地方自治のあり方について討議できる。<br/> 【技能・表現】 上記をとりまとめた文章を作成できる。<br/> 【態度】 授業内容に対する質問を毎回提出できる。<br/> 【その他】 公務員試験の受験の参考になると考えている。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>教科書に基づく講義をおこなう。その際、講師自身による自治体政策形成への参画経験を踏まえ、卒業後に学生が自治体等に就職した時に役立つ実践的な情報も提供する。主な内容は以下のとおり(詳細はシラバス参照のこと)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ主要国の地方自治制度</li> <li>・日本の地方自治制度の歴史</li> <li>・地方分権改革</li> <li>・日本の地方財政制度の改革</li> <li>・都市制度と政策展開</li> <li>・地域と多元的アクターの新しい関係</li> </ul>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>授業態度(30点)と期末試験(70点)により評価する。<br/> 期末試験は、指定された試験日の授業時間内に、指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。</p>  |                  |    |
| テキスト                        | プリントを配布します。   |                  |    |
| 参考文献                        | <p>山田光矢・代田剛彦(2012):『地方自治論』弘文堂, 2,000円+税<br/> 西尾勝(2000):『行政の活動』有斐閣, 1,600円+税</p>   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>卒業後に公務員となることを希望する学生やNPO活動等に興味を持つ学生が受講することを特に勧めます。また、企業においても地域貢献の重要性が高まっており、本授業を通じてそれに繋がる知識を得ておくことは有用と考えます。毎回、自分なりの問題意識をもって受講することを望みます。また、受講上のルールについては、第1回授業にて詳細に指示します。</p>   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 公共政策論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス   |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール予約にて随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義形式。ただし、各回の授業後半に学生からの質問に教員が回答する時間を設ける。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象(平成25年度入学生対象)   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | 自治体, 地方分権, 政策形成, 市民参加, 首長, 公務員, 議会, 投票  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本講座では、自治とは何か?という問いから出発し、自治体の歴史や政策、経営、主体、課題等を概観する。なお本科目は、経営学科公共経営系科目に位置づけられるものであり、「地域マネジメント論」「地域コミュニティ論」も併せて履修することが望ましい。</p> <p>【知識・技能】 地方自治の本旨、歴史、制度等について説明できる。<br/> 【思考・判断】 地方自治の現状を理解し、問題点を指摘できる。<br/> 【関心・意欲】 地方自治のあり方について討議できる。<br/> 【技能・表現】 上記をとりまとめた文章を作成できる。<br/> 【態度】 授業内容に対する質問を毎回提出できる。<br/> 【その他】 公務員試験の受験の参考になると考えている。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>教科書に基づく講義をおこなう。その際、講師自身による自治体政策形成への参画経験を踏まえ、卒業後に学生が自治体等に就職した時に役立つ実践的な情報も提供する。主な内容は以下のとおり(詳細はシラバス参照のこと)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ主要国の地方自治制度</li> <li>・日本の地方自治制度の歴史</li> <li>・地方分権改革</li> <li>・日本の地方財政制度の改革</li> <li>・都市制度と政策展開</li> <li>・地域と多元的アクターの新しい関係</li> </ul>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>授業態度(30点)と期末試験(70点)により評価する。<br/> 期末試験は、指定された試験日の授業時間内に、指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。</p>  |                  |    |
| テキスト                        | プリントを配布します。   |                  |    |
| 参考文献                        | <p>山田光矢・代田剛彦(2012):『地方自治論』弘文堂, 2,000円+税<br/> 西尾勝(2000):『行政の活動』有斐閣, 1,600円+税</p>   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>卒業後に公務員となることを希望する学生やNPO活動等に興味を持つ学生が受講することを特に勧めます。また、企業においても地域貢献の重要性が高まっており、本授業を通じてそれに繋がる知識を得ておくことは有用と考えます。毎回、自分なりの問題意識をもって受講することを望みます。また、受講上のルールについては、第1回授業にて詳細に指示します。</p>   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 地域マネジメント論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス   |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール予約にて随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義形式。ただし、各回の授業後半に学生からの質問に教員が回答する時間を設ける。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象 (H25年度入学生対象)   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | まちづくり, 地方分権, 市民活動, 参加・協働, ガバナンス   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本授業では、地域社会が持つ潜在力と内発的な力を組み立てることにより、身近な居住環境を改善し、まちの活力と魅力を高めようとする「まちづくり」の考え方と実践方法を教授する。なお本授業は、経営学科公共経営系科目に位置づけられるものであり、「地域政策論」「地域コミュニティ論」も併せて履修することを勧める。</p> <p>【知識・理解】まちづくりの定義、歴史、特徴等を説明できる。<br/> 【思考・判断】まちづくりの現状を理解し、問題点を指摘できる。<br/> 【関心・意欲】自らまちづくりに関わろうという意欲を持つようになる。<br/> 【技能・表現】上記をとりまとめた文章を作成できる。<br/> 【態度】授業内容に対する質問を毎回提出する。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>教科書『まちづくり教科書1 まちづくりの方法』に基づく講義をおこなう。その際、講師自身によるまちづくり経験を踏まえ、卒業後に学生が実際にまちづくりに関わろうとする時に役立つ実践的な情報も提供する。<br/> 主な内容は以下のとおり(詳細はシラバス参照のこと)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりの定義、基本目標、方法</li> <li>・まちづくりの歴史</li> <li>・まちづくりの体制</li> <li>・まちづくりの合意形成のための支援技術</li> <li>・まちづくりの学び方</li> <li>・事例研究</li> </ul>                     |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>授業態度(30点)と期末試験(70点)により評価する。<br/> 期末試験は、指定された試験日の授業時間内に、指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。</p>  |                  |    |
| テキスト                        | <p>原真志・山本健太・和田 崇編(2015):『コンテンツと地域—映画・テレビ・アニメ—』ナカニシヤ出版, 2,600円+税</p>   |                  |    |
| 参考文献                        | <p>田村 明(1999)『まちづくりの実践』岩波書店, 660円+税<br/> 和田 崇編著(2005):『創発まちづくり—動く・つながる・生まれる—』学芸出版社, 2,100円+税</p>  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>卒業後に公務員となることを希望する学生やNPO活動等に興味を持つ学生が受講することを特に勧めます。また、企業においても地域貢献の重要性が高まっており、本授業を通じてそれに繋がる知識を得ておくことは有用と考えます。毎回、自分なりの問題意識をもって受講することを望みます。また、受講上のルールについては、第1回授業にて詳細に指示します。</p>   |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 地域コミュニティ論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール予約にて随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義形式。ただし、各回の授業後半に学生からの質問に教員が回答する時間を設ける。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象 (H25年度入学生対象)  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 村落, 都市, コミュニケーション, 町内会, 文化, メディア   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本授業では、変化の中にある地域コミュニティの現実がいかなるものであるのか、それが抱えている問題はどのようなものであるのかを具体的に考察し、これからの地域コミュニティのあり方を展望する。なお本授業は、経営学科公共経営系科目に位置づけられるものであり、「地域マネジメント論」「地域政策論」も履修しておくことが望ましい。</p> <p>【知識・理解】 コミュニティの概念、歴史、特徴等を説明できる。<br/> 【思考・判断】 地域コミュニティの現状を理解し、問題点を指摘できる。<br/> 【関心・意欲】 地域コミュニティの一員であることを認識し、それへの参加意欲が高まる。<br/> 【技能・表現】 上記をとりまとめた文章を作成できる。<br/> 【態度】 授業内容に対する質問を毎回提出する。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>プリント(毎回配布)に基づく講義をおこなう。その際、講師自身によるコミュニティ振興への参画経験を踏まえ、卒業後に学生が地域社会で暮らす時に役立つ実践的な情報も提供する。主な内容は以下のとおり(詳細はシラバス参照のこと)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティとは?</li> <li>・コミュニティの歴史</li> <li>・コミュニティ意識</li> <li>・コミュニティ文化</li> <li>・情報コミュニティ</li> <li>・コミュニティ再生</li> </ul>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>授業態度(30点)と期末試験(70点)により評価する。<br/> 期末試験は、指定された試験日の授業時間内に、指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | なし。毎回プリントを配布します。   |                  |    |
| 参考文献                        | 山崎 亮(2011) : 『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる』学芸出版社, 1,800円+税   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 卒業後に公務員となることを希望する学生やNPO活動等に興味を持つ学生が受講することを特に勧めます。また、企業においても地域貢献の重要性が高まっており、本授業を通じてそれに繋がる知識を得ておくことは有用と考えます。毎回、自分なりの問題意識をもって受講することを望みます。また、受講上のルールについては、第1回授業にて詳細に指示します。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 行政評価論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 和田 崇   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メール予約にて随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義形式。ただし、各回の授業後半に学生からの質問に教員が回答する時間を設ける。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象 (H25年度入学生対象)  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 村落, 都市, コミュニケーション, 町内会, 文化, メディア   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本授業では、変化の中にある地域コミュニティの現実がいかなるものであるのか、それが抱えている問題はどのようなものであるのかを具体的に考察し、これからの地域コミュニティのあり方を展望する。なお本授業は、経営学科公共経営系科目に位置づけられるものであり、「地域マネジメント論」「地域政策論」も履修しておくことが望ましい。</p> <p>【知識・理解】 コミュニティの概念、歴史、特徴等を説明できる。<br/> 【思考・判断】 地域コミュニティの現状を理解し、問題点を指摘できる。<br/> 【関心・意欲】 地域コミュニティの一員であることを認識し、それへの参加意欲が高まる。<br/> 【技能・表現】 上記をとりまとめた文章を作成できる。<br/> 【態度】 授業内容に対する質問を毎回提出する。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>プリント(毎回配布)に基づく講義をおこなう。その際、講師自身によるコミュニティ振興への参画経験を踏まえ、卒業後に学生が地域社会で暮らす時に役立つ実践的な情報も提供する。主な内容は以下のとおり(詳細はシラバス参照のこと)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティとは?</li> <li>・コミュニティの歴史</li> <li>・コミュニティ意識</li> <li>・コミュニティ文化</li> <li>・情報コミュニティ</li> <li>・コミュニティ再生</li> </ul>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>授業態度(30点)と期末試験(70点)により評価する。<br/> 期末試験は、指定された試験日の授業時間内に、指定された教室(試験室)内で、持ち込み可で実施する。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | なし。毎回プリントを配布します。   |                  |    |
| 参考文献                        | 山崎 亮(2011) : 『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる』学芸出版社, 1,800円+税   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 卒業後に公務員となることを希望する学生やNPO活動等に興味を持つ学生が受講することを特に勧めます。また、企業においても地域貢献の重要性が高まっており、本授業を通じてそれに繋がる知識を得ておくことは有用と考えます。毎回、自分なりの問題意識をもって受講することを望みます。また、受講上のルールについては、第1回授業にて詳細に指示します。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | NPO論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 名波 彰子 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 授業中に指示する。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 集中講義  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | 非営利, 非政府, グローバリゼーション, ガバナンス, New Public Management, 「小さな政府」, 市民社会, 組織論, 政策決定過程, 政治・社会環境, 政策提言(アドボカシー)   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この授業では, NPO・NGOについて, 歴史的考察, 理論研究や事例研究などを用いて, さまざまな角度から分析を行う。そして日本のみならず, 海外のNPO・NGOというテーマに取り組むことによって, 日本社会が現在の国際関係の中でどのような位置を占めているのか, どのようにこれから関係を構築していくべきなのかを考える契機となることを目指す。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 近年世界的に注目を集めている非営利・非政府組織(NPO・NGO)。しかしその実態については意外なほど理解されていない。この授業では, 国際社会において活躍しているNPO・NGOについて考察しながら, 以下の問題について受講生とともに考えていく。<br>①NPO・NGOとは何か。<br>②なぜNPO・NGOに注目が集まるようになったのか。<br>③理論的背景<br>④政治システムとの関係<br>⑤NPO・NGOは現代の国際社会においてどのような役割を果たし, どのような意義を有すると考えられるのか。<br>⑥課題と展望 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | リアクション・ペーパー 10%<br>ディスカッションやグループワークへの貢献 40%<br>総括レポート 50%   |                  |    |
| テキスト                        | 授業の際にレジュメを配布するので, テキストは使用しない。   |                  |    |
| 参考文献                        | 受講の前に, 次にあげる文献のうち少なくとも一冊は読了しておくことが望ましい。<br>田尾雅夫・吉田忠彦著『非営利組織論』, 有斐閣, 2009年<br>西川潤・佐藤幸男編著『NPO/NGOと国際協力』, ミネルヴァ書房, 2002年<br>後房雄著『NPOは公共サービスを担えるか 次の10年への課題と戦略』, 法律文化社, 2009年   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 1) 他の受講生の迷惑になるため, 授業開始より10分後の入室は「欠席」とします。<br>2) 他の受講生の迷惑となる行為(私語など)に対しては, 退室を含む措置をとる。<br>3) 総括レポートを提出しなかった場合には, 自動的にDか※となる。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 財政学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 吉田 義宏 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。教科書の各章に関する講義形式で実施する。<br>各章の講義を1～2回する予定。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象。ミクロ・マクロ経済学, 公共経済学, 経済政策, 金融論等を履修していることが望ましい。  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 財政の機能, 財政制度, 公共財, 租税の機能, 国債, 地方財政  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 財政は国の経済活動であり, それは国民経済に甚大な影響を及ぼしている。この作用すなわち経済効果について勉強をする。国家公務員・地方公務員にとって, 財政学の履修は必須である。                              |                  |    |
| 授業の内容                       | 概ね以下のような授業内容である。<br>I 国民経済と財政<br>II 財政と財政学<br>III 公共財<br>IV 租税の基礎<br>V 租税の各論<br>VI 公債<br>VII 国と地方の財政関係<br>VIII 財政と金融 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 普段の出席と期末試験の結果による   |                  |    |
| テキスト                        | 新世社『コンパクト財政学』 ￥1,700   |                  |    |
| 参考文献                        | 東洋経済新報社『図説 日本の財政』<br>財経詳報社『図説 日本の税制』   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経済・社会データ分析   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 柴田 浩喜 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業日程に従い、主に毎回配布する資料に基づき講義形式により授業を行うとともに、パソコンと統計解析ソフトを利用したデータ分析の実習を実施する。学生は授業に出席し、レポートを提出すること。試験は実施しない。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 統計的解析、差の検定、相関分析、回帰分析、パネルデータ分析、因子分析、クラスター分析、分割表   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>社会・経済が複雑化し、目まぐるしく変化する時代にあつて、ICT（情報通信技術）の急速な進歩はパソコン等のデータ処理能力や各種データの利用可能性を高め、経済、経営、地域社会等、社会科学が対象とする分野においても、コンピュータを利用した科学的なデータの処理・分析が一層重視されるようになってきている。</p> <p>本講義は、基礎的なデータ処理及び分析方法を理解し、コンピュータを用いた実践的な演習を行う。これらによって得られる知識は、企業の経営戦略、行政の地域計画等、あらゆるセクターにおける戦略・計画の策定・実施といった企画を担う人材に不可欠であるとともに、卒業論文の作成に当たって専門書の読解、仮説の検証等において必要とされる。</p>   |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>社会の問題解決である行政政策は様々な事象の因果関係を明らかにし、政策が効果を発揮するメカニズムを明らかにすることが重要である。企業が取り組むマーケティングでは、消費者の多様性を理解し、効果的な販売戦略を実施することが求められる。また、企業や行政に関わらず、戦略や計画の策定のためには、シミュレーションを実施し、将来の姿を想定することが有効である。</p> <p>本講義では、理論的な説明に加え、上記の問題意識を基に、できるだけ多くの具体的な事例分析を取り上げる。例えば、プロサッカーチームの立地は地域の人々のつながりを強めるか、マーケティング的な手法を用いて大都市圏から地方への移住者を増やすにはどうすればよいか、消費拡大が期待される高齢者市場をどう捉えるか、大規模震災が発生したときの地域への経済被害はどれくらいと想定されるのか、少子・高齢化が進展する中で地方財政は持続的かなどである。これらの事例を利用しながら、統計分析の経験がない者でも理解を深められるよう、実際のデータと統計解析ソフトを利用した実習を行う。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | レポート70%、出席点30%の割合で評価する。レポートは、試験前の授業で課題を説明し、期末試験内の指定された期日までに提出を行う。<br>遅刻者や授業態度の芳しくない者については減点を行う。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書の指定はない  |                  |    |
| 参考文献                        | 参考書は講義の中で必要に応じて紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | レポート提出において、不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則（県立広島大学履修規程）に基づいて対応する。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 現代社会学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中島 満大   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1727研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義ではレジュメを配布する。教科書は指定しないが、講義で示した参考文献を読んでおくこと。また毎回コメントカードを配布し、それに基づき、学生に意見を求めることがあるので、積極的に講義に参加すること。                |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | 社会学の方法, 中範囲の理論, 社会学的想像力   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本講義では、社会学の方法と考え方の習得を目指す。そして受講者が社会学の方法を用い、事例の考察ができるようになることを目標とする。社会学や地域課題研究と合わせて履修することで理解が含まれると思う。                 |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義は、前半部では、社会学の方法や考え方について、デュルケム、ウェーバー、ジンメル、マートン、ミルズなどの社会学者を取り上げながら、議論を進めていく。後半では、再帰性をキーワードとして、現代社会の現状を事例から検討していく。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | コメントカードと講義への参加度に基づく平常点(30%)、試験(70%)によって成績評価を行う。   |                  |    |
| テキスト                        | 指定しない。  |                  |    |
| 参考文献                        | 佐藤俊樹『社会学の方法』ミネルヴァ書房(2011年)、ミルズ『社会学的想像力』紀伊国屋書店(1995年)、マートン『社会理論と社会構造』みすず書房(1961年)など                                |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 社会学に関心がある者はぜひ受講してほしい。他の学問との考え方の違いや共通性を見出してほしい。  |                  |    |

|                         |   |                  |    |
|-------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                   | 社会調査論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 中島 満大   |                  |    |
| 研究室の場所                  | 広島キャンパス 1727研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                 |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 講義ではレジュメを配布する。教科書は指定しないが、講義で示した参考文献を読んでおくこと。また毎回コメントカードを配布し、それに基づき、学生に意見を求めることがあるので、積極的に講義に参加すること。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                    | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                 | 高一種免(公民) 選択   |                  |    |
| キーワード                   | 社会調査, リサーチ・デザイン, アンケート調査, インタビュー調査, フィールドワーク  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | 本講義では、社会調査の基本を学んでいく。したがって、学生が自ら社会調査の第一歩を踏み出すことを最終的な目標とする。経営学, 社会学, 経済学などの領域で行われている調査やデータと結びつけながら、本講義を受講してほしい。   |                  |    |
| 授業の内容                   | 社会調査の方法とその歴史について講義する。具体的にはリサーチ・デザインについて、問いや仮説といった要素から説明していく。また量的調査(アンケート調査や官庁統計の利用)や質的調査(フィールドワーク, 聞き取り調査, ドキュメント分析)の個別の方法論についても、先行研究の事例を交えながら講義を進めていく。 |                  |    |
| 成績評価の方法                 | コメントカードと講義への参加度に基づく平常点(30%), レポート(70%)によって成績評価を行う。  |                  |    |
| テキスト                    | 指定しない。  |                  |    |
| 参考文献                    | 盛山和夫『社会調査法入門』有斐閣(2004年), 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社(2008年), 佐藤郁哉『社会調査の考え方[上]・[下]』東京大学出版会(2015年)など  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | レポート課題は、受講者が自ら行った参与観察, インタビュー, 官庁統計の分析などに基づくものにする予定である。社会調査をやってみたいという学生はぜひ受講してほしい。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 地域社会学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 中島 満大  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1727研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義ではレジュメを配布する。教科書は指定しないが、講義で示した参考文献を読んでおくこと。また毎回コメントカードを配布し、それに基づき、学生に意見を求めることがあるので、積極的に講義に参加すること。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 地域社会, 村落社会学, 家と村の社会学, 地方都市   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本講義では、地域社会における現状を捉えるための基本的なフレームワークを提供する。講義で紹介したフレームワークを使って、地域の課題を明確にすることを目標とする。社会学や社会調査論と合わせて履修することで、理解が深まる側面がある。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義では、第一に日本の社会学における家・村研究を紹介する。その後、限界集落や災害に対する村落の対応の事例を取り上げる。第二に地域社会の構造や役割について、歴史やネットワーク、家族、学校などの様々な視点から検討していく。最後に現在の地域社会をめぐる議論の中から、若者の「地元」志向とモータリゼーションという題材を取り上げ、今後の地域社会を展望していく。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | コメントカードと講義への参加度に基づく平常点(30%)、レポート(70%)によって成績評価を行う。  |                  |    |
| テキスト                        | 指定しない。   |                  |    |
| 参考文献                        | 鳥越皓之『家と村の社会学 増補版』世界思想社(1993年)、森岡清志編『地域の社会学』有斐閣(2008年)など  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 受講者が住んでいる(あるいは住んでいた)「地域」や「地元」を念頭に置きながら、それぞれの場所でどのような課題があるのかを考えながら、講義を受けてほしい。レポートの課題も受講者の「地域」に関するものになる予定である。  |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 産業組織論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 前田 純一 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。2回の講義につき1章の講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席すること、試験を受けることが義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 消費行動の分析, 生産行動の分析, 完全競争市場, 余剰分析, 独占市場, 寡占市場, 規制緩和, 競争政策   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 産業組織論は、ミクロ経済学を企業間の相互依存関係の分析、および、独占市場や寡占市場などの不完全競争市場の分析に応用する学問分野である。そのため、本講義の目標は、第1は基本的なミクロ経済学の知識を理解・修得することであり、第2は、それらの知識を用いて、独占市場や寡占市場などの不完全競争市場の分析を行うことである。   |                  |    |
| 授業の内容                       | ミクロ経済学の基礎的な知識、および、独占市場や寡占市場などの不完全競争市場の分析について講義を行う。講義では、まず基本的なミクロ経済学の知識について解説・学修を行っていく。そして、それらの知識を基にして、独占市場や寡占市場などの不完全競争市場の分析を行っていく。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験100%で評価する。試験は指定された教室内で持ち込みすべて可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。   |                  |    |
| テキスト                        | 前田純一著『経済分析入門 I』晃洋書房, 2011。   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。また、試験においては、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。</li> <li>・テキストは第1回目に間に合うように入手しておくこと。</li> </ul> |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 地域経済論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 柴田 浩喜 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業日程に従い、主に毎回配布する資料に基づき、講義形式により授業を行う。学生は授業に出席し、試験を受けること。宿題・レポートの提出はない。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 産業構造, 経済成長, 経済構造分析, 経済的持続性, 経済的自立性, 経済格差, 産業連関表, 経済循環, 内生的成長, 産業振興, 地域活性化, 産業集積, 都市集積, 地方財政  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 地球環境問題の深刻化, 経済のグローバル化の進展, 人口減少・高齢化など, 世界そしてわが国が現在直面する問題に対しては, 国による画一的政策の有効性が低下し, 地域による主体的な取組が不可欠になっている。地域の産業振興策や活性化策は, 地域活力の向上に加えて, 国レベルの問題解決に重要な役割を持つようになっているが, 地域は各々特性を持つため, 産業政策にも分権化が強く求められるようになるであろう。本講義は, 地域の経済構造や経済成長等を説明する理論及び地域経済を対象とした実証分析の手法を理解することを目標とする。これらの地域経済に関わる理論・分析手法の習得は, 地域活性化の意志を持ち, これからの地域経営を担おうとする人材に必要な不可欠な要件である。                                      |                  |    |
| 授業の内容                       | 地方ブロック, 都道府県, 市町村や都市圏等を対象に, 地域の生産構造, 需要構造を分析することによって, 人々の暮らしを支える基幹産業は何か, 産業の獲得所得で地域の必要支出を賄えているかといった地域経済の基本構造を把握する理論・分析手法を学ぶ。また, 地域産業連関表を利用して, 地域の経済的な循環構造を分析する手法を理解する。一方, 地域経済の成長と地域間格差の発生に対しては, 産業構造の変化, 需要構造の変化, そして供給要因の変化という3つのアプローチから理解を行う。授業では, 机上の理論だけではなく具体的な地域を対象に実証分析を行い, 地域経済の特性把握, 問題の構造化や的確な課題設定に必要なデータ利用について学ぶとともに, 産業振興や地域活性化の方策の具体的事例を取り上げ, その狙いや有効性等について検討を加える。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%, 出席点30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。試験前の授業で, 試験問題のポイントを説明する。試験のポイントに対して, 毎回の講義と配布された資料, 参考書により準備を行い, 試験時間内に持ち込み不可で回答する形式とする。遅刻者や授業態度の芳しくない者については減点を行う。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書の指定はない  |                  |    |
| 参考文献                        | 黒田達郎・田淵隆俊・中村良平「都市と地域の経済学(新版)」有斐閣ブックス, 2008年。<br>フィリップ・マッカン「都市・地域の経済学」日本評論社, 2008年。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 公共経済学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 片桐 昭司  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1728研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メールで予約してください   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面形式の授業です。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 政府、公共財、消費者余剰、生産者余剰、独占・寡占、市場の失敗、費用便益  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本講義はミクロ経済学(理論経済学入門)が基礎となっています。この講義では、政府が市場経済に介入する必然性やその限界を理論的に解明し、経済政策がどのような方法で導入されるのかを修得することを目的にします。この講義を通じて経営戦略を立てる際の政府行動に関する基礎知識を提供します。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 基本的には、公共部門の行動が経済に及ぼす影響を学び、制度的な要素が重要な役割を果たしていることを体系的に修得します。具体的には、政府のような公共部門の定義およびその存在意義を確認し、政府が提供する財(公共財)と私的財の区別を、取引費用などの観点から分析し、政府が公共財をどの程度供給すればよいのか等を講義します。また、環境問題に関連する外部経済・不経済に対する公共部門の関わり合い(規制・補助など)や、政府支出政策の評価方法の一つである費用・便益分析を通して、公共投資の是非、消費税(課税)についても講義します。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験で評価します。  |                  |    |
| テキスト                        | 奥野信宏『公共経済学』岩波書店  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修を希望する学生は「理論経済学入門」を履修していることが望ましいです。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経済政策   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 片桐 昭司  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1728研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メールで予約してください   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面形式の授業です。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 政府、財政政策、公共投資、金融政策、景気、失業、GDP  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本講義は、経済政策を理論的・実証的に修得し、経済政策を通じて、経済政策と経営(企業)との関係を理解することを目的とします。授業の前半では経済政策の目的や国内総生産(GDP)・国際収支の概念を、中盤では、マクロ経済学の理論的基礎のIS曲線(財市場の均衡)とLM曲線(貨幣市場の均衡)を講義し、これらの理論の基にした財政政策と金融政策を理解します。終盤では、財市場、金融市場および労働市場を取り組んだシステムの基、財政・金融政策および雇用対策の仕方などを理解します。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 基本的には、政府が経済政策を行う際の理論的なベースを中心に講義をしますが、適宜、新聞・雑誌などを引用し、本講義をもとにして、現実の経済政策を具体的に解説します。なお、講義の内容は以下の通りです。1)国民所得とその概念、2)国際収支、3)均衡国民所得、4)乗数理論、5)IS曲線の導出(1)、6)IS曲線の導出(2)、7)貨幣と貨幣乗数、8)LM曲線の導出(1)、9)LM曲線の導出(2)、10)IS-LM分析による経済分析(財政・金融政策)、11)AD曲線の導出、12)AS曲線の導出、13)AS曲線の導出、14)AD-AS分析による経済政策(財政・金融政策)、15)AD-AS分析による経済政策(失業対策) |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験で成績を評価します。   |                  |    |
| テキスト                        | 駄田井正・大住圭介他編『現代マクロ経済学』勁草書房  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 地方公務員および国家公務員を希望する学生は必修の教科です。  |                  |    |

|                         |   |                  |    |
|-------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                   | 国際経済学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 式部 信  |                  |    |
| 研究室の場所                  | 広島キャンパス 1722研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                 | 火・4   |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 対面授業・講義形式   |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                    | 経営学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                 | 高一種免(公民) 選択必修   |                  |    |
| キーワード                   | グローバル化 国際貿易 国際収支 国際金融 経済開発 台頭するアジア リージョナリズム   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | 経営学科専門科目・公共経営系科目  |                  |    |
| 授業の内容                   | 国際経済学は国際的な経済関係について学ぶ科目である。こうした経済関係には大きく三つの問題領域がある。モノをめぐる関係(貿易)、カネをめぐる関係(資本移動)、ヒトをめぐる関係(国際人口移動)である。この講義では、国際(グローバル)化と地域(ローカル)社会との関わりにも留意しながら、これらの国際的な経済問題を考える。 |                  |    |
| 成績評価の方法                 | 期末に授業内容に関する論述試験を課す。その試験の得点結果に基づいて成績評価する。  |                  |    |
| テキスト                    | 岩本ほか『グローバル・エコノミー』有斐閣。   |                  |    |
| 参考文献                    |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 授業ではテキストのすべてをカバーできないが、機会をみてテキストを通読するようお願いする。  |                  |    |

|                     |   |                  |    |
|---------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名               | 経済発展論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)        | 片桐 昭司   |                  |    |
| 研究室の場所              | 広島キャンパス 1728研究室   |                  |    |
| オフィスアワー             | メールで予約してください  |                  |    |
| 授業の形式・方式            | 対面形式の授業で、パワーポイントを用いて講義します。  |                  |    |
| 単位数(時間数)            | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                | 経営学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目             | 高一種免(公民) 選択   |                  |    |
| キーワード               | 経済成長、経済発展、地球環境問題、企業の社会的役割、途上国、不平等、工業化、農業、工業、サービス、ODA(政府開発援助)  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け  | 本講義では、経済がどのようなプロセスを経て発展するのかを、歴史的な過程(実証面)と理論から理解することを目標にしています。さらに、経済発展が低い状況にある発展途上国の現状を理解することによって、それら諸国に対する先進国の役割を明確にし、さらに、地球規模の問題を考えると、なぜ発展途上国の経済発展が重要であるのかを、理論的・実証的に修得することにします。このことは、地球規模で展開する日本の企業も、いまや発展途上国のことを理解することなく事業を展開することが困難になっていることを学び取ることに繋がります。  |                  |    |
| 授業の内容               | まず講義の前半では、経済発展と何か、そして経済発展を測定する指標について講義します。次に、経済発展の歴史的・経済的・形成過程を認識し先進国の発展過程をもとに、農業および工業部門を分析し、その相互の関わり合い(二重経済)を考察します。さらに、経済発展の理論的ベースである代表的な経済成長論をわかりやすく講義し、経済発展と関連する最近のトピックとして、アジア経済、発展途上国とODA(政府開発援助)、および環境問題を取り上げます。最後の講義では、経済発展に関するスライドを上映して、本講義をまとめことにします。なお、講義の内容は以下の通りです。1)経済発展とは何か、2)1人当たりの国民所得と経済発展(その1)、3)1人当たりの国民所得と経済発展(その2)、4)発展途上国の歴史的・経済的・形成過程、5)二重経済論、6)成長率と成長要因、7)経済成長論(基礎編)、8)経済成長論(ソローモデル)、9)経済成長論(ハロッド=ドーマーモデル)、10)経済成長論(内生的成長モデル)、11)経済発展の現状(90年代のアジア経済)、12)工業化、13)経済発展するためには(ODAの意味)、14)経済発展と環境問題、15)日本と発展途上国(スライド上映) |                  |    |
| 成績評価の方法             | 期末試験で評価します。   |                  |    |
| テキスト                | 大住圭介他編『経済成長と動学』勁草書房。また必要な資料は随時講義中に配布します。  |                  |    |
| 参考文献                |   |                  |    |
| 備考(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 地方公務員及び国家公務員を希望する学生は履修していることが望ましい授業(特に経済成長論)です。新聞、雑誌、テレビなどで発展途上国が報道される際には、日本の企業と途上国がどのような関係にあるのかを考えながら、読み・見てください。また、海外旅行に行くときも、このような観点で現地を見れば、また違った見方ができると思います。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 民法 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岩元 裕介 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。講師作成のレジュメを配布し、講義形式で実施する。講義中は、初歩的・基本的事項を中心に、適宜、質疑応答を行うが、発言を強制的に求めるような指名は行わない(発言は任意)。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(公民) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 民法総則, 物権法, 担保物権法。  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 民法は、市民生活と最も密接な関わりを有する一般法である。本講義では、この民法のうち、財産法と呼ばれる分野の前半部に当たる総則、物権法及び担保物権法を扱う。本講義を通じて、民法についての基本的知識・理解を身に付け、法を解釈・適用することにより具体的場面において適切に問題解決することができる能力(リーガルマインド)を涵養することを目標とする。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義は、大きく4つのパートに分けて進行する。第1パートは、法学初心者を念頭においた法学入門である。法学に対する入門的理解を得るとともに、法体系における民法の位置付け及び民法の体系についても学ぶ。第2パートは、民法総則である。民法における基本概念について、それらが実際に問題となる具体的場面を意識できるよう適宜判例を交えながら、解説する。第3パートは、物権法である。所有権や占有権等の物権についての基本的理解を身に付けるとともに、具体的紛争場面における解決法を学ぶ。第4パートは、担保物権法である。抵当権や質権等の担保物権についての基本的理解を身に付けるとともに、典型的紛争場面を念頭に、具体的解釈・適用を学ぶ。日々の弁護士業務を通じて頻繁に接する典型事例やその解決法を適宜紹介し、民法が実生活と直結していることを実感してもらうとともに、自己及び近親者の権利を最低限防衛するスキルを身に付けてもらいたい。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験による評価を基本に、講義中の質疑・応答における発言点を加味して最終評価とする。あくまで期末試験による評価が基本であるため、評価対象としての期末試験への配点は100点とする。発言点は、期末試験での得点(素点)に加点する形で最終的な評価点に組み入れるが、その加点割合は小さく、期末試験での得点をメインとする。   |                  |    |
| テキスト                        | 毎回講師作成のレジュメを配布するため、格別、テキスト等を購入する必要はない。但し、ポケット六法(有斐閣)等で構わないので、最低限民法の掲載されている六法は必携とする。  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 毎回の講義には、六法を持参されたい。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営法務   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 松原 正至 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業で行う。各講義に際してレジュメを配布し、授業時間2時間と学生の復習4時間を想定した授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象。「民法」を履修していることが望ましい。   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)選択(平成21年度以前の入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | 商法, 会社法, 金融商品取引法, 株式, 社債, ファイナンス, ビジネス   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | ビジネスをとりまく法, とりわけ商法と会社法について, 一通りの理解ができるように講義を進める。また, 理解の到達度を確認する作業として, 日本経済新聞を毎回の講義にて用いる。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 商法総則・商行為法および会社法の分野について, それぞれ1回毎にテーマを設定して解説する。商法総則・商行為法の分野については, 商法という法律そのものの紹介から, 企業のブランド, 人的価値, 営業組織, 取引法, (特に国内売買)について述べる。また, 会社法分野については, 会社の意義と種類, 株式・機関・資金調達等について解説する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席点とレポートにて評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | レジュメを配布する。また, 携帯用の六法を購入しておくことが望ましい。  |                  |    |
| 参考文献                        | 『日経 業界地図 2016年版』日本経済新聞社  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 知的財産権関連講座   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 渡辺 孝信   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 地域連携センター  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 9時～18時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 座学, パソコン演習 (商標調査)   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (15時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免 (商業) 選択 (平成21年度以前の入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | 知的財産権, 特許権, 商標権, 著作権, 知財マネジメント  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 企業が競争優位性を築くためには, 設備などの有形資産だけでなく無形資産となる知的財産を活用していく事が重要である。本授業では, 知財マネジメントの基礎となる知的財産権の制度, 商標調査, アイデアを権利化する方法について説明する。併せて, 著作権の侵害などのトラブルを未然に防ぐ方法について触れる。   |                  |    |
| 授業の内容                       | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 知的財産に関する制度について <ul style="list-style-type: none"> <li>・特許権, 実用新案権, 商標権, 著作権の概要を理解する</li> </ul> </li> <li>2 特許調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特許電子図書館 (J-PlatPat) を用いた商標調査の演習を行う</li> </ul> </li> <li>3 アイデアを権利化する方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアを創出する方法</li> <li>・発明の捉え方</li> </ul> </li> </ol> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業終了後の提出物や最終レポートにより評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 産業財産権標準テキスト「総合編」(独) 工業所有権情報・研修館 発行<br>開講日に配布するため, 購入は不要。  |                  |    |
| 参考文献                        | 知的財産管理技能検定3級公式テキスト 改訂6版   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 消費者保護関連講座  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 柏木 信一 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 消費者問題に対する対応・法律について、毎回、オムニバス形式で展開する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (15時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業) 選択(平成21年度以前の入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | 契約、悪徳商法、欠陥商品、多重債務者問題、消費者保護、消費者教育   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 日常生活に関連する消費生活トラブルについて体得する。また、取引、経営において消費者に対してしてはならないことを同時に知ること。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 契約、悪徳商法、欠陥商品、多重債務者問題、消費者保護、消費者教育に関する事項を展開します。但し、第1回目の講義で、受講者の進路・関心に応じて調整できます。それゆえ、受講予定者は必ず出席してください。変更のない場合、予定として次の流れです。1 ガイダンス 2 契約と損害賠償 3 消費者契約法(1)<br>4 消費者契約法(2) 5 クーリング・オフ 6 中途解約権 7 貸金3法 8 総括 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 講義での質疑応答、担当者への質問点・積極点、チェックテストを総合して判定します。なお、講義回数が8回ゆえ、欠席が3回以上の場合には評価の対象としません。   |                  |    |
| テキスト                        |  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 欠席する場合、相談がある場合は、メール: sk_question@yahoo.co.jpをご利用ください。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 職業適応論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 江口 圭一 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。シラバスに示した日程にしたがって講義形式で実施する。学生は、講義に出席するとともに、毎回、簡単な報告をしてもらう。また、学期末のレポート提出が義務づけられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業)必修(平成21年度以降の入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | キャリア発達, 職業選択, 過労死, 労働ストレス, 会社人間, 組織市民行動, 離転職, フリーター   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 卒業後の職業生活において、様々なストレスを感じる問題や人間関係の問題にぶつかるとは避けられない。本講義では、現実起きるであろう具体的な問題を、職業選択から就職後の生活までの時間に沿って取り上げる。それによって、将来それらの問題に直面したときに、その問題に完全に巻き込まれてしまうのではなく、一歩引いて客観的に見ることができきつかけになるような講義を目指す。<br>したがって、心理学的な視点を中心に、理論的な内容だけでなく、実践的な内容もできるだけ多く取り入れていく。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 職業生活に関連する様々な問題とその対応について、キャリア発達の段階に沿って授業を進める。具体的にはシラバスに示すように、(1) 学生時代の職業選択に関する問題、(2) 就職直後の組織社会化や職業的社会的問題、(3) 職業生活におけるさまざまなストレスの問題、の順番で進めていく。<br>(1) 職業選択の問題については、キャリア発達理論と職業選択において用いられる様々なツールについて概説する。つぎに、(2) 就職直後の問題については、社会化の視点から、組織や職業にどのようななれんていくのかを見ていく。そして、(3) 職業生活における様々な問題について概説するとともに、それらの問題に直面したときにどのように対処していけばいいのかについても考えていきたい。<br>授業は基本的には講義形式で行うが、受講生は自分にとって「働くこと」や「職業生活」の意味を常に考えておき、発言を求められたときには自分の意見を主張できるようにして欲しい。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席点30%、学期末のレポート70%の割合で評価する。学期末のレポートについては、職業生活への適応に関連する内容であれば、テーマは自由(講義で取り上げた内容でもいいし、それ以外でも可)とする。ただし、それに対する自分の意見も明示することが求められる。   |                  |    |
| テキスト                        | 適宜、資料を配付する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 適宜、参考文献を紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 特に必要とする事前の知識等はないが、講義を通して自分なりの「働くこと」や「職業生活」への意識を深めていただきたい。   |                  |    |

|                         |   |                  |    |
|-------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                   | 外国書講読 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 村上 恵子   |                  |    |
| 研究室の場所                  | 広島キャンパス 1647研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                 | 毎週火～木曜日12:10～13:00。場所は担当教員研究室。これ以外の面談はメールにて要予約。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 対面授業。授業は事前に配布する英文資料の輪読形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習2時間を想定した授業を行う。学生は授業での発表とディスカッションへの参加, 期末レポートの提出が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                    | 経営学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                 |   |                  |    |
| キーワード                   | 英語文献, 英文読解, Management, Marketing, Accounting, Economics, Corporate Finance, Strategy   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | <p>本授業の目標は、経済や金融、経営、会計・財務に関する内容を取り扱った英文テキストや英文論文、英字新聞・英文雑誌等の輪読を通じて、(1)ビジネス用語やファイナンス用語を含む英文の読解能力の向上を図ること、(2)ビジネス・リーダーとして活躍する上で必要となる「経済・金融」、「経営」、「会計・財務」に関する知識を深めること、の2点である。英語「を」学ぶことではなく、英語「で」学ぶことが主たる目的である。</p> <p>本科目は経営学科の経営学外国語に区分されている。経営学科の学科専門科目を幅広く履修しておくことで、本授業の理解が深まると考えられる。</p>   |                  |    |
| 授業の内容                   | <p>経営学に関する以下のテーマについて英語で学習する。<br/> (1)Management, (2)Operations, (3)Marketing Mix and Advertising, (4)Marketing Research and Marketing Analysis, (5)Accounting, (6)Economics, (7)Corporate Finance, (8)Organizational Behavior and Psychology, (9)Strategy, (10)Business Ethics, (11)Communication in Business, (12)Globalization.<br/> また、経済問題や企業経営に関する記事や論文を読み、経済界等で話題になっているトピックスについて学ぶ。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                 | 授業での発表とディスカッションへの参加度70%、期末に課すレポート30%の割合で評価する。   |                  |    |
| テキスト                    | 使用しない。随時、資料を配布する。   |                  |    |
| 参考文献                    | 授業中に適宜、紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者は事前に配布する資料を精読した上で授業に臨むこと。</li> <li>・2年次までに履修した経営学科専門科目を復習しておくこと。</li> </ul>  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 外国書講読Ⅱ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 五百竹宏明  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1726研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時（メールでアポイントメントを取ること）  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。受講生で輪読し、その内容についてディスカッションを行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位（30時間）  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | Nonprofit Organization, Management, Governance, Leadership, Accountability   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 英語で書かれた専門書（経営学分野）を読むことは以下のことに貢献するであろう。<br>（1）英語力の維持・向上、（2）マネジメントに関する専門用語の語彙増加、（3）論理的思考力の涵養、（4）文章力の向上   |                  |    |
| 授業の内容                       | 今年度は、Michael J. Worth, Nonprofit Management : Principles and Practice を講読する。著者のWorth氏はジョージワシントン大学の教授であり、米国における非営利組織マネジメント研究の第一人者のひとりである。<br>Part I Understanding Nonprofit Organizations, Part II Governing and Leading Nonprofit Organizations, Part III Managing the Nonprofit Organizations を読む予定である。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業での発表（70%）と期末のquiz（30%）で評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | Michael J. Worth, Nonprofit Management : Principles and Practice (Sage)  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業の進行に応じて適宜紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | ビジネス英語  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ステーブン・ルイス・ローゼン  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1817研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | to be announced   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Mainly listening and speaking with presentations  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | Business English  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | To provide students with basic English communication skills to help communicate in the global market place  |                  |    |
| 授業の内容                       | The course will use a wide variety of materials which emphasize building the vocabulary and English expressions needed for today's business world.  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Business presentations (using Powerpoint)- 25%, attendance- 30%, short report- 20%, final exam- 25%   |                  |    |
| テキスト                        | Materials will be provided by the teacher in class or from the website for free   |                  |    |
| 参考文献                        | to be announced in class  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Students will need internet access and need to be able to do research about companies on the internet in English. The teacher will recommend various internet resources for business research in English. |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営学特別講義 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 橋上, 足立, 塚原, 中島, 片桐, 村上, 式部  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 172 4   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 面談はメールにて要予約。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程にしたがって配付資料, パワーポイント等を使用して講義形式で行う。本授業は広島所在の金融機関による『特別講義』として実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2・3・4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業) 選択(平成21年度以前の入学生)   |                  |    |
| キーワード                       | 地域金融, CSR(企業の社会的責任), コンプライアンス, 金融商品販売法, 消費者保護, 投資銀行業務, 証券仲介業務, リスク管理, 資産運用, 年金, 投資信託  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>本授業の目標は, 金融ビッグバン後の新しい金融システムの下での金融機関の機能と役割, ならびに金融分野における最新の知識を習得することにより, 金融・ファイナンスへの関心を高め, その必要性を理解することにある。</p> <p>本授業の特徴は, 広島所在の様々な金融機関から金融の最前線で活躍する方々を講師としてお招きして授業を行うことにある。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>「金融新時代における地域金融機関の役割」をテーマとし, 広島所在の様々な金融機関から金融の最前線で活躍する方々を講師として迎えてオムニバス方式で授業を進める。具体的な金融機関名, 講師名, 各回のテーマについては, 決定し次第連絡する。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>成績は授業参加度とレポートで評価する。</p> <p>レポート提出の要領については, 講義期間中に指示する。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | 使用しない。必要に応じて資料を配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <ul style="list-style-type: none"> <li>履修予定者はこのコースカタログをよく読んで履修選択し, 授業に望むこと。</li> <li>授業の具体的な進め方については, 開講時に案内する。</li> <li>授業中の飲食, 携帯電話の使用, 雑談, 居眠りは厳禁する。</li> </ul>                  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | <b>経営学特別講義Ⅱ</b>   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 粟島浩二, 五百竹宏明, 平野実, 小原久美子, 朴唯新, 和田崇   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 1642  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時 (メール, 電話などで事前に予約をすること)   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業計画に従い, 講義形式で実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2・3・4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免 (商業) 選択 (平成21年度以前の入学生対象)   |                  |    |
| キーワード                       | 広島, 企業, NPO, 経営者・管理者  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>産学連携の一環として, 広島を地盤に事業展開を行う企業, NPO等の経営者をお招きして授業を行う。経営の第一線で活躍する方々の講義により企業経営の現場を理解する。</p> <p>【知識・理解】 広島企業等の経営戦略, 特に地域との関わりを説明できる。<br/> 【思考・判断】 広島企業等の経営実態を理解し, 課題等を指摘できる。<br/> 【関心・意欲】 広島企業等に対する関心を深め, 地方企業の経営戦略について討議できる。<br/> 【技能・表現】 上記についての的確にとりまとめた文章 (レポート) を作成できる。<br/> 【態度】 授業内容に対する質問・感想を積極的に発表できる。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>広島を地盤にして, さまざまな分野で事業活動を展開する企業経営者・NPO等の管理者を講師として迎え, オムニバス形式で授業を進める。具体的な企業名, 講師名は決定次第連絡する。</p>   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業態度 (65%) および期末レポート (35%) で総合的に評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | なし  |                  |    |
| 参考文献                        | 渡辺昌彦 (2009) : 『広島のものづくり企業一次世代へのメッセージ』 溪水社, 1800円+税<br>渡辺昌彦・村山秀次郎 (2014) : 『広島のものづくり先進企業2』 溪水社, 800円+税   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 講義中の飲食, 携帯電話の使用, 私語雑談, 居眠りは厳禁する (詳細は第1回に指示)。<br>講義の最終回に期末レポートを提出してもらう。  |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営情報学特別講義 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 志多木 義浩 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、個別製作のテキストによる講義形式で実施する。毎週学習テーマに関する問題提起を行い討議を重視した授業をおこなう。同時に、学生個人の授業参加態度を評価する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (15時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2・3・4年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | I T, インターネット, ネットワーク, ERP, SCM, CRM, 情報セキュリティ, データベース, コンサルティング, プロジェクトマネジメント, 内部統制, 戦略的情報化, I T経営, クラウド, 個人情報保護   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生に企業や組織の第一線活動に接触する機会を拡大する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業や組織の中で実際に活動している専門家を活用した実践的なマインドを要請する。</li> </ul> </li> <li>2. 最新の I T ノウハウの習得に当たっては、実習及び演習を中心とし、実践力と行動力を身に付けることをねらう。</li> <li>3. 学生に向学動機づけを図る。産業界が実践的人材を求めていることに鑑み、各種資格の取得を奨励・支援し、地域産業界への就業対応力の強化を図る。</li> </ol> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>企業の戦略的情報化や業務知識, 開発事例や最新のシステム化動向について論ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報システム開発に関する現実の話題を提供する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・システム開発手法, プロジェクトマネジメントなど</li> </ul> </li> <li>2. 戦略的情報化 (I T C プロセス) に関する実習 <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営戦略立案実習, 業務プロセス分析の実習など</li> </ul> </li> </ol>      |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席及び授業態度 (配点: 40%)</li> <li>2. 小論文 (配点: 60%)</li> </ol>  |                  |    |
| テキスト                        | テキストは、個別に製作し授業の都度配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示及び学生に対する授業内での連絡によって行う。さらに、メーリングリストによる学生への連絡も随時行う。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営情報学特別講義Ⅱ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 竹田 邦雄 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業、及び情報処理演習室での実習   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (15時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2・3・4年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 企業情報システム、クラウドファースト、ビックデータ、BI(ビジネスインテリジェンス)、BA(ビジネスアナリシス)、データマイニング、クラウドコンピューティング、アジャイル開発、IoT、M2M、Tableau  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | <p>企業において将来のイノベーションを推進する人材を育成するための授業をします。企業経営や事業革新がITをどのようにして活用して経営やその可視化に役に立つかを学びます。</p> <p>具体的にケーススタディで何がその企業の経営課題か仮説を立て、実際に公表されている経営データを使ってその数値を分析し、BIツールを使ってVisualに表現する方法を学び、今後の就職活動や会社に入った時に役立つ経営視点での技術と知見を身に付けることを目標とします。</p>  |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>データサイエンティストとして、ビジネスで活用できることを目的とし統計解析や分析技術等の特定分野に偏らずに、ビックデータ分析を導入するための手法を実戦形式で学んできます。ケーススタディで企業の数値データから課題を紐解き分析する手法を様々な角度から学ぶ。実際の演習でBIソフト (Tableau)を使って経営の可視化をどのような方法や切り口で行うのかを体験する。</p> <p>IT系を志望する学生にとって、メジャーな外資系ソフトウェア会社 (マイクロソフト、SAP、オラクル) から典型的な日本のシステムインテグレーターやベンチャー企業まで勤めた経験をベースに、今後のIT業界の動向と、日本企業と外資系企業の違いを解説することで就職の参考にしてもらう。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>授業の出席率20%、課題提出・感想文20%及びTableau実習でダッシュボード作成の成果(60%)で判断する。レポートの課題は授業の最後に指示する。各レポートの提出期限は次回授業に回収する。課題は授業に出た内容の重要箇所を中心に出します。レポートについてはいくつかの会社の事例をベースに実際の業界の課題、会社の課題、財務分析、Tableauを使ったビジュアル分析の作成、その会社の特性や将来予測、自分が志望する理由などをまとめてもらいます。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | <p>独自に作成した資料を配布予定 (PDFで公開)</p> <p>情報の錬金術 森川富昭の本を教材として使用予定 (全員に配布します)</p>   |                  |    |
| 参考文献                        | <p>企業情報システムアーキテクチャー 南波幸雄著<br/> ITによる業務変革の「正攻法」 JFEスチールの挑戦 安保秀雄著<br/> システムインテグレーション崩壊 斎藤昌義著</p>   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>履修予定者は課題になるTableauというソフトウェアを事前にダウンロードし、オペレーションについてはビデオ学習をしておき基本的な操作は習得しておくこと。</p>   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | プロジェクト研究  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 栗島 浩二   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1648研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | メールでのアポイントにより適時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | この授業は、少人数対面講義・グループ研究・プレゼンテーションによって行われます。参加する受講生が自主的にテーマを決めて、1年間研究と報告を重ねていきます。最終的には1月に研究報告書を作成します。課題に応じて、取材等の課外活動や講義時間外の研究調査が必要となります。アクティブラーニングの対象科目です。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (60時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 経営学, マーケティング, 経営戦略, 組織, 株式市場, ベンチャービジネス, 業界研究, 企業研究, スポーツマネジメント, 広告宣伝 等   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 「プロジェクト研究」は、学生が自主的に取り組む研究に対して「場」を提供する講義です。研究とは、一つのテーマに対して自分で調べて自分で仮説を立て、自分で方法を探し、自分で検証し、自分で解を探索する活動です。したがって、本講義の履修を希望する学生はあらかじめ何らかの問題意識や研究領域に対する強い関心をもっていることが前提となります。講義で学んだ理論を実際の企業活動のなかで検証してみることや、自らが進んで一つの領域を探索してみることを目指しています。本講義を通じて、ゼミが始まる3年次より早い段階で研究というものに理解を深め、自分で調べ、考え、探索する楽しみをみつけてもらいたいと思います。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 1、自由にテーマを設定する 2、近いテーマごとに3名～5名程度のグループに分かれて研究を行う 3、調べる方法や詳細テーマに応じて、個人別の担当、役割分担を決める 4、研究計画書の作成(スケジューリング、調査方法、仮説) 5、月に一度報告会を行う 6、夏休み明け中間報告会(プレゼンテーション) 7、12月～1月 最終報告の準備 8、最終研究報告書作成※これまでに受講生が取り上げた研究テーマ・株価や為替の変動に関する研究、・ジャニーズによるエンターテインメント・マーケティング、・広島駅前再開発、・ネットビジネスに関する研究、・化粧品のブランドコンセプト、・広告キャッチコピー、・ゆるキャラに関する研究、・スポーツマーケティングに関する研究、お菓子のブランド戦略、島根県の魅力再提案、ビジネスプランの作成、等。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席(全講義数1年間で15回) および中間報告: 毎月行う研究報告会を評価します(配点50点) 最終研究報告書の評価(配点50点)   |                  |    |
| テキスト                        | 研究に必要な文献や資料はできるだけ大学で用意できるものを使いますが、必要に応じて書籍等を各人で購入してもらうことがあります。  |                  |    |
| 参考文献                        | 特になし  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | グループ研究や中間報告をまとめる必要があり、講義時間以外にも自主的な研究時間が必要です。希望者は必ず初回講義ガイダンスに出席してください。また、どのようなテーマで研究を行いたいのか、簡単に説明できる状態で参加してください。友達同士と一緒に参加しても結構です。1つのテーマをいろいろな角度から検証し、研究する楽しみを味わってください。最終報告書は簡易製本して受け取ることができます。通年科目ですが、15回で完了します。キャップ制では後期の科目として2単位がカウントされます。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 大学基礎セミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 呉漢生、錦織昭峰、佐々木宣介、広谷大助   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 呉：1532研究室、錦織：1643研究室、佐々木：1545研究室、広谷：1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 経営情報学科の学生を4グループに分割し、4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | なし  |                  |    |
| キーワード                       | 図書館およびインターネットによる情報収集、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング(レポート作成、論文作法、など)、プレゼンテーション  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は、全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け、学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また、充実した大学生活を送るうえでの基礎知識を身につける。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、大学教育についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、具体的な教材をもとにして、少人数クラスでの実践的な指導を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度、レポート、小テスト、プレゼンテーション等を総合して評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 「知へのステップ」「第4版」、学習技術研究会、くろしお出版   |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して、授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため、本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | フレッシュマンセミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 呉漢生、錦織昭峰、佐々木宣介、広谷大助  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 呉：1532研究室、錦織：1643研究室、佐々木：1545研究室、広谷：1634研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 経営情報学科の学生を4グループに分割し、4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | なし   |                  |    |
| キーワード                       | 図書館およびインターネットによる情報収集、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング(レポート作成、論文作法、など)、プレゼンテーション   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は、全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け、学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また、充実した大学生活を送るうえでの基礎知識を身につける。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、大学教育についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、具体的な教材をもとにして、少人数クラスでの実践的な指導を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度、レポート、小テスト、プレゼンテーション等を総合して評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 「知へのステップ」「第4版」、学習技術研究会、くろしお出版  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して、授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため、本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。  |                  |    |

|                         |   |                  |    |
|-------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                   | 大学基礎セミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 呉漢生、錦織昭峰、佐々木宣介、広谷大助   |                  |    |
| 研究室の場所                  | 呉：1532研究室、錦織：1643研究室、佐々木：1545研究室、広谷：1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                 | 当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 経営情報学科の学生を4グループに分割し、4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                    | 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                 | なし  |                  |    |
| キーワード                   | 図書館およびインターネットによる情報収集、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング(レポート作成、論文作法、など)、プレゼンテーション  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | この科目は、全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け、学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また、充実した大学生活を送るうえでの基礎知識を身につける。   |                  |    |
| 授業の内容                   | 大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、大学教育についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、具体的な教材をもとにして、少人数クラスでの実践的な指導を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                 | 授業中の積極的な態度、レポート、小テスト、プレゼンテーション等を総合して評価する。   |                  |    |
| テキスト                    | 「知へのステップ 第4版」、学習技術研究会、くろしお出版、2015年  |                  |    |
| 参考文献                    | 特に指定しない。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して、授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため、本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | フレッシュマンセミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 呉漢生、錦織昭峰、佐々木宣介、広谷大助  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 呉：1532研究室、錦織：1643研究室、佐々木：1545研究室、広谷：1634研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 経営情報学科の学生を4グループに分割し、4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | なし   |                  |    |
| キーワード                       | 図書館およびインターネットによる情報収集、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング(レポート作成、論文作法、など)、プレゼンテーション   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は、全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け、学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また、充実した大学生活を送るうえでの基礎知識を身につける。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、大学教育についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、具体的な教材をもとにして、少人数クラスでの実践的な指導を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度、レポート、小テスト、プレゼンテーション等を総合して評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 「知へのステップ 第4版」、学習技術研究会、くろしお出版、2015年   |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して、授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため、本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 大学基礎セミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 呉漢生、錦織昭峰、佐々木宣介、広谷大助   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 呉：1532研究室、錦織：1643研究室、佐々木：1545研究室、広谷：1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 経営情報学科の学生を4グループに分割し、4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | なし  |                  |    |
| キーワード                       | 図書館およびインターネットによる情報収集、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング(レポート作成、論文作法、など)、プレゼンテーション  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は、全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け、学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また、充実した大学生活を送るうえでの基礎知識を身につける。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、大学教育についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、具体的な教材をもとにして、少人数クラスでの実践的な指導を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度、レポート、小テスト、プレゼンテーション等を総合して評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 「知へのステップ 第4版」、学習技術研究会、くろしお出版、2015年  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して、授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため、本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。   |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | フレッシュマンセミナー   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 呉漢生、錦織昭峰、佐々木宣介、広谷大助   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 呉：1532研究室、錦織：1643研究室、佐々木：1545研究室、広谷：1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 経営情報学科の学生を4グループに分割し、4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | なし  |                  |    |
| キーワード                       | 図書館およびインターネットによる情報収集、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング(レポート作成、論文作法、など)、プレゼンテーション  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は、全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け、学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また、充実した大学生活を送るうえでの基礎知識を身につける。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、大学教育についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、具体的な教材をもとにして、少人数クラスでの実践的な指導を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度、レポート、小テスト、プレゼンテーション等を総合して評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 「知へのステップ 第4版」、学習技術研究会、くろしお出版、2015年  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して、授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため、本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。   |                  |    |

|                         |   |                  |    |
|-------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                   | 大学基礎セミナー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 呉漢生、錦織昭峰、佐々木宣介、広谷大助   |                  |    |
| 研究室の場所                  | 呉：1532研究室、錦織：1643研究室、佐々木：1545研究室、広谷：1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                 | 当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと  |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 経営情報学科の学生を4グループに分割し、4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必須 |
| 履修要件                    | 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                 | なし  |                  |    |
| キーワード                   | 図書館およびインターネットによる情報収集、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング(レポート作成、論文作法、など)、プレゼンテーション  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | この科目は、全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け、学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また、充実した大学生活を送るうえでの基礎知識を身につける。   |                  |    |
| 授業の内容                   | 大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、大学教育についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、具体的な教材をもとにして、少人数クラスでの実践的な指導を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                 | 授業中の積極的な態度、レポート、小テスト、プレゼンテーション等を総合して評価する  |                  |    |
| テキスト                    | 「知へのステップ 第4版」、学習技術研究会、くろしお出版、2015年  |                  |    |
| 参考文献                    | 特に指定しない   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して、授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため、本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | フレッシュマンセミナー   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 呉漢生、錦織昭峰、佐々木宣介、広谷大助   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 呉：1532研究室、錦織：1643研究室、佐々木：1545研究室、広谷：1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 当該学生が所属するグループを担当する教員の指示に従うこと  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 経営情報学科の学生を4グループに分割し、4人の教員が1グループずつ担当する。学科全体での講義形式とグループに分かれてのセミナー形式を併用して授業を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | なし  |                  |    |
| キーワード                       | 図書館およびインターネットによる情報収集、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング(レポート作成、論文作法、など)、プレゼンテーション  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は、全学共通教育科目として必修科目となっている。大学において授業を受け、学習・研究するために必要となる基礎的素養を習得する。また、充実した大学生活を送るうえでの基礎知識を身につける。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 大学生生活の基礎知識および大学生としての学習方法の習得、大学教育についての理解等をもとにして、大学において学生が主体的に学ぶことができる能力を培う。多人数クラスでの講義および10名程度の少人数クラスでの演習を適宜併用する。特に、ノートテイキング、リーディング、アカデミック・ライティング、プレゼンテーション、図書館およびインターネットによる情報収集等の基本的な学習方法については、具体的な教材をもとにして、少人数クラスでの実践的な指導を行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度、レポート、小テスト、プレゼンテーション等を総合して評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 「知へのステップ 第4版」、学習技術研究会、くろしお出版、2015年  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 大学での授業はこれまでの授業とは大きく異なります。そのことをしっかり認識して、授業を受けるための基礎的素養を早く身につけるため、本科目には主体性をもって取り組むようにして下さい。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 橋本 朝子 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 短編小説のコンプリヘンション, 読解ストラテジー, 文体   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 語彙力・文法力を高め, さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り, 異なる文化に対する知識を深めることができる。                  |                  |    |
| 授業の内容                       | さまざまな分野の英文に触れることにより, 語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行う。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行う。                 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 英語の基本構造に対する理解度、読んだ英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションへの積極的態, 等により総合評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | E. Hemingway, L. Hearn, K. Mansfield, J. Steinbeck他著 安永義夫編注<br>"Breakfast and Other Stories" 金星堂, 2013 |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 英和辞典を持って授業に臨んでください。テキストの予習と復習が必要です。意欲的な学習態度を期待します。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Comprehensive Reading I (英文講読 I)   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 橋本 朝子 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 短編小説のコンプリヘンション, 読解ストラテジー, 文体   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 語彙力・文法力を高め, さまざまな分野の英文を正確に理解できることを目標とする。文章の社会的・文化的・歴史的背景を読み取り, 異なる文化に対する知識を深めることができる。                  |                  |    |
| 授業の内容                       | さまざまな分野の英文に触れることにより, 語彙および語法や文法などに関する知識の積み上げを行う。リーディングに必要なスキルを用いて文章の概要や要点を読み取る読解演習を行う。                 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 英語の基本構造に対する理解度、読んだ英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションへの積極的態, 等により総合評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | E. Hemingway, L. Hearn, K. Mansfield, J. Steinbeck他著 安永義夫編注<br>"Breakfast and Other Stories" 金星堂, 2013 |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 英和辞典を持って授業に臨んでください。テキストの予習と復習が必要です。意欲的な学習態度を期待します。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岩井 千秋 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      | —  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業は教科書をワンレッスンごとに進めて行くようなことはしません。最初の2週で教科書の数課分にまとめて目を通し、速読、音読、シャドーイング、書き取りなどを学期の間、繰り返して行い、英語学習の習慣化を図ります。また協働学習を中心に、choral reading などの手法を使って、他の受講生と一緒に読んだ内容を発表することも行います。 |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 速読、音読、英語学習の習慣化   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 語彙力・文法力を駆使し、多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して、文化や社会問題等についての理解を深めます。授業では特に音読(シャドーイング)を重視します。学期の終わりまでには自分自身で学習目標を決め、学習に取り組める自律学習者となることを目指します。                      |                  |    |
| 授業の内容                       | 文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読んで理解し、何度も音読します。こうした学習を通じて、英文理解へのスピード化、自動化を図ると共に、語彙力、表現力を高めます。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 語彙や文法などの英語力、英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態、等により総合評価します。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。   |                  |    |
| テキスト                        | Shimaoka, T. & Berman, J. 著<br>Life Topics: Acritical Thinking Approach to English Proficiency. 南雲堂  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業で適宜紹介します。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、課題や授業で紹介する学習方法を実践する覚悟で受講してください。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Comprehensive Reading II (英文講読II)  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岩井 千秋 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      | —  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 授業は教科書をワンレッスンごとに進めて行くようなことはしません。最初の2週で教科書の数課分にまとめて目を通し、速読、音読、シャドーイング、書き取りなどを学期の間、繰り返して行い、英語学習の習慣化を図ります。また協働学習を中心に、choral reading などの手法を使って、他の受講生と一緒に読んだ内容を発表することも行います。 |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 速読、音読、英語学習の習慣化   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 語彙力・文法力を駆使し、多読・速読ができる。書き手の意図を的確にとらえることができる。英文読解を通して、文化や社会問題等についての理解を深めます。授業では特に音読(シャドーイング)を重視します。学期の終わりまでには自分自身で学習目標を決め、学習に取り組める自律学習者となることを目指します。                      |                  |    |
| 授業の内容                       | 文章の構成やキーワードを把握するなどのリーディングに必要なスキルに触れながら多量の英文を読んで理解し、何度も音読します。こうした学習を通じて、英文理解へのスピード化、自動化を図ると共に、語彙力、表現力を高めます。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 語彙や文法などの英語力、英文の内容に対する理解度、英語コミュニケーションに対する積極的態、等により総合評価します。その他、出席、課題の提出状況、毎回の出席クイズ、授業への参加度合を総合して評価します。   |                  |    |
| テキスト                        | Shimaoka, T. & Berman, J. 著<br>Life Topics: Acritical Thinking Approach to English Proficiency. 南雲堂  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業で適宜紹介します。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 私は特に遅刻が嫌いです。10分以上の遅刻は、基本的に欠席と見なします。また授業に出席しているだけで英語の力が身に着くことなどあり得ません。他人任せではなく、課題や授業で紹介する学習方法を実践する覚悟で受講してください。  |                  |    |

|                         |  |                  |    |
|-------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                   | 英語Ⅲ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 橋本 朝子 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                  |  |                  |    |
| オフィスアワー                 |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 対面授業   |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                    | 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                 |  |                  |    |
| キーワード                   | 談話のコンプリヘンション、語彙のストラテジー、背景知識  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | 英文を正確に読み取ることができ、さらにcritical readingやpresentationなどの応用的な読みへとつなげることができる。                         |                  |    |
| 授業の内容                   | リーディングに必要なスキルを習得し、速読や多読を行う。読解によって得た情報を発信へとつなげる技能を養う。   |                  |    |
| 成績評価の方法                 | 読んだ英文の内容に対する理解度、文章の内容に対する発信力、英語コミュニケーションへの積極的態、等により総合評価する。                                     |                  |    |
| テキスト                    | ジム カヌーセン, 永本 一範著 "A World of Ideas — Active Reading for Global Awareness" 『世界の視点を読む』 南雲堂, 2013 |                  |    |
| 参考文献                    |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 英和辞典を持って授業に臨んで下さい。テキストの予習と復習が必要です。意欲的な学習態度を期待します。  |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Extensive Reading (上級英文読解)   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 橋本 朝子 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 談話のコンプリヘンション、語彙のストラテジー、背景知識  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 英文を正確に読み取ることができ、さらにcritical readingやpresentationなどの応用的な読みへとつなげることができる。                         |                  |    |
| 授業の内容                       | リーディングに必要なスキルを習得し、速読や多読を行う。読解によって得た情報を発信へとつなげる技能を養う。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 読んだ英文の内容に対する理解度、文章の内容に対する発信力、英語コミュニケーションへの積極的態、等により総合評価する。                                     |                  |    |
| テキスト                        | ジム カヌーセン, 永本 一範著 "A World of Ideas — Active Reading for Global Awareness" 『世界の視点を読む』 南雲堂, 2013 |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 英和辞典を持って授業に臨んで下さい。テキストの予習と復習が必要です。意欲的な学習態度を期待します。  |                  |    |

|                             |   |                  |               |
|-----------------------------|---|------------------|---------------|
| 授業科目名                       | 英語IV  |                  |               |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 栗原 武士   |                  |               |
| 研究室の場所                      | 1823  |                  |               |
| オフィスアワー                     | 研究室のドアに表示。  |                  |               |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。演習と講義形式を併用する。  |                  |               |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営：必修 経営情報：必修 |
| 履修要件                        | 経営学科，経営情報学科 2年次対象   |                  |               |
| 免許等指定科目                     |   |                  |               |
| キーワード                       | 英語読解、時事英語   |                  |               |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>この科目では、「Comprehensive Reading I」「Comprehensive Reading II」「Extensive Reading」で獲得した技能をさらに発展させ、各分野の基礎的な専門用語を含む英文を読んで正確に理解できる力の習得を目標とする。文章のジャンル（記事、ビジネス文書、論文など）に応じた構成を理解できる。専門用語の基礎的な知識を得ることができる。</p> <p>本科目は、全共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要な基礎的リーディング能力を養う科目として位置づけられる。</p> |                  |               |
| 授業の内容                       | 予習－演習－復習というサイクルを毎週行いながら、基礎的なリーディング能力を涵養します。また、学習者同士でのグループワークを取り入れ、テキストの内容を相互に理解するアクティビティを行います。  |                  |               |
| 成績評価の方法                     | クラス内小テスト及び考査をもとに、授業参加度など、総合的に評価する。  |                  |               |
| テキスト                        | Readers' Forum 2 Everyday English: Current Topics to Read and Talk about (南雲堂) Jim Knudsen著   |                  |               |
| 参考文献                        | 適宜クラス内で配布   |                  |               |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | オリエンテーションで説明します。  |                  |               |

|                             |   |                  |               |
|-----------------------------|---|------------------|---------------|
| 授業科目名                       | Specific Reading (専門英語講読)   |                  |               |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 栗原 武士   |                  |               |
| 研究室の場所                      | 1823  |                  |               |
| オフィスアワー                     | 研究室のドアに表示。  |                  |               |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。演習と講義形式を併用する。  |                  |               |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営：必修 経営情報：必修 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象  |                  |               |
| 免許等指定科目                     |   |                  |               |
| キーワード                       | 英語読解、時事英語   |                  |               |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>この科目では、「Comprehensive Reading I」「Comprehensive Reading II」「Extensive Reading」で獲得した技能をさらに発展させ、各分野の基礎的な専門用語を含む英文を読んで正確に理解できる力の習得を目標とする。文章のジャンル(記事、ビジネス文書、論文など)に応じた構成を理解できる。専門用語の基礎的な知識を得ることができる。</p> <p>本科目は、全共通教育科目の外国語科目に区分されており、県立広島大学の2年生として必要な基礎的リーディング能力を養う科目として位置づけられる。</p> |                  |               |
| 授業の内容                       | 予習ー演習ー復習というサイクルを毎週行いながら、基礎的なリーディング能力を涵養します。また、学習者同士でのグループワークを取り入れ、テキストの内容を相互に理解するアクティビティを行います。  |                  |               |
| 成績評価の方法                     | クラス内小テスト及び考査をもとに、授業参加度など、総合的に評価する。  |                  |               |
| テキスト                        | Readers' Forum 2 Everyday English: Current Topics to Read and Talk about (南雲堂) Jim Knudsen著   |                  |               |
| 参考文献                        | 適宜クラス内で配布   |                  |               |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | オリエンテーションで説明します。  |                  |               |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語表現 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ケイヴォーン・デイビッド・カゼミ (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. |                  |    |
| 授業の内容                       | The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn active strategies for developing their communication skills.   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability.   |                  |    |
| テキスト                        | Interchange 1 (Fourth edition, Cambridge University Press) by Jack C. Richards   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語表現Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ケイヴォーン・デイビッド・カゼミ (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | Lecture, pairwork/groupwork, class activities and presentations  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Students will learn to both understand and produce natural conversation patterns in English, so that they will become good communicators. The aim of this class is to instill basic communicative strategies in the students through study and practice. |                  |    |
| 授業の内容                       | The course will cover common situations where short informal conversations are likely to occur. In this class students will learn active strategies for developing their communication skills.   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability.   |                  |    |
| テキスト                        | Interchange 1 (Fourth edition, Cambridge University Press) by Jack C. Richards   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 英語表現Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ジェフリー・ノーリン (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | This is a student active classroom where the student is required to be an active listener, speaker and participant. The class is taught in English and uses an English-only textbook. An important goal is to develop the ability to understand and contribute in an English language environment. |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免 (情報) 必修   |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects.   |                  |    |
| 授業の内容                       | Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics. The final grade for the class will be based on 5 unit tests (75%) and a final exam(25%).  |                  |    |
| テキスト                        | Breakthrough 2: Success with English;Miles Craven;Macmillan.<br>ISBN 978-4-7773-6130-4   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Regular attendance, homework preparation and active participation are important for your contribution to the class.  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | Intermediate Conversation (中級英会話)  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ジェフリー・ノーリン (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | This is a student active classroom where the student is required to be an active listener, speaker and participant. The class is taught in English and uses an English-only textbook. An important goal is to develop the ability to understand and contribute in an English language environment. |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免 (情報) 必修   |                  |    |
| キーワード                       |  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | Building on English Expression I, students will learn to both understand and produce a wider range of conversation patterns in English. Students will also learn to present their own opinions in discussions on various subjects.   |                  |    |
| 授業の内容                       | Students will learn ways of conveying what they want to say with greater accuracy, as well as strategies for sustaining a conversation. Students will learn to speak in a number of situations and on a variety of topics.   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their English conversational ability on various topics. The final grade for the class will be based on 5 unit tests (75%) and a final exam(25%).  |                  |    |
| テキスト                        | Breakthrough 2: Success with English;Miles Craven;Macmillan.<br>ISBN 978-4-7773-6130-4   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Regular attendance, homework preparation and active participation are important for your contribution to the class.  |                  |    |

|                         |   |                  |         |
|-------------------------|---|------------------|---------|
| 授業科目名                   | 英語表現Ⅲ   |                  |         |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | マシュー・マーティン・レーガン (非常勤講師)   |                  |         |
| 研究室の場所                  |   |                  |         |
| オフィスアワー                 | Students can contact me after class or by email.  |                  |         |
| 授業の形式・方式                | Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others. |                  |         |
| 単位数(時間数)                | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営情報：必修 |
| 履修要件                    | 経営情報学科 2年次対象  |                  |         |
| 免許等指定科目                 |   |                  |         |
| キーワード                   | English Expression - writing and speaking   |                  |         |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.   |                  |         |
| 授業の内容                   | Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.   |                  |         |
| 成績評価の方法                 | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their ability to write basic English sentences.  |                  |         |
| テキスト                    | No textbook. Materials provided by the instructor.  |                  |         |
| 参考文献                    |   |                  |         |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | Come to class prepared to be ACTIVELY involved.   |                  |         |



|                             |   |                  |         |
|-----------------------------|---|------------------|---------|
| 授業科目名                       | Communicative Writing I (実用英作文 I)   |                  |         |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | マシュー・マーティン・レーガン (非常勤講師)   |                  |         |
| 研究室の場所                      |   |                  |         |
| オフィスアワー                     | Students can contact me after class or by email.  |                  |         |
| 授業の形式・方式                    | Students will improve their ability to write and speak in English. The instructor will engage and guide students along the process of expository writing. The instructor will also help build each student's confidence when speaking in front of others. |                  |         |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営情報：必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象  |                  |         |
| 免許等指定科目                     |   |                  |         |
| キーワード                       | English Expression - writing and speaking   |                  |         |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | The aim of this class is to instill basic writing skills. Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences.   |                  |         |
| 授業の内容                       | Students will learn basic vocabulary, grammar, and expressions in order to write correct English sentences. Students will also learn how to write in various genres of writing.   |                  |         |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and their ability to write basic English sentences.  |                  |         |
| テキスト                        | No textbook. Materials provided by the instructor.  |                  |         |
| 参考文献                        |   |                  |         |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Come to class prepared to be ACTIVELY involved.   |                  |         |

|                             |  |                  |       |
|-----------------------------|--|------------------|-------|
| 授業科目名                       | 英語表現Ⅳ  |                  |       |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ジェフリー・ノーリン (非常勤講師)   |                  |       |
| 研究室の場所                      |  |                  |       |
| オフィスアワー                     |  |                  |       |
| 授業の形式・方式                    | This is a student active classroom where the student is required to an active speaker, listener and writing participant. The class is taught in English and uses an English-only textbook. An important goal is to develop the ability to understand, participate and contribute in an English language environment. |                  |       |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営：必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象   |                  |       |
| 免許等指定科目                     |  |                  |       |
| キーワード                       |  |                  |       |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.   |                  |       |
| 授業の内容                       | Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.   |                  |       |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.  |                  |       |
| テキスト                        | Writers at Work: From Sentence to Paragraph; Laurie Blass/Deborah Gordon; Cambridge University Press; ISBN 978-0-521-12030-2   |                  |       |
| 参考文献                        |  |                  |       |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Regular attendance, homework preparation and active participation are important for your contribution to the class.  |                  |       |

|                             |  |                  |       |
|-----------------------------|--|------------------|-------|
| 授業科目名                       | Communicative Writing II (実用英作文 II)  |                  |       |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | ジェフリー・ノーリン (非常勤講師)   |                  |       |
| 研究室の場所                      |  |                  |       |
| オフィスアワー                     |  |                  |       |
| 授業の形式・方式                    | This is a student active classroom where the student is required to an active speaker, listener and writing participant. The class is taught in English and uses an English-only textbook. An important goal is to develop the ability to understand, participate and contribute in an English language environment. |                  |       |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営：必修 |
| 履修要件                        | 経営学科 2年次対象   |                  |       |
| 免許等指定科目                     |  |                  |       |
| キーワード                       |  |                  |       |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | The aim of this class is to continue to develop students' practical writing abilities.   |                  |       |
| 授業の内容                       | Students will examine the structures of several types of English paragraphs. They will write paragraphs of their own. Finally, students will write an essay on their area of academic study.   |                  |       |
| 成績評価の方法                     | Evaluation will be based on the students' participation in class activities, and the ability to write an academic essay in English.  |                  |       |
| テキスト                        | Writers at Work: From Sentence to Paragraph; Laurie Blass/Deborah Gordon; Cambridge University Press; ISBN 978-0-521-12030-2   |                  |       |
| 参考文献                        |  |                  |       |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Regular attendance, homework preparation and active participation are important for your contribution to the class.  |                  |       |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 中国語 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 津坂 貢政 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。シラバスに従って、下記指定のテキストを用いながら演習形式で実施する。テキストの各課の新出単語・本文・文法・練習応用を原則的に2回の授業時間で理解できるよう進める。受講生は、授業に積極的かつ主体的に参加し、小テストを含む試験および発表が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 中国語の基礎初歩、ローマ字による発音表記(?音 [ピンイン]) と漢字(簡体字)表記、「聞く」「話す」「読む」「書く」の総合的習得   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は、経営情報学科共通教育科目の外国語科目に位置し、10単位必修のうちの選択必修2単位の言語の一つ「中国語」の1単位分である。これまでほとんど中国語を学習していない学生を対象として、言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置く。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 中国語の基礎を身につける。言語を音声として理解する初歩的段階に重点を置いて、発音の習得から始める。それに続いて、発音表記や漢字表記の特徴を踏まえながら、単語の読みと意味と漢字表記とがそれぞれ結びつくように練習する。さらに簡単な会話文によって、楽しみながら語彙・文法の基礎知識の習得ができるよう目指す。「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を総合的に習得できるよう、練習を繰り返し、日常的なあいさつや自己紹介程度の会話ができるようにする。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況、中間テスト、期末試験などを総合的に判断して評価する。小テスト、期末試験等70%、毎回の授業における発表30%を目安とする。試験は指定された教室内で、テキスト、辞書など「持ち込み不可」で実施する。  |                  |    |
| テキスト                        | 郭春貴・郭久美子『やさしく楽しい 400語で学ぶ中国語入門—発音中心—』白帝社、2011年。  |                  |    |
| 参考文献                        | 基礎的な文法書、辞書などは授業の中で逐次紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 中国語Ⅱ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 津坂 貢政 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。シラバスに従って、下記指定のテキストを用いながら演習形式で実施する。テキストの各課の新出単語・本文・文法・練習応用を原則的に2回の授業時間で理解できるように進める。受講学生は、授業に主体的に参加し、小テストを含む試験および発表が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 中国語の基礎、簡単な日常会話、「聞く」「話す」「読む」「書く」の総合的習得  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目は、経営情報学科共通教育科目の外国語科目に位置し、10単位必修のうちの選択必修2単位の言語の一つ「中国語」の1単位分である。「中国語Ⅰ」を履修した学生を対象として、簡単な日常会話、自己紹介ができるよう、実用に堪える言語能力の習得を目標とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 中国語の基本的な語彙・文法の知識の習得を目指す。簡単な会話文を用いて、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を総合的に習得できるよう、楽しみながら練習を繰り返す。各課の基礎的な文法知識を習得したのち、様々な会話の場面を想定しながら表現の多様性を研鑽する。加えて聞き取りや・発表・練習問題を繰り返しこなしてゆくことを通じて、簡単な日常会話や自己紹介ができるよう、実用に堪える言語習得を目標に学習する。それと同時に、中国語の発想を考えつつ、中国文化に関する色々な知識を理解し、実践の場でのよりスムーズなコミュニケーションを取るための方法を身につける。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況、中間テスト、期末試験などを総合的に判断して評価する。小テスト、期末試験等70%、毎回の授業における発表30%を目安とする。試験は指定された教室内で、テキスト、辞書など「持ち込み不可」で実施する。   |                  |    |
| テキスト                        | 郭春貴・郭久美子『やさしく楽しい 400語で学ぶ中国語入門—発音中心—』白帝社、2011年。   |                  |    |
| 参考文献                        | 基礎的な文法書、辞書などは授業の中で逐次紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 「中国語Ⅰ」に続けて、履修することが望ましい。「中国語Ⅰ」が単位未習得の場合は履修できない。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報リテラシー  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 佐々木 宣介   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1545研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。<br>学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 【28年度入学生】経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修  |                  |    |
| キーワード                       | 情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。<br>情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。<br>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。<br>・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力<br>・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力<br>・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力 |                  |    |
| 授業の内容                       | 情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。<br>インターネット等を使った情報検索について学習する。<br>情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。<br>文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。<br>プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 3回以上の欠席は評価の対象外とする。<br>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。   |                  |    |
| テキスト                        | noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー  |                  |    |
| 参考文献                        | 講義の中で紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。<br>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。<br><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a>                                |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報処理入門   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 佐々木 宣介   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1545研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。<br>学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 【28年度入学生】経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 中・高一種免(全教科)必修  |                  |    |
| キーワード                       | 情報活用力, 情報収集, ファイル・データ管理, 文書表現, ビジュアル表現, プレゼンテーション, 情報倫理, セキュリティ, 電子メール, タッチタイピング   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。<br>情報を適切に活用できる基礎的知識やスキルを習得することを目的とし、情報の収集・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。<br>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。<br>・適切なツールを使って効率良く情報を集め、集めた情報を検証する力<br>・情報を使いやすく整理・管理し、必要に応じて適切に活用できる力<br>・分かりやすい表現で、情報を他者に伝え、相手の理解や納得を得る力 |                  |    |
| 授業の内容                       | 情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。<br>インターネット等を使った情報検索について学習する。<br>情報通信機器上で適切にファイルを整理し保管する方法について学習する。<br>文章を分かり易くまとめる方法、情報を視覚的に表す方法について学習する。<br>プレゼンテーションを効果的に行う方法、分かり易い資料の作成方法等について学習する。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 3回以上の欠席は評価の対象外とする。<br>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。   |                  |    |
| テキスト                        | noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー  |                  |    |
| 参考文献                        | 講義の中で紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。<br>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。<br><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a>                                |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報リテラシー演習   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 佐々木 宣介  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1545研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習1時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に宿題(演習課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。<br>学生は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 【28年度入学生】経営情報学科 1年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 情報活用力, 数値分析, データベース, 情報運用, 著作権, 個人情報, ウイルス・サイバー攻撃対策   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目は、全学共通教育科目中の基盤科目における情報科目に区分される。<br>情報社会への適応力を涵養することを目的とし、情報の分析・整理・保管・表現に関する活用力を身に付ける。<br>具体的には、以下にあげる力を身に付けることを目標とする。<br>・数値データを活用し、知りたいことについて分析し、判断する力<br>・情報をさまざまなトラブルから守るなど、正しく安全に運用する力                   |                  |    |
| 授業の内容                       | 情報活用力テキストとデジタル教材を併用し、授業を行う。<br>コンピュータを利用した数値分析の基礎について学習する。<br>データベースを利用したデータの整理・蓄積、抽出方法について学習する。<br>インターネット上でのコミュニケーション方法、起こりうるトラブルについての理解、適切な情報管理や安全性を確保する方法等について学習する。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 3回以上の欠席は評価の対象外とする。<br>情報活用力診断テスト「Rasti」に準拠した試験内容で項目ごとに確認テストを実施する。同テストで学生に求めている得点水準(得点率55%)を評定値Cに、一般社会人に求めている得点水準(得点率65%)を超えた者に対しては、評定値B以上を与える。A以上の評定値は、評定値Bの得点水準に達した者で、課題への取組状況が良好な者に対して与える。                    |                  |    |
| テキスト                        | noa出版「考える 伝える 分かち合う 情報活用力」(株)ワークアカデミー   |                  |    |
| 参考文献                        | 講義の中で紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 予習と復習をしっかりと行うこと。演習課題は必ず自ら行うこと。<br>情報処理演習室のPCから「情報科サブノート」シリーズにアクセスし、高等学校「情報」の復習をしておくこと。<br><a href="http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/">http://cygnus.galaxy.pu-hiroshima.ac.jp/ICTsubnote/</a> |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 体育実技 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 辻 文   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1541研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | ※随時対応 要連絡   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。体育館にて行う。<br>初回の授業は、着替えずに体育館（大競技室）に集合（土足厳禁）。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経情学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 生涯スポーツ、チームワーク、トレーニング、フットサル、バレーボール、  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを実践できる。<br/>②バレーボールおよびフットサルの特性や技術・戦術を説明できる。<br/>③運動中の身体的負荷（きつさ）や身体状態を自身で把握することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | この授業では、バレーボールおよびフットサルを取り扱います。これらの球技スポーツを通して、健全な精神と体力を育むために必要な知識や技能を実践的に学んでいきます。授業は、6～7名のグループに分け、そのグループ内で、技能習得の目標と練習メニューの考案⇒実践⇒評価を行うなど、学生間で協同しながら進めていきます。それにより、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度40%、グループ毎の報告レポート30%、個別レポート30%にて総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書なし。適宜、資料プリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 運動の出来る服装および室内シューズを持参すること。体育館の使用規則を順守すること。<br>授業の初回にこれまでの運動経験に関するアンケートを行い、これを参考にグループ分けを行う。<br>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 体育実技  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 辻 文   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1541研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | ※随時対応 要連絡   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。体育館にて行う。<br>初回の授業は、着替えずに体育館（大競技室）に集合（土足厳禁）。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経情学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 生涯スポーツ、チームワーク、トレーニング、フットサル、バレーボール、  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | <p>【授業の到達目標】</p> <p>①他者とコミュニケーションを取りながら、主体的に運動・スポーツを実践できる。<br/>②バレーボールおよびフットサルの特性や技術・戦術を説明できる。<br/>③運動中の身体的負荷（きつさ）や身体状態を自身で把握することができる。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>体育実技は、大学で学ぶ基礎・基盤として、また、4年間を通して学ぶ豊かな教養からなる教育の基盤を成す科目の一つとして位置づけられている。</p> |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>この授業では、バレーボールおよびフットサルを取り扱います。これらの球技スポーツを通して、健全な精神と体力を育むために必要な知識や技能を実践的に学んでいきます。授業は、6～7名のグループに分け、そのグループ内で、技能習得の目標と練習メニューの考案⇒実践⇒評価を行うなど、学生間で協同しながら進めていきます。それにより、学生が主体的に運動・スポーツに携わる態度を育むことを目指していきます。</p>                                    |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度40%、グループ毎の報告レポート30%、個別レポート30%にて総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書なし。適宜、資料プリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>運動の出来る服装および室内シューズを持参すること。体育館の使用規則を順守すること。</p> <p>授業の初回にこれまでの運動経験に関するアンケートを行い、これを参考にグループ分けを行う。</p> <p>受講者の理解度に応じて、15回の授業計画の内容を若干変更することがある。</p>  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報科学論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 錦織 昭峰   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1643研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 原則として在室のときにはいつでも可   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席すること。試験を受けることが義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 1年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | 情報化社会・情報システムと情報ネットワークの基礎  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 現代の情報化社会における、情報科学に関する一般的・基礎的な知識・技術を修得できる。最近の話題を理解できる。情報化企画・設計・システム運営ができる情報化推進のための基礎が理解できる。情報処理システムを開発するための基礎能力ができる。情報に関する資格試験については、ハードウェアに関して理解できる。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 授業でふれる項目は主に以下のとおりである。最近の話題。1. コンピュータの歴史と情報化社会, その問題点 2. コンピュータの基本構成とハードウェア 3. データの表現, アルゴリズムとデータ構造 4. 論理回路 5. コンピュータのソフトウェア, スプレッドシート等の表計算ソフトウェア 6. ファイル 7. データベース 8. データ通信とネットワーク, ローカルエリアネットワーク(LAN) 9. 人工知能とエキスパートシステム, CAD/CAM システム, コンピュータによる画像処理, ソフトウェアセンター, パイ・ポーター・システムとデュアル・システム。授業中に2コマ程度は, コンピュータ実習室で下記の演習を行う。Word による Web ページの作成。Web ページのソースの表示。Wikipedia. pdf ファイルへの変換。Excel の有効数字。広島キャンパスのデジタル図面。コンピュータについての補講。得票数の最大を求めるプログラムとその malicious プログラム。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間試験(40%)及び期末試験(60%)で評価する。これが原則であるが, 授業への積極的な参加なども含めて総合的に判断する。試験は指定された教室(試験室)内で, 持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。  |                  |    |
| テキスト                        | 坂和正敏・矢野均・西崎一郎著 「情報科学入門」 朝倉書店、   |                  |    |
| 参考文献                        | 錦織昭峰, 特集解説「日本の情報ネットワークおよびソフトウェアセンターに関する提言」, 電気学会論文誌, 第121巻C分冊, 第1号, pp. 56-57, 平成13年1月。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修予定者は, 教科書全体をざっと読みして授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は, 正式には教学課の掲示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。資料は学内LANのYドライブに入っている。   |                  |    |

|                         |  |                  |                    |
|-------------------------|--|------------------|--------------------|
| 授業科目名                   | 情報処理基礎   |                  |                    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 重丸伸二   |                  |                    |
| 研究室の場所                  | 1640研究室  |                  |                    |
| オフィスアワー                 |  |                  |                    |
| 授業の形式・方式                | 主としてパソコン実習である。授業日程に従って、各回に出される課題に取り組み、その結果をE-Mailで提出させる。学生は授業に出席し、演習を行い、課題に対するレポートを提出すること。   |                  |                    |
| 単位数(時間数)                | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択(平成26年度以前入学生は必修) |
| 履修要件                    | 経営情報学科1年次対象  |                  |                    |
| 免許等指定科目                 | 高一種免(情報)   |                  |                    |
| キーワード                   | ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、文書作成、データ処理と可視化、プログラミング  |                  |                    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | この科目では、学部共通専門科目の一つとして、情報処理技術の習得を目的とする。具体的には、「情報リテラシー」に引き続き、より総合的な知識と技術を身に付けさせ、さらに高度の情報処理に関する専門科目を学ぶための基礎を固めることに焦点を置いた内容について、特に演習を中心として授業を行う。   |                  |                    |
| 授業の内容                   | 情報処理に関する総合的なスキルアップを目指す。<br>具体的には、Wordにおける表作成、段組、図形、数式エディタ、Excelにおける関数計算などの実習を行う。また、プログラミング言語の一つであるVisual Basicを用いることにより、さまざまなデータや情報の収集や解析および整理を行う上で必要となるプログラミング技術の基礎とアルゴリズムの考え方を習得させる。 |                  |                    |
| 成績評価の方法                 | 成績は演習の取り組み状況と課題レポートで評価する。  |                  |                    |
| テキスト                    | 適宜プリントを配布する予定である。  |                  |                    |
| 参考文献                    |  |                  |                    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) |  |                  |                    |

|                         |  |                  |                    |
|-------------------------|--|------------------|--------------------|
| 授業科目名                   | 情報リテラシー  |                  |                    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 重丸伸二   |                  |                    |
| 研究室の場所                  | 1640研究室  |                  |                    |
| オフィスアワー                 |  |                  |                    |
| 授業の形式・方式                | 主としてパソコン実習である。授業日程に従って、各回に出される課題に取り組み、その結果をE-Mailで提出させる。学生は授業に出席し、演習を行い、課題に対するレポートを提出すること。   |                  |                    |
| 単位数(時間数)                | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択(平成26年度以前入学生は必修) |
| 履修要件                    | 経営情報学科1年次対象  |                  |                    |
| 免許等指定科目                 | 高一種免(情報)   |                  |                    |
| キーワード                   | ワードプロセッサ、表計算、プレゼンテーション、文書作成、データ処理と可視化、プログラミング  |                  |                    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | この科目では、学部共通専門科目の一つとして、情報処理技術の習得を目的とする。具体的には、「情報リテラシー」に引き続き、より総合的な知識と技術を身に付けさせ、さらに高度の情報処理に関する専門科目を学ぶための基礎を固めることに焦点を置いた内容について、特に演習を中心として授業を行う。   |                  |                    |
| 授業の内容                   | 情報処理に関する総合的なスキルアップを目指す。<br>具体的には、Wordにおける表作成、段組、図形、数式エディタ、Excelにおける関数計算などの実習を行う。また、プログラミング言語の一つであるVisual Basicを用いることにより、さまざまなデータや情報の収集や解析および整理を行う上で必要となるプログラミング技術の基礎とアルゴリズムの考え方を習得させる。 |                  |                    |
| 成績評価の方法                 | 成績は演習の取り組み状況と課題レポートで評価する。  |                  |                    |
| テキスト                    | 適宜プリントを配布する予定である。  |                  |                    |
| 参考文献                    |  |                  |                    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) |  |                  |                    |

|                             |   |                  |          |
|-----------------------------|---|------------------|----------|
| 授業科目名                       | 経営数学  |                  |          |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 呉 漢生  |                  |          |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1532研究室   |                  |          |
| オフィスアワー                     | 毎週金曜日 17時から18時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。  |                  |          |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、授業時間2時間(1回)と学生の自習3時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。   |                  |          |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営情報学科必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科、経営学科 2年次対象   |                  |          |
| 免許等指定科目                     |   |                  |          |
| キーワード                       | 線形代数、行列基本変換、経営システムの数学的記述、ゲーム理論基礎、ミニマックス最適戦略   |                  |          |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本科目の目標は、履修学生に経営科学と経営システムによく使用されている数学手法に関する基本的な概念、基礎的内容を理解させることである。これによって、経営科学と経営システムの専門的内容を理解するための素地を身に付けることができる。本科目は、経営情報学科の専門科目・経営科学系分野に区分されている。  |                  |          |
| 授業の内容                       | 経営工学における意思決定は、現実の問題に数理的手法を使って分析することにより、定量的に解決されることが多い。そのためには、多種多様の現実の問題を定式化しなければならない。この科目では、経営科学のように経営の問題を定量的な科学的方法で解決しようとする学問分野が発展していることを特論的に講義する。経営数学では、このような学問分野に必要な数学基礎知識を実際の適用例をあげながら紹介する。特に、行列の演算、行列の基本変形、経営システムの数学的記述、代数連立方程式の解の存在性のための必要十分条件、線形代数方程式の解の表計算、静的ゲーム問題、ミニマックス最適戦略、純粋最適戦略と混合最適戦略の概念、行列ゲームの解の存在性のための条件、それらの経営工学への応用などを学習する。 |                  |          |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%、課題レポートと出席状況など30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。毎回のレポート(宿題)の課題はその授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は、通常、次回授業時間の終了後とする。期末試験では、主にレポート課題の中から問題を作成し試問する。   |                  |          |
| テキスト                        | 担当教員が作成している「講義概要」を配布する。使用テキストを特に指定していないが、講義中に参考書と参考資料などを指示する。場合によって、他の参考のためのプリントを適宜に用意する。   |                  |          |
| 参考文献                        | 講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。   |                  |          |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 授業前に積極的に予習することともに、授業中に行っている討論に積極的に参加する。課題レポートに関する問題をよく理解したうえ、完成・提出すること。   |                  |          |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営統計学  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 韓 虎剛   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1636 研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 火曜日 13時から14時30分、場所は研究室   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 主に対面授業方式で授業を進める。基本的に毎回レポート課題を課し、次回の授業開始時に提出させる。時には、授業の後半に課題を課し、その場で一人ずつ課題の解答をチェックし、それを出席の確認とする。学生は、授業に出席すること、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象、「経営統計学入門」の合格を履修要件とする。   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 標本調査・標本分布、統計的な推定、仮説検定、相関と回帰、分散分析法、質的選択モデル  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 「経営統計学入門」の内容をベースにして、実用的な統計的な手法をいくつか絞って取り上げる。目標として、取り上げた内容を理解したうえ、関連計算とその応用ができること。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 経営統計学入門で習得した経営統計学に関する基礎知識を踏まえた上、もっと実用的な統計的な手法とその理論的な根拠を強調して、少数の基本項目に焦点を絞って応用力の涵養を深める。また、具体的な経営データを分析対象とし、汎用のソフトツール例えば、Microsoft Excelなどを使って幾つかの統計理論を検証していく。予定するトピックスは以下の通りである。統計的な推定、仮説検定、相関と回帰、分散分析法、質的選択モデルなど。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 課題レポート、小テストなど20%、期末テスト80%で総合評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | テキスト：大屋 幸輔「コア・テキスト 統計学」(第2版) 新世社 (2011)  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 「経営統計学入門」を合格しないと、「経営統計学」を履修することを認めない。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報数学   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 折本 寿子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1617研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時（メールで事前に予約を入れると確実です）   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | <p>対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する内容を講義形式で実施する。1回の授業につき、学生の適切な自習時間を想定した講義を行う。講義内容に応じて課題を出し、期日までにレポートを提出させる。学生は授業に出席し、ノートを取り、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。</p>   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 集合、ベン図、写像、命題、真理値、ブール代数、微分、導関数、極大極小、高次導関数、偏微分、不定積分、部分積分、置換積分、定積分、微分方程式、数値積分、ルンゲクッタ法、一様乱数  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | <p>この授業は情報処理を学ぶ学生の数学的素養の向上をねらいとし、論理的・抽象的な考え方や、それらが情報処理における具体的・計算的な方法といかに深い関連を持つかが理解できるようにする。数学的な思考とコンピュータによる論理的逐次処理は似ており、情報処理の技術計算では数式を理解していることがアルゴリズムを考えプログラムを開発する上で必要であることを学習する。そして数学がデータベースなど情報科学の重要な基礎であることを理解する。</p>              |                  |    |
| 授業の内容                       | <p>情報科学の基礎としての数学を講義し、問題演習を行う。プログラミング等の情報処理アルゴリズムやシステム設計等の文献を理解し、システムのモデル化に必要な数学力を養成するために、集合論や命題と論理演算、ブール代数、2進数などコンピュータの数値表現、関数、微分と偏微分、積分等を講義する。また、株価や為替など経済変量の時間発展を記述する法則である微分方程式のルンゲ・クッタ法などの数値解法や数値積分、計算機シミュレーションに必要な乱数についても解説する。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | <p>期末試験70%、課題レポート(宿題)20%、出席率を10%の割合で評価する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題は、授業の中で提示する。各レポートの提出期限は、課題を示したときに指示する。宿題用のレポート用紙(A4・罫線有り)は授業の時に配布する。記期末試験では、レポート課題の中から相当部分を出題する。</p>   |                  |    |
| テキスト                        | <p>a. 教科書 馬場敬之・高杉豊 『微分積分—キャンパス・ゼミ—』マセマ出版社<br/>b. 参考文献 授業の中でプリントを適宜配布する。</p>  |                  |    |
| 参考文献                        | <p>授業の中でプリントを適宜配布する。</p>   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | <p>この授業では講義による定義や公式、解法の説明を行い、その後に具体的な計算など問題演習を実施する。授業には演習形式が含まれるため毎回の出席が必要である。数式処理などパソコン実習室で授業することもあるので注意すること。</p>   |                  |    |



|                             |  |                  |          |
|-----------------------------|--|------------------|----------|
| 授業科目名                       | オペレーションズリサーチ I   |                  |          |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 呉 漢生   |                  |          |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1532 研究室   |                  |          |
| オフィスアワー                     | 毎週金曜日 17時から18時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。   |                  |          |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、授業時間2時間(1回)と学生の自習3時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。  |                  |          |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営情報学科必修 |
| 履修要件                        | 経営学科、経営情報学科 3年次対象  |                  |          |
| 免許等指定科目                     |  |                  |          |
| キーワード                       | 経営科学、線形計画法、システム最適法、経営システム、経営工学   |                  |          |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目の目標は、履修学生に経営科学と経営システムによく使用されている最適化手法の線形計画法に関する基本的な概念、基礎的内容を体系的に理解させることである。これによって、経営科学と経営システムにおける他の手法を自的に理解するための素地を身に付けることができる。本科目は、経営情報学科の専門科目・経営科学系分野に区分されている。   |                  |          |
| 授業の内容                       | 経営活動は、一定の施設を基盤として継続的、計画的、経済的な生産・サービスを遂行することである。経営科学は、そのような経営活動において生じる様々の問題を科学的方法で解決したり、合理的な意思決定を支援するための原理と方法の体系であり、オペレーションズ・リサーチ、経営工学、品質管理、生産管理などを含めた広範な概念である。オペレーションズ・リサーチ I では、経営科学の中で最も発展しているシステム最適化手法としての基本的な線形計画法とその周辺について、理論の厳密性を犠牲にしないで、できるだけ分かりやすい解説をする。特に、線形計画法とその歴史的背景、経営システムなどにおける代表的な線形計画問題、線形計画問題の定式化、基本的な単体法とそのアルゴリズム、単体法の収束性、2段階単体法、改訂単体法、単体法の双対理論、およびそれらの経営学への応用などを講義する。 |                  |          |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%、課題レポートと出席状況など30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。毎回のレポート(宿題)の課題はその授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は、通常、次回授業時間の終了後とする。期末試験では、主にレポート課題の中から問題を作成し試問する。  |                  |          |
| テキスト                        | 担当教員が作成している「講義概要」を配布する。使用テキストを特に指定していないが、講義中に参考書と参考資料などを指示する。場合によって、他の参考のためのプリントを適宜に用意する。  |                  |          |
| 参考文献                        | 講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。  |                  |          |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 授業前に積極的に予習することともに、授業中に行っている討論に積極的に参加する。課題レポートに関する問題をよく理解したうえで、完成・提出すること。その他、経営学科の聴講生に対して、この講義を聴講するために、経営数学が履修済みであることが望ましい。   |                  |          |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | オペレーションズリサーチⅡ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 市村 匠   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1631研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 原則として在室のときは可. ただし, 事前に電子メールでアポイントをとることが望ましい.   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義による対面授業, 進度に応じて適宜コンピュータを用いた実習を行う.  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 線形代数の基礎を理解していることが望ましい.   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 線形計画法, 動的計画法, 待ち行列理論, 意思決定支援 (階層分析法, ISM, FSM)   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | オペレーションズリサーチⅠに引き続き, 経営問題をモデル化し, 解決する様々な手法を学ぶ.  |                  |    |
| 授業の内容                       | 輸送問題, 最短経路問題, 動的計画法など, また確率モデルとして, マルコフ連鎖, 待ち行列理論などを説明する. また, 意思決定支援として, AHP, ISM, FSM (ファジィ構造モデリング手法) についても説明する. 意思決定については, 理解度に応じて地域課題を解決するワークショップを実施する. |                  |    |
| 成績評価の方法                     | レポートなどの課題, 理解度調査テストを実施した後, 期末試験の成績により総合的に判断する.   |                  |    |
| テキスト                        | 使用テキストを特に指定しないが, 講義中に参考図書等を指示する. 講義資料を配布する.  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 授業で理解できないことがあれば, 質問に来ること.  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | シミュレーション論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 市村 匠  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1631研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 原則として在室のときは可. ただし、事前に電子メールでアポイントをとることが望ましい.   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義による対面授業, 進度に応じて適宜コンピュータを用いた実習を行う.   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | C言語でプログラムをかけること.  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | モデリングとシミュレーション, 決定論的モデル, 確率論的モデル, ソフトコンピューティング, C言語による人工知能プログラミング   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 現象をモデル化し, そのモデルを用いてコンピュータによるシミュレーションを行う. シミュレーションは, 自然科学, 社会科学を問わず, 様々な分野で利用されている. 対象とする問題が複雑であれば, その役割は重要になる. コンピュータシミュレーションの高度な技術が開発されるにつれ, シミュレーションは現実世界の問題解決, 未知な世界に対する発見など, 先駆的な役割を担いつつある. このような側面を考慮しながら, コンピュータシミュレーションについて講義と演習を行う. |                  |    |
| 授業の内容                       | 決定論的モデル, 確率論的モデル, モンテカルロ法, マルチエージェントシミュレーション, ソフトコンピューティング(進化計算, ニューラルネットワーク, ファジィなど)によるシミュレーションについて説明する. また理解を深めるために, 実習を通じて, シミュレーションの実施および評価を行うことを目指す.   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 課題レポートおよび最終試験により総合的に判断する.   |                  |    |
| テキスト                        | 使用テキストを特に指定しないが, 講義中に参考図書等を指示する. 講義資料を配布する.   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 数式, アルゴリズム, C言語による科学技術計算プログラミングを行う. 授業で理解できないことがあれば, 質問に来ること.   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 社会情報論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 市村 匠   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1631研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 原則として在室のときは可. ただし、事前に電子メールでアポイントをとることが望ましい.  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義による対面授業を行う.  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 医療情報システム, 行政システム, ネットビジネス, スマートフォンアプリ開発  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 社会のさまざまな場面で直面する情報システムと適切にかかわるために, 情報通信技術についての正しい知識と技術を身につけることは重要である. このために, 人間や社会や組織全体といった広い視野から, 深い知識をまとめあげ, 創造的に問題を発見し, 解決できる素養を身につける.                   |                  |    |
| 授業の内容                       | 医療情報システム, 行政システム, ネットビジネスなどの具体的な事例を挙げ, 情報社会が新たな技術を必要とし, 生まれた技術が社会環境を変えていることを説明する. また, スマートフォンアプリケーションの開発基礎を学び, オープンデータを活用したアプリケーション開発について企画, プレゼンテーションを行う. |                  |    |
| 成績評価の方法                     | レポート課題, 最終試験により総合的に評価する.<br>また, 外部コンテストにアイデア・作品を投稿する.  |                  |    |
| テキスト                        |  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 自らスマートフォンアプリケーションについて企画し, プレゼンテーションを実施する.<br>学外コンテストに応募するための企画, プレゼンテーション能力を養成する.<br>スマートフォンアプリを企画・開発し, 外部コンテストに投稿する.                                      |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 最適システム論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 市村 匠  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1631研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 原則として在室のときは可. ただし, 事前に電子メールでアポイントをとることが望ましい.  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義による対面授業.  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象 (平成22年度以降入学生対象)  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 線形計画法, 非線形計画法, メタヒューリスティック, ソーシャルネットワーク分析法  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 社会問題, 環境問題, 産業問題など, 現代社会における問題は複雑なシステムの問題である. 様々な社会システムや大規模複雑システムなどの設計を, 数理的にモデル化し, 最適化する手法について学ぶ.  |                  |    |
| 授業の内容                       | 最適化手法に関して, 連続モデル(線形, 非線形), 離散モデル, ネットワークモデルなどを扱う. 線形計画法, 非線形計画法, 組み合わせ問題, グラフとネットワークなどについて説明する. また, ソフトコンピューティングに基づくシステム最適化手法として, 山登り法, 焼きなまし法, タブーサーチ, 進化計算手法についても説明する. さらに, ソーシャルネットワーク分析など複雑ネットワークに関する最適化手法の基礎を学ぶ. |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 課題レポート, 理解度テストを実施した後, 期末試験の成績により判断する.   |                  |    |
| テキスト                        |   |                  |    |
| 参考文献                        | 穴井宏一, 数理最適化の実践ガイド, 講談社  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 微分積分, 線形代数の基礎的な知識があることが望ましい.<br>数式を使う講義なので, 数式の意味は確認して講義に出席すること.<br>授業で理解できないことがあれば, 質問に来ること.   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営科学実験  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 重丸 伸二   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1640研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。経営科学に関する代表的な問題を取り上げ、コンピュータを用いて実験を行う。学生は授業に出席し、演習を行い、課題に対するレポートを提出すること。                                     |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 経営科学, オペレーションズ・リサーチ, シミュレーション。  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | コンピュータを用いて経営科学に関する実験を行う。理論的背景を踏まえた上で、シミュレーション実験を行い、実験結果を分析・評価する力を習得することを目標とする。                                  |                  |    |
| 授業の内容                       | コンピュータを用いて経営科学に関する様々な実験を行い、その結果について考察する。例えば以下の問題を取り上げ考察を行う。・在庫管理問題・待ち行列問題・プロジェクト管理・輸送計画問題・動的システム制御問題・数理最適化問題など。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業への参加度およびレポートにより総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 講義資料は別途指示または配付する。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営システム計画論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 呉 漢生  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1532 研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週金曜日17時から18時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、授業時間2時間(1回)と学生の自習3時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、期末に総合的なレポートを完成することが義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3・4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 経営科学、静的経営システム、動的経営システム、動的システム最適法、経営工学   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本科目の目標は、履修学生に経営科学における動的経営システムによく使用されている最適手法などに関する基本的な概念、基礎的内容を体系的に理解させることである。これによって、経営科学における実地的な動的システムを計画することができる。本科目は、経営情報学科の専門科目・経営科学系分野に区分されている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 動的システムでは、システムの出力が考えている時点だけでなく、それ以前の過去の入力によっても影響を受ける。従って、動的システムを計画するということはある時点だけでシステムを評価することではなく、一定期間のシステムのふるまいを問題とする。経営システム計画論では、経営システムを計画する問題を経営科学の観点から体系的に講義する。静的経営システムを計画する問題について線形計画法などという手段が存在することに対して、動的な経営システムを計画する問題についてもいくつかの計画法も存在することを紹介する。特に、動的経営システムのモデリング、動的経営システム問題の解(変分法、最大原理、動的計画法など)、および経営学(生産管理問題、広告問題、消費問題など)への応用などを学習する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況、講義中に提出を求めるレポート(宿題)、講義終了後に提出していただく総合的なレポートなどによって、総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 担当教員が作成している「講義概要」を配布する。使用テキストを特に指定していないが、講義中に参考書と参考資料などを指示する。場合によって、他の参考のためのプリントを適宜に用意する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 授業前に積極的に予習することともに、授業中に行っている討論に積極的に参加する。特に、講義中に担当教員がよく質問を行い、聴講者と交流しながら講義を進める。課題レポートに関する問題をよく理解したうえ、完成・提出すること。その他、この講義を聴講するために、経営数学とオペレーションズ・リサーチIが履修済みであることが望ましい。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 知能情報論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 生田 顯   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1661 研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 金曜日 9時～17時, 場所は担当教員室   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | ファジィ情報, あいまいシステム, 知能情報処理   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目は、学科専門科目における経営科学系科目の一つとして、特に最近、社会科学の分野において重要となっているソフトコンピューティングの一手法であるファジィ情報処理について学習することを目的とする。また、他の手法としてニューラルネットワークについても、ファジィとの対比において簡単に学習する。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 人間を取り巻く現実の社会環境システムにおいては、人間の認識や評価などに関する情報のように、あいまいさを含むものが多く存在している。また、得られる情報は不正確な数値や非数値情報である場合も多い。本講では、このようなあいまいな情報や非数値情報を、コンピュータで処理することを可能にするための合理的な一手法としてファジィ情報処理を取り上げ、基礎的事項について講述するとともに実システムへの適用例についても解説する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験, 出席状況, 課題レポートで評価する。試験は指定された教室(試験室)内で実施する。レポート課題は授業の進行に合わせて随時, 提示する。   |                  |    |
| テキスト                        | テキスト: 山下・須田共著「ファジィ数学入門」森北出版  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | ノイマン型コンピュータでは対処できない問題をいかに解決するかの一つの方向性を与える。授業中の雑談や試験中の不正行為はもちろん禁止(当然のこと)。   |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 品質管理論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 竹本 康彦  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1649号室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時。ただし、面談は事前にE-mail等で予約すること。（場所：上記研究室）   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面講義。各授業日に講義資料を配布し、これに基づき講義を進行する。授業時間の前半では講義形式にて内容を学習する。後半では習得した内容に関する課題を通じて講義内容の理解を深める。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科，経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | なし   |                  |    |
| キーワード                       | PDCA, QC7つ道具, 正規分布, 検定と推定, 統計的品質管理, 多変量解析, 信頼性, 製造責任 (PL) 法, リコール制度  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 日本の近代工業を世界の一流に引き上げた牽引力の一つに品質管理が挙げられる。品質管理は一種の科学技術であり、これを運用するにあたって、品質管理の土台を構築している統計学についての正当な認識を身につけておくことが必須である。この科目では、品質管理を支える統計の基礎を中心に、各種手法の適切な理解と習得に努めることを目標とする。さらに、これからの品質管理のあり方について思考するための基礎的知識の習得を目標とする。 |                  |    |
| 授業の内容                       | この科目では、品質管理を支える統計の基礎に焦点を当て、データ整理の定石から統計的検定や推定、抜取検査、管理図、相関と回帰、判別分析、実験計画法といった品質管理手法の基本をわかりやすく解説する。なぜ品質管理の中心に正規分布があるのか、3シグマや6シグマが現象的に何を意味するのか、など背景にある統計的考え方の理解を目指す。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度・課題等の評価（40%）、期末等の試験の成績（60%）により総合的に判断する。  |                  |    |
| テキスト                        | 各授業の開始時に講義資料を配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 統計学関連科目（統計学、経営統計学入門、経営統計学）を受講済みであることが望ましい。また、以上の統計関連科目を復習の上、受講することを希望する。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | データマイニング論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 竹本 康彦   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1649号室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時。ただし、面談は事前にE-mail等で予約すること。（場所：上記研究室）  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面講義。各授業日に講義資料を配布し、これに基づき講義を進行する。授業時間の前半では講義形式にて内容を学習する。後半では習得した内容に関する課題を通じて講義内容の理解を深める。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科，経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | なし  |                  |    |
| キーワード                       | データベース，相関ルール分析，ベイズ分類，決定木，回帰・相関分析，クラスタリング，個人情報保護   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | データマイニングは，大量のデータの中から有用な知識を発掘するための技術の総称と言える。特に，OR，統計，人工知能，機械学習，情報検索などの技術を総合的に活用した，実用指向の情報処理技術として急速な進展を遂げている。この科目では，データマイニングの基本的な手法を中心に学習し，各種手法の適切な理解と習得に努めることを目標とする。さらに，これからの企業活動に有益な情報をデータから適切に抽出するための基礎的知識の習得を目標とする。 |                  |    |
| 授業の内容                       | この科目では，データマイニングの基本的な手法の適切な理解と習得に努めることを目標とし，まず確率・統計，情報理論の基礎を説明し，相関ルール分析，ベイズ分類，決定木，相関・回帰分析，クラスタリングといったデータマイニング手法をわかりやすく解説する。さらに，各手法に関して事例研究を取り上げ，理解を深める。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度・課題等の評価（40%），期末等の試験の成績（60%）により総合的に判断する。   |                  |    |
| テキスト                        | 各授業の開始時に講義資料を配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 統計学関連科目（統計学，経営統計学入門，経営統計学）を受講済みであることが望ましい。また，以上の統計関連科目を復習の上，受講することを希望する。  |                  |    |

|                             |  |                  |                      |
|-----------------------------|--|------------------|----------------------|
| 授業科目名                       | 経営情報論  |                  |                      |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 広谷 大助  |                  |                      |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1634研究室  |                  |                      |
| オフィスアワー                     | 在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい   |                  |                      |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。1or2回の講義につき1章の講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。なお、必要に応じて演習室を用いた講義も行う。学生は、授業に出席し試験を受けることが義務付けられる  |                  |                      |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 経営学科 選択<br>経営情報学科 必修 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |                      |
| 免許等指定科目                     |  |                  |                      |
| キーワード                       | 経営工学, 技術と倫理, データ分析, 計画と評価, 生産管理, 品質管理, コストと利益, 意思決定, 経営情報システム  |                  |                      |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目では経営情報を学問から見ることであり、従来の経営学に情報を組み入れた学問である経営工学について理解することを目的とする。なお、“工学”とあるが理系の学問ではなく、文理融合の学問である。近年は経営も分かる技術者つまり理系も文系も学修した学生が求められており、経営工学を理解することは経営情報学科の学生にとっても経営学科の学生にとっても必要不可欠である |                  |                      |
| 授業の内容                       | 経営工学について説明する。まず、経営工学自体について説明する。その後、テキストに沿って多くのトピックスをオムニバス形式で説明する。その中で必要に応じて演習室にてパソコンを用いた講義・演習を数回行う   |                  |                      |
| 成績評価の方法                     | 中間試験35%, 期末試験35%, 課題レポート(宿題)30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、A4用紙1枚のメモ書き(手書きに限る)のみ持込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題は毎回の授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は講義日の前日17:00を基本とする      |                  |                      |
| テキスト                        | 中島編著, 経営工学のエッセンス, 朝倉書店, 2012年  |                  |                      |
| 参考文献                        | 特に指定しない  |                  |                      |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本講義は“経営情報”という学問を学ぶための概論的な位置づけになります。そのため、本講義で学んだことは、これまで学んだことの復習またはこれから経営情報学科・経営学科で深く学ぶための基礎となります。その意味でも真面目に受講し課題をこなす必要があります。   |                  |                      |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 知的生産システム論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 広谷 大助  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1634研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従った講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。ほぼ毎週宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | インダストリアルエンジニアリング, 押し出し型生産, 引っ張り型生産, ジャストインタイム生産システム, セル生産システム, ショップフロアスケジューリング, プロジェクトスケジューリング   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | うまくシステムを運営するためにはシステムの特徴やそれに合わせたやり方を理解する必要がある。よってこの科目では経営情報システムの中の生産システムに焦点をあて種々の生産システム及び生産システムを運営するのに必要なスケジューリング技法を理解することを目的とする  |                  |    |
| 授業の内容                       | まず生産・生産システムとは何かについて説明し、生産システムの始まりだと言われているインダストリアルエンジニアリングについて説明する。その後、現在多く用いられている代表的な生産システムを取り上げる。次に生産システムを運営する際に問題となる種々のスケジューリングについて取り上げる。これらによって日本で用いられている生産システムについて理解し、自分でスケジューリングを求めることができるように習得する |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間試験35%, 期末試験35%, 課題レポート(宿題)30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、A4用紙1枚のメモ書き(手書きに限る)持込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題は毎回の授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は講義日の前日17:00を基本とする                            |                  |    |
| テキスト                        | 特になし。講義の開始時に講義資料を配布する  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 生産システム論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 広谷 大助   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従った講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。ほぼ毎週宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | インダストリアルエンジニアリング, 押し出し型生産, 引っ張り型生産, ジャストインタイム生産システム, セル生産システム, ショップフロアスケジューリング, プロジェクトスケジューリング  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | うまくシステムを運営するためにはシステムの特徴やそれに合わせたやり方を理解する必要がある。よってこの科目では経営情報システムの中の生産システムに焦点をあて種々の生産システム及び生産システムを運営するのに必要なスケジューリング技法を理解することを目的とする   |                  |    |
| 授業の内容                       | まず生産・生産システムとは何かについて説明し、生産システムの始まりだと言われているインダストリアル・エンジニアリングについて説明する。その後、現在多く用いられている代表的な生産システムを取り上げる。次に生産システムを運営する際に問題となる種々のスケジューリングについて取り上げる。これらによって日本で用いられている生産システムについて理解し、自分でスケジューリングを求めることができるように習得する |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間試験35%, 期末試験35%, 課題レポート(宿題)30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、A4用紙1枚のメモ書き(手書きに限る)持込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題は毎回の授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は講義日の前日17:00を基本とする                             |                  |    |
| テキスト                        | 特になし。講義の開始時に講義資料を配布する   |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営情報システム論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岡部 正幸   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1567研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、課題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | システム運用管理, ITサービスマネジメント, 資源管理, インシデント管理, セキュリティ管理  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では, 社会・企業における情報システムを安定かつ継続的に運用するための方法論について講義する。システム運用における標準的フレームワークであるITIL(Information Technology Infrastructure Library)に関する知識の習得を目標とする。 |                  |    |
| 授業の内容                       | ITILに記載された成功事例を基に, サービスマネジメントの概念, ITサービスに関する財務管理, キャパシティ・可用性・セキュリティを考慮したシステムデザイン, サービスのリリース管理, インシデント対応等, システム管理を安定かつ継続的に行うためのノウハウについて講義する。   |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%, 課題レポート30%の割合で評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 笹森俊裕・満川一彦 著 『ITIL ファンデーション シラバス2011』 翔泳社, 2013  |                  |    |
| 参考文献                        | 必要に応じて, 授業中に紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | レポート, 試験等において, 本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は, 大学の規則(学則)に基づいて対応する。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営情報システム開発論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 広谷 大助   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従った講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の復習4時間を想定した授業を行う。ほぼ毎週宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 生産システム, 在庫管理, 経済発注量, リードタイム, 新聞売り子問題, モンテカルロシミュレーション, 乱数, サプライチェーン, かんぱん  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では本講義では経営情報システムとして種々の生産システムを取り上げ、EXCELでシステムを構築し、シミュレーションできることを目的とする   |                  |    |
| 授業の内容                       | 生産システムを構築する上での基礎的事項として在庫管理の基礎について取り上げる。その後シミュレーションするための基礎的技法について説明する。最終的にEXCELを用いて種々の生産システムに対するシミュレーションモデルを構築する。その際に演習室でのパソコンを用いた実習を適宜行う                                    |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間試験35%, 期末試験35%, 課題レポート(宿題)30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、A4用紙1枚のメモ書き(手書きに限る)持込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題は毎回の授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は講義日の前日17:00を基本とする |                  |    |
| テキスト                        | 特になし。各講義の開始時に講義資料を配布する  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本講義とシミュレーション論及び経営情報シミュレーションは大きく関連しています。また、知的生産システム論を受講していた場合理解がより深まりますが必須ではありません。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 生産情報システム論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 広谷 大助   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従った講義形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の復習4時間を想定した授業を行う。ほぼ毎週宿題(レポート課題)を課し、次週の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席し宿題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 生産システム, 在庫管理, 経済発注量, リードタイム, 新聞売り子問題, モンテカルロシミュレーション, 乱数, サプライチェーン, かんぱん  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では本講義では経営情報システムとして種々の生産システムを取り上げ、EXCELでシステムを構築し、シミュレーションできることを目的とする   |                  |    |
| 授業の内容                       | 生産システムを構築する上での基礎的事項として在庫管理の基礎について取り上げる。その後シミュレーションするための基礎的技法について説明する。最終的にEXCELを用いて種々の生産システムに対するシミュレーションモデルを構築する。その際に演習室でのパソコンを用いた実習を適宜行う                                    |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間試験35%, 期末試験35%, 課題レポート(宿題)30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、A4用紙1枚のメモ書き(手書きに限る)持込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題は毎回の授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は講義日の前日17:00を基本とする |                  |    |
| テキスト                        | 特になし。各講義の開始時に講義資料を配布する  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本講義とシミュレーション論及び経営情報シミュレーションは大きく関連しています。また、知的生産システム論を受講していた場合理解がより深まりますが必須ではありません。   |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 知識情報システム論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 錦織 昭峰  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1643研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 原則として在室のときにはいつでも可  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席すること。試験を受けることが義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 問題解決指向型システム設計。状態空間探索。スプレッドシート等のデータ構造。情報の多重暗号化。   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 現代社会の経営情報分野において、様々な形態で運用されている知識情報システムについて、人間の知識・知能に関連したスキルを理解できる。情報処理の一分野として発展している知識情報の基礎理論が理解できる。経営の実際問題に関する知識情報システムの実例を知ることができる。最近の話題を理解できる。情報化企画・設計・システム運営ができる情報化推進のための能力が身に付く。情報の多重暗号化を考察できる。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 授業でふれる項目は主に以下のとおりである。最近の話題。電話の基礎技術。電子メールの仕組み。Webの仕組み。セマンティックWeb。デジタルネットワークと社会生活。COTSの導入。意思決定支援。エキスパート・システム。DSS。マイニング技術。電子商取引とは。B to B型電子商取引。モバイルコンピュータ。情報セキュリティ。暗号技術。認証技術。問題解決指向型システム設計。状態空間での探索。あいまいな主観を考慮する優先順位概念。知識情報システムのデータ構造。スプレッドシート等の表計算ソフトウェアのデータ構造。情報ネットワークとソフトウェアセンター。企業情報システム。電力システム等のユーティリティサービスシステム。授業中に2コマ程度は、コンピュータ実習室で下記の演習を行う。公開鍵と秘密鍵による暗号化。覆面文字。情報の多重暗号化。電子メールのための手紙文の書き方。(余裕があれば、科学と芸術と宗教(民族)を解説する。) |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間試験(40%)及び期末試験(60%)で評価する。これが原則であるが、授業への積極的な参加なども含めて総合的に判断する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。   |                  |    |
| テキスト                        | 飯島淳一 著 「入門 情報システム学」、日科技連出版社、   |                  |    |
| 参考文献                        | 錦織昭峰, 優先順位を考慮した大規模な一般化割当問題のためのデータ構造とアルゴリズム, 電子情報通信学会論文誌, Vol. J85-D-I, No. 2, pp. 122-131, 平成14年2月。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修予定者は、教科書全体をざっと読みし、授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。資料は学内LANのYドライブに入っている。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営情報システム実験   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 韓 虎剛   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1636 研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 火曜日 13時から14時30分、場所は研究室   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 演習方式   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 必修  |                  |    |
| キーワード                       | MATLAB, ワークスペース、大数の法則及び中心極限定理、輸送問題、待ち行列、ファジィ推論   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | MathWorks社の数値解析ソフトウェアMATLABのプログラミング手法をマスターすると同時に、学科専門科目におけるいくつかのトピックを取り上げ、解法またはシミュレーションのプログラムを作成し、その理解と応用力を高める。                                      |                  |    |
| 授業の内容                       | まずは、指定のテキストを参考に、MATLABプログラミング手法をマスターする。次に、2-3人グループ単位で、指定のトピックを文書でまとめたうえ、その解法またはシミュレーションのプログラムを作成する。なお、毎回出席チェックの代わりに、プログラミング進捗状況の確認を、一人ずつか、グループ単位で行う。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 課題レポート50%、質疑応答50%の割合で総合評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 上坂吉則、「MATLABプログラミング入門」(改定版)、牧野書店(2011)   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営情報シミュレーション   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 錦織 昭峰  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1643研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 原則として在室のときにはいつでも可  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、配付資料に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席すること。試験を受けることが義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | シミュレーション・モデル。モデル時間処理。シミュレーション言語。最適化ソフトウェア。スプレッドシート。マネジメントゲーム。特許の取得。  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 複雑な経営情報の問題に対応する際に不可欠になっている、コンピュータによるシミュレーションについて理解できる。最近の話題を理解できる。シミュレーションに関する設計・システム運営ができる情報化推進者としての能力を養うことができる。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 授業でふれる項目は主に以下のとおりである。最近の話題。工学的的方法論。MOT (Management of Technology) 教育の実践例。天気・気候予測と地球シミュレータ。空港システムと旅客機戦略。シミュレーションモデルの分類とシミュレーションの手順。モデルの時間処理の方法。シミュレーション言語。モンテカルロシミュレーションによる待ち行列現象の解析。在庫管理問題のためのシミュレーション。最適化ソフトウェア Fico Xpress による演習。社会システムのためのシミュレーション技法であるシステムダイナミックス。ゲームを行いながら経営における意思決定を学べるビジネスゲームとマネジメントゲーム。大規模なスプレッドシートを用いた大学成績処理のデータ構造。スプレッドシートのためのまばらなデータの表示法。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 中間試験(40%)、期末試験(40%)、演習のレポート(20%)で評価する。これが原則であるが、授業への積極的な参加なども含めて総合的に判断する。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。   |                  |    |
| テキスト                        | 講義資料はその都度配付する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 錦織昭峰, 特許「スプレッドシートによる、まばらな文字列データの表示法」, 特許出願番号 平成18年 特願2006-51149, 特開2007-207204。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修予定者は、配付資料をざっと読みして授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。資料は学内LANのYドライブに入っている。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | サプライチェーン戦略論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 広谷 大助   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、前半は主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。1回の講義につき1 or 2章の講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。後半はコンピュータ演習室にて行い、実際にコンピュータを用いた課題を行う。学生は授業に出席し、与えられた課題を提出し、試験を受けることが義務付けられる      |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次, 経営情報学科 3,4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | サプライチェーン, ロジスティクス, ロットサイズ, スケジューリング, 在庫, リスク管理, ロジスティクスゲーム  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 前期の経営情報システム開発論を受けて供給者から顧客までの一連のつながりを1つの鎖とみなし全体最適化を図るサプライチェーンに対してどのような問題が存在し、どのような戦略が取り組まれ最適化を図っているかを理解することを目的とする。受講者は数名のグループを組み、実際にロジスティクスゲームを行い体験することによってもサプライチェーン最適化の難しさを理解する |                  |    |
| 授業の内容                       | サプライチェーンに対して最初サプライチェーンに対する概要を説明した後、種々のサプライチェーンに関連したモデル及び戦略について説明する。その後、最新のトピックスについて述べ、最後にグループで工場、流通センター、販社から構成されるロジスティクスゲームを行う  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験60%, 課題レポート40%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、A4用紙1枚のメモ書き(手書きに限る)持込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題は毎回の授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は回によって異なるためその都度指示する                 |                  |    |
| テキスト                        | 久保著, サプライチェーンの最適化の新潮流, 朝倉書店, 2011年  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 知的生産システム論, 経営情報システム開発論を受講しておくことより理解が深まりますが必須ではありません   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | サプライチェーン概論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 広谷 大助   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1634研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 在室の際はいつでも問題ないができればE-mail等での事前予約が望ましい  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、前半は主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。1回の講義につき1 or 2章の講義を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。後半はコンピュータ演習室にて行い、実際にコンピュータを用いた課題を行う。学生は授業に出席し、与えられた課題を提出し、試験を受けることが義務付けられる      |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科 3年次, 経営情報学科 3,4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | サプライチェーン, ロジスティクス, ロットサイズ, スケジューリング, 在庫, リスク管理, ロジスティクスゲーム  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 前期の経営情報システム開発論を受けて供給者から顧客までの一連のつながりを1つの鎖とみなし全体最適化を図るサプライチェーンに対してどのような問題が存在し、どのような戦略が取り組まれ最適化を図っているかを理解することを目的とする。受講者は数名のグループを組み、実際にロジスティクスゲームを行い体験することによってもサプライチェーン最適化の難しさを理解する |                  |    |
| 授業の内容                       | サプライチェーンに対して最初サプライチェーンに対する概要を説明した後、種々のサプライチェーンに関連したモデル及び戦略について説明する。その後、最新のトピックスについて述べ、最後にグループで工場、流通センター、販社から構成されるロジスティクスゲームを行う  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験60%, 課題レポート40%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、A4用紙1枚のメモ書き(手書きに限る)持込み可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポート(宿題)の課題は毎回の授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は回によって異なるためその都度指示する                 |                  |    |
| テキスト                        | 久保著, サプライチェーンの最適化の新潮流, 朝倉書店, 2011年  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 知的生産システム論, 経営情報システム開発論を受講しておくことより理解が深まりますが必須ではありません   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 意思決定論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 韓 虎剛  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1636研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 火曜日 13時から14時30分、場所は研究室  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業方式で授業を進めるが、パソコンによる実習をも重視する。毎回レポート課題を課し、次回の授業開始時に提出させる。学生は、授業に出席すること、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3・4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | ゲーム理論、ベイズ定理、デシジョン・ツリー、ポートフォリオ選択論、ファジィAHP  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 経営＝意思決定。高度情報化社会の中で、様々な情報処理技法を駆使した意思決定はますます重要視される。本科目の目標は、代表的な意思決定手法を理解させる上、実際にプログラムを駆使してその応用力に重点に置く。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 意思決定に際して、意思決定の手法が重要であると同時に、用いる情報の処理能力も不可欠である。本授業では、代表的な意思決定手法を説明しながら、MATLABで実際にプログラムを組ませて、その応用力を高める。予定するトピックスは以下の通りである。決定分析、在庫決定分析、ポートフォリオ選択理論、ゲーム理論、ベイズ定理、ファジィAHPなど。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 課題レポート30%、テスト70%で総合評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 資料プリントを配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 経営データ解析論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岡部 正幸   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1567研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業および演習形式。学生は、授業に出席し、課題のレポートを作成・提出することが義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(商業) 選択(平成21年度以前入学生対象)  |                  |    |
| キーワード                       | リレーショナル・データベース, SQL, テーブル, データ抽出, コードの最適化   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では、「データベース論」で講義した内容について、実際のデータベース管理システムを用いて演習を行う。講義では、データベースの作成、データの抽出など、SQLを用いたデータベースの基本操作の習得を目標とする。 |                  |    |
| 授業の内容                       | SQLにおける基本操作、テーブルの作成、データの抽出と集計、関数、テーブルの連結、副問合せ、ウィンドウ関数、コードの最適化などについて演習を行う。                                 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 実験への取り組み姿勢50%、課題レポート50%の割合で評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 毎回授業にて資料を配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 必要に応じて、授業中に紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 課題レポートにおいて、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。                                       |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 応用情報システム開発論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 重安 哲也   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1638研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、別途案内する講義資料をもとに、講義形式で授業を実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3・4年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | システム開発、設計、オペレーティングシステム  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本授業は、情報システムの基礎知識を習得済みの学生を対象に、民間企業、あるいは公共団体における情報システムの構築に関わるアプローチについての基本的な考え方や技法を修得することを目的とする。具体的には、オペレーティングシステムの核技術に特に焦点を絞り詳述する。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 積極的にICT化が進められる中、民間企業、公共団体を問わず様々な組織に置いてその目的に応じた情報システムを設計、構築することが必要となっている。<br>しかしながら、どのような組織の情報システムに置いても一貫したプロセスの排他制御やデータ保護などの技術については確立された基礎技術のもとに構築される。<br>本講義では、これらの現状を踏まえ、情報システムの基本概念や核技術を習得するために、一般的なオペレーティングシステムに採用される技術について取得する事を目的とする。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%、出席状況と課題レポート30%の割合で評価する。レポートについては授業の進行に合わせて随時、課題を課す。   |                  |    |
| テキスト                        | 教科書は特定のもの是指定しない。  |                  |    |
| 参考文献                        | 参考文献：前川守「オペレーティングシステム」<br>その他の参考書については適宜、授業中に紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 予習、復習をしっかりと行い、学習内容の位置付けを常に意識すること。   |                  |    |



|                         |   |                  |    |
|-------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                   | 情報リスクマネジメント   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 重安 哲也   |                  |    |
| 研究室の場所                  | 広島キャンパス 1638研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                 | 随時  |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 対面授業。授業日程に従って、別途案内する講義資料をもとに、講義・演習併用形式で授業を実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                    | 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                 |   |                  |    |
| キーワード                   | 情報システム、情報リスク、ウェブサイト攻撃、コンピュータウィルス、情報漏洩、法務リスク、セキュリティポリシー、情報セキュリティの国際標準、セキュア開発   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | 情報化プロジェクト論は、企業等におけるICT（情報通信技術）の導入に関する諸問題について学ぶ。特に、社会においてICT化が急速に進む一方で、急増する情報システムに起因するトラブルやリスクに重点を置くことで、将来大規模な情報システムの管理・開発プロジェクトに関わった際に必要となる基礎的な知識を身につけることを目標とする。  |                  |    |
| 授業の内容                   | 企業等において急速にICTの導入が進められるに伴い、導入した情報システムが扱う情報の種類もまた多種多様なものとなっている。このような状況では、情報システムの不備／トラブルに起因して意図しない情報が漏洩してしまう、あるいは不正に情報が改ざんされるなどといった情報リスクをいかにして回避あるいは軽減するかが重要となる。講義では、このような情報リスクの種類とその脅威などを実際の事例を取り上げて紹介するとともに、どのように情報リスクを軽減するのかといった情報リスクマネジメントの手法について解説する。また、授業の後半の回を使用して、セキュア開発に関する演習も実施する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                 | 期末試験70%、演習課題30%により総合的に判断する。   |                  |    |
| テキスト                    | 各授業の開始時に必要となる資料を適宜配布する。   |                  |    |
| 参考文献                    |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 本講義は、実社会における情報システムに関連する内容を取り扱うため、日頃から情報システムに関するニュース等を興味を持って積極的に読む習慣をつけることが望ましい。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 応用確率システム論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 生田 顯  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1661研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 金曜日9時～17時, 場所は担当教員室   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 確率システム, 実現象, 不確実・不規則性   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目は, 学科専門科目における経営情報系科目の一つとして, 確率システムのモデリングや推定・予測・制御(マネジメント)の理論と応用について学習することを目的とする。具体的には, 実現象をモデル化する際に考慮すべき不確実性や不規則性に対し, いかに取り組むべきかの基本的考え方を中心として平易に解説する。また, 実際のシステムに应用する際のポイントについても, 実例を交えて詳述する。さらに, 高度の方法論を学習する上での基礎となる予測と制御の導入について述べる。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 社会・経済・環境など, 実際の現象はさまざまな不規則要因を含んでいることから, その解析においては確率的取り扱いが必要になる。本講では, このような実現象を確率システムとして捉え分析するためのモデリング手法について, 一般論の立場から講述する。さらに, 現代の経営戦略においては, 環境コストを組み入れ考慮することが不可欠であることから, 特に, 確率環境システム(音・振動・電磁環境)を一具体例として採り上げ詳述する。                        |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験, 出席状況, 課題レポート3で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で実施する。レポート課題は授業の進行に合わせて随時, 提示する。   |                  |    |
| テキスト                        |   |                  |    |
| 参考文献                        | 参考書: 石村貞夫著「すぐわかる多変量解析」東京図書, 藤沢偉作「楽しく学べる多変量解析」現代数学社, M. R. Spiegel, J. Schiller, R. A. Srinivasan著 Probability and Statistics “McGRAW-HILL”  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 授業では, 入門から高度の内容までを平易に解説する。授業中の雑談や試験中の不正行為はもちろん禁止(当然のこと)。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | プログラミング   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 宇野 健  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1550研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 在室時はいつでも可(週間スケジュールを研究室前に掲示)   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、宿題(レポート課題)を課し、メール等によって次週までの提出を義務付ける。また、小テストや到達度テストなどを随時実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象。情報科学の基礎とコンピュータの基本操作を習得しておくこと。  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報)必修  |                  |    |
| キーワード                       | プログラミング, C言語, データ構造, アルゴリズム, フローチャート  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では、C言語の例題プログラムを元に、プログラミングの基礎を習得することを目的とする。到達目標は、基礎的なレベルのアルゴリズムの理解と、初級レベルのプログラムを独力で作成することが可能となることを想定している。そのため、プログラムの基本的なアルゴリズム、データ構造や、フローチャートでの表現などを中心とした講義をおこなう。また、デバッグや可読性の高いコーディング技術などのソフトウェア開発の基本スキルを身に付けることも目的としている。よって、座学だけではなく、実際にコンピュータとコンパイラを用いた演習もおこなう。なお、本科目で利用するC言語は、現在ソフトウェア開発で用いられているほとんどの言語のベースであり、IPAの基本情報処理技術者試験の出題範囲にも含まれている。この出題内容の理解も本科目の到達目標の一つである。本科目は、経営情報学科の学科専門科目の情報処理系科目に区分されている。  |                  |    |
| 授業の内容                       | プログラミングは、コンピュータのソフトウェアを作成することをいう。プログラミングを理解することは、コンピュータそのものを理解することといえる。本科目では、プログラミングの基礎知識の習得と、実際のプログラミングスキルの取得を目的としている。そのため、一回の授業の前半にPowerPointを用いた通常講義、後半に実際にコンピュータを用いた演習をおこなう。実際に授業で利用する言語は、C言語である。C言語は現在主流の殆どの言語のベースであり、多くの大学や企業で、プログラミングの基礎教育に取り入れられている。前半の通常講義のパートでは、一般的なプログラムの書き方(書式)やデータ構造、制御構造、アルゴリズムなどを、PowerPointの資料等を活用して詳説する。その他、アルゴリズムの理解のため、フローチャートによる表現方法を習得する。プログラミングに密接に関係するハードウェアについても、CPUやメモリなど、プログラミングとの関わりが深い部分を中心に学習する。後半の演習パートでは、前半に習得した内容の理解と、スキルの習得のため、プログラミング演習をおこなう。実際にアルゴリズム等からソースプログラムを作成し、そのコンパイル・デバッグ・実行等をおこなう。また、毎回プログラム作成課題を出すことにより、より確実な理解を目指す。詳細は、毎回の授業で利用するWebテキスト上に公開する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 試験70%、課題レポート・小テスト等30%の割合で評価する。レポートは文書とコンテンツとしての提出の前に、作成したソースプログラムなどを提出させる場合がある。各レポートの提出期限は、通常、次回授業の前日とする。レポートの提出方法は、内容により異なるが、文書として提出する場合は電子メール、それ以外は講義中に指示する。<br>なお、欠席に関しては、1回ごとに減点する。無断欠席が4回以上の場合と、試験を無断で受験しなかった場合は、成績評価をおこなわないので注意すること。  |                  |    |
| テキスト                        | 本科目専用のWebサイトを利用する。WebのURLについては、初回授業時に指示する。また、毎回の講義において、プリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 授業中に指示する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | コンピュータの基本操作や基本原理等を理解しておくこと。特に情報処理入門と情報科学入門の復習をしっかりとしておくこと。<br>授業内容の理解のためには、授業時間外の自学習が不可欠である。そのための授業専用のWebサイトのコンテンツやE-Mail、動画解説サイトなどを効果的に活用し、自学習のサポートの充実を図る。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | プログラミング演習  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 宇野 健   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1550研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 在室時はいつでも可(研究室前に掲示)   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、宿題(レポート課題)を課し、メール等によって次週までの提出を義務付ける。また、小テストや到達度テストなどを随時実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象。『プログラミング』を履修しておくこと。   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報)必修   |                  |    |
| キーワード                       | プログラミング, GUI, オブジェクト指向, JavaScript, Webアプリケーション  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目の目標は、『プログラミング』で基本を身に付けたプログラミング力の向上と、近年主流のWebプログラミングの基本を習得することである。詳細な習得目標としては、GUI(Graphical User Interface)プログラミング、Webプログラミングの概念、クライアントサイド・プログラミング、オブジェクト指向の概念、サーバサイド・プログラミングが挙げられる。そのため、演習には、Webのインターフェースを構築する際に不可欠なスクリプト言語であるJavaScriptを主として用いる。JavaScriptはC言語をベースとした言語であるため、『プログラミング』で習得した知識とスキルの多くを活用することができる。<br>さらに理解を深めるために、前半15分のPowerPointによる事前説明、終了前の演習の補足説明等を入れる。本科目は、経営情報学科の学科専門科目の情報処理系科目に区分されている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 授業はコンピュータ演習室でおこなう。プログラミングの基礎については、『プログラミング』で習得済みだが、授業の前半数回は、『プログラミング』の復習的な内容も含めておこなう。まず、WebプログラミングのGUIインターフェースとなるHTMLの演習をおこなう。次にJavaScriptによるWebプログラミングの基礎を習得する。前半は『プログラミング』の内容の復習と応用を演習し、基礎的なプログラミング能力を習得する。この際、主にJavaScriptによって演習をおこなう。JavaScriptの基本はC言語そのものであるため、C言語との共通点や、相違点等により理解を深める。後半は、JavaScriptを用いたクライアントサイド・プログラミングの演習をおこなう。これにより、WebアプリケーションやGUIプログラミングのインターフェースの構築、オブジェクト指向の習得等をおこなう。最後にサーバサイド・プログラミング演習として、PHPを用いたWebアプリケーション開発をおこなう。最終的には、与えられた条件から、自力でアルゴリズムの考案やソースの作成などをおこない、実行・修正までをこなすことが可能な能力を身に付ける。詳細は、シラバス等に随時掲載する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 試験70%、小テスト・レポート等30%の割合で評価する。欠席に関しては、1回ごとに減点する。無断欠席が4回以上の場合と、試験を無断で受験しなかった場合は、成績評価をおこなわないので注意すること。  |                  |    |
| テキスト                        | 教科書 本科目専用のWebサイトを利用する。WebのURLについては、初回授業時に指示する。また、毎回の講義において、プリントを配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 授業の際に指示する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | C言語をベースとした言語を扱うため、『プログラミング』を履修していることが望ましい。授業内容の理解のためには、授業時間外の自学習が不可欠である。そのための授業専用のWebサイトのコンテンツやE-Mail、動画解説サイトなどを効果的に活用し、自学習のサポートの充実を図る。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | アルゴリズム入門  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 竹本 康彦   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1649号室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時。ただし、面談は事前にE-mail等で予約することが望ましい。(場所：上記研究室)   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面講義。各授業日に講義資料を配布し、これに基づき講義を進行する。授業時間の前半では講義形式にて内容を学習する。後半では習得した内容に関する演習を通じて講義内容の理解を深める。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | 流れ図, 擬似言語, アルゴリズム   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | ある問題を解決するときには、必ずそれに必要な処理とその順番がある。アルゴリズムとは「問題解決の手順」を示したものである。コンピュータ・プログラムにおけるアルゴリズムの理解力・開発力は情報学を専攻する学生にとって必須の基礎力である。本授業を通じて、その基礎力の構築・向上を目指す。   |                  |    |
| 授業の内容                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミングの基礎知識を習得する。</li> <li>・アルゴリズムやデータ構造の概念を習得する。</li> <li>・基本的なアルゴリズムを習得する。</li> <li>・流れ図(フローチャート)や擬似言語による表現方法を習得する。</li> <li>・基本情報技術者試験の該当する分野の問題を解答する。</li> </ul> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度・課題等の評価(40%)、期末等の試験の成績(60%)により総合的に判断する。   |                  |    |
| テキスト                        | 各授業の開始時に講義資料を配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 情報関連科目(情報処理入門、情報科学入門、情報リテラシー)を履修の上、受講するのが望ましい。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | アルゴリズム演習  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 竹本 康彦   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス1649号室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時。ただし、面談は事前にE-mail等で予約すること。（場所：上記研究室）  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | コンピュータ実習室での対面講義。各授業日に講義資料を配布し、これに基づき講義を進行する。授業時間の前半では講義形式にて内容を学習する。後半では習得した内容に関する課題を通じて講義内容の理解を深める。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | 流れ図, プログラミング, アルゴリズム  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | ある問題を解決するときには、必ずそれに必要な処理とその順番がある。アルゴリズムとは「問題解決の手順」を示したものである。コンピュータ・プログラムにおけるアルゴリズムの理解力・開発力は情報学を専攻する学生にとって必須の基礎力である。本講義を通じて、その開発力の構築・向上を目指す。 |                  |    |
| 授業の内容                       | この科目では、アルゴリズムの理解力と開発力の習熟を目指し、ソフトウェアの操作、制御構造の習得を経て、並び替えと探索、数値計算、文字列処理などの各種問題に関するプログラムを開発する。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 授業中の積極的な態度・課題等の評価(60%)、期末等の試験の成績(40%)により総合的に判断する。   |                  |    |
| テキスト                        | 各授業の開始時に講義資料を配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 特に指定しない。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | アルゴリズム入門を受講済みであることが望ましい。また、情報関連科目(アルゴリズム入門、プログラミング)を復習の上、受講するのが望ましい。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | コンピュータ概論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 生田 顯   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1661研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 金曜日9時～17時, 場所は担当教員室  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報)必修   |                  |    |
| キーワード                       | コンピュータ, ハードウェア, 情報処理   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目は、学科専門科目における情報処理系科目の一つとして、コンピュータの概要について学習することを目的とする。具体的には、「情報処理入門」「情報科学論」に引き続き、特にコンピュータの仕組みや役割に焦点を絞り詳述する。さらに高度の情報処理系科目を学習する上での基礎となる。   |                  |    |
| 授業の内容                       | コンピュータを円滑に活用・運用するためには、コンピュータの仕組みやコンピュータ内部の働きなどハードウェアに関する知識が必要である。本講では、トランジスタなど電子回路の基礎から論理回路について、さらにコンピュータを構成している演算装置、制御装置、記憶装置について講述する。また、コンピュータを利用した情報処理の原理を理解するため、各種インターフェイスやAD/DA変換および信号処理の基礎についても概説する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験, 出席状況, 課題レポートで評価する。試験は指定された教室(試験室)内で実施する。レポート課題は授業の進行に合わせて随時, 提示する。   |                  |    |
| テキスト                        |  |                  |    |
| 参考文献                        | 参考書: 橋本・松永・小澤・木村共著「コンピュータ概論」オーム社, 佐藤著「信号処理入門」オーム社, 三井田著「情報工学概論」森北出版  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | コンピュータの仕組みを知ることは、コンピュータを使いこなす上で重要なことである。授業中の雑談や試験中の不正行為はもちろん禁止(当然のこと)。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報システム論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 折本 寿子  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1617研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時（メールで事前に予約を入れると確実です）   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、資料を配布し講義形式で行う。学生は授業に出席し試験を受けることが義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免（情報）必修   |                  |    |
| キーワード                       | 情報システム、情報処理、ハードウェア、ソフトウェア、情報基盤、セキュリティ、ソフトウェア開発、情報ネットワーク、オペレーティングシステム、マルチメディア   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目は、学科専門科目における情報処理系科目の一つとして、情報科学に様々な分野の基礎について学ぶことを目標とする。様々な情報科学分野を広く学習することで、コンピューター、コンピューターネットワーク、ソフトウェアなどの基礎だけでなく、それらの関係や社会基盤としての位置づけを理解することを目指す。   |                  |    |
| 授業の内容                       | コンピューターがどのように発展してきたのかについて学んだあと、コンピューターとそれに関する様々な技術について順に学んでいく。具体的には、ハードウェアの構成と機能、コンピューターにおける情報の表現、オペレーティングシステムの役割、プログラミングとソフトウェア開発、情報ネットワークなどを学ぶ。また、マルチメディア、モバイル端末、情報セキュリティーなども学ぶ。授業ではプリントを配布するので内容をノートに細かくメモする必要はなく、話を聞いて様々な技術の本質やアイデアを理解しようとする事。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 試験(100%)で評価する。試験は指定された日時、教室で持ち込み不可で実施する。   |                  |    |
| テキスト                        | なし   |                  |    |
| 参考文献                        | 授業の中でプリントを配布する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修者は、前回授業の内容をよく理解し、授業に臨むこと。  |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 数理情報論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 折本 寿子   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1617研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時（メールで事前に予約を入れると確実です）  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、下記の基本情報技術者問題集の各章に関する内容を講義と実習形式で実施する。講義内容に応じて課題を出し、内容の理解を深める。また、場所はパソコンの使える実習室で行い、理論のみならず実習を通じて講義の内容を理解する。学生は課題をしっかりと理解することと、試験を受けることで達成状況を確認する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免（情報）選択  |                  |    |
| キーワード                       | 情報、データ、デジタル、ビット、バイト、2進法、レコード、プログラム、プロセッサ、ピクセル、デバッグ、モジュール、ライブラリ、ファイルシステム、データベース、マルチメディア、LAN  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では、コンピュータシステムを用いてデータを収集・蓄積し、計算・解析し、加工してそこから新たな意味を導き出す方法、数理情報を実習を交えて学習する。数理情報処理における概念や技術をデータの表現から始まってマルチメディア情報処理までを理解することである。また、あわせて授業をとおして基本情報技術者の資格取得を目指す。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 数理情報とはデータを収集し、解析・加工し、情報として活用するにいたるまでの人間の知的活動である。講義では、コンピュータを用いてデータや情報を収集・検索・蓄積し、計算・加工処理し、伝達するための情報処理の諸概念、情報とデータ、データの表現とデータ構造、アルゴリズム、コンピュータの構成、コンピュータの機能と情報処理、プログラミング言語、オペレーティングシステム、アプリケーションソフト、マルチメディア、データベース、ファイル、データ通信等について解説する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%、課題30%の割合で評価する。課題は、授業の中で提示し期限を設けて達成度を判断する。期末試験は指定された試験日の授業時間（90分）内で実施し、課題及びテキストの中から相当部分を出題する。  |                  |    |
| テキスト                        | 『情報処理教科書 出るピタ 基本情報技術者問題集2013～2014年版』 日高哲郎 著<br>翔泳社、2013   |                  |    |
| 参考文献                        | 講義ごとに参考資料を配布します。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修者は、授業の前に教科書の該当する箇所を予習し、授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 環境情報処理論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 折本 寿子   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1617研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時 (メールで事前に予約を入れると確実です)   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に教科書の各章に関する内容を講義形式で実施する。学生は授業に出席し、レポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。                                     |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 騒音, 振動, dB, 低周波, 評価   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 環境情報を音環境の側面から捉え、会話や音楽等、我々の生活で欠かすことのできない音の性質や種類について学習する。一方で、望ましくない音、生活の妨げになる音である騒音について基礎知識を学ぶことで、騒音の評価方法を習得することを目標とする。 |                  |    |
| 授業の内容                       | 音とは常に存在し、無意識の中で我々の耳に聞こえている。心地よい音もあれば望ましくない音も存在しており、音の性質を数値的に捉えるため、まず音の定量的表現を学ぶ。その後、日常に存在している騒音問題を取り上げ、騒音の評価方法について学ぶ。  |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 試験60%、課題レポート30%、授業への取り組み姿勢10%の割合で評価する。試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。レポートの課題は授業の中で提示する。各レポートの提出期限は、原則、次回授業の前日とする。        |                  |    |
| テキスト                        | テキストは講義の時に指示する。   |                  |    |
| 参考文献                        |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修者は、前回授業の内容をよく理解し、授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、学生に対する授業内での連絡によって行う。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 視覚情報処理論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 肖 業 貴  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1563研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週月曜日9時から金曜日18時(在室のときはいつでも可), 場所は担当教員研究室   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って, 主に下記の教科書・参考書および別途配布するプリント資料を用いて実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | 視覚情報処理, デジタル画像, 画像処理, 静止画, 動画, 3原色原理, カラー画像, 画像圧縮, Biometrics, 顔画像の処理, Matlab Programming  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目は, 情報化において映像情報の活用が欠かせない現状を踏まえて, 情報科学の重要な分野として, 視覚情報処理・画像処理の基礎, 特にデジタル画像に関する基礎知識を習得させるために実施するものである。デジタル画像の基礎知識を習得させるとともに, 演習を通して画像処理の基本技法を体験する。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 視覚情報は, 人間が処理・利用する最も大事な情報の一つである。その形成, 処理, 応用に関する研究開発が近年大きく進展し, 特に知的マンマシンインタフェースにおいては極めて重要なものである。本講義では, まず生物の視覚情報処理の基礎を紹介し, 画像による視覚情報処理モデルについて述べる。次に, デジタル画像の形成と処理の基本技法を詳述する。最後に, デジタル画像処理の最新応用として, 近年注目されている顔識別(Biometrics)による個人認証セキュリティー技術について述べる。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 4回以上の欠席は評価の対象外とする。演習課題と期末試験は60%, 演習への取り組みは40%の割合で, 出席状況も考慮して, 総合的に評価する。各課題の提出期限は, 通常, 次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については, 授業時間内に指示する。   |                  |    |
| テキスト                        | 特に指定しないが, 授業中にプリントをまめに配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 参考書: 酒井『デジタル画像処理入門』コロナ社, 1997。平井『視覚と記憶の情報処理』倍風館, 1995。藤岡 他『画像処理の基礎』昭晃堂, 2002。田村『コンピュータ画像処理』オーム社, 2002。谷口『画像処理工学』共立出版, 1996。鳥脇『パターン認識と画像処理』朝倉書店, 1997。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 基礎から講義するので, 特に受講しておく科目がない。予習・復習を行い, 積極的に演習に取り組むこと。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | データベース論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 岡部 正幸   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1567研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、課題のレポートを作成・提出すること、試験を受けることが義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営学科, 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択   |                  |    |
| キーワード                       | データモデル, リレーショナルデータベース, SQL, 正規化, トランザクション, 同時実行制御   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | この科目では、業務システムにおいて必須となるデータベースについて、主にリレーショナルデータベースを中心に、その理論的背景について講義する。データベースの基本的な動作原理およびデータ操作言語であるSQLに関する基礎知識の習得を目標とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 業務システムの多くで採用されているリレーショナルデータベースについて、データモデル、データ操作のための代数演算、操作言語SQL、データの正規化、データモデリングの概要、管理システム、トランザクションと同時実行制御、障害回復などについて講義する。また、リレーショナルデータベース以外のXMLデータベース、NoSQLデータベースなどについても触れる。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%、課題レポート30%の割合で評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 三石大・吉廣卓哉 編著 『データベース-ビッグデータ時代の基礎-』 共立出版, 2014  |                  |    |
| 参考文献                        | 必要に応じて、授業中に紹介する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | レポート、試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報システム実験  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 肖 業貴  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1563 研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週月曜日9時から金曜日18時(在室のときはいつでも可),<br>場所は担当教員研究室。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、主に下記の実験指導書および別途配布するプリント資料を用いて実施する。実験1回に対し学生の自習2時間を想定した授業を行う。毎週宿題を課し、次週の実験開始時に提出させる。学生は、実験への出席と課題が義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報)必修  |                  |    |
| キーワード                       | 情報システム, コンピュータハードウェア・ソフトウェア, パソコン組み立て, ソフトウェア追加・削除, Matlab Programming, サンプリング定理, 量子化, 時系列解析, 自己回帰 (AR) モデル, モデル推定, データ予測   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目では、情報システム分野の基礎として、コンピュータハードウェア・ソフトウェアに対する理解を深めるため、パソコンの解体・組み立て、ソフトウェアの追加・削除をまず実施する。さらにデジタル信号・情報処理に係るいくつかの基礎的かつ重要な問題に対してプログラミングを行ってシミュレーションし、ソフトウェアへの理解を深める。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 本実験は、「情報処理論」「情報システム論」「コンピュータ概論」等の一連の講義との関連において行なわれるもので、ハードウェアとソフトウェアの両方を体験させると共にそれらの基礎を身に付けることを目的とする。<br>具体的実験内容は次のとおりである：(1)PC組み立てによるハードウェアの体験、(2)アプリケーション等のインストールと活用、(3)デジタル情報システム実験(プログラミングの演習を含む)、(4)実時間情報システムシミュレーション実験など。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 4回以上の欠席は評価の対象外とする。課題や小テストは60%、実験への取り組みは40%の割合で、出席状況も総合して、評価する。各課題の提出期限は、通常、次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。  |                  |    |
| テキスト                        | 指導書を読んでしっかり予習・復習すること。実験課題に積極的に取り組むこと。   |                  |    |
| 参考文献                        | 必要な場合は、授業に初日に提示する。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |   |                  |    |

|                     |  |                  |    |
|---------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名               | マルチメディア概論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)        | 宇野 健   |                  |    |
| 研究室の場所              | 広島キャンパス 1550研究室  |                  |    |
| オフィスアワー             | 在室時はいつでも可(研究室前に掲示)   |                  |    |
| 授業の形式・方式            | 対面授業。授業日程に従って、宿題(レポート課題)を課し、メール等によって次週までの提出を義務付ける。また、小テストや到達度テストなどを随時実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)            | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                | 経営情報学科 2年次対象。情報科学の基礎とコンピュータの基本操作を習得しておくこと。   |                  |    |
| 免許等指定科目             | 高一種免(情報)必修   |                  |    |
| キーワード               | マルチメディア、コミュニケーション、色覚、2次元CG、3次元CG、Web、インターフェース、コンテンツ、著作権  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け  | この科目の目標は、コミュニケーションの一手段であるマルチメディアの基本概念を習得することである。特に、各メディアの特徴を考慮した情報のデザインの考え方と、各メディアの特性や技術等の基本の習得を主目的とする。そのため、身近な例を取り上げ、最新のトピックスと共に理解を深める。また、座学だけでは理解が困難な画像処理やアニメーション等については、コンピュータ実習室におけるマルチメディア系ソフトウェアの演習などを併用することによって理解を深める。さらにプログラミングを利用した演習をおこなうことにより、マルチメディアとコンピュータとの関係についての知識とスキルの習得も目的の一つとする。本科目は、経営情報学科の学科専門科目の情報処理系科目に区分されている。  |                  |    |
| 授業の内容               | コンピュータ技術の進化と、インターネット(特にWeb)の普及は、マルチメディアをより身近な存在にした。ビジネスにおけるプレゼンテーションやWebシステム等のインターフェース部分においては、その利用が必要不可欠となっている。マルチメディアは、人間と人間のコミュニケーションの手段である。そのため、まずコミュニケーションの概念や、人間の感覚(特に視覚)の特性、コミュニケーションデザインの概念などについて講義する。そして現在主流となっている各メディアの特徴、現状、コンピュータにおける取り扱いなどについて講義する。特にマルチメディアの中核をなす、画像処理技術については、PhotoshopやFlash等のソフトウェア演習などを織り交ぜながら講義を進めていく。また、昨今インターネットやデジタル家電等の普及等で顕著になってきた、コンテンツの著作権問題や次世代技術などについても、最新のトピックスを織り交ぜながら詳説する。さらに、現在最も身近なマルチメディアであるWebについても、マルチメディア・コンテンツのメディア比較や開発方法について言及する。加えてWebユーザビリティやアクセシビリティなど、Webインターフェースの評価技法などの基礎も習得する。詳細は、シラバス等に随時掲載する。 |                  |    |
| 成績評価の方法             | 試験60%、課題レポート30%、授業での質問対応10%の割合で評価する。レポートは文書としての提出の他に、作成したコンテンツなどを提出させる場合がある。各レポートの提出期限は、通常、次回授業の前日とする。レポートの提出方法は、内容により異なるが、文書として提出する場合はメールで、それ以外は講義中にそれぞれ指示する。<br>なお、欠席に関しては、1回ごとに減点する。無断欠席が4回以上の場合と、試験を1回でも無断で受験しなかった場合は、成績評価をおこなわないので注意すること。   |                  |    |
| テキスト                | Webテキストとパワーポイントのスライドを利用する。毎回授業開始までに、その回のパワーポイントのスライドをプリントアウトして持参する。Webテキストのアドレスについては授業中に指示する。  |                  |    |
| 参考文献                | 授業中に指示する。  |                  |    |
| 備考(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 授業内容の理解のためには、授業時間外の学習が不可欠である。そのための授業専用のWebサイトのコンテンツやE-Mail、動画解説サイトなどを効果的に活用し、サポートの充実を図る。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | マルチメディア演習   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 宇野 健  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1550研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 在室時はいつでも可(研究室前に掲示)  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、宿題(レポート課題)を課し、メール等によって次週までの提出を義務付ける。また、小テストや到達度テストなどを随時実施する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象。   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報)必修  |                  |    |
| キーワード                       | Webアプリケーション, Flash, アニメーション, Action Script, GUIプログラミング  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目の目標は、マルチメディア・Webコンテンツの制作実習を通じて、インタラクティブ(双方向性)なマルチメディアの開発技術の習得をおこなうことである。そのため、Web上マルチメディア・コンテンツ開発では、事実上の標準となっているAdobe社のFlashを用いたコンテンツ開発演習をおこない、アニメーション等の基本的から応用までの技法の習得をおこなう。また、Action Scriptなどのプログラミングと組み合わせることにより、インタラクティブなマルチメディア・アプリケーションの開発をおこなう。最終的にはサーバサイド・プログラミングとの併用により、実用的なマルチメディア・Webアプリケーションの開発演習まで発展させる。本科目は、経営情報学科の学科専門科目の情報処理系科目に区分されている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 現在、様々な分野でマルチメディアの活用が進んでいるが、最も身近で、先進的に利用されている分野がWebである。この講義では、Web上のマルチメディア・コンテンツ開発では事実上の標準となっているFlashを用いる。まず、Flashによる様々なアニメーション作成技法を習得する。特にレイヤーの概念、シーンとシンボルなど、画像処理やアニメーション作成の基本となる部分を重点的に演習する。次に、インタラクティブなコンテンツの作成のため、ECMAScriptベースのFlashの標準スクリプト言語である、ActionScriptを用いたコンテンツ作成演習をおこなう。MovieClipというFlash独特の概念から、イベントやイベントハンドラといった、GUIプログラミングの基本概念を習得し、演習を通して開発スキルを身に付ける。また、Flashと、サーバサイド・プログラミングを組み合わせ、マルチメディアWebアプリケーションの開発演習を行う。最終的にこれらの技術を用いた、オリジナルのマルチメディアコンテンツ制作を最終レポートの課題とする。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 試験50%、課題レポート・小テスト50%の割合で評価する。レポートは文書としての提出の他に、作成したソースプログラム、コンテンツなどを提出させる場合がある。各レポートの提出期限は、通常、次回授業の前日とする。レポートの提出方法は、内容により異なるが、文書として提出する場合はメールで、それ以外は講義中にそれぞれ指示する。<br>なお、欠席に関しては、1回ごとに減点する。無断欠席が4回以上の場合と、試験を無断で受験しなかった場合は、成績評価をおこなわないので注意すること。  |                  |    |
| テキスト                        | 本科目専用のWebサイトを利用する。WebのURLについては、初回授業時に指示する。また、毎回の講義において、プリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 授業中に指示する  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | Flashのプログラミング言語はJavaScriptとほぼ同じ仕様であるため、『プログラミング演習』を受講済みであることが望ましい。<br>授業内容の理解のためには、授業時間外の自学習が不可欠である。そのための授業専用のWebサイトのコンテンツやE-Mailなどを効果的に活用し、自学習サポートの充実を図る。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | インターネットアプリケーション  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 佐々木 宣介   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1545研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週木曜日4時限目。場所は担当教員研究室。これ以外の時間は事前にメール等で在室時間を確認すること。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。主な内容は資料として配布し、その内容をもとに演習を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | ネットワークプログラミング、サーバ・クライアントシステム、Webサービス、サーバ構築   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目は経営情報学科専門科目で情報処理系科目に位置づけられるものである。基本的なネットワークプログラミングを理解すること、ネットワークを通じてサービスを提供するさまざまな情報システムについて、演習によって理解を深めることが目標である。本科目は、C言語によるプログラミングに関する基礎的な講義・演習は履修済みであることを前提としている。また、コンピュータネットワークに関する基本的な知識は習得済みであることが望ましい。                                     |                  |    |
| 授業の内容                       | インターネット上、特にWebのサービスで使われる技術を中心に演習を行なう。まず、簡単なネットワークプログラミングの作成実習を行う。それにより、ネットワークプログラミングの基礎の習得や、クライアント・サーバシステムの基本的手法の理解を目指す。次に、Webサービス上で使われる技術を題材にして、複数のソフトウェアの連携によってクライアントにネットワークを通じてサービスを提供するシステムの構築演習を行ない、インターネットで使用されるWebアプリケーションシステムの構築・運用の基本を習得する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 5回以上の欠席は評価の対象外とする。演習への取り組みで20%程度、演習課題・レポート等で80%程度の割合として総合的に評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 参考文献を必要に応じて紹介する。   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |



|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報ネットワーク論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 陳 春祥   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1565研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時，メールで予約してください。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。講義に関連する宿題（レポート課題）を課し，次週の授業開始時に提出させる。履修者は，授業に出席し，宿題のレポートを作成・提出すること，試験を受けることが義務付けられる。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免（情報）必修   |                  |    |
| キーワード                       | 情報ネットワーク，インターネット，通信プロトコル，サーバ/クライアント，IPアドレス，アクセス方式，LAN/WAN接続  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | この科目は，経営情報学科2年の学生を対象にして，情報ネットワーク（とりわけインターネット）の概念，アーキテクチャ，接続原理及び各種のアプリケーションについて体系的に講義する。本授業を通じてネットワーク上で展開される多彩なサービス機能だけでなく，これらの機能を支える技術等に関する基礎的内容を履修者に理解させ，ネットワークの活用を身に付けてもらう。本科目は高等学校教諭1種免許状（情報）に係る必修科目の1つと位置づけられている。                      |                  |    |
| 授業の内容                       | 情報ネットワークの仕組，技術，利用などに関する基礎知識を系統的に講義する。まず，ネットワークの設計，構築の際に基礎となる階層（レイヤー）化アーキテクチャの概念，各レイヤーの機能及びプロトコルについて述べる。そして，これらの機能を利用してどのようなネットワークサービスが可能であるかを紹介する。更に異なるネットワーク間の相互接続技法などをとりあげる。最後にインターネット（TCP/IP）を中心に展開される多彩な通信機能及び各種のネットワーク型ビジネスモデルについて学ぶ。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%，課題レポート（宿題），授業中の質問応答等30%の割合で評価する。3分の1以上の欠席があったら成績評価外とする。試験は指定された教室（試験室）内で，試験日の授業時間（90分）内，持ち込み不可で実施する。課題レポート（宿題）は授業の最後に提示する。各レポートの提出期限は，通常，次回授業時間の開始時までとする。またレポートの作成に文献や資料等を自由に参考してよい。   |                  |    |
| テキスト                        | 池田 博昌，山本 幹：「情報ネットワーク工学」，オーム社   |                  |    |
| 参考文献                        | 松下温，重野寛，屋代智之：「コンピュータネットワーク」，オーム社，2002年。<br>関根 勤：「ネットワークの考え方」，オーム社，2005年。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修者は授業前の予習と後の復習，そしてレポート（宿題）を通じて授業内容の理解を深めること。<br><br>この科目は，3年次の「情報ネットワーク実験」，「ネットワーク管理論」を履修する要件になっている。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | ネットワーク管理論   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 陳 春祥  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1565研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時，メールで予約してください。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。 講義に関連する宿題（レポート課題）を課し， 次週の授業開始時に提出する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免（情報）選択  |                  |    |
| キーワード                       | TCP/IP, LAN, WAN, ネットワーク機器, ネットワークセキュリティ, SNMP, VPN   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | インターネットの標準プロトコルTCP/IP (IPv4) について基礎的理解を深めて， ネットワークの運用・管理に必要な実践的な知識の習得を本科目の目標とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義では， LAN・WAN設計構築及び運用管理に必要な基礎知識を習得し， ネットワーク管理の技法について学ぶ。 具体的にはネットワークアーキテクチャ， ネットワークの設計技法， ネットワーク管理プロトコル， ネットワーク障害分析と信頼性評価， ネットワークセキュリティ， 安全・安心ネットワークの考え方と構築技法， ネットワークの運用と付加価値ネットワークなどについて演習と講義を通じて学習する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 宿題及び期末レポート等で総合的に評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | テキストについては毎回授業にてプリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 参考文献等は授業中適宜に指定する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 「情報ネットワーク論」の単位を習得していなければ履修できない。<br>「情報ネットワーク実験」を履修していることが望ましい。  |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報ネットワーク実験  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 陳 春祥  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1565研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時，メールで予約してください。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 実験・演習科目で一人又は少人数で各回の実験課題に取り組み，設計・構築、実験等の結果をレポートにまとめて提出する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報)必修  |                  |    |
| キーワード                       | TCP/IP, LAN設定構築, IPアドレス, スイッチ, ルーティング(経路制御), アクセス制御   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 実験・演習を通じて、「情報ネットワーク論」で習得した基礎知識・技術を深め，情報ネットワークに関わる応用力，実践力及びネットワークトラブル解決の能力を育成する。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 本実験では，「情報ネットワーク論」と相俟って，ネットワークに関する実践力を身につけることを目的としている。まず，TCP/IPベースのネットワーク設計，構築から着手し，ネットワークへの接続，ネットワークアドレス管理，経路制御などの実験を通して，各種のソフトウェア・ハードウェアの運用・構築に必要な実技を学ぶ。更にインターネットで行なわれている代表的なサービスを取り上げ，実際にこれらのサービスを提供するサーバを構築してみる。またネットワーク障害などを想定し，実験を通じてネットワークの実践力を高める。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 課題レポート，授業中の質問応答および期末試験等で総合的に評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | テキストについては毎回授業にてプリントを配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 参考文献等は授業中適宜に指定する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 2年次の「情報ネットワーク論」の単位を習得していなければ，履修できない。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報セキュリティ論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 佐々木 宣介   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1545研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週火曜日2、3時限目。場所は担当教員研究室。これ以外の時間は事前にメール等で在室時間を確認すること。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。主な内容は資料として配布し、その内容をもとに講義を行う。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | セキュリティマネジメント、コンピュータネットワーク、暗号化、電子認証、個人情報保護、セキュリティポリシー   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本科目は経営情報学科専門科目で情報処理系科目に位置づけられるものである。近年、情報セキュリティの問題は、コンピュータウイルス、不正アクセス、個人情報保護等の問題もあつてますます重要性が増している。本科目では情報セキュリティに関する基本的事項について、技術面、管理運用面等の幅広い視点からの理解を深めることが目標である。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 今日の情報化社会の中でますます重要となつてきている情報セキュリティに関する基本的な内容を技術的側面とマネジメント的側面の両面から幅広く学習する。コンピュータウイルスの問題、不正アクセス等、ネットワークを介して行なわれる攻撃とその対策といった情報機器に関係した技術的内容、組織における情報セキュリティ確保のためのマネジメント的内容を含む。また、情報セキュリティポリシーの考え方や個人情報保護の視点等から、情報セキュリティが社会に与える影響についても解説を行なう。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | レポート(1回)で30%程度、期末試験の結果を70%程度の割合で総合的に評価する。  |                  |    |
| テキスト                        | 参考文献を必要に応じて紹介する。   |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | ソフトウェア開発管理論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 重安 哲也  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1638研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、別途案内する講義資料をもとに、講義形式で授業を実施する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | プログラミング言語処理系, 字句解析, 構文解析   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | ソフトウェアの開発時にソースコードを計算機に理解させる形式に変換するにはプログラミング言語処理系が必要となる。<br>本講義では、代表的なプログラミング言語処理系であるコンパイラに焦点を当て、コンパイラに実装される技術の基礎概念や基礎理論について学ぶ。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 本講義では、まず、プログラミング言語処理系について概観した後にコンパイラに焦点を当てる。<br>その後、ユーザの記述したソースコードを意味を保持した状態での最小単位であるトークンに分割するための字句解析について学び、トークンの形式定義のための正規表現ならびに有限オートマトンについて学ぶ。<br>その後、分割したトークン列の並びが正しく、文法に沿っているかを解析するための構文解析について学び、構文解析の形式定義のための文脈自由文法の概要ならびに、同文法からの左再帰性や演算子優先順位、曖昧性除去などについて詳しく学ぶ。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験70%、出席状況と課題レポート30%の割合で評価する。レポートについては授業の進行に合わせて、随時、課題を課す。   |                  |    |
| テキスト                        | 教科書は特定のものはない。  |                  |    |
| 参考文献                        | 参考書については適宜、授業中に紹介する。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 予習、復習をしっかりと行い、学習内容の位置付けを常に意識すること。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報技術基礎論  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 小川 仁士  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1548研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 質問等には随時対応する。<br>研究室へ来訪する場合は、メール等で事前に在室を確認すると良い。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。<br>授業日程に従って、教科書および配布資料に関する講義・演習併用形式で実施する。<br>授業1回に対し学生の自習4時間を想定した授業を行う。<br>学習単元毎に自習課題を課し、授業と並行して実施させる。<br>学生は、授業への出席、自習課題の実施、期末試験の受験が義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 情報技術, 高度IT人材, 情報関連資格試験, テクノロジー, マネジメント, ストラテジ  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目は、学科専門科目中の情報処理系科目に区分され、「情報技術に関する基本知識・技能の習得」を目標としている。<br>具体的には、情報技術を活用した戦略立案やシステムの設計・開発に必要となる、ストラテジ系、マネジメント系、テクノロジー系の基本的な知識を習得するとともに、プログラミングに関する基礎的事項を理解する。<br>本科目の受講生には、情報関連資格試験の受験・合格を推奨し、これを課外においてもサポートする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 企業や組織の情報化に際しては、情報技術を活用し戦略を立案する企画提案力と、システムの設計・開発あるいは既存システムのインテグレーションによって、信頼性・生産性の高いシステムを構築する企画実現力が共に重要である。本講義では、そのために必要となる基本知識・技能を習得し、実践的な活用力を身に付けるため、まず、経営戦略、システム戦略、企業と法務、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメントの概要について講義する。次に、情報システムの基礎技術（ハードウェア、ソフトウェア、データベース、ネットワーク、セキュリティ、アルゴリズム、ソフトウェア設計、ソフトウェア開発）の概要について講義する。また、論理的な思考力を鍛えるためプログラミング（C言語、Java、表計算から選択）の基礎についても学習する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 5回以上の欠席は評価の対象外とする。<br>出席状況および期末試験70%、自習課題の実施状況30%の割合で評価する。<br>期末試験は、指定された試験の日時に、指定された教室（試験室）内で、ノート・教科書類持ち込み不可で実施する。<br>自習課題の提出方法等については、授業時間内に指示する。   |                  |    |
| テキスト                        | 『よく分かるマスター 基本情報技術者試験対策テキスト 平成27-28年度版』富士通エフ・オー・エム株式会社  |                  |    |
| 参考文献                        | 定平誠, 須藤智『平成28年度【春期】【秋期】基本情報技術者 合格教本』技術評論社<br>きたみりゅうじ『キタミ式イラストIT塾 基本情報技術者 平成26年度』技術評論社  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 本講義は、情報関連資格試験に対する支援科目として位置付けているので、授業外での積極的な予習・復習に努めること。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報と倫理  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 上村 崇 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程にしたがって、下記の教科書の内容を講義形式で実施する。毎週講義の最後に課題(その週の学習テーマに関する簡単な論述)を課す。学生には授業に出席し、毎週の課題と小論文(2000字程度)を作成、提出することを義務づける。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報)必修   |                  |    |
| キーワード                       | 情報社会 情報教育 情報リテラシー メディアリテラシー 倫理 規範 IT インターネット ケータイ プライバシー 知的財産 遺伝情報   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本講義では「情報」という概念を多角的に検討し、情報社会における倫理学の可能性を探究する。この探究の試みは、情報リテラシーやメディアリテラシーといった分野を超えて、従来の倫理学や教育のあり方を再検討することにもつながる。本講義の受講を通して、情報社会を主体的に生きる教育を実践するために必要な諸概念を身につけることを目標とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 情報技術の発展にともない、プライバシーや知的財産といった概念は再検討される必要に迫られている。また「情報」という言葉も、個人情報や遺伝情報へと拡張してきている。本講義では、これらの諸概念について具体的な事例を挙げながら検討していく。こうした検討を通して、従来の規範では対応できない問題への対処法と倫理学の可能性について履修者とともに考えていく。また、メディアリテラシーの一環として、各自が自主的に選択した一つのテレビ番組を継続して視聴してもらい、その内容について批判的に検討してもらおう機会を設ける。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席50%、毎週提出する課題20%、小論文30%で評価。小論文の課題は、講義中に通知する。  |                  |    |
| テキスト                        | 土屋 俊監修『改訂新版 情報倫理入門』アイケイコーポレーション (2014)   |                  |    |
| 参考文献                        | 水谷 雅彦著 『岩波応用倫理学講義3 情報』岩波書店 2005<br>水谷 雅彦著 『現代社会の倫理を考える〈15〉情報の倫理学』丸善 2003<br>越智 貢著 『情報倫理学入門』ナカニシヤ書店 2004  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修予定者は積極的に講義に参加することが求められる。そのために、自分なりの問題意識を持って講義に参加してもらいたい。   |                  |    |

|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報と職業   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 若林 義啓 (非常勤講師)   |                  |    |
| 研究室の場所                      |   |                  |    |
| オフィスアワー                     |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。講義形式で実施する。各テーマを2回～3回かけて講義を行い、それぞれの最後に課題(レポート課題)を課す。また、テーマによっては質疑応答やディスカッション等を行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報)必修  |                  |    |
| キーワード                       | 情報化社会, ビジネスモデル, 職業, 教科情報, インターネット, 社会基盤, 職業倫理, 情報モラル, 情報セキュリティ  |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目は、高等学校情報教職免許取得に必要な科目の一つである。情報科社会と言われる現代において、それぞれの産業で行われているIT化と、そこで情報がどのように扱われているかを紹介する。IT化によって人々の仕事がどのように変わったか、またどんな新しいビジネスモデルが誕生したかを学び、情報と職業のかかわりを広く理解することを目的とする。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 現在の情報科社会では、あらゆる職業で情報が関わる場面があり、働くにあたって情報を扱わないことは無いと言える。現代社会ではどのようなところでどのような情報技術が使われているのかを学び、情報化社会の進展と職業、情報を扱う職業人としての倫理など、実例を基に広く理解を深めることを目的としている。また、教師として教える立場になったとき、社会では多くの場面で、多種多様な情報が扱われており、またそこに携わる多種多様な仕事があることや、情報化社会で生まれた様々な問題を広く紹介できるように多くの事例を紹介する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 講義中に提示するレポート課題での評価を基本とし、そこから授業態度、質疑応答、出席状況でマイナス評価があればそれを差し引いて、総合的に評価する。5回を超える欠席は評価対象外とする。   |                  |    |
| テキスト                        | 授業において提示する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 駒谷昇一, 辰巳丈夫, 楠元範明共著, 「情報と職業」, オーム社   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 授業では、社会基盤となっているシステムや社会問題を取り上げるので、情報に関わるニュースや報道を意識して見ること。  |                  |    |



|                             |   |                  |    |
|-----------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                       | 外国書講読 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 呉 漢生  |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1532 研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 毎週金曜日 17時から18時, 場所は担当教員研究室。これ以外の面談は予約不要。  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業日程に従って、授業時間2時間(1回)と学生の自習2時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席し、口頭発表と討論などを行う。期末に総合的なレポートを作成・提出する。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象(経営情報学科必修)  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |   |                  |    |
| キーワード                       | 英語参考文献、外国語教科書、外国語文献の読み方、卒業論文の準備   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 本科目の目標は、履修学生に英語で書かれた文献または書物を熟練に読むことができるような力を養成させることである。本科目は、経営情報学科の経営情報外国語科目に区分されている。   |                  |    |
| 授業の内容                       | 外国語講読 I では、英語で書かれたコンピュータ・経営情報科学に関連する文献または書物の講読法を練習する。卒業論文に関する研究で、英文の文献を読むことを避けることはできないので、本講義は、英語で書かれた文献または書物を熟練に読むことができるような力を養成することを目的とする。経営情報学科の分野に関連する英文の文献または書物の輪読を行うことを通じて、学術文書の読み方および構成法、よく使われている文法、参考文献の調べ方などを講義する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 出席状況50%、口頭発表・質疑応答30%、期末の総合的なレポート20%の割合で評価する。毎回の口頭発表の内容は前回の授業の最後に提示する。   |                  |    |
| テキスト                        | 講義中でテキストとしているプリントを適宜に用意・配布する。   |                  |    |
| 参考文献                        | 講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 該当している口頭発表の部分を授業前によく予習することともに、授業中に行っている討論に積極的に参加する。期末に総合的なレポートを必ず提出すること。  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 外国書講読 I  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 陳 春祥   |                  |    |
| 研究室の場所                      | 広島キャンパス 1565研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                     | 随時，メールで予約してください。   |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 対面授業。授業は配布された英文の資料を輪講する形式で進める。学生は，授業に出席し，口頭発表と討論などを行う。期末に総合的なレポートを完成し，提出する。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象 (必修)  |                  |    |
| 免許等指定科目                     |  |                  |    |
| キーワード                       | 情報通信技術，インターネット，プロトコル，<br>情報システムにおける専門用語の英語表現   |                  |    |
| 授業の目標と<br>カリキュラム上の位置付け      | 本科目の目標は，情報通信分野関連の文献または書物を精読するによって，これらの分野の諸概念を英語で理解し，専門内容を理解しながら専門用語の英語表現に慣れ，卒業研究等に必要な英文の文献を読みこなす力を養成することを目的とする。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 外国語講読 I では，情報システムや情報通信ネットワークなどの英語の文献または書物を輪読する。これらの講読を通じて，情報通信システムの諸概念を英語で理解し，専門的な知識を習得すると同時に，情報通信技術の分野の英語表現，専門用語に慣れ，英文の専門文章（論文）の読み方および構成法，よく使われる文法や表現などを習得する。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 期末試験60%，口頭発表・質問応答20%，レポート20%の割合で総合的に評価する。毎回の口頭発表の内容は前回の授業の最後に提示する。   |                  |    |
| テキスト                        | 教科書は使用しない。プリント資料を適宜に用意し，配布する。  |                  |    |
| 参考文献                        | 講義中に参考書と参考資料などを指示することがある。  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 履修者は，割当部分の資料を授業の前によく予習することともに，授業中，積極的に発言や討論に参加すること。  |                  |    |

|                         |  |                  |    |
|-------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                   | 外国書講読Ⅱ   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 錦織 昭峰  |                  |    |
| 研究室の場所                  | 広島キャンパス 1643研究室  |                  |    |
| オフィスアワー                 | 原則として在室のときにはいつでも可  |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 対面授業。授業日程に従って、輪読あるいは講義形式で実施する。学生は、授業に出席すること。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 1単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                    | 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                 |  |                  |    |
| キーワード                   | Writing paragraphs, Scheduling in computer and manufacturing systems, English composition  |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | <p>情報あるいは科学の伝達手段としての英語を修得するために、伝達手段として必須の基本原則が理解できる。専門分野としては、オペレーションズ・リサーチにおけるスケジューリングが理解できる。特に、生産のためのショップ・スケジューリングが分かる。若干の英作文の練習により、学術文書独特な言い回しに慣れることができる。スケジューリングに関する情報処理システムを開発する情報技術者として必須の英語を理解できる。</p>   |                  |    |
| 授業の内容                   | <p>授業でふれる項目は主に以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報過多の今日において、学術文書を読者に的確にざっと読みやとばし読みをしてもらうためのパラグラフの書き方。</li> <li>2. コンピュータ及び生産システムにおけるスケジューリング。</li> <li>3. 学術文書独特な言い回しによる英文表現に慣れるために簡単な英作文の練習。</li> <li>4. 報告文・論述文の書き方。</li> <li>5. タイピングの練習。</li> </ol> |                  |    |
| 成績評価の方法                 | <p>期末試験は60%で評価する。(試験の配点は、授業の講義内容からの出題は30%、それとは係りない出題をすることがあり、これを30%とする。ただし、出題された講義内容の担当者は、それぞれ10%、50%とする) 残りの40%は、輪講における発表内容及び授業への積極的参加である。試験は指定された教室(試験室)内で、持ち込み不可で実施する。期末試験は指定された試験日の授業時間内で実施する。</p>   |                  |    |
| テキスト                    | <p>講義資料はその都度配付する。参考図書：木下是雄著「理科系の作文技術」中公新書624、ISBN 4-12-100624-0。</p>   |                  |    |
| 参考文献                    | <p>Technical Writing and Professional Communication for Nonnative Speakers of English (Second Edi.) &lt;71007466&gt;, Scheduling in Computer and Manufacturing Systems (Second, Revised Edition)</p>   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | <p>履修予定者は、講義資料の英文を和訳してから授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。資料は学内LANのYドライブに入っている。</p>   |                  |    |

|                         |   |                  |    |
|-------------------------|---|------------------|----|
| 授業科目名                   | 外国書講読Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)            | 生田 顯  |                  |    |
| 研究室の場所                  | 広島キャンパス 1661研究室   |                  |    |
| オフィスアワー                 |   |                  |    |
| 授業の形式・方式                | 対面授業。授業は配布された英語の文献を輪講形式で訳していく。学生は授業に出席して、自分の意見を発表し、試験を受けることが義務付けられる。  |                  |    |
| 単位数(時間数)                | 1単位 (30時間)  | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 必修 |
| 履修要件                    | 経営情報学科 2年次対象  |                  |    |
| 免許等指定科目                 |   |                  |    |
| キーワード                   | インフォメーション, プロセス, モデリング, ストカスティックシステムなど情報科学における専門用語の英語表現   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け      | この授業科目は、情報に関する分野の書物や文献を輪読することによって、これらの分野の諸概念を英語で理解し、専門知識や専門用語の英語表現に慣れ、卒業研究等に必要となる英語の文献を読みこなす力を養成することを目的とする。   |                  |    |
| 授業の内容                   | 情報科学の分野の中で、コンピュータサイエンスや情報処理システムなどの英語の書物または文献を輪読する。これらの講読をとおして、コンピュータサイエンスや情報処理システムにおける諸概念を英語で理解し、専門的な知識として身につけると同時に、情報技術の分野の英語表現に慣れることを目的とする。また、情報分野のテクニカルタームの習得を目指す。 |                  |    |
| 成績評価の方法                 | 中間試験・期末試験・輪講における発表状況・出席率を考慮してで評価する。中間試験および期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。中間試験・期末試験では、輪講で学習した部分から出題する。  |                  |    |
| テキスト                    | 講読のテキストは、プリントを授業に先立って配布する。情報科学に関する文献など実践的な英文を必要に応じて紹介する。  |                  |    |
| 参考文献                    |   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・禁止行為等) | 履修者は、授業の前に教科書の該当する箇所を精読し、授業に臨むこと。   |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報科教育法 I   |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 長松 正康 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 第1週は講義形式，第2週から第7週はテキストの内容を分担し，プレゼンテーションと質疑により進める。第8週以降はテーマを選択し模擬授業を行う。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 2年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報)必修   |                  |    |
| キーワード                       | 情報教育，普通教科情報，専門教科情報   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | 情報教育の概要の理解と，主に情報科における学習指導に必要な知識と能力の修得を図る。  |                  |    |
| 授業の内容                       | 第1週 教科「情報」の構成(1章)<br>第2週 学習環境の整備(2章)<br>・ 教材・教具としてのソフトウェア(3章)<br>第3週 カリキュラムの作成(7章)<br>・ 他教科等との関連，他校種との関連(4章)<br>第4-7週 模擬授業の計画と学習評価(5章)<br>・ 学習形態の選択(9章) ・ 情報発信とプレゼンテーション(8章)<br>・ メディアリテラシー(10章) ・ 情報倫理教育の方法(11章)<br>・ カード操作による発想法(6章5節) 教師による利用，学習者による利用<br>第8-14週 模擬授業実施と授業計画<br>第15週 結果の分析，次の授業にむけて<br>(注) 括弧内は，テキストの該当箇所を示す。 |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 教材研究のプレゼンテーション及び模擬授業，討議の参加状況(30%)，小テスト(35%)レポート(35%)を評価する。   |                  |    |
| テキスト                        | 大岩ほか：情報科教育法(最新刊) オーム社<br>必要に応じて高等学校普通教科情報の教科書を参照する。高等学校で使用した教科書を持っている場合は持参するとよい。   |                  |    |
| 参考文献                        | 高等学校学習指導要領解説 情報編，文部省，開隆堂出版発行   |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) |  |                  |    |

|                             |  |                  |    |
|-----------------------------|--|------------------|----|
| 授業科目名                       | 情報科教育法Ⅱ  |                  |    |
| 担当教員氏名(助手氏名)                | 長松 正康 (非常勤講師)  |                  |    |
| 研究室の場所                      |  |                  |    |
| オフィスアワー                     |  |                  |    |
| 授業の形式・方式                    | 講義, 演習, 模擬授業と討議により進める。   |                  |    |
| 単位数(時間数)                    | 2単位 (30時間)   | 学科または専攻毎の必修・選択の別 | 選択 |
| 履修要件                        | 経営情報学科 3年次対象   |                  |    |
| 免許等指定科目                     | 高一種免(情報) 選択  |                  |    |
| キーワード                       | カリキュラム, 学習指導, 学習評価, 授業の記録と分析, 教材研究, 普通教科情報, 専門教科情報   |                  |    |
| 授業の目標とカリキュラム上の位置付け          | <p>《目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報科の教材研究, カリキュラムや授業プランの作成から授業評価にいたる過程を各自で立案, 実施, 討議することにより, これらに関する能力の獲得を図る。</li> <li>・普通教科「情報」と専門教科「情報」の違いを踏まえた指導を行う能力の育成を図る。</li> </ul> <p>《カリキュラム上の位置づけ》</p> <p>この授業は, 情報科教育法Ⅰにおける概論を前提としつつ内容を深め, 教育実習につながるものである。</p>   |                  |    |
| 授業の内容                       | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 普通教科「情報」における学習評価と指導</li> <li>2. 学習者の把握</li> <li>3. カリキュラムの立案と年間指導計画</li> <li>4. 授業を前提とした教材研究<br/>情報活用の実践力 情報の科学的理解 情報社会に参画する態度</li> <li>5. 授業プランの立案と学習指導案</li> <li>6. 授業の記録と分析</li> <li>7. 専門教科情報における内容と方法</li> <li>8. 実践事例に学ぶ</li> </ol> <p>注) 項目4～7については, 受講者によるプレゼンテーション, 模擬授業と討議により進行する。</p> |                  |    |
| 成績評価の方法                     | 模擬授業の立案・準備, 実施, 結果の把握状況や, 討議の参加状況(30%), 提出物(35%), による評価を行う。その他, 予告の上で小テスト(35%)を行う。   |                  |    |
| テキスト                        | 大岩ほか: 情報科教育法(最新刊) オーム社<br>高等学校学習指導要領解説 情報編(最新刊), 文部省, 開隆堂出版発行<br>普通教科情報の教科書  |                  |    |
| 参考文献                        |  |                  |    |
| 備考<br>(履修上のアドバイス・<br>禁止行為等) | 情報科に関する知識だけでなく, 教師としての意思決定に必要な思考力, 判断力を重視します。なぜその教材を選び, そのような授業方法を選択するのか, ねらいは何か等について妥当性のある説明をできることが求められます。<br>出席はこれらの前提となるので注意してください。   |                  |    |